

格別單ニ相手方ノ窮迫ニ乘シタルノミニテハ行爲ノ目的ヲ不適法ト爲スニ足ラスト解スルヲ以テ寧ロ口通説トシ(鳩山博士日本民法總論三二五頁、三濤博士民法總則提要三二七頁、穗積博士民法總論三四頁)大審院判例(大正七年一月二十八日第二民事部判決)モ亦右通説ヲ是認スルモノト見ルヲ得ヘク吾人亦其正當ナルヲ確信スル所ナルカ故ニ右擔保契約ヲ目シテ輒ク公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スル無効ノ行爲ナリト斷セル本判決ノ見解ニ對シテハ到底贊同ノ意ヲ表シカタシ(同上)

假リニ前示擔保契約ハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スル無効ノ行爲ナリト解スルヲ正當ナリトスルモ是單ニ原告及訴外山上東一問ニ於ケル手形授受ノ原因タル行爲カ無効ナルニ止マリ手形行爲其者ノ效力ニハ何等消長ヲ來タスコトナキカ故ニ訴外山上東一ハ直接ニ對抗スルヲ得ヘキ事由トシテ此無効ヲ以テ原告ノ手形上ノ請求ヲ拒絶スルコトヲ得ヘシト雖手形授受ノ直接當事者ニ非サル振出人(引受人)即チ被告ハ之ヲ理由トシテ原告ノ手形上ノ請求ヲ拒ミ得ヘキニ非サルヤ一點ノ疑ヲ容レズ然ラハ如上擔保契約ノ有效ナルト無効ナルトハ原告ノ被告ニ對スル本訴請求ノ當否ニ何等關係ナ有セサル筋合ナルニ拘ラス本判決ハ恰カモ該擔保契約ノ無効ナル以上原告ハ被告ニ對シテモ手形上ノ請求權ヲ有セサルモノノ如ク誤解シ此點ニ於テ原告ノ請求ヲ却下スヘキモノト判斷シタルハ到底失當タルヲ免レサルモノト謂フヘシ(同上)

- ◎手形債務ニ於ケル高利特約ノ效力(第二續商法四三九條)
- ◎參照、債權額ト大差アル賣渡擔ノ效力(第二續民法八二頁)
- ◎右ノ批評「反對」判例研究昭和二年四卷九號研究篇六三問四三五頁「著シク不權衡ナル給付ヲ目的トセル契約ノ效力ト認定ノ當否」參看

◎直接抗辯ニ依ラサル手形抗辯

- 一 本條ニ依ラサル手形抗辯(續商法一〇三九頁)
- 二 引受人ノ債務免除ト振出人及裏書人(第二續商法四八六條) 監督役ノ承認ナキ手形行爲ト抗辯(續商法一〇三九頁)
- 三 第二續商法一七六條「本條ニ違背シタル行爲ノ效力」參看
- 四 手形債務者ハ手形所有權ノ移轉要件ヲ具備セサル取得者ニ對シテハ手形所持人トシテノ權利ヲ否定シ其ノ支拂ヲ拒絶スルヲ得ヘキ權利ヲ有シ而モ該拒絶權ハ其ノ後受取人ニ於テ手形ヲ善意ノ第三者ニ裏書シ更ニ第三者ヨリ裏裏書ヲ得タルニ依リ消滅スルモノニ非サレハ本件ニ於テ被告原告人ハ本訴手形ヲ百三十銀行ニ交付シ更ニ同行ヨリ之ヲ取得シタル事實アリタリトスルモ法律上手形所持人トシテ權利ヲ行使スルヲ得サルモノナルカ故ニ原告人前主被告原告人ニ對シ爲シタル本件手形金額ノ支拂ハ被告原告人ニ於テ法律上ノ原因ナクシテ不當ニ利益ヲ受ケタルモノニ該當シ原告人前主ニ之ヲ返還スルノ義務アルモノト謂フハサ

ルヘカラス然ルニ原告ハ被告ノ前記主張事實ニ付賭博契約ハ不法ニシテ無効ナリト雖其ノ賭金ヘ支拂ノ代物辨濟トシテ爲シタル手形交付ハ手形移轉ノ物權契約ニ因リ被告原告人ニ其ノ所有權ヲ移轉シタリト爲シ又本件手形ハ被告原告人ヨリ百廿銀行ニ同銀行ヨリ再ヒ被告原告人ニ何レモ所有權移轉ノ物權契約ニ因リ引渡アリタルモノナレハ手形讓渡ノ效力ヲ妨グルモノニ非スト判示シ原告人ノ主張自體ニ依リ其請求ヲ排斥シタルハ法則ナ不當ニ適用シタル違法アルモノトス(大審一一年評論一 一卷商法六二五頁、法二〇八四號二二頁)

◎手形債務ノ更改ト前者ノ償還義務

一 手形債務ヲ目的トシテ準消費貸借成立シタル場合ニ在リテハ該手形カ依然債權者ノ手裡ニ存スル事實アリトスルモ他ニ反證ナキ限り手形債務者全員ノ手形上ノ債務ハ之ニ因リテ消滅シ從テ振出人ノ償還義務モ亦主タル債務ノ消滅ニ因リ當然消滅スルモノト解スヘキモノトス(東京控昭和二年評論一七卷民法一六九頁)

二 「右ニ對スル批評」爲替手形引受人ニ對スル債務ヲ目的トスル消費貸借成立ト前者ノ償還義務(判例研究昭和三年五卷六號研究篇三六問二〇七頁)
◎有價證券カ盜品ナリヤ否ヤノ調査義務(二八二條)

第四百四十一條(手形ノ善意取得者ノ權利)

何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

◎第四百六二條ノ場合ト本條ノ不適用

第二續商法四六二條「白地手形ト拒絕證書期間後ノ取得」參看

◎本條ニ關スル諸問

- ◎本條ノ趣旨(續商法一〇四二頁)
- ◎本條ノ法意及適用(第二續商法二八二條)
- ◎本條ノ「手形ノ取得」ノ意義(續商法一〇四三頁)
- ◎手形ノ返還請求ノ要件(商法二二二頁)
- ◎民法百八條ニ反スル手形形式的效力(第二續商法四三五條)
- ◎指圖手形ノ取得ト本條ノ適用(續商法一〇四三頁)
- ◎無記名手形ト本條ノ適用(續商法一〇四三頁)
- ◎手形ノ買入ニ本條ノ適用アリヤ(續商法一〇四三頁)
- ◎本條ニ違背シタル行爲ノ效力(第二續商法一七六條)

- 白地補充權ノ濫用ト手形ノ偽造(二)(第二續商法四三五條)
- 盜品タル有價證券ノ善意取得ト本條(第二續民法二七九頁)
- 賭博ト約束手形ノ振出(商法二八八頁)
- 賭博資金ノ貸借ト不法原因ノ給付(第二續民法八五一頁)
- 手形債務者ノ調査權(續商法一〇四二頁)
- 白紙委任狀ノ眞否不調査ト輕過失(續商法一〇四六頁)

◎手形ノ善意取得ナリヤ否ノ實例

- 手形ノ善意取得者ノ權利義務(續商法一〇四四頁)
- 善意取得者ナリヤ否ノ例(續商法一〇四五頁)
- 滿期後ノ裏書ト被裏書人ノ惡意(續商法一〇四五頁)
- 後裏書ト善意取得者ノ保護(續商法一〇四四頁)
- 先日附小切手ト取得者ノ善意惡意(第二續商法五三〇條)
- 騙取手形ト善意ノ裏書讓受人(續商法一〇四四頁)
- 手形ノ惡意取得ノ立證責任(續商法一〇四五頁)

◎代理資格冒用ノ手形行爲ノ效力

一 會社ハ其目的トスル事業ヲ遂行スルカ爲ニ手形行爲ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナルカ故ニ會社ノ代表者カ會社ノ爲ニスルコトヲ表示シテ手形行爲ヲ爲シタル場合ニ其實代表者個人ノ利益ヲ圖ル

方爲ナルカ如キ畢竟會社ノ内部ノ事情ニ依リ獨リ代表者ノミ知ルコトヲ得ヘク第三者ハ容易ニ之ヲ窺知スルコトヲ得サル事實ヲ以テ善意ノ手形所持人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス(大審一四年評論一四卷商法三九一頁)

二 甲株式會社ノ取締役乙カ個人トシテ自己ノ關係セル事業ニ窮追シタル結果甲會社ノ信用ニ因リ金融ヲ圖ラントシ同會社ノ取締後タル資格ヲ冒用シテ爲替手形及小切手ヲ振出シ且爲替手形ニ付テハ是亦其ノ資格ヲ冒シ引受ヲ爲シタルモノナリトスルモ丙カ該手形ノ正當ナル所持人トシテ甲會社ニ對シ手形金ノ支拂ヲ請求スル場合ニ於テ該手形行爲カ何レモ甲會社ノ目的ノ範圍外ノモノナルニ因リ甲會社ハ手形上ノ義務ヲシトノ理由ニ基キ丙ノ請求ヲ排斥セントセハ須ク丙ハ叙上ノ如キ事由ヲ知悉シテ該手形ヲ取得シタルモノナルコトヲ判示セサルヘカヲサルモノトス(大審一四年評論一四卷商法三九〇頁)

三 凡ソ或行爲カ會社ノ目的ノ範圍内ニ屬スルヤ否ヤハ一般的抽象的ニ其行爲ノ性質ニヨリ觀察シテ決スルヲ相當トスヘク而シテ手形ノ振出引受行爲ノ如キハ尠クモ營利社團タル會社ノ目的事業ノ遂行ノ爲メ必要ナル行爲ニ屬スルモノト解スヘク從テ假令本件手形ノ振出行爲カ前示ノ如ク右個人ノ必要ニ出テ控訴會社ノ爲メニ爲サレタルモノニアラスシテ何等ノ對價ヲ得ストスルモ該行爲ハ控訴會社ノ前記目的事業ノ遂行ニ付必要ナル行爲ナリト謂ハサルヘカラス且前示乙第一號證人長島弘番場

研ノ各供述ニ徴スレハ右弘ハ控訴會社ノ取締役トシニ同會社ヲ代表シ其手形行爲ヲ爲シ得ヘキ權利ヲ有セシコトヲ首肯シ得ルノミナラス弘カ本件手形ノ振出引受ヲ爲スニ當リ毫モ他人ノ署名ヲ僞リ又ハ他人ノ印章ヲ盜用シテ記名捺印シタルコトヲ認ムヘキ證據存セサルヲ以テ右手形行爲ヲ目シテ僞造ナリト斷スルヲ得ヌ加之會社ノ取締役カ自己ノ必要上其資格ヲ冒用シテ手形ノ振出引受ヲ爲シタル場合ニ該手形ノ所持人カ右ノ事情ヲ知ラズシテ之ヲ取得セルモノナルトキハ會社ニ於テ之ヲ所持人ニ對抗シテ其手形上ノ義務ヲ免ルルコトヲ得サルモノト解スヘキモノトス(東京控昭和三年報一四七號一七頁)

四 會社ハ其ノ目的タル事業ヲ遂行スルニ必要ナル行爲ヲ爲スノ能力ヲ有スルモノニシテ會社カ其ノ金融ノ必要上手形ノ振出引受等ノ行爲ヲ爲スハ通常ノ事例ナレハ手形ノ振出引受等ヲ爲スハ會社ノ目的タル事業ヲ遂行スルニ必要ナル行爲ニ屬スルモノト解スルヲ相當トス故ニ取締役ハ株式會社ノ法定代理人トシテ手形ノ振出引受等ヲ爲ス權限ヲ有スルモノト謂フヘシ而シテ取締役カ自己ノ必要上ヨリ其ノ資格ヲ濫用シテ手形ヲ振出シ引受ケタル場合ニ於テモ其ノ權限内ノ事項ニ付本人ノ爲ニスルコトヲ示シテ意思表示ヲ爲シタル以上ハ會社ノ爲ニ效力ヲ生スルモノトス何トナレハ代理行爲タルニハ代理人ノ眞意カ本人ノ利益ヲ圖ルニ在リヤ又ハ其ノ資格ヲ利用シテ不正ニ自己ノ利益ヲ圖ラントスルニ在リヤチ問ハサルコト當院判例ノ認ムル所ナレハ

◎裏書禁止手形ノ惡意取得者ノ地位

一 手形面上ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載セラレアル約束手形ヲ讓受タル者カ裏書禁止ノ情ヲ知レル惡意ノ取得者ナルトキハ其ノ手形取得原因ハ正當ナラサルカ故ニ之ヲ取得ニ因リ讓受人ハ何等手形上ノ權利ヲ取得スヘキモノニ非ス從テ第三者カ其ノ手形ヲ讓受スルモ毫モ手形取得者ノ權利ヲ侵害シタルモノト云フヲ得サルモノトス(東京區一四年評論一四卷商法一〇三頁)

二 甲カ乙ニ對スル債務決済ヲ了スルニ至ルマテ其ノ債務ノ存在

スルコトヲ明カニスル爲受取人ヲ乙トセル爲替手形三通ヲ乙ニ交付シ且其ノ交付ニ當リテ右甲乙間ニ此三通ノ手形ヲ第三者ニ裏書讓渡スヘカラサル特約成立シ若シ甲ノ借勘定(債務)決済セラルルニ於テハ右手形ハ當然乙ヨリ甲ニ返還セラルヘキ旨確約セラレタルニ拘ラス乙ハ甲トノ右特約ニ違背シテ其ノ一通ヲ丙ニ裏書讓渡シ且其ノ裏書讓渡ニ當リテハ前記ノ事情ヲ告ケ丙亦之ヲ了承シテ之ヲ取得シタリ然ルニ其ノ後甲ハ甲乙間ノ債務決済ニ基キ右手形ノ返還ヲ請求シタルモ遂ニ其ノ目的ヲ達スル能ハサリシモノナル場合ハ丙ハ右ノ手形ニ付テハ甲ニ對シ其ノ權利ヲ行使シ得サルコト明ナリトス(東京地一五年評論一六卷商法一八八頁)

◎裏書ノ偽造ト裏書ノ連續

眞正ノ署名ヲ爲シタル約束手形ノ振出人ハ其ノ手形ニ爲シタル裏書人ノ署名カ偽造ニ係ル場合ト雖裏書ノ連續セル正當ノ所持人ニ對シテハ手形上ノ責任ヲ負擔スヘキ其ノ他人ノ爲シタル裏書カ偽造タルノ一事ニ因リ手形上ノ責任ヲ免ルヘキモノニ非ルモノナレハ所持人カ約束手形振出人ニ對シ手形上ノ請求ヲ爲スニハ自己カ裏書ノ連續セル手形ノ所持人タルコト及其ノ振出人カ眞正ニ手形ニ署名シタルモノナルコトヲ立證スルヲ以テ足り其ノ他ノ裏書カ眞正ニ成立シタルコトヲ立證スルヲ要スルモノ

ルトキハ其役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

- ◎本條ハ支拂場所アル手形ニ適用ナシ(續商法一〇四六頁)
- ◎支拂場所「所持人營業所」ノ手形ト呈示(續商法一〇四六頁)
- ◎商號附記ノ肩書地ト營業所所在地(第二續商法四五二條ノ二)
- ◎住所ノ移轉ト支拂場所トノ關係(續商法一〇四七頁)
- ◎商事債務ノ履行場所ニ關スル諸問(第二續商法二七八條)

◎他所拂手形ト本條ノ適用

所謂他地拂手形ナルモノハ支拂人ノ營業所又ハ住所ニアラサル地ニ於テ支拂ハルヘキ手形ノ謂ニシテ斯ノ如キ手形ト雖モ呈示並ニ支拂拒絕證書ノ作成ハ常ニ支拂地ニ於テ爲サルコトヲ要スルハ言テ俟タス支拂地外ニ於ケル支拂人ノ營業場又ハ住所ニ於テ爲ス呈示支拂拒絕證書ノ作成ヲ適法ト爲スモノニ非ス商法第四百十二條ノ規定ハ支拂人ノ營業所又ハ住所カ支拂地外ニ存スル場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス(東京地一一年法一九九

ニアラス(大審一三年民四一八頁)

◎詐欺ニ因ル手形行爲ノ效力

- 一 毫モ金錢上ノ責任ヲ負ハシメサルヘキニ依リ裏書セラレタキ旨ノ申出ヲ信シ形式上裏書ヲ爲スニ至リタルトキハ其ノ裏書ハ詐欺ニ基因スルモノニシテ有效ニ取消シ得ルモノトス(東京控一三年評論一三卷商法一三七頁)
- 二 詐欺ニ因ル約束手形ノ振出(商法二八八頁)

第四百四十二條(手形上ノ權利行使ノ場所)

手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示拒絕證書ノ作成其手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所カ知レサ

三號一七頁)

◎本條第一項但書ノ趣旨

- 一 商法第四百四二條第一項但書ハ利害關係人ノ承諾アルトキハ支拂ヲ求ムル爲メノ呈示モ支拂地外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケサルノ趣旨ニアラスシテ其承諾アルトキハ同條項本文所定ノ場所ニアラサル他ノ支拂地内ニ於テ呈示ヲ爲スコトヲ妨ケストノ趣旨ナリト解スヘキモノトス(東京地一一年評論一三卷商法一五七頁、法一九九三號一七頁)
- 二 承諾アルモ支拂地以外ノ呈示ハ無効也(續商法一〇四七頁)

◎手形上ノ權利行使又ハ保全ノ場所

- ◎手形ノ呈示及拒絕證書作成ノ場所(商法二一三頁)
- ◎振出人ノ住所ト執達吏ノ判斷(商法二一四頁)
- ◎拒絕證書作成場所ノ舉證責任(商法二七三頁)

◎裏書人ノ償還義務履行地

- 一 手形裏書人ノ償還義務ハ商法第二七八條第二項ノ規定ニ依リ裏書人ノ現時ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之カ

義務ヲ履行スヘキモノトス故ニ約束手形ノ所持人カ裏書人ニ對シテ手形金額ノ支拂ヲ求メントスルニハ須ラク裏書人ノ營業所若クハ其住所ニ付キ之カ請求ヲ爲スヘキコトヲ要ス(關東地大連支部一〇年法一八一六號一五頁)

二 裏書人ノ償還義務履行地(商法二六五頁)

◎支拂場所タル支店ノ廢止ト保全場所

支拂場所トシテ單ニ株式會社帝國商業銀行深川支店ト記載セル場合ハ同支店ニ屬スル業務ノ取扱ハル場所ヲ以テ其支拂場所ト爲スヘク從テ又同支店カ其本店ニ合併セラレ其本店ニ於テ同支店ニ屬スル業務ヲ取扱フコトト爲リタル以上其本店ヲ以テ支拂場所ト見ル可キハ當然ノ事理ナルヲ以テ同銀行本店ニ於テ手形ヲ呈示シ其支拂拒絕證書ヲ作成シタルハ正當ニシテ違法ノ點ナキモノトス(東京地一四年評論一四卷商法六三五頁)

◎本條ニ違反スル拒絕證書ノ效力

一 約束手形ノ振出人カ拒絕證書作成當時支拂地タル甲市内ニ營業所住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ該拒絕證書ノ作成ニ付テハ公證人又ハ執達吏ニ於テ商法第四四二條第二項ニ從テ振出人ノ營業所住所又ハ居所ニ關シ支拂地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲ス

◎手形ノ時効ニ關スル諸問

- ◎時効ノ援用ニ關スル諸問(第二續民法一九九頁)
- ◎時効ノ援用ト權利消滅トノ關係(第二續民法一九九頁)
- ◎手形ノ呈示ニ關スル諸問(第二續商法二七九條)
- ◎手形ノ裁判上請求ト付遲滯(第二續商法二七九條)
- ◎主債務ノ時効消滅ト裏書人ノ償還義務(續商法一〇四八頁)
- ◎時効消滅手形ト裏書讓渡ノ責任(商法二一五頁)
- ◎參加引受人ニ對スル時効期間(續商法一〇四八頁)
- ◎手形ノ利得償還ト時効期間(第二續商法四四四條)
- ◎手形上ノ保證債務ト時効(續商法一〇四九頁)
- ◎裁判確定後ノ手形債權ト時効(續商法一〇四九頁)
- ◎手形ノ時効消滅後ハ普通債權トナルヤ(續民法一四三八頁)
- ◎商事時効ニ關スル諸問(第二續商法二八五條)

◎手形ノ時効期間ノ計算ト民法ノ適用

一 商法第四百四十三條ニ依レハ爲替手形ノ引受人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リ消滅スヘシト雖同條ハ手形債權ノ時効期間ニ關スル特別規定タルニ止ルヲ以テ其ノ期間ノ計算ニ付テハ民法第四百四十四條ニ依ルヘキモノトス

ヘキモノニシテ此ノ手續ヲ經スシテ作成シタル拒絕證書ハ無効ナリトス(東京控昭和二年評論一七卷商法七七頁、法二七七九號一四頁)

二 手形所持人タル控訴人ヨリ委任ヲ受ケタル公證人乙ハ控訴人カ振出人ノ住所ニ宛テ照會シタル電報ニ對シ振出人ヨリ返電アリタルニ基キ同人カ支拂地甲市ニ居住セザル爲メ面會請求不能ナリトシ直ニ同公證人役場ニ於テ拒絕證書ヲ作成シタル事實ヲ認メ得ヘキトキハ右手形ノ拒絕證書ハ不適法ニシテ手形上ノ償還請求權保全ノ效力ナキモノトス(同上)

[附] 手形ノ支拂場所ノ記載ハ支拂地内ニ於ケル一定ノ場所ヲ表示シタルモノニアラザルトキハ支拂場所ノ記載トシテハ無意義ニシテ結局其記載ナキモノト解スヘキモノトス(東京控昭和二年評論一七卷商法七七頁)

◎營業所ノ知レザル場合ノ一例(商法二一四頁)

第四百四十三條(手形ノ時効起算點)

引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書作成ノ日ヨリ一年裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

(大審一五年民六八七頁、評論一六卷商法八〇頁、報九一號一三頁)

二 民法第四百四十四條ニ依レハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス例外トシテ期間カ午前零時ヨリ始マル場合ニ於テノミ初日ヲモ算入スヘキモノナルヲ以テ爲替手形ノ引受人ニ對スル債權ノ時効期間三年ヲ計算スルニ付テハ其ノ初日タル滿期日ハ之ヲ算入セス其ノ翌日ヨリ之ヲ計算セザルヘカラス蓋シテ手形所持人ハ滿期日ニ於テ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ得ヘキモノナルモ手形所持人カ手形上ノ權利ヲ行使シ得ルハ滿期日ニ於ケル取引時間ノ初刻以後ナルニ付其ノ消滅時効ハ民法第六十六條ニ依リ同日ノ取引時間ノ初刻ヨリ進行スヘキモノニシテ午前零時ヨリ進行スヘキモノニ非サレハナリ(當院明治三十四年(オ)第四百七號同年十一月二十八日判決參照)加之原審ノ確定シタル事實ニ依レハ被上告人ハ本件手形ノ引受ヲ爲スニ當リ支拂場所ヲ株式會社光正銀行ト附記シタルモノニ係ル而シテ銀行條例第六條ニ依レハ銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時迄ナルヲ以テ本件手形ニ付テハ滿期日タル大正十一年十一月二十五日ノ午前九時以後始メテ支拂場所タル銀行ニ於テ被上告人ニ對シ有效ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ得ヘク其ノ以前ニ於テ支拂ヲ求メ得ヘキモノニ非サレハ時効期間ニ付テモ其ノ初日タル滿期日ノ午前零時ヨリ進行ヲ始ムルニ由ナキモノト爲サザルヘカラス然ルニ原審ハ本件時効期間ヲ算定スルニ當リ期間ノ初日タル滿期日ヲ算入シテ三

年ヲ經過シタルモノトシテ手形債權ハ時効ニ因リテ消滅シタルモノト判定シタルハ法律ニ違背シタル不法アルモノニシテ原判決ハ之ヲ破毀スヘキモノトス(同上)

◎一覽拂ノ手形ト時効起算點

- 一 商法ニハ振出日ヲ以テ時効ノ起算日トナス旨ノ規定ナク引受人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年ヲ經過スルニ非レハ消滅スルコトナク而シテ一覽拂爲替手形ニ引受人アル場合ニ所持人カ商法第四八二條第二項ニ所謂呈示期間内ニ呈示ヲ爲サザリシトキハ右呈示期間ノ末日ヲ以テ滿期日ト解スヘキヲ以テ手形ニ呈示期間ノ記載ナキトキハ其日ヲ以テ滿期日トナシ時効モ亦同日ヨリ進行スルモノトス(東京地一二年評論一六卷商法四四四頁)
- 二 一覽拂約束手形ト時効ノ進行(商法二一四頁)

◎白地手形ト時効起算點

白地手形ニアリテモ消滅時効ハ滿期日ヨリ進行スヘキモノナルカ故ニ白地手形要件補充前ニ引受ヲ爲シタル引受人又ハ約束手形振出人ノ債務ハ滿期日ヨリ進行シ亦滿期日後ニ引受ヲ爲シタルトキハ等シク滿期日ヨリ進行スヘキモノトス(水口ドクトル評論一六卷商法二八〇頁)

◎拒絕證書免除ノ手形ト時効起算點

- 一 手形所持人カ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル裏書人ニ對スル償還請求ノ消滅時効ハ所持人カ拒絕證書ヲ作成セシメザリシ場合ニ在リテハ該手形ノ拒絕證書ヲ作成シ得ヘキ最後ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキニ完成スヘキモノト解スルチ相當トス(大審一五年民八二一頁)
- 二 拒絕證書作成ヲ免除シタル裏書人ニ對スル償還請求ノ時効ハ拒絕證書ヲ作成セザリシ場合ニアリテハ支拂要求ノ呈示ノ日ヨリ之ヲ起算スヘキモノニアラスシテ拒絕證書作成期間滿了ノ日ヨリ起算スヘキモノト解スルチ相當トス(東京地一五年評論一五卷諸法一八八頁)
- 三 拒絕證書ノ免除ト時効起算點(商法二一四頁)

◎支拂延期令ト時効期間ノ延長

- 一 大正一二年九月七日ノ勅令ニ依リ債務者ニ債務ノ支拂ヲ拒ム權利ヲ與ヘタル場合ニ於テハ債權者ハ其行使ヲ爲サントスルモ能ハサルモノト謂フヘク從テ其間ハ時効進行ハ始マラサルモノニシテ手形ノ主タル債務者ニ對スル消滅時効ト雖モ何等之ト異ナルモノニ非ス(東京地昭和二年評論一六卷商法三〇六頁)

二 滿期日カ大正一二年九月一〇日及同月三〇日ニシテ主タル債務者ノ住所カ東京市ナル手形債務ニ關シテハ大正一二年九月七日ノ支拂延期勅令ノ適用アリ其ノ結果カ支拂ハ一箇月間延期セラレ從テ其ノ間ハ時効進行ヲ開始セス右期間ノ終リタル同年一〇月一〇日及同月三〇日ヨリ各時効力進行ヲ開始シ三ヶ年ノ經過ニ依リ完成スルモノトス(東京地昭和二年評論一六卷商法三〇六頁)

三

大正一二年勅令第四〇四號第四二九號ノ適用ヲ受ケル爲替手形ニアリテハ該勅令ニ依リ權利保存ノ爲ニ爲スヘキ行爲ニ付其ノ期間ハ六〇日間延長セラレタルモノナルヲ以テ係争手形ノ滿期日タル大正一二年九月一一日及其ノ後二日内ニ爲スヘキ拒絕證書作成期間ハ六〇日間延長セラレ拒絕證書作成期間滿了ノ日ハ大正一二年一二月二日トナリ償還請求時効ハ同月一三日ヨリ起算シテ一年ヲ經過シタル大正一三年一月二日ノ滿了ヲ以テ完成スヘキモノナルカ故ニ其ノ手形ニ基ク手形金請求ノ訴カ大正一三年一月一一日提起セラレタルコト明白ナル場合ニ於テハ之ニ因リ手形所持人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求權ノ時効ハ中斷セラレタルモノトス(大正一二年勅令第四〇四號第四二九號ハ拒絕證書作成ヲ免除シタル裏書人ニ對シ償還請求ヲ爲ス場合ニ於テモ手形上ノ權利保存ノ爲ニ爲スヘキ行爲ニ付テハ其ノ適用アルコト明ナリトス(東京地一五年評論一五卷諸法一八七頁))

◎手形ノ呈示ト時効中斷

- 一 手形所持人ハ拒絕證書作成ノ後一年内ニ於テ裏書人ニ對シ手形ヲ呈示スルコトナク單ニ手形金ノ請求ヲ爲シタルニ止マルトキハ右裏書人ニ對スル手形債權ハ消滅時効完成シタルモノト謂ハサル可カラス(東京地一一年評論一〇卷商法七四四頁)
- 二 手形ノ如キ指圖債權ハ裏書ニ依リテ自由ニ轉讓流通スル性質

ノモノナルヲ以テ債務者ハ手形ノ呈示ヲ受クルニ非サレハ債權者ノ誰タルカヲ確知スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ手形ノ呈示ノ伴ハサル手形金支拂ノ催告ハ債務者ニ對シ催告タルノ效力ヲ生スルモノニアラサレハ全然無効ナリト謂ハサルヘカラス
(東京地昭和二年報一二六號二五頁)

三 爲替手形ノ所持人カ裁判外ニ於テ前者タル裏書人ニ對シ償還請求ヲ爲シタルトキト雖若シ其請求ニシテ手形ノ呈示ノ伴ハサルモノナルトキハ償還義務者ニ於テ其請求者カ手形ノ所持人ナリヤ否ヤヲ知ルコトヲ得サルヲ以テ斯ル請求ハ不適法ニシテ時効中斷ノ効ナキモノト解スルヲ正當トス(大審一三年民一八四頁、評論一三卷商法二〇一頁)

四 手形ノ催告ト呈示ノ要否(續商法八八二頁)
○手形債務ノ承認ト呈示ノ要否(續民法八九一頁)
○手形ノ呈示不能ト時効中斷(次項)

○郵便ニ依ル手形ノ請求ト時効中斷

爲替手形所持人カ引受人ニ對シ内容證明郵便ヲ以テ手形金ノ支拂ヲ請求シタルトスルモ當該手形ヲ呈示シタル證左ナキ以上該請求ハ手形ノ引換證券ニシテ且法律上所謂呈示證書タル性質上請求トシテハ適法ナルモノニ非サレハ時効中斷ノ效果ヲ生セサルモノトス(東京地一五年評論一五卷商法三一六頁)

○手形ノ呈示不能ト時効中斷

一 支拂擔當者ノ記載ナキ約束手形ノ普通ノ被裏書人タル所持人ノ爲ス呈示ニハ裏書人ニ對スル償還請求保全ノ要件タル呈示ト然ラサル呈示トアリテ其ノ所持人カ振出人ニ對シ支拂ヲ受クル爲支拂拒絶證書作成期間内ニ爲ス呈示ハ即裏書人ニ對スル償還請求權保全ノ要件タル呈示ナルカ故ニ所持人カ支拂ヲ受クル爲右期間内ニ其ノ呈示ヲ爲スヘキ場所ニ手形ヲ持參シタルモ振出人カ不在ノ爲事實上呈示スルコト能ハサルカ如キ場合ニ於テハ右償還請求權保全ノ要件タル呈示アリタルモノト解スヘキコト疑ナキ所ナルモノカ爲時効中斷ノ事由タル請求即催告アリタルモノト解スヘキニ非ス(大審昭和二年民九〇頁、報一〇六號一頁、法二六七三號八頁、評論一六卷商法八二頁)

二 償還請求ノ爲裏書人ニ對シテ爲ス呈示ハ償還請求權保全ノ要件タル呈示ニハ非スシテ唯現ニ償還ノ請求ヲ爲ス爲ノ呈示タルニ過キサルカ故ニ所持人カ裏書人ニ對シ償還ノ請求ヲ爲ス爲其ノ請求ヲ爲スヘキ場所ニ手形ヲ持參シタルモ裏書人不在ニシテ現實之ヲ呈示シテ償還ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テモ亦時効ノ中斷ノ事由タル請求アリタルモノト謂フヲ得サルモノトス(同上)

第四百四十四條 (手形利得ノ償還)

手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

○手形ノ利得償還ニ關スル諸問

- 本條ノ適用ト手形授受ノ基本關係(續商法一〇五〇頁)
- 利得償還請求ノ當事者(續商法一〇五〇頁)
- 失權手形ノ利得ト不當利得(續商法一〇五四頁)
- 手形ノ失効ニ關スル特約ノ效力(續商法一〇三三頁)
- 利得償還ニ於ケル惡意ノ受益者(續商法一〇五四頁)
- 償還請求ト利得發生原因ノ更正(民法六六八頁)

○「受ケタル利益」ノ意義及實例

- 一 本條ノ「受ケタル利益」ノ意義(續商法一〇五一頁)
- 二 商法第四百四十四條ニ受ケタル利益トアルハ約束手形ニ在リテハ振出人カ手形ノ基本關係ニ付振出ノ對價トシテ現實ニ受ケ

タル利益ヲ指稱スルモノニシテ其ノ對價ハ積極的ニ金員ノ交付ヲ受ケタル場合ノミナラス消極的ニ既存債務ノ支拂ヲ免レタル場合ヲモ包含スルモノナルコトハ當院ノ判例トスル所ナルヲ以テ(大正五年(オ)第五百號同年十月十四日大正七年(オ)第四百十六號大正八年二月廿六日當院判決參照) 上告人ハ前示額而二千二百圓ノ約束手形ヲ振出スニ際シ同金額ニ相當スル利益ヲ受ケタルモノト謂フヘク從テ其ノ後手形金二百圓ヲ支拂ヒ殘額二千圓ニ付再度ノ切替ニ依リ本件約束手形ヲ發行スルニ際シテ額面二千圓ニ相當スル利益ヲ受ケタルモノト謂ハサルヲ得ス(尙大正五年(オ)第三百三十八號同年九月六日當院判決參照) 故ニ原院カ被上告人ノ本件約束手形ヨリ生シタル債權カ時効ニ因リテ消滅シタル事實ヲ認メ上告人カ株式買入代金ノ立替債務二千圓ニ相當スル利益ヲ得タルモノト判斷シ上告人ニ對シ商法第四百四十四條ニ依リ之カ償還ヲ爲スヘキ旨判示シタルハ不法ニ非ス(大審昭和二年評論一六卷商法二四〇頁、彙報三八卷二二號四一八頁)

三 約束手形ノ振出人ニシテ苟クモ利得セシ事實アラハ手形上ノ權利ヲ失ヒタル手形所持人ハソノ振出人ニ對シ利得償還ノ請求ヲ爲スヲ妨ケス故ニ手形ヲ振出シタル者カ無償ニテ手形ヲ受取人ニ交付スルニ其受取人カ之ヲ他ニ裏書シテ對價ヲ受ケ其對價ヲ合意上振出人ニ交付セル以上ハ其振出人ハ結局自ラ利得シタルモノト云フヲ妨ケス(法曹會決議一一年法曹記事三二卷第一

二號三〇頁)

四 甲カ所持スル約束手形ハ乙カ甲ノ先代ニ對シテ負擔セル金錢消費貸借債務ノ履行ヲ確保スル爲振出サレタルモノナル場合ニ於テハ其ノ消費貸借債務ハ依然乙ノ甲乃至甲ノ先代ニ對スル既存債務トシテ該手形ハ背後ニ潜在セシモノナルヲ以テ乙カ右手形ノ基本關係ニ付振出ノ對價トシテ現實ニ利益ヲ受ケタルモノト謂フヲ得サルモノトス(大阪控昭和二年評論一六卷商法五七四頁、法二六八七號一〇頁)

五 叙上ノ場合ニ於テハ甲乃至甲ノ先代ハ右消費貸借債權ヲ行フコトヲ得ヘカリシモノニシテ縱令手形上ノ債權カ時効ニ因リテ消滅スルモ直ニ法律上他ニ救済ノ途ナキモノト斷スルヲ得サルモノトス(同上)

六 乙カ甲ニ對スル消費貸借上ノ債務ヲ確保スル目的ヲ以テ約束手形ヲ振出シタル場合ニ於テ右消費貸借債權カ時効ニ因リテ消滅シタリトスルモ這ハ乙カ手形ノ基本關係ト何等因縁ノナキ民法ノ時効ニ因リテ債務ヲ免カレタルモノニ他ナラサレハ之ヲ以テ前示約束手形ノ基本關係ニ付振出ノ對價トシテ現實ニ受ケタル利益ト稱スルヲ得サルモノトス(同上)

七 次項「手形ノ利得償還請求ノ要件」ノ四以下參看

◎手形ノ利得償還請求權ノ要件

ニ縱令其ノ手形上ノ債權カ時効ニ因リ若ハ手續上ノ欠缺ニ因リ消滅スルモ手形所持人カ既存ノ民法上ノ債權ヲ行使スルコトヲ得ルトキ即チ他ニ民法上ノ救済方法ヲ有スルトキハ利得償還ノ請求權ヲ有セサルモノトス(同上)

五 叙上ノ場合ニ於テ手形所持人カ民法上ノ債權ヲ行使スルコトヲ得ルヤ否ハ手形ヲ授受シタル當事者ノ意思即チ或ハ當事者カ手形上ノ債權ヲ行使スルノ方法ニ依リテノ民法上ノ債權ノ辨濟ヲ爲スヘキ約旨ヲ以テ手形ヲ授受シ或ハ當事者カ時効若ハ手續欠缺ニヨリ債權ヲ喪失スルニ至ラサル手形ヲ返還スルニ依リテノミ既存ノ債權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ約旨ニテ手形ヲ授受スル等ノ事情其ノ他諸般ノ狀況ヲ審查シテ之ヲ決スヘキモノトス(同上)

六 然ルニ原院カ上告人(控訴人)ハ被上告人カ振出人トナリ訴外加藤甚三郎カ引受人トナリタル爲替手形ヲ被上告人ニ對スル紙代金千六百二十八圓ノ債權ノ支拂方法トシテ受取リタル事實ヲ認メナカラ「手形所持人タル上告人カ現ニ其ノ引受人加藤甚三郎ニ對シ手形上ノ債權ヲ保有セル場合ニ於テハ縱令其ノ引受人カ手形金支拂ノ資力ヲ有セサルト否トニ拘ラズ上告人ハ振出人タル被上告人ニ對シ利得償還請求權ヲ行使スルコトヲ得ヘシ」ト判示シテ加藤甚三郎ノ無資力ナルヤ否ヲ判斷セサルハ理由不備ノ不法アルモノト謂ハサルヘカラス又辨濟方法トシテ手形ヲ授受シタル場合ニ於テモ手形上ノ債權カ時効ニ因リ又ハ手

一 手形法上ノ利得償還請求權ナルモノハ其ノ形式實質共ニ有效ナル手形ヲ有シ若シ時効又ハ手續ノ欠缺無カリセハ完全ニ手形上ノ債權ヲ行使シ得ヘカリシ手形所持人ニシテ始メテ之ヲ享有シ得ヘキモノニシテ其ノ裏書ノ連續ヲ缺如セルカ爲ニ手形上ノ債權ヲ行使スルコトヲ得サル所持人ノ如キハ利得償還ノ請求權ヲ有セサルモノトス(名古屋控一五年評論一五卷商法二二七頁)

二 商法第四四四條ニ於テ手形ノ所持人ニ振出人又ハ引受人ニ對スル利得償還ノ請求權ヲ認メタルハ所持人カ他ニ手形上又ハ民法上何等ノ救済方法ヲ有セサル場合ニ於テ振出人又ハ引受人チシテ其ノ受ケタル利得ヲ領得セシムルハ不公平ナリト爲シタルカ爲ナルヲ以テ其ノ利得償還ノ請求權ヲ生スルニハ他ノ總テノ手形債務者ニ對スル手形上ノ債權カ消滅シタルコトヲ要スルモノトス(大審昭和三年民一頁、評論一七卷商法一四頁、報一三八號一一頁)

三 爲替手形ノ所持人カ其ノ振出人ニ對シ時効ノ完成又ハ手續ノ欠缺ニ因リ手形上ノ債權ヲ失フモ其ノ手形ニ引受人アルトキハ之ニ對シテ手形上ノ債權ヲ行フコトヲ得ヘキヲ以テ所持人ハ振出人ニ對スル利得償還ノ請求權ヲ有セス唯其ノ引受人カ無資力ナル場合ニ於テノミ右ノ請求權ヲ有スルニ過キサルモノトス(同上)

四 手形カ既存ノ民法上ノ債權ニ對スル辨濟ノ方法トシテ振出サレタル場合ニ於テハ其ノ債權ハ手形授受ニ因リ消滅セサルカ故

續上ノ欠缺ニ依リ消滅シタルノ一事ニヨリ前示ノ如ク當然既存ノ民法上ノ債權ヲ行使スルコトヲ得ルモノト謂フコトヲ得サルニ拘ラズ漫然上告人ハ被上告人ニ對シ既存ノ紙代金ノ債權ヲ行使スルコトヲ得ルカ故ニ利得償還ノ請求權ヲ有セスト判示シ本件ニ於テ何故ニ上告人カ民法上ノ債權ヲ行使スルコトヲ得ルヤヲ説明セザリシハ理由不備ノ不法アルモノト謂ハサルヲ得ス(同上)

- 七 利得償還請求ノ要件(續商法一〇五〇頁)
- 八 手形債權ノ時効消滅ト利得有無(續商法一〇五一頁)
- 九 振出無効ニ因ル支拂免脱ノ利得(續商法一〇五二頁)
- 一〇 手形上ノ債權喪失ト原債權ノ行使(續商法一〇五二頁)
- 一一 切換手形(書換手形)ノ利得ノ存否(續商法一〇五二頁)
- 一二 手形ノ切替又ハ書替ト更改成否(第二續民法六一〇頁)
- 一三 約束手形ノ振出ト既存債務トノ關係(第二續民法六〇九頁)

◎利得償還ノ請求ト立證責任

一 商法第四四四條ニ所謂利得トハ手形債務ヲ免ルルコトヲ謂フモノニ非スシテ手形授受ノ基本關係ニ於テ對價ヲ取得セルニ因ル利益ト解スルヲ至當トスルカ故ニ手形振出人カ何等ノ對價ヲ得ザリシ場合ニハ同條ニヨリ償還請求ヲ爲スヲ得サルノミナラズ元來利得償還ノ請求權ハ恩惠的ニ認容セラルルモノナルヲ以

テ振出人カ利得シタルコトハ所持人ニ於テ之ヲ立證スヘキモノトス(大阪地一二年評論一二卷商法一一二頁)

◎手形ノ保證人ト手形利得ノ償還

一 商法第四四四條ニ基ク利得償還義務ハ手形法上ノ義務ナレトモ手形上ノ債務ニ非ス即チ手形債務其ノモノニ非ス又其ノ擴張タル性質ヲ有スルモノニ非ス且手形債務ノ從タルモノニ非サルヲ以テ當事者ノ契約ニ依ルニ非サレハ手形保證人ハ當然ニ右償還義務ニ付保證債務ヲ負フヘキ理ナキモノトス(福山區昭和二年評論一六卷商法五一三頁)

◎失權手形ノ性質及其ノ讓渡

一 手形上ノ權利喪失後ノ手形ノ性質(續商法一〇五三頁)
二 利得償還請求權ノ性質及讓渡方法(續商法一〇五三頁)
三 凡ソ手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅スルトキハ手形ハ茲ニ手形タルノ效力ヲ失ヒ爾後手形トシテノ法理上ノ存在ヲ失フヘク從テ裏書讓渡ノ方法ニヨリ之ヲ讓渡スルコト在ルモ素ヨリ該裏書ハ手形法上ノ裏書トシテ何等其ノ

效力ナキモノトス(東京地一四年評論一四卷商法一三二頁)

◎手形利得ノ償還ト遲延利率

一 商法第四四四條ニ基ク利得償還義務ハ商法ノ規定ニ基ク義務ニシテ商行爲ニ因リテ生シタルモノニアラサレハ之カ不履行ニ基ク損害金モ亦民法所定ノ利率ニ從フヘキモノトス(福山區昭和二年法二六九一號九頁)

◎手形ノ利得償還ト時効期間

一 商法第四四四條ノ償還請求權ハ手形行爲ニ因リテ生スルモノニ非サルハ勿論其他何等ノ商行爲ニ因リテ生スルモノニモ非サルヲ以テ普通債權ニ對スル時効ヲ適用シ其權利ヲ行使シ得ル時ヨリ十年ヲ經過スルニ依リテ消滅スルモノナルコトハ當院ノ判例トスル所(明治四十五年四月十七日第二民事部判決)ニシテ今之ヲ變更スルノ要ナシ(大審一〇年民三一八頁)

- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 一定ノ満期日
- 八 支拂地

◎荷爲替ニ關スル諸問

- ◎荷爲替ト債務履行ノ順序(續商法一〇六〇頁)
- ◎荷爲替手形ト代金債務トノ關係(續商法一〇六〇頁)
- ◎荷爲替手形ノ引受又ハ支拂ノ效力(續商法一〇六〇頁)
- ◎荷爲替取引ト賣買完成ノ時期(續商法一〇六〇頁)
- ◎代金引換契約ニ對スル荷爲替送付(續商法一〇六〇頁)
- ◎運送契約ノ代理ト荷爲替取引ノ權限(續商法一〇六〇頁)
- ◎無効引換證ニ對スル荷爲替ノ取引(續商法九二七頁)
- ◎荷爲替取引銀行ノ調査義務(補遺六二二條)
- ◎荷爲替ト貨物引換證(商法一五九頁)
- ◎荷渡指圖書ニ關スル商慣習(第二續商法一條)
- ◎荷渡指圖書ト讓渡ノ方式(第二續民法五五五頁)

◎荷爲替手形ノ意義及性質

第二章 爲替手形 第一節 振出

債務者トシテ時効ノ利益ヲ享受シタルモノト謂フ可ク而シテ因リテ生シタル同第四四四條ノ利得償還請求權ハ銀行營業者ノ金錢貸付又ハ手形割引ナル推定ノ商行爲ニ基因スルモノニ非サルヲ以テ一般ノ商行爲ニ通スル五年ノ時効ヲ適用スヘキモノニ非サルノミナラス之ヲ適用セスシテ普通ノ十年時効ヲ適用スヘキモノト爲スモ債務者ニ於テ完全ニ時効ノ利益ヲ享受セザルモノト謂フヲ得サルヲ以テナリ(同上)

三 手形ノ利得償還ト時効期間(續商法八八九頁、同一〇四九頁)

◎利得償還ノ請求ト時効援用ノ要否(續商法一〇五三頁)

第四百四十五條 (爲替手形ノ要件)

- 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス
- 一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名又ハ商號

一 荷爲替手形ナルモノハ通常物品ノ賣主カ買主タル荷受人チ支拂人トシ其住所地若クハ營業所在地チ支拂地ト爲シタル爲替手形チ振出シ之ニ添フルニ後日買主カ爲替金チ支拂ハサル場合ニ對スル擔保トシテ取引物品ノ貨物引換證若クハ船荷證券チ以テシ之チ受取人ニ交付スルニ因リテ成立スルモノナルニ依リ荷毛當事者ニシテ荷爲替附取引ノ商慣習ニ依ルノ意思アリタル以上ハ買主ハ代金支拂方法トシテ賣主ノ振出ニ係ル荷爲替手形ノ支拂チ爲スヘキ義務アルコト勿論ナルト同時ニ其支拂ハ手形上ノ支拂地ニ於テ爲スチ得ヘキモノトス(新潟地一一年評論一一卷商法一二七頁)

二 荷爲替ノ性質(續商法一〇五九頁)
 ◎荷爲替手形ナル旨ノ記載ノ效力(續商法一〇五九頁)
 ◎荷爲替手形ト流通性(續商法一〇五九頁)

◎荷爲替ニ關スル商慣習

一 新潟市ノ米穀商人カ樺太ノ米穀商人ヨリ米穀五百石以上ノ買入申込チ受ケタル場合ニ其代金ノ取立ハ特約ナキ限り荷爲替ノ方法ニ依ル商慣習存スルモノトス(新潟地一一年評論一一卷商法一二七頁)

二 從來福井縣鯖江地方ニハ生絲製造地方ヨリ委託販賣ノ爲生絲チ荷爲替ニテ送附シ來リタル場合ニ爲替手形ノ取立委任チ受ケ

タル同町所在ノ銀行ハ荷受人即支拂人ニ對シ手形カ廻付シ來リタルコトヲ通知スル爲ニ手形チ示シ支拂人ニ於テ其通知チ受ケタル印トシテ手形ノ空白(多クハ引受關ノ空白)ニ店列並名前判等チ押捺シテ銀行ニ返還スル慣習行ハルモノトス(大審一二年民一五七頁)

三 荷爲替ト山形地方ノ慣習(續商法四三一頁)
 四 蓄音器針先ノ賣買ト荷爲替ノ慣習(續商法四三一頁)
 五 荷爲替取引ト商慣習(商法二二〇頁)
 六 生絲荷爲替ニ關スル橫濱ノ慣行(商法四頁)
 七 隔地者間爲替取引ニ關スル商慣習(商法二頁)
 八 荷爲替ノ利息ト商慣習(續商法四三二頁)
 九 無効ナル貨物引換證ト引渡上ノ商慣習(第二續商法一條)
 一〇 貨物ノ保證渡ノ慣習チ認ムルヤ(第二續商法一條)
 一一 現物授受ナキ荷爲替ノ效力(商法一五九頁)
 一二 荷爲替ニ於ケル質權設定ノ慣習(續商法一〇六一頁)

◎荷爲替手形ト支拂地ノ變更

荷爲替取引ニ於テ受取人ニ對スル手形金ノ支拂ハ結局取引代金ノ支拂方法ニ外ナラスト認メ得ヘキノミナラス其支拂地如何ハ同取引上當事者相互ニ取り裁判管轄其他重要ナル利害關係ノ存スルトコロナルチ以テ特約ナキ限り爾後當事者一方ノ意思チ以

テハ之チ變更スルコトヲ得サルモノト解スルチ相當トス(新潟地一一年評證一一卷商法一二八頁)

◎貨物引取ト荷爲替金支拂ノ推定

荷爲替附ノ貨物チ運送店ヨリ引取リタルトキハ特別ノ事情ナキ限り荷受人ニ於テ爲替手形ノ支拂チ爲シタルモノト認ムルチ妥當トス(東京控一三年法二三五七號一七頁)

◎手形ノ振出ニ關スル諸問(一)

◎手形要件ノ記載方法(商法二七五頁)
 ◎署名及記名捺印ノ意義(第二續商法四三五條)
 ◎手形ノ振出行爲ノ意義(商法二七五頁)
 ◎手形ノ原因關係ト手形行爲其者トノ別(第二續商法四四〇條)
 ◎手形行爲ニ關スル錯誤ノ存否(補遺四三五條)
 ◎手形行爲ノ取消ニ關スル諸問(第二續商法四三八條)
 ◎手形ノ要件外記載ニ關スル諸問(第二續商法四三九條)
 ◎手形關係ニ於ケル賠償額ノ豫定(第二續商法四三九條)

◎手形ノ振出ニ關スル諸問(二)

◎手形ノ振出ニ關スル諸問(三)

◎融通手形ノ割引ト消費貸借ノ成立(第二續商法五二五條)
 ◎融通手形ノ效力(第二續商法四四〇條)
 ◎株金拂込ニ充テタル約束手形ノ效力(續商法一二一八頁)
 ◎要件欠缺手形ト當座貸越契約(商法二二四頁)
 ◎手形ノ燒失ト手形金ノ請求權(第二續商法四八三條)
 ◎印紙不貼用ト手形ノ效力(續商法一〇五八頁)
 ◎國際的手形關係ト準據法(續商法一〇五五頁)

◎共同振出ニ關スル諸問

◎數人共同ノ手形振出(商法二二二頁)
 ◎數人共同セル約束手形ノ振出(商法三六一頁)

- ◎振出地ノ記載ナキ振出人數名ノ手形(商法二八九頁)
- ◎共同振出人ノ一人ト受取人トノ更改(續民法一一二九頁)
- ◎共同振出ノ約束手形ト其ノ振出地(第二續商法五二六條)

◎共同代表ニ於ケル手形行爲ノ方式

所謂共同代表ノ定アル合名又ハ合資會社力積極的行爲ヲ爲ス場
合ニハ共同代表社員ハ常ニ共同シテノミ有效ニ會社ヲ代表スル
コトヲ得ルモノト解スヘク手形行爲モ亦積極的法律行爲ナルコ
ト固ヨリ論ナキヲ以テ特ニ手形ノ振出又ハ引受ニ付キ右理論ヲ
異ニスヘキ理由ナキモノトス(東京地一四年評論一四卷商法二
六六頁)

◎某寺住職ナル肩書ト振出人ノ認定

第二續商法四三五條「手形文言ノ判定方」ノ五參看

◎振出ノ無効ト引受又ハ裏書ノ責任

一 爲替手形ハ商法第四百四十五條所定ノ要件ヲ具備スルトキハ
該手形ノ振出行爲力意思ノ欠缺又ハ代理權欠缺等ノ事由ニ因リ
當事者間ニ其ノ效力ヲ生セサル場合ト雖有效ナル手形トシテ其

- 居ルモノナルヲ以テ商法力偽造又ハ變造ノ手形ニ署名シタル者
ニモ猶署名者トシテノ責任ヲ認ムル趣旨ニ鑑ミ手形ノ署名者モ
亦同様署名者トシテノ責任ヲ負擔スルモノト解スルヲ相當トス
(東京地昭和三年報一六三號一九頁)
- 四 振出行爲ノ無効ト裏書人ノ責任(續商法一〇七一頁)
- 五 振出人ノ署名偽造ト裏書ノ效力(商法二〇四頁)

◎爲替手形ノ振出ト既存債務トノ關係

- 一 爲替手形ノ振出ト更改契約ノ成否(續商法一〇五八頁)
- 二 既存ノ債務關係ニ付債務者力債權者ヲ受取人トシテ自己宛爲
替手形ヲ振出シ且ツ之カ引受ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ニ別段
ノ事情ノ存セサル限り右手形ハ既存債務ノ支拂ニ付單純ナル擔
保ヲ與フル爲メ或ハ既存債務ノ支拂ノ方法トシテ交付セラレタ
ルモノニシテ之カ爲メニ既存債務ノ消滅ヲ來スモノニ非スト推
定スルヲ相當トス(東京地昭和三年報一六〇號二四頁)
- ◎約束手形ノ振出ト既存債務トノ關係(第二續商法五二五條)
- ◎手形金ノ不支拂ト原債權ノ行使(續商法一〇五八頁)
- ◎一定ノ金額ノ意義(第二續商法五二五條)

◎手形ノ支拂人ニ關スル諸問

第二續商法 手形 爲替手形 振出

ノ成立ヲ害セラルルコトナク引受裏書等ノ所謂從屬的手形行爲
ノ行ハレ得ヘキ基本手形タリ得ルモノニシテ商法第四百三十七
條第一項ノ規定ハ右原則ヲ示シテ餘リアルモノトス原審ノ確定
シタル事實ニ依レハ本件甲第一號證ノ手形ニハ爲替手形タル要
件ニ缺クル所ナク唯受取人保井登久カ振出人ノ代理人トシテ之
ニ署名シタルニ因リ民法第八條ノ規定ニ違反シタルニ過キサ
ルモノトス從テ本件手形ノ振出ニ因リ振出人カ手形上ノ責任ヲ
負ハス又受取人トシテ手形上ノ權利ヲ取得セストスルモ其ノ振
出ニ係ル爲替手形ハ有效ナル手形トシテ其ノ成立ヲ保ツテ以テ
該手形ニ裏書署名ヲ爲シタル被上告人先代登久ハ裏書人トシテ
手形上ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス然ルニ原審カ本件手形ヲ形
式上無効ナリト判定シ之ニ基キ上告人ノ請求ヲ棄却スル旨ノ判
決ヲ爲シタルハ手形ノ成立ト手形行爲ノ效力トヲ混同視シタル
誤解アルモノトス(大審昭和三年法二八四九號九頁)

二 元來手形行爲ハ各獨立性ヲ有スルモノナルカ故ニ振出人ノ爲
シタル手形行爲ノ效力ノ有無ハ其後ノ引受人ノ引受行爲並受取
人ノ裏書行爲ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニアラサレ
ハ其振出行爲力當然無効タルト否トニ拘ラス引受人ハ手形所持
人ニ對シ手形上ノ義務ヲ免レサルモノトス(東京地昭和三年報
一五四號一五頁)

三 手形ノ振出行爲カ民法第八條ニ背反シテ無効ナルトキト雖
之ヲ形式ノ方面ヨリ觀ルトキハ振出行爲トシテノ要件ハ完備シ

- ◎數人ノ支拂人記載ノ效力(續商法一〇五五頁)
- ◎數人ノ支拂人ト一人ニ對スル呈示(續商法一一〇二頁)
- ◎虛偽ノ支拂人記載ノ效力(續商法一〇五六頁)
- ◎支拂人及受取人ノ同一ナル爲替手形(第二續商法四四七條)

◎手形ノ受取人ニ關スル諸問

- ◎氏名又ハ商號ノ記載ニ關スル諸問(續商法一〇五六頁)
- ◎氏又ハ名ノミナ記載シタル手形ノ效力(續商法一〇五六頁)
- ◎同性同名者アル手形受取人ノ表示(商法二七八頁)
- ◎約束手形記載ノ氏名及商號(商法二七七頁)
- ◎「會社」ノ種類ヲ缺ク手形ノ宛名(商法二七八頁)
- ◎手形面記載ノ商號所屬ノ判定方(商法二七八頁)
- ◎受取人ヲ記載セサル手形ノ效力(第二續商法四四九條)

◎事實ト相違スル「受取人」ノ記載

一 被告ハ本件手形ニ受取人トシテ記載セラレタル黒田市右衛門
ハ右手形ノ振出及裏書當時既ニ死亡シ居リタル者ナレハ右手形
ハ結局受取人ノ記載ナキヲ以テ手形要件ヲ缺ク無効ノ者ナリト
主張スルモ手形ハ形式上其法定要件ヲ具備スル限り受取人トシ
テ記載サレタルモノカ事實上存在スルト否トニ拘ラス有效ナル

コト勿論ニシテ本件手形ハ其形式上何等要件ニ欠缺ナキヲ以テ被告ノ抗辯ハ之ヲ採用スルニ由ナシ(東京地一三年評論一三卷商法一〇四頁)

二 商法カ手形振出ノ要件トシテ手形ニ受取人ノ氏名又ハ商號ヲ記載セシムルハ受取人トシテ或人格者ヲ手形ニ表示セシムルノ必要ニ出テタルニ外ナラサルヲ以テ手形ニ記載スヘキ受取人ノ氏名商號ハ必ス戸籍上ノ氏名又ハ登記簿ニ登錄セラレタル商號ナラサルヘカラスト云フカ如キ嚴格ナル解釋ヲ下スヘキモノニ非スシテ其ノ記載セラレタル表示ニシテ取引上或人格者ヲ表示スルコト明ナル場合ニ於テハ假令其ノ表示カ其ノ者ノ眞ノ氏名商號ト合致セサル場合ニ於テモ受取人ノ表示トシテ手形要件ヲ具備スルモノト云ハサルヘカサルモノトス(大審一四四年民二五八頁、評論一四卷商法一六二頁)

- 三 虚偽ノ受取人記載ノ效力(續商法一〇五七頁)
- 四 手形ノ記載要件ト眞實ノ要否(續商法一〇八二頁)
- 五 事實ト相違スル手形要件ノ記載(商法二七五頁)

參照、事實ト相違スル「日附」ノ效力(本條別項)

◎「組合宛」トセル約束手形ノ效力

組合ハ人格ヲ有セサルモノナルヲ以テ其名又ハ商號ニ依リテハ或人格者ヲ表示スルモノニアラスト解スヘキカ如シト雖組合ハ

組合員カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムモノニシテ組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬スルモノナルヲ以テ取引上組合名義ヲ用ヒ組合名義ニ依リテ權利ヲ得義務ヲ負擔スルコトアルモ其實總組合員ノ權利義務ニ外ナラサルモノナルト共ニ組合ハ其名義ニ依リテ取引ヲ爲スヲ普通トシ組合カ手形ノ授受ヲ爲スニ方リテモ組合員全員ヲ表示スルコトナク組合名義ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得セシムルニ非サレハ組合ハ遂ニ手形ノ授受ヲ爲スコトヲ得サル不便ナル結果ニ陥ル場合ナキニ非サルヲ以テ組合カ手形ノ受取人トシテ組合名義ヲ以テ表示セラレタル場合ニ於テハ寧ろ其實質上ノ權利者タル總組合員ヲ表示スルモノトシテ手形要件ヲ具備スルモノト解スルヲ妥當ナリトス(大審一四四年民二五八頁、評論一四卷商法一六二頁)

◎受取人ノ記載ト誤脱アル場合

手形ノ受取人ノ氏名ハ受取人ノ誰ナルカヲ特定シ得ル程度ノ記載アルヲ以テ足ルモノナレハ和泉惣左衛門ト記載スヘキヲ和及左ヲ脱漏シ泉惣衛門ト記載シタルカ如キ偶々其ノ氏名ノ記載ニ脱字アリトスルモ同一人ナルコトヲ識別シ得ラルトキハ之ヲ以テ有效ナル氏名ノ記載アリト爲スヘキモノトス(東京地一四四年評論一五卷商法一一三頁)

◎手形ノ共同受取人ノ權利關係

一 手形ノ受取人ハ之ヲ數人ト爲スコトヲ妨ケスト雖此ノ場合ニ於テ共同受取人ハ共同ノ權利ヲ取得シ各自權利ヲ取得スルモノニ非サルヲ以テ共同シテ手形行爲ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ單獨ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス從テ共同受取人ハ共同シテノミ裏書ヲ爲スコトヲ得ルモノナルヲ以テ共同受取人ノ一人カ單獨ニ之ヲ爲シタル裏書ハ法律上無効ナルモノト解セサルヘカラス蓋民法ハ多數當事者ノ債權關係ニ付分割債權關係ヲ以テ原則トシ各當事者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有スルモノト爲スト雖手形ノ共同受取人ノ權利關係ニ付民法ノ原則ニ準據シ各受取人カ各自其ノ權利ヲ有シ各別ニ手形行爲ヲ爲シ得ルモノト爲スカ如キハ流通證券タル手形ノ本質ニ背反スルモノト謂ハサルヘカラサレハナリ(大審一五五年民八五〇頁、評論一五卷商法二九頁、報一〇一號一三頁)

- 二 數人ノ受取人記載ノ效力(續商法一〇五六頁)
- 三 數人ノ手形行爲ト權利關係(商法二二二頁)
- ◎共同振出ニ關スル諸問(本條別項前出)

◎振出日附ニ關スル諸問

第二續商法 手形 爲替手形 振出

◎事實ト相違スル「日附」ノ效力

實際ノ手形ノ振出又ハ裏書ノ年月日ト其ノ手形ニ記載シタル振出又ハ裏書ノ年月日ト力相一致セサル場合ト雖手形ハ一ニ其ノ記載ニ依リテ要件ノ有無ヲ判定スヘキモノナルヲ以テ手形ニ記載シタル年月日ハ手形行爲ノ要件トシテ記載ノ效力ヲ有スヘキモノトス(大審昭和三年評論一七卷民訴一三三頁)

◎滿期日ニ關スル諸問

- ◎滿期日ニ關スル諸問(第二續商法四五〇條)
- ◎滿期日ノ記載ナキ手形ノ性質(第二續商法四五一條)

◎支拂地ニ關スル諸問

- ◎支拂地ノ記載ト其ノ表示方(第二續商法四五二條)
- ◎支拂地ノ記載アリト爲シ得ヘキ場合(第二續商法四五二條)

第四百四十六條 (手形金額ノ記載數個アル場合)

爲替手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

◎手形金額ト主タル部分ノ判定 (續商法一〇六一頁)

第四百四十七條 (自己指圖及自己宛爲替手形)

振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

- ◎自己受爲替手形ノ效力發生時期 (續商法一〇六二頁)
- ◎自己受爲替手形ノ實用 (續商法一〇六二頁)
- ◎自己受 (自己指圖) 爲替手形ノ形式 (續商法一〇六二頁)
- ◎自己宛爲替手形ノ實用 (續商法一〇六二頁)
- ◎自己宛爲替手形ノ形式 (續商法一〇六二頁)

◎自己宛爲替手形ト償還請求手續 (續商法一二三〇頁)

◎支拂人及受取人ノ同一ナル爲替手形

一 商法第四百四十七條ハ振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得ヘキ旨ヲ定ム之ニ依レハ爲替手形ノ振出人支拂人及受取人ハ各別異ノ人格者ナラサルヘカラサルモノニ非サルコトヲ知ルニ足ル而シテ商法中爲替手形ノ支拂人ト受取人トカ同一人格者ナルコトヲ得サル旨ヲ定メタル規定ナク又爲替手形ノ振出人ト支拂人又ハ受取人トカ同一人格ナルコトヲ得ルニ其ノ支拂人ト受取人トハ同一人格者ナルコトヲ得サル理由ナシ蓋爲替手形ハ裏書ニヨリテ讓渡セララルモノニシテ一旦裏書讓渡アリタル場合ニ於テハ支拂人ト受取人トカ同一人格者ナル手形モ此ノ兩者カ別人格者ナル手形ト同一ノ效力ヲ有スルコトヲ得ヘキモノナレハナリ然ラハ爲替手形ノ支拂人ト受取人トハ別人格者ナルコトヲ要セス同一人格者ナルコトヲ得ルモノト解スルチ相當トス (大審一三年民五七五頁、法二三五四號一七頁)

二 (右ノ二審判決) 爲替手形ニハ振出人支拂人受取人ノ三人格ヲ要シ而モ其ノ三人格ハ別人ナルチ原則トシ唯例外トシテ振出人カ受取人又ハ支拂人チ兼メルコトヲ得セシメルコトハ商法第四百四十七條ノ解釋上疑ナキ所ナレハ振出人ハ支拂人又ハ受取人ノ内其孰レカ一チ兼不得ルモ振出人ハ支拂人タルト同時ニ受取人

ヲ兼不得サルハ勿論受取人ハ又支拂人タルノ資格ヲ兼不得サルモノト解スルチ妥當トス (東京控一三年評論一三卷商法二六頁)

◎代表社員ノ自己受手形ノ效力

一 合資會社甲ハ其ノ代表社員乙ニ依リ自己ヲ支拂人トシテ受取人乙個人資格ト定メタル爲替手形ヲ振出し即日支拂ノ引受ヲ爲シタル場合ニ於テ若乙カ一方甲會社ノ代表社員トシテ他方個人タル自己ニ對シ右手形ヲ振出し同人ニ於テ一旦該手形上ノ權利ヲ取得シ且ツ甲會社方其ノ引受ヲ爲シタルモノトセハ右手形行爲ハ債務履行ノ爲ニ爲サレタルモノニ非サル限リ民法第一〇八條ノ規定ニ抵觸シ無効ノモノト謂ハサルヘカラス (東京控一五年評論一五卷商法四七九頁)

二 社會ノ實際ニ徴シテ考フルニ合資會社ノ代表社員カ會社ヲ代表シ形式上自己個人ヲ受取人トシテ手形ヲ振出し且ツ其ノ個人カ裏書ヲ爲ス場合ノ多數ハ其ノ代表社員個人ニ於テ手形上ノ權利ヲ取得スルコトナク單ニ裏書人トシテノ責任ヲ負フ爲ノ前提トシテ其ノ個人チ形式上受取人トスルモノニシテ其ノ個人カ眞實該手形上ノ權利ヲ取得スルハ寧ロ例外ノ場合ナリト認ムルチ妥當トスルノミナラス一般手形取引ノ實際ニ於テモ手形上ノ權利ヲ取得スルコトナクシテ單ニ手形上ノ義務ヲ負フ爲ニノミ受取人兼第一ノ裏書人トナリ又ハ第二以下ノ裏書人トナルコトハ

第二續商法 手形 爲替手形 振出

四四七條

四四八條

一八一

決シテ例外ノ場合ナリト言フチ得サルチ以テ第一ノ裏書人タル受取人又ハ第二以下ノ裏書人カ手形上ノ權利ヲ取得シタルカ否カニ付爭アルトキハ取得シタリト主張スル者ニ於テ之チ立證セサルヘカラス (同上)

三 合資會社甲カ其ノ代表社員乙ニ依リ自己ヲ支拂人トシ受取人乙個人資格ト定メタル爲替手形ヲ振出し即日支拂ノ引受ヲ爲シタル後乙個人資格ハ該手形ニ第一ノ白地裏書ヲ爲シ丙ハ之ニ第二ノ白地裏書ヲ爲シ丁ニ交付シタル場合ニ於テ裏書人タル乙及丙カ眞實其ノ手形上ノ權利ヲ取得シタルコトヲ認ムヘキ證據ナキトキハ丁主張ノ如ク甲會社代表社員乙カ個人タル乙チ受取人トシテ右手形ヲ振出スニ當リテハ個人タル乙チシテ單ニ裏書人トシテノ責任ヲ負ハシムル爲ニノミ形式上之チ受取人ト記載シタルニ過キスシテ同人及第二ノ裏書人タル丙ハ右手形ノ所持人トナルコトナク單ニ該手形ノ裏書人タルニ留マリ右手形ノ所有權ハ甲會社ヨリ直接丁ニ附與セラレタルモノト認ムルチ妥當トシ從テ乙ハ右手形ノ振出及引受ニ付其ノ相手方ノ代理人ト爲リタルモノト言フチ得サルチ以テ民法第一〇八條本文ノ規定ニ抵觸スルコトナク該手形行爲ハ有效ナリトス (同上)

第四百四十八條 (豫備支拂人ノ記載)

四四八條

振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

◎豫備支拂人ニ關スル諸問

- ◎豫備支拂人ノ意義(續商法一〇六三頁)
- ◎豫備支拂人タル資格(續商法一〇六三頁)
- ◎豫備支拂人指定ノ形式(續商法一〇六三頁)
- ◎豫備支拂人アル手形ノ擔保請求條件(續商法一〇六三頁)

第四百四十九條(無記名式手形ノ要件)

爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限リ之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

◎無記名式手形ニ關スル諸問

- ◎「殿」ノ不動文字ト無記名債權ノ反證(第二續民法七一頁)
- ◎無記名證券ト原因ノ不表示(第二續民法七一頁)
- ◎無記名手形ノ移轉方法(續商法一〇六六頁)

◎無記名式手形ト裏書ノ效力(第二續商法四五五條)

◎受取人ヲ記載セサル手形ノ效力

◎無記名式手形カ白地手形カノ判定

- 一 受取人ノ記載ナク唯支拂委託ノ文言トシテ「右金額殿又ハ其指圖人ニ此手形引換ニ御支拂相成度候也」ト記載シ殊更其殿ナル文字ノ上ニ氏名ヲ記載シ得ヘキ空白存シアルニ見レハ「殿又ハ其指圖人」トアルハ抹消セラルヘキ管ノ無用ノ文字ニシテ前示支拂委託ノ文言ハ手形持參人ニ對シ手形金ノ支拂ヲ爲サレタキ旨ヲ委託シタルモノト解スルコトヲ得ヘシ故ニ該手形ハ受取人ノ記載ナキ無効ノ手形ニアラスシテ有效ナル無記名式手形ナリト認ムルヲ相當トス(大阪地一〇年評論一〇卷商法四〇二頁)
- 二 乙號證ニ依レハ現ニ控訴人主張ノ如ク該手形面ニ受取人ノ氏名又ハ商號ノ記載ナキコトヲ明認スルヲ得ヘシト雖モ之ト同時ニ右手形ニ爲替手形タルコトノ表示ハ勿論其他商法第四百四十五條第二號第三號並ニ第五號乃至第八號所定ノ記載ハ凡テ之ヲ具備スルモノナルコト竝ニ通常受取人ノ氏名又ハ商號記載ヲ爲スヘキ箇所トシテ「右金額 殿又ハ同人指圖人」此手形引換ニ御支拂可成候也」ノ記載アルトキハ右手形ハ所謂無記名式手形トシテ振出シタルモノト認ムルコトヲ得サルノミナラ

ス反對ノ事情ノ見ルヘキモノナキ限リ其振出當時振出人ニ於テ有效ナル手形行爲ヲナスノ意思ヲ有シタルモノト推定スルヲ相當ト爲スヘク而モ本件ニ於テハ該反對ノ事情ヲ認ムヘキ證左ナキカ故ニ振出人ニ於テ其所持人ヲシテ右欠缺セル受取人ノ氏名又ハ商號ヲ補充セシムルノ意思ヲ以テ故ラニ其ノ記入ヲ爲サス所謂白地手形トシテ振出シタルモノナリト爲ササルヲ得サルトコロニシテ之ヲ手形要件ノ記載ヲ欠缺セル無効手形ナリト斷スルヲ得サルモノトス(東京地昭和二年報一四六號二四頁)

三 甲第一號證ノ手形ヲ查閱スルニ其手形ニハ受取人ノ氏名又ハ商號ノ記載ヲ缺クト雖モ「右金額——(此所空白) 殿又ハ其指圖人」此手形引換ニ御支拂相成度候也」トノ文字ノ記載アリテ此「又ハ其指圖人」トノ文字ヲ有意義ノモノト解スレハ一應之ヲ白地手形ナリト認ムルコトヲ得ヘシ而シテ證書ニ文字ノ記載アル以上ハ相當ノ理由アルニアラサレハ之ヲ無視スルコトヲ得サルヤ多言ヲ要セサルトコロナリ然ルニ原判決カ「甲第一號證ニハ支拂委託文句トシテ右金額(此所空白) 殿又ハ其指圖人」此手形引換ニ御支拂相成度候也」トノ記載アリテ毫モ受取人ノ氏名又ハ商號ノ記載ナシ右空白ノ部分ニ受取人ノ氏名又ハ商號ノ記入アルニ於テハ指圖式爲替手形ナルモ其記入ナキ本件ニ於テハ取引上ノ通念ニ基キ結局手形所持人ニ對シ手形金ノ支拂アリタキ旨ノ文詞ナリト解スルヲ妥當トスルヲ以テ本件手形ハ無記名式手形トシテ有效ナレハ云々」ト判示シ手形所持人ニ右

◎無記名式ト拂渡文言ノ記載

- 一 無記名式手形ニ付テハ商法上其要件ニ關スル直接ノ明文ナシト雖小切手ノ形式ニ關スル規定トノ對照上該手形ノ所持人又ハ持參人ニ手形金額ヲ支拂フヘキ旨ノ記載アルコトヲ要スルモノト解スルヲ相當トス(東京地一〇年評論一〇卷商法一五八頁)
- 二 凡ソ無記名式手形ニ付キテハ法律ニ特別ノ形式ヲ規定セサルヲ以テ必スシモ持參人ニ支拂フヘキ旨ノ文言記載ヲ明示スルヲ要セス受取人ノ記載ナク且ツ手形面ノ記載自體ニヨリ持參人拂ナルコトヲ認メ得ル以上ハ反證ナキ限リ之ヲ無記名式手形ト解スルヲ相當トス(大阪地一〇年評論一〇卷商法四〇二頁)

第四百四十九條ノ二(指名持參人拂ノ爲替手形)

振出人ハ爲替手形ニ受取人ノ氏名又ハ商號ト共ニ其爲替手形ノ所持人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得前項ノ爲替手形ハ無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎記名式所持人拂債權ノ性質(民法一〇〇頁)
- ◎證書所持人拂ノ指名債權ト讓渡手續(民法二七一頁)
- ◎記名式所持人拂ノ證券ト讓渡手續(民法二七一頁)

第四百四十九條ノ三(指名持參人拂ノ爲替手形ト其金額)

第四百四十九條ノ規定ハ前條第一項ニ定メタル爲替手形ニ之ヲ準用ス

第四百五十條(滿期日ノ種類)

- 一 滿期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス
 - 一 確定セル日
 - 二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日

◎期間ヲ以テ定メタル滿期日ノ效力

キ以上ハ之ニ代ハルヘキ手形ノ滿期日ニ付テモ法律上制限ヲ付スヘキ理由ナキモノトス(鳥賀陽博士評論一四卷商法五三八頁)

一 滿期日自大正十年十月十日至大正十一年十月十日ナル記載ハ恰モ振出當日ヨリ起算シ滿一ヶ年ヲ經過シタル大正十一年十月十日ヲ以テ滿期日ト爲スノ趣旨ナリト解シ得ヘク其日ニ至ル迄ノ全期間ヲ以テ悉ク滿期日ト爲スノ趣旨ト解スヘキモノニ非サルヲ以テ該滿期日ノ記載ハ何等不適式ニ非サルモノトス(東京地昭和二年法二七五―九頁、評論一七卷商法四〇頁)

二 原判決ヲ閱スルニ「本件手形(甲第一號證)ニ於ケル滿期日ノ記載ハ其ノ振出ノ日ヨリ滿一年ヲ經タル大正十一年十月十日ヲ以テ滿期日トスル趣旨ト解スヘキ」旨說示セルモ甲第一號證ナル本件約束手形ニハ支拂期日ナル文字ノ下ニ自大正十年十月十日至大正十一年十月十日ト記載シアリテ期間ノ表示アルカ故ニ大正十一年十月十日ノ一日ノミヲ滿期日ト定メタルモノナリトノ解釋ヲ容ルルノ餘地ナク其ノ他原判決ノ認定事實ヲ證明スルニ足ルヘキ何等ノ記載アルコトナシ果シテ然ラハ原審ハ手形ノ文言ニ依據セス濫リニ其ノ滿期日ヲ認定シタル違法アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス(大審昭和三年法二八八號一三頁)

四五〇條

- 三 一覽ノ日
- 四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日

◎滿期日ニ關スル諸問

- ◎滿期日ノ記載ナキ手形ノ性質(第二續商法四五一條)
- ◎滿期日ノ確定セサル手形ノ效力(第二續商法四五一條)
- ◎滿期日ニ關スル諸問(續商法一〇五七頁)

◎二十餘年ヲ隔テタル滿期日ノ效力

一 約束手形ノ振出ニ付一定ノ滿期日ノ記載ヲ要シ尙滿期日ノ種類ニ付テハ商法第四百五十條ニ於テ之ヲ規定スルトコロアリト雖其ノ他ニ付テハ何等規定アルナシ而シテ本件約束手形ハ滿期日トシテ振出ノ日ヨリ二十餘年ヲ隔テタル日ヲ記載シアリテ此ノ如キハ普通手形取引ニ於テ稀ニ見ルトコロナリト雖商法第四百五十條ニ所謂確定セル日ヲ記載セルモノニシテ固ヨリ滿期日ノ記載トシテ有效ナリト云ハサルヲ得ス(大審一二年民六五四頁、評論一三卷商法九六頁)

二 「批評」手形カ借用證書ニ代ハルヘキ流通證券トシテ使用セラレニ至リタル現今ニ於テハ借用期限ニ付法律上何等ノ制限ナ

三 (右二ノ上告論旨) 原判決ハ手形ノ文言ニ依ラスシテ手形ノ要件ヲ解釋シ補充シタル違法アリ凡ソ手形ニ記載セラレタル事項ハ手形ノ文言ニ從ヒ之ヲ解釋スヘク他ノ證據方法ニ依リ當事者ノ意思ヲ推測シテ其ノ意義ヲ定ムヘキモノニ非サル事ハ御院判例ノ屢々說示セラレル所ナリ本件甲第一號證ナル手形ノ支拂期日ナル不動文字ノ直下ニ自大正十年十月十日至大正十一年十月十日ト在ル記載ニ對シテハ種々ノ解釋ヲ爲シ得ヘシイ文字自體ヨリスレハ右ハ明ニ期間ヲ定メタルモノナルヲ以テ尠クモ滿期日ノ記載トシテハ無効ナリ而シテ無効ノ記載ハ記載ナキモノトシテ一覽拂ト見ルヤ否ハ別問題ナリ乃支拂期日ナル不動文字ノ直下ニ記載セラレ在レハトテ必スシテ支拂期日トシテノ記載ト解セサルヘカラサルモノニ非サル事ハ恰モ振出地ノ直下ニ記載セラレ在ル地名ヲ必スシモ振出地ト解スルノ要ナシトセル御院判例ノ趣旨ト同一理ナリ故ニ其ノ記載カ何チ意味スルカハ其ノ記載自體ニ付テ判斷スヘキモノナリ而シテ右記載ハ何人カ見ルモ期間ノ記載ナル事ハ争フヘクモ非ス而シテ手形ノ文言ハ之ヲ無効ニ解スルヨリハ有效ニ解スルヲ可トスル方針ヲ以テ右記載ニ直而セハ右記載ハ滿期日ノ記載ニ非スシテ呈示期間ヲ定メタルモノト解スルコソ無理ナキ自然ノ解釋ニシテ而カモ手形ヲ無効ヨリ救フ事ヲ得ルナレ換言スレハ滿期日ノ記載ナキ一覽拂ノ本件手形ノ呈示期ヲ大正十年十月十日ヨリ大正十一年十月十日ト定メタルモノト解スレハ其ノ期間ノ記載ヲ有效ニ而カモ

何等ノ不自然ナク文字通ニ活用シ得ルナリ(商法第五百二十九條第四百八十二條御參照)或ハ又右記載ハ期間ヲ定メタル記載ニハ相違ナキモ支拂期日ノ直下ニ期間ヲ記載スル事ハ通例ニ非ス去リトテ大正十年十月十日ヨリ大正十一年十月十日ニ至ル三百六十六日ヲ悉ク滿期日トスル事モ奇ナルヲ以テ寧當事者ノ意思ヲ推測シテ最終日カ滿期日ナリトノ意義ト解スル可トスル説モアラシク然レシ此ノ說ハ當事者ノ意思ヲ推測シテ手形ノ文言ヲ左右スルモノナリ而シテ原判決ハ本件手形ハ滿期日一定セサルカ故ニ無効ナリトノ抗辯ニ對シテ何等ノ理由ヲ示ス事ナク前掲「(一)」ト同一ノ解釋ヲ爲セリ尤モ原判決ハ當事者ノ意思ヲ推測シタリトハ言ハサルモ意思ヲ推測セスシテ(商慣習法アラハ格別期間ノ最終日ナリト解スルニ由ナキカ故ニ其ノ旨ヲ告白セルト否トニ拘ラス意思ヲ推測シタル事ハ自明ノ理ナリ)要スルニ原判決ハ理由不備ナルト同時ニ手形文言ノ解釋ニ意思ノ推測ヲ敢テセル不法アルモノニシテ御院傳來ノ左記判例ニ抵觸ス、明治三十七年三月十五日一二七九頁、同年七月五日一一〇二二頁、同三十八年二月廿三日一二五九頁、大正三年六月廿二日一四八九頁ト云フニ在リ(同上二頁)

◎支拂猶豫令ト手形ノ滿期日

一 昭和二年四月ニ實施セラレタル支拂延期ノ緊急勅令ハ手形ノ

シメタルニ止マラスト爲シ更ニ進ンテ本來期限後裏書トアルヘキモノヲモ該猶豫期間中ハ依然手形ノ流通性ヲ保存シ所謂期限前ノ裏書ト同一效果ヲモ附與シタルモノト解スルカ如キハ其當ヲ得サルモノト謂ハサルヲ得ス(東京地昭和三年報一四七號一九頁)

◎支拂延期令ト時効期間ノ延長(第二續商法四四三條)

第四百五十一條(滿期日ノ記載ナキ場合)

振出人カ爲替手形ニ滿期日ヲ記載セザリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ滿期日トス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎一覽拂手形ノ滿期日(續商法一〇六七頁)
◎一覽拂約束手形ト破産債權ノ届出(商法二二五頁)
◎滿期日ニ關スル諸問(續商法一〇五七頁)

◎滿期日ノ記載ナキ手形ノ性質

一 約束手形ノ滿期日ヲ記載スヘキコトハ手形ノ成立要件ニ屬シ

第二續商法 手形 爲替手形 振出

四五〇條

滿期日ヲモ變更スル趣旨ニ非サルコトハ同勅令第一條ト第三條トノ對照上明白ナルモノトス(東京控昭和二年評論一七卷諸法三四頁)

二 昭和二年四月二十二日勅令第九十六號支拂猶豫令第一條ハ同日以前ニ發生シタル金錢債務ニシテ同日以降同年五月十二日迄ノ間ニ辨濟期到來シタルモノニ對シ單ニ其支拂ヲ猶豫シタルニ止マリ手形ノ滿期日ノ如キヲ變更延期シタルモノニ非ス從ツテ右手形ノ滿期日カ該猶豫期間中ニ到來センカ其手形所持人ハ呈示若クハ支拂拒絕證書作成等商法所定ノ手續ヲ履踐セサルヘカラサル本則トスルモ右第一條ニ於テ手形債務者ヲシテ其支拂ヲ猶豫セシメタルニ依リ手形債權者ニ對シテモ之ト均一ヲ得セシメ且右支拂猶豫ニ依リ該期間中ニ於ケル權利保存ノ爲メニスル行爲ヲ困難若クハ不能ナラシムル虞ヲ除却セシメンカ爲メ同令第三條ニ於テ單ニ其期間中ニ爲スヘキ權利保存行爲ノミナ前同様猶豫シ其猶豫期間中ニ爲サレタル該保存行爲ヲシテ本來爲スヘカリシ權利保存行爲ト同一ナラシメタルニ過キスシテ之カ爲メ手形行爲ノ效果ヲ左右變更セシメタルモノニ非ス從ツテ若シ夫レ手形ノ流通性等ノ經濟的關係ノミチ偏重シテカカル規定カ變則的且一時的例外規定ナルコトヲ度外シ且又手形債務者ノ債務負擔當時ノ意思(殊ニ振出人又ハ引受人ノ意思)ヲ慮外ニ推測擴張シ以テ手形ノ滿期日カ該猶豫期間中ニ到來スルモノニ對シテハ單ニ支拂拒絕證書作成等ノ權利保存行爲ノミチ猶豫セ

之ヲ缺クニ於テハ手形トシテ無効タルヲ免レサルノ理ナリト雖斯ル場合ナ救濟セムカ爲之チ一覽拂ノ手形トシテ有效視スルハ商法第五二九條及第四五一條ノ法意ニシテ他日手形所持人チシテ滿期日ノ記載ヲ補充セシムルノ意思ヲ以テ振出サレタル手形チモ之チ一覽拂ノ手形トシテ取扱フヘキ趣旨ニ非ス(神戸地一五年評論一五卷商法五〇八頁)

二 手形面上滿期日ヲ記載スヘキ場所トシテ設ケラレタル部分チ空白ノ儘ニシテ何等ノ記載ヲ爲ササルモノハ別段ノ反證ナキ限リ元來手形要件チ缺キ無効ノ手形ニシテ商法第四五一條又ハ同第五二九條ノ規定ニ依リ救濟セラレヘキ一覽拂手形ナリト解セムヨリモ寧ロ後日手形所持人チシテ任意支拂期日ノ記載ヲ補充セシムル意思ノ下ニ白地振出ヲ爲シタルモノト解スルヲ至當トス(同上)

三 原審ハ手形用紙ノ不動文字支拂期日ノ下部ニ年月日ノ記載チキトキハ之チ白地手形ナリト解スヘシト爲シタルニアラスシテ本件甲第一號證ノ手形ニ記載アル「支拂期日」ノ文字ノ抹消アラサル事實ニ依リ振出人ハ後日其ノ下部ニ年月日ノ記入ヲ爲シ要件チ完備セシムル意思ヲ以テ振出シタルモノト認定シタルコト原判文上明ニシテ白地手形ノ振出ノ有效ナルコト商慣習法上自明ナレハ滿期日ヲ記載スヘキ場所チ空白トシタル手形ハ必スシモ一覽拂ノ手形タラサルヘカラサルコトナク白地手形タルコトモアルヘキモノナレハ(大正十四年(オ)第七百八十一號

四五一條

同年十二月二十三日言渡當院判決參照)其ノ孰レナルヤハ各場合ニ於ケル當事者ノ意思ニ依リ之ヲ定メ得ヘキモノトス而シテ本件甲第一號證ノ手形ノ要件記載ノ狀況ニ依レハ右原院認定ノ如ク振出人ノ意思ハ後日要件ヲ補充セシムルニ在リシモノト認定シ得レサルモノニアラス故ニ原判決ニハ所謂論ノ如キ違法ナシ(大審一五年評論一六卷商法一五九頁)

四 受取人トシテ一定ノ人ヲ表示セサルモノハ現行法上所謂無記名式手形トシテ有效ナルハ疑ヲ容レサルト共ニ受取人ヲ表示スヘキ場所ヲ空白トシテ何等ノ記載ヲ爲シアラサルモノハ他日之ヲ補充セシムル意思ヲ以テ振出シタル白地手形トシテ之ヲ觀ルコト當院ノ判例(大正十年(オ)第一三一號同年七月十八日言渡)トスルトコロナリ凡ソ滿期日ニ關スル定メテ手形ニ明記スルコトハ手形振出ノ一要件ニシテ而モ現行法ハ之ヲ四種ニ限定セリ故ニ若シ孰カ其一ナルコトヲ明示セサル限リ振出ノ要件ヲ缺クモノトシテ無効ノ手形タルヲ免レサル道理ナリト雖斯カル場合之ヲ一覽拂ノ手形トシテ有效ナラシムルハ蓋取引ナシテ可成無効ニ了ラシメサル法意ニ外ナラス然ラハ則チ手形面上滿期日ヲ記載スヘキ場所トシテ設ケラレタル部分ニ何等塗抹刪削ヲ施シタル痕ノ見ルヘキ無ク單ニ之ヲ空白ニシタル儘ノ手形ニアリテハ之ヲ前示ノ法意ト判例トニ省ルトキハ白地手形トシテ之ヲ觀ルヘキモ滿期日ノ記載無キ一覽拂手形トシテ之ヲ過スヘキニ非サルハ蓋疑ヲ容レサルトコロナリ(大審一四年民七六四頁)

評論一五卷商法二三五頁)

◎滿期日ノ不適法ナル手形ノ效力

- 一 滿期日ニ付キ單ニ大正九年トノミ記載シテ其月日ヲ明記セス其記入ヲ爲スヘキ月日ノ欄ヲ空白ト爲シタル場合ニ於テハ手形取引ノ性質ニ鑑ミ斯ル問題ヲ惹起スヘキ滿期日ノ記載ニテハ其期日ヲ確定スルニ由ナキモノ隨テ一定ノ滿期日ノ記載ナキモノト解スルヲ妥當ト認ム(札幌控一一年法二〇二九號二〇頁)
- 二 凡ソ約束手形ノ振出人カ滿期日トシテ單ニ年號ノ記載ノミニテ月日ノ記載ヲ爲サザリシトキハ滿期日ノ記載ナキ手形ト解セシヨリハ寧ロ後日手形取得者ナシテ滿期日ヲ補充セシムル意思ノ下ニ白地振出ヲ爲シタルモノト推定スルヲ相當トスヘク而シテ斯カル手形ノ取得ハ手形ノ取得ト共ニ其補充權ヲ取得スヘキモノナルヲ以テ本件手形所持人タル原告カ其補充ニ基キ右手形ノ滿期日ヲ一覽ノ日ト記入シタルハ反證ナキ限リ適法ニ補充シタルモノト推定スヘキモノナレハ被告ノ抗辯ハ其ノ理由ナキモノト謂ハサルヘカラス(東京地一五年報八四號二四頁、評論一五卷商法四三三頁)
- 三 手形ニ一面支拂期日ヲ記載スルト共ニ他面通運取引店某株式會社成立後支拂ヲ爲スヘキ旨ノ手形金支拂ニ關スル特約ヲ爲シ以テ一定ノ支拂期日ヲ左右シ手形ノ嚴正ヲ害スヘキ特約ノ記載

アル場合ニハ之ヲ以テ單ニ手形上效力ナキ無意味ノ記載ナリト謂フヲ得サルカ故ニ反證ナキ限リ該手形金ノ支拂及其支拂期日ハ叙上特約事實ノ成否ニ係ルモノト認ムルヲ相當トスルヲ以テ結局該手形ハ其支拂期日不確定ニシテ其權利行使ノ時期ヲ認ムルヲ得サルモノトス(水戸地一二年評論一二卷商法一二〇頁)

四 手形ニ滿期日トシテ大正一五年一〇月中貴殿ノ漁場切揚船鹽銚ト共ニ函館到著ノトキノ記載ハ商法第五二五條第五二九條第四五〇條所定ノ約束手形ニ掲クヘキ一定ノ滿期日ニ該當セサルモノトス(函館地昭和二年評論一七卷商法九三頁、法二七八七號九頁)

五 商法第四五一條ハ手形ニ滿期日ノ記載ナキトキハ振出人カ如何ナル時期ニ支拂ヲ爲ス意思ニテ振出シタルヤ明確ナラサルカ故ニ一覽ノ日ヲ以テ滿期日ト爲シ其ノ手形ヲ有效トスルヲ適當トシ規定セラレタルモノト解スヘキヲ以テ叙上ノ場合ハ所謂期日ヲ記載セザリシモノト謂フヲ得ス右手形ハ究極商法第五二五條所定ノ約束手形ノ要件タル滿期日ノ記載ヲ缺クモノニシテ無効ナリトス(同上)

六 商法第四五一條ニ所謂手形ニ滿期日ヲ記載セザリシトキトハ手形ニ如何ナル時期ニ支拂ヲ爲ス趣旨ナリヤヲ窺フヘキ文言ナキ場合即全然支拂ヲ爲ス時期ヲ示ス文字ナキ場合若若干支拂ヲ爲ス時期ヲ示サントシタル如キ文字アルモ其ノ記載整ハス結局支拂ヲ爲ス時期ヲ示ス意思ナカリシモノト認メラルル場合ナ

第二續商法 手形 替爲手形 振出

意味シ手形ニ明ニ支拂ヲ爲スヘキ時期ヲ記載シタル場合ハ之ヲ包含セサルモノトス(同上)

- 七 期間ヲ以テ定メタル滿期日ノ效力(第二續商法四五〇條)
- ◎滿期日ニ關スル諸問(續商法一〇五七頁)

第四百五十二條(支拂地ノ記載ナキ場合)

振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ以テ其支拂地トス

◎支拂地ノ記載ト其ノ表示方

- 一 支拂地ノ記載方ニ付テハ法律ハ別段ノ形式ヲ定ムル所ナキカ故ニ手形面上支拂地ノ記載ト認メ得ヘキ記載アレハ足ルモノト解スルヲ相當トスヘク特ニ支拂地ヲ明示セサルモ支拂場所ノ所在地ヲ以テ支拂地ト定メタルモノト認ムルコトヲ得ヘキモノトス(東京地一〇年評論一〇卷商法五三五頁)
- 二 約束手形ニ振出地トシテ東京府澁谷町トアリ又支拂場所トシテ株式會社十五銀行蠟燭町支店トアルトキハ文字自體ニヨリテハ如上設例ノ如ク爾ク容易ニ論斷シ難シト雖モ蠟燭町ナル町名

四五二條

カ東京市内ニ存スルコトハ一般取引上洵ニ顯著ナルトコロナルノミナラス一方ニ於テ振出地カ東京市ニ隣接セル澁谷町ナルコトヲ參酌スルトキハ右手形ニ付キテハ東京市内ニ於ケル蠟燭町ニ株式會社十五銀行支店アリトシ該支店ノ存スル場所ヲ以テ支拂場所ト定メタル意義ニ解スヘク從テ該支拂場所ノ所在地ナル東京市ヲ以テ右手形ノ支拂地ト定メタルモノト認定スルチ相當トス(同上)

三 商法第五百二十六條ニ所謂約束手形ノ支拂地トハ支拂チ爲ス可キ單純ナル地點場所ヲ意味スルニ非スシテ支拂チ爲ス可キ場所ノ存在セル最小行政區劃ヲ指稱スルコト及ヒ支拂地ノ記載アリトスルニハ如上支拂地カ當該手形自體ニ依リ之ヲ認メ得ル程度ニ表示シアルチ要スルコトハ手形法解釋上既ニ論議ノ餘地ナキ所ナリトス——甲第一號證符箋ニ徵シ同銀行函館區末廣町十四番地ニ存在スルコトハ疑ナ容レサレトモ之只手形以外ノ他ノ書證ニ依リ茲ニ初メテ支拂場所カ函館區内ニ在ルノ事實ヲ認メ得ト謂フニ過キス之カ爲メ本件約束手形自體ニ依リ同手形ニハ右銀行ノ所在地タル函館區チ支拂地トシテ記載セリト認定スルハ妥當ナラサルモノトス(函館控一〇年法一八一六號二二頁)

◎支拂地ノ記載アリト爲シ得ヘキ場合(一)

所ニシテ該記載ニ依レハ前記銀行大塚支店ノ所在地タル東京市チ以テ支拂地ト爲シタルコトヲ推知スルニ餘リアルチ以テ本件約束手形ハ支拂地ノ記載アルモノト謂フチ得ヘシ然レハ原審ニ於テ右ト同一趣旨ノ理由ノ下ニ本件約束手形ニハ支拂地ノ記載ナキカ故ニ振出地チ以テ支拂地ト爲スヘキモノナリトスル上告人ノ主張チ排斥シタルハ至當ナリ 論旨援用ノ判例(大正二年(オ)第九二號同年十月二日判決)ハ前示判例ニ依リ變更セラレタルモノニ係ル(大審昭和二年法二七七八號六頁、評論一七卷商法一三五頁)

〔附〕原審ニ於ケル被告上告人辯論ノ全趣旨殊ニ東京市内ニ存在スル株式會社中井銀行大塚支店チ以テ本件約束手形ノ支拂場所ナリト主張シタルニ徵スレハ被告上告人ハ該手形ノ支拂地ハ東京市ナルコトヲ主張シタルモノナルコト自ラ明白ナリ(同上)

◎支拂地ノ記載アリト爲シ得ヘキ場合(二)〔聯合部判決〕

一 小切手ニハ之ヲ要件トシテ支拂地ノ記載ヲ要スルコトハ商法第五百三十條第七號ニ規定スル所ニシテ振出人カ特ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地チ以テ支拂地ト爲スヘキコトハ同法第五百三十七條ニヨリ準用シタル第四百五十二條ノ規定ニヨリ明瞭ナリトス然リ而シテ其ノ所

一 支拂場所ヲ通スル支拂地ノ記載(續商法二一四一頁)
二 手形ニ其支拂場所ナル文字ノ下ニ株式會社川崎銀行船橋支店ナル記載アルトキハ該記載ハ即チ船橋町ニ在ル株式會社川崎銀行船橋支店チ以テ支拂場所トスル旨ヲ表示セルモノト解スルチ相當トスヘク從テ結局該手形面上船橋町チ以テ支拂地トナス旨ノ記載アルモノト認ムヘキモノトス(東京控一四年評論一五卷商法一五八頁)

三 手形ハ振出人カ自己チ支拂人トシテ振出シタルモノニ係リ二者同一人格者ナルコト手形面上明白ナルトキハ振出人ノ氏名ニ其ノ住所ノ附記アル以上右附記シタル地ハ即チ又同一人格者タル支拂人ノ氏名ニ附記シタル地ニ外ナラサルチ以テ該手形ハ支拂地ノ記載チ缺クモノト謂フチ得サルモノトス(東京控一四年評論一四卷商法二七二頁)

◎支拂地ノ記載アリト爲シ得ヘキ場合(二)

手形面上支拂地トシテ獨立シタル最小行政區劃タル地域ヲ推知スルニ足ルヘキ文字ノ記載アルトキハ以テ支拂地ノ記載アルモノト爲スニ足ルコトハ當院判例ノ示ス所(大正十四年(オ)第六〇八號同十五年五月二十二日民事聯合部判決)ナルト同時ニ本件約束手形面ニ支拂場所トシテ記載セラレタル株式會社中井銀行大塚支店ノ東京市内ニ存在スルコトハ一般取引上顯著ナル

謂支拂地又ハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地トハ市町村ノ如キ獨立シタル最小行政區劃タル地域ヲ指稱スルモノナルコトハ本院カ約束手形ノ振出地ニ付屢次宣言シタル判例ニ徵シテ疑チ容レズ然ラハ其ノ支拂地又ハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地チ小切手面ニ表示スルニハ如何ナル方法ニ依ルヘキヤ本院從來ノ判例ニヨレハ支拂地又ハ振出地ヲ表示スルニハ單ニ手形面ニ獨立シタル最小行政區劃タル地域ヲ推知シ得ヘキ文字チ記載スルチ以テ足レリトセス必ス其ノ地域ヲ表示スル文字チ記載スルモノトナシタリ(大正二年(オ)第九二號同年十月二日第二民事部判決參照)是畢竟手形ハ其ノ性質上記載事項ハ手形面ニ於テ明確ナラサルヘカラストノ理由ニ基因スルモノニ外ナラス然レトモ斯ノ如キハ嚴ニ失シ却テ手形ノ流通ヲ阻害スルノ虞アルノミナラス法律ハ單ニ支拂地又ハ振出地チ記載スルコトヲ要求スルニ止リ之カ表示方法ニ付テハ特ニ規定スル所ナキチ以テ荷モ手形面ノ記載ニヨリ所謂獨立シタル最小行政區劃タル地域ヲ推知スルニ足ル以上ハ支拂地又ハ振出地ノ記載アルモノト爲スチ以テ相當ナリトス從テ此ノ點ニ關スル前示判例ハ之ヲ變更スルノ必要アリト認ム(大審一五年民四二九頁、評論一五卷商法四五三頁)

二 本件ニ於テ上告人カ振出シタル甲第一號證ノ小切手ニハ特ニ支拂地ノ記載ナキモ支拂人トシテ株式會社深川銀行本所支店ナル表示アルコトハ原院ノ認ムル所ニシテ其ノ所謂本所支店ナル

文字ハ本所區内ニ存在スル株式會社深川銀行ヲ指示スルモノニ係リ即前示第五百三十七條第四百五十二條ニ規定セル支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ表示スルノ意義ニ外ナラサルモノト解スヘキモノトス然リ而シテ本所區方東京市内ニ存スルコトハ明瞭ナルヲ以テ右ノ記載ハ畢竟獨立シタル最小行政區畫タル東京市ヲ表示セタルモノト認メ得ヘキニヨリ原院力之同趣旨ノ理由ノ下ニ本件小切手ニハ支拂地ノ記載ナシトノ上管人ノ抗辯ヲ排斥シ法定ノ要件ヲ具備シタルモノト判斷シタルハ洵ニ相當ナリ(同上)

〔附〕原院カ本件小切手ニ支拂地東京市ノ表示アリトナシタルハ特ニ支拂地トシテ其ノ表示アリト爲シタルニアラス本件小切手ニハ支拂人トシテ株式會社深川銀行本所支店ナル記載アリ右ハ東京市本所區所在ノ深川銀行支店ヲ指示セルモノニシテ前示商法第五百三十七條第四百五十二條ノ規定ニ基キ支拂人ノ商號ニ附記シタル本所ナル文字ヨリ推知シ得ヘキ東京市カ支拂地トナル旨ヲ判示シタルモノニ外ナラサルコト其ノ判文上自ラ明ナルニヨリ原判決ハ毫モ所論ノ如ク不當ニ事實ヲ確定シタル違法アルモノニ非ス(同上)

第四百五十二條ノ二(支拂人ノ營業所又ハ住所)

支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ之ヲ其營業所又ハ住所

所在地ト看做ス

商號附記ノ肩書地ト營業所所在地

原判決ハ支拂人タル訴外會社ノ肩書ニ記載セラレタル場所ノ記載ヲ以テ支拂場所ノ記載ナリト認メタレトモ商法第四百五十二條ノ二ニ依レハ支拂人タル訴外會社ノ商號ニ附記シタル地ハ之ヲ其ノ營業所所在地ト看做スヘキモノナレハ右ノ附記ヲ以テ支拂場所ノ記載ナリト認メタルハ不法ナリ然レトモ右附記ノ地ハ眞實ノ營業所ノ所在地ニ符合スルト否トヲ問ハス又右附記ノ地カ初眞實ノ營業所ノ所在地ト符合セシモ後營業所變更ノ爲眞實ノ營業所ノ所在地ヲ表示スルニ足ラサルモノトナリタルト否トヲ問ハス其ノ附記ノ地ハ商法第四百四十二條ニ所謂營業所ト看做サルモノナルヲ以テ他ノ場所カ支拂場所トシテ記載セラレサル以上ハ其ノ附記ノ地ハ支拂場所ト同一ニ取扱ハルモノナルヲ以テ其ノ地ヲ支拂場所ト認メテ同所ニ於ケル支拂ノ爲ノ呈示並拒絶證書ノ作成ヲ適法ナリト判定シタルハ結局正當ニ歸ス(大審一四年民二二三頁)

本條ノ實益(續商法一〇六七頁)

第四百五十三條(支拂擔當者ノ記載)

振出人ハ支拂人ニ非サル者ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得

支拂擔當者ニ關スル諸問

- ◎支拂擔當者ノ意義(續商法一〇六八頁)
- ◎支拂擔當者タリ得ル者(續商法一〇六八頁)
- ◎支拂擔當者記載ノ方式(續商法一〇六八頁)
- ◎支拂擔當者記載ノ效力(續商法一〇六八頁)
- ◎他地拂手形ト他所商業手形トノ別(續商法一〇六八頁)

第四百五十四條(支拂場所ノ記載)

振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

支拂場所ニ關スル諸問

第二續商法 手形 爲替手形 振出

支拂場所ノ記載ト其ノ適否

- 一 手形ノ支拂場所ハ手形面ノ記載自體ニ於テ判斷スヘキモノニシテ若右ノ記載ヲ誤リタル場合ニ於テモ記載自體ニ於テ書損ナル場合以外ニ於テハ右記載自體ノ場所ヲ支拂場所ト爲スヘク之カ實在セサル場所トナリタル時ハ支拂場所ノ記載ナキモノト解スヘキモノニシテ手形面ノ記載ヲ離レテ之ヲ記載シタル者ノ意思ニ依リテ支拂場所ヲ定ムヘキモノニ非ス(東京地一四年法二四九一號一三頁)
- 二 參考、支拂地ノ記載アリト爲シ得ヘキ場合(第二續商法四五二條)
- 三 約束手形ニ支拂地甲市支拂場所同ト記載セハ該支拂場所ノ記載ハ支拂地内ニ於ケル一定ノ場所ヲ表示シタルモノニアラサルカ故ニ支拂場所ノ記載トシテハ無意義ニシテ結局其記載ナキモノト解スヘキモノトス(東京控昭和二年法二七七九號一四頁)

- 四 支拂地以外ノ支拂場所ノ效力(續商法一〇六八頁)
- ◎住所ノ移轉ト支拂場所トノ關係(續商法一〇四七頁)
- ◎支拂場所タル支店ノ廢止ト保全場所(第二續商法四四二條)

◎數個ノ支拂場所ヲ指定シ得ルヤ

支拂場所トシテハ一定ノ場所ヲ掲クルコトヲ要スルハ勿論ナレトモ一定ハ唯一ヲ意味スルモノニ非サレハ選擇的ニ指定スルヲ妨ケス要ハ唯其ノ不明ナラサルコトヲ期スルニ在リ故ニ本件爲替手形ニ於ケルカ如ク株式會社大野銀行ノ營業所ヲ支拂場所ト爲シ其ノ營業所タル支店カ支拂地ニ二箇所アル場合ニ於テハ支拂場所ヲ指定シタル引受人ノ意思ハ各營業所ヲ支拂場所ト爲シ債權者ノ選擇ニ從ヒ執レノ營業所ニ於テモ支拂ヲ爲スノ義務ヲ負フル在ルモノト解スヘキハ當然ノ事理ナリ而シテ此ノ場合ニ於テハ支拂場所ハ東京市ニ在ル大野銀行營業所ト云フコトニ依リ一定セラレタルカ故ニ不定ナリトハ謂フヘカラス然レハ二箇ノ支店ノ孰レカ一ヲ指定セサルカ故ニ支拂場所ノ一定ヲ缺キ支拂場所ノ記載トシテ其ノ效ナク結局支拂場所ノ記載ナキニ歸ストノ見解ニ立脚スル論旨ハ既ニ其ノ根柢ニ於テ語謬ニ陷レルモトス(大審一二年民五三四頁)

◎銀行ノ本支店ヲ明示セサル支拂場所

◎銀行名ノ誤記ト支拂場所ノ效力

一 手形ニ支拂地タル東京市内ニ株式會社森村銀行ナルモノ存在セス而モ東京市ニ合名會社森村銀行ノ存在スルコトカ裁判所ニ顯著ナル事實ナル限リ支拂地東京市支拂場所株式會社森村銀行ト記載セル手形ニ於テハ當事者ノ意思ハ同市ニ於ケル合名會社森村銀行ヲ支拂場所トシテ指定セルモノト解スヘク從テ右ノ記載ヲ以テ一應支拂場所ノ特定アリタルモノト認ムヘキヲ相當トス(東京地一〇年評論一〇卷商法六七頁)

◎支拂場所ノ記載ニ關スル判斷(商法二二七頁)

◎手形ノ裏書讓渡ニ關スル諸問(一)

- ◎裏書讓渡ノ完成要件(商法二三四頁)
- ◎手形相續者ノ裏書權(商法二三三頁)
- ◎訴訟中ニ於ケル裏書讓渡ノ效力(商法二三〇頁)
- ◎手形金額ノ一部ニ對スル裏書ノ效力(續商法一〇七四頁)
- ◎虛偽ノ手形行爲ト其後ノ裏書效力(商法二二二頁)
- ◎裏書ヲ撤回シ更ニ裏書ヲ爲ス方法(第二續商法四五七條)
- ◎振出ノ無効ト引受又ハ裏書ノ責任(第二續商法四四五條)
- ◎民法百八條ニ反スル手形形式の效力(第二續商法四三五條)
- ◎手形債務者ノ破産ト手形ノ轉讓(商法二二二頁)
- ◎時効ニ罹レル約束手形ノ裏書責任(商法二四三頁)
- ◎失權手形ノ性質及其ノ讓渡(第二續商法四四四條)

◎手形ノ裏書讓渡ニ關スル諸問(二)

- ◎本條違背ノ手形ト裏書人ノ責任(第二續商法一七六條)
- ◎手形ノ裏書ト損害賠償ノ特約(商法二三一頁)
- ◎無効手形ノ裏書讓渡ト不當利得(商法二二二頁)
- ◎支拂濟ノ手形ト裏書人ノ責任(商法二三一頁)
- ◎手形行爲ノ取消ニ關スル諸問(補遺四三八條)

- 二 支拂拒絕證書ニ拒絕證書作成ノ場所トシテ東京市日本橋區通一丁目三番地株式會社森村銀行營業所トアルモ右ハ同番地ニ於ケル合名會社森村銀行營業所ノ誤記ト認ムヘキモノナルトキハ右記載ヲ以テ事實ニ吻合セサルモノナリトシテ該拒絕證書ノ效力ナシト謂フコト能ハサルモノトス(同上)
- 三 手形ハ文言證券ナレハ他ノ證據方法ニ依リ當事者ノ意思ヲ推測シテ手形面記載事項ノ意義ヲ定ムヘキモノニアラサレトモ是レニ手形カ流通證券タルニ基因スルモノナレハ善意ノ所持人ヲ保護シ取引ノ安全ヲ計ルコトヲ得ヘキ限度ニ於テ其流通時ニ於ケル一般ノ社會觀念ニ基キ手形文言ノ解釋ヲ爲スヘキモノト謂ハサル可カラス(同上)

第二節 裏書

第四百五十五條(手形ノ讓渡性)

爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人ハ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

◎手形行爲ニ關スル錯誤ノ存否(補遺四三五條)
◎手形ノ授受ト代表關係ノ調査(第二續商法四三六條)

◎手形ノ裏書讓渡ニ關スル諸問(三)

◎單純裏書後取立委任ナル旨ノ記入(第二續商法四三五條)
◎約束手形ノ裏書人ノ責任(續商法一〇七一頁)
◎讓渡裏書ト保證裏書ノ併合(商法二三一頁)
◎裏書ノ特約保證ノ效力(商法二三一頁)
◎融通手形ノ割引ト消費貸借ノ成立(第二續商法五二五條)

◎被裏書人ノ權利取得ノ性質

一 有效ナル手形ノ眞ノ所持人ヨリ裏書ニ依リ其手形ヲ取得スル者ハ常ニ其手形債權ノ承繼取得ヲ爲スモノニシテ原始取得ヲ爲スモノニ非ス而シテ斯ル場合ニ裏書人カ其ノ裏書ニ因リテ債務ヲ負擔スルハ唯擔保ノ爲タルニ過キサルモノトス(東京控一五年評論一六卷商法二七七頁)
二 被裏書人ノ權利取得ノ性質(續商法一〇七一頁)

◎裏書ニ因リ移轉スル權利ノ範圍

故ニ無記名式又ハ記名式持參人拂ノ手形ハ民法第七十六條ニ依リ意思表示ノミヲ以テ讓渡スルコトヲ得ヘク其ノ引渡ハ只第三者ニ對スル對抗要件タルニ過キサルモノトス而シテ商法第四百三十五條ニ依レハ手形ニ署名シタル者ハ其ノ手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フモノニシテ署名者カ無記名式手形又ハ記名式持參人拂ノ手形ノ持參人ニ對シテ手形金支拂ノ責任スルハ即手形ノ文言ニ從ヒテ其ノ責任スルモノナルモ記名式ノ手形ニ在リテハ記名セラレタル受取人以外ノモノニ對シテ支拂ノ責任スルハ手形ノ文言ニ從ヒテ其ノ責任スルモノト云フヲ得ス故ニ斯ル手形ノ受取人以外ノ者ニ對シテモ猶ホ署名者カ支拂ノ責任スルモノトナスニハ特別ノ明文アルヲ要ス而シテ斯ル手形ト雖之ヲ讓渡シ得ルモノトスル以上署名者カ其ノ讓受人ニ對シテ支拂ノ責任ヲ負フヘキハ當然ノ歸結ナリ而シテ商法第四百十五條ノ規定ハ即其ノ特別ノ明文ニシテ此ノ規定カ第五百二十九條ニ依リ約束手形ニ第五百三十七條ニ依リ小切手ニ準用セラレルカ故ニ記名式手形ニ署名シタル者ハ債權者ノ何人ナルカト云フ點ニ付テハ手形ノ文言ニ從フニ非サルモ猶ホ被裏書人タル所持人ニ對シテ支拂ノ責任スヘキモノナリトス反之指圖式ノ手形ニ署名シタル者カ被裏書人ニ對シテ支拂ノ責任スルハ裏書ナキ場合ニ受取人ニ對シテ支拂ノ責任スルト同様全ク手形ノ文言ニ從ヒテ其ノ責任スルモノナルカ故ニ第四百五十五條ハ特ニ記名式ノ手形ニ付テ設ケラレタル規定ニシテ「其ノ記名

爲替手形ノ裏書交付アリタルトキハ手形ノ所有權ハ裏書人ヨリ被裏書人ニ移轉スヘキモ手形上ノ權利ハ右裏書交付ニ因リ讓渡セラレルモノニ非スシテ被裏書人ハ手形ノ所有權ヲ取得スル結果原始的ニ手形上ノ權利ヲ取得スルモノナレハ裏書人カ其ノ以前該權利ニ付他人ト民法上ノ保證契約ヲ爲セリトテ此ノ契約ニ基ク權利ハ手形ノ裏書交付ニ因リ當然被裏書人ニ移轉スルモノト謂フヲ得サルモノトス(大審一三年評論一三卷商法三八八頁)

◎無記名式手形ト裏書ノ效力

一 無記名式手形ト裏書(續商法一〇七〇頁)
二 無記名式證券ハ其小切手タルト其他ノ有價證券タルト中間ハ證券ノ引渡ノミニヨリ其讓渡ヲ爲シ得ヘク裏書ノ方法ニヨルコトヲ許ササルコト當然ノ理ナレハ無記名式小切手ノ裏書ニ捺印シタリトスルモ爲メニ裏書人トシテノ責任ヲ負擔スヘキモノニ非ス(東京地一〇年評論一〇卷商法七一三頁)
三 無記名式手形ニ裏書ノ意思ヲ以テ署名スルモ裏書タル效力ヲ生セサルモノトス(大審昭和三年民四五九頁報一六四號一三頁)
四 (右三ノ理由全文) 無記名式ノ手形債權ハ即無記名債權ニ屬シ民法第八十六條第三項ニ依リ動産ト看做サレ記名式持參人拂ノ手形ハ商法第四百四十九條ノ二、第五百二十九條、第五百三十七條ニ依リ無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有スルモノナルカ

式ナルトキト雖「トアルヲ見レハ指圖式ノ手形カ裏書ニ依リテ讓渡シ得ルモノナルコトハ其ノ指圖式ナルニ鑑ミテ當然ナルコトヲ言外ニ示スモノト云フヘシサレハ同條ノ規定アルノ故ヲ以テ無記名式又ハ記名式持參人拂ノ手形カ裏書ニ依リテ讓渡シ得ルモノト云フヲ得サルヲ論テ俟タス而シテ斯ル手形カ裏書ニ依リテ讓渡シ得ルモノト解スヘキ根據ハ他ニモ存在スルコトナシ然ラハ讓渡シ得ルモノト解スヘキ根據ハ他ニモ存在スルコトナシトノミチ目トスル裏書ヲ爲スコトヲ得ヘキ乎惟フニ償還ノ責任ヲ負擔スモノハ商法第四百八十六條ヲ適用シ又ハ準用スル場合ニ於ケル所謂前者ナラサルヘカラス然レニ振出人又ハ少クトモ形式上手形ノ讓渡人タル裏書人ニシテ其ノ裏書ヲ爲スニ當リ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載セサル者カ所謂前者ナルコトハ疑ナキ所ナルモ形式上讓渡人タラス又振出人ニモ非スシテ單ニ其ノ手形ニ署名シタル者アルモ其ノ者カ所謂前者ニ屬スト解スルハ到底穩當ナルモノト云フヲ得ス假ニ前者ニ屬ストスルモ斯ル署名者二名以上アル場合ニ其ノ相互ノ關係ニ於テ何レチ前者トスヘキカヲ決スヘキ標準ナキヲ見ルモ斯ル者ハ所謂前者ニ非スト解スルヲ相當トス而シテ所謂前者ニ非サル限り手形法上裏書人トシテ責任ヲ負フヘキモノニ非サルヤ言フヲ俟タス殊ニ商法第四百六十四條第五百二十九條第五百三十七條ニ依レハ裏書アル手形ノ所持人ハ其ノ裏書カ連續スルニ非サレハ並ノ權利ヲ行フコトヲ得ス署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ

裏書人ハ其ノ裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做サルル
モノニシテ右法條ノ適用ヲ除外スル裏書アルコトハ法律ノ規定
セサル所ナルカ故ニ右法條ハ裏書アル總テノ手形ニ其ノ適用ア
ルモノト云フノ他ナキモノトス然ルニ無記名式ノ手形ニ在リテ
ハ受取人ノ記載ナキカ故ニ之ニ裏書ヲ爲ス者アリトスルモ其ノ
裏書ハ常ニ連續ヲ缺キ所持人ハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得サルコ
トトナリ商法力無記名式ノ手形ヲ認メタル精神ニ背馳スルカ故
ニ商法ハ無記名式手形ノ裏書ヲ認メス振出人以外ノ者力之ニ署
名スルモ其ノ署名ハ裏書タル效力ヲ生スルコトナキモノト解ス
ルナ相當トスサレハ原審力無記名式ノ小切手ナル本件手形ニハ
裏書讓渡ナルモノ存在シ得サルモノト爲シ其ノ存在スルコトヲ
前提トスル上告人ノ本訴請求ヲ排斥シタルハ正當ナリ(大審昭
和三年民四六二頁)

◎裏書禁止ニ關スル諸問

- ◎振出人ノ裏書禁止ノ目的(續商法一〇七二頁)
- ◎手形ニ記載ナキ裏書禁止ノ效力(商法二二〇頁)
- ◎讓渡禁止ノ印刷文句ノ效力(續民法一一五九頁)
- ◎指圖文句ヲ抹消セル手形ノ效力(商法二二〇頁)
- ◎禁轉手形ト遲滯ノ要件(續商法一〇七二頁)
- ◎裏書禁止手形ト取立裏書(續商法一〇七二頁)

- ◎禁轉違反ノ裏書回復ト戻裏書(續商法一〇七二頁)
- ◎裏書禁止手形ノ惡意取得者ノ地位(第二續商法四四一條)

◎裏書禁止ニ反スル裏書讓渡ノ效力

一 商法第四四五條ノ裏書禁止ノ手形ハ手形トシテノ流通性ヲ缺
キ通常ノ指名債權ニ變スルモノナリト雖其レカ爲指名債權トシ
テ通常ノ手續ニ從ヒ之カ讓渡ヲ爲ス妨グルモノニ非サルカ故
ニ該手形ノ所持人トシテ裏書ノ形式ニ依リ他ニ轉讓シタル場合
ニ於テハ其ノ裏書ハ無効ナリト雖眞實讓渡ノ意思ヲ以テ爲サレ
タルモノナルトキハ民法第四六七條ニ依リ讓渡人ヨリ之ヲ債務
者ニ通知シ又ハ債務者力之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務
者其ノ他ノ第三者ニ對抗スルヲ得サルニ止リ當事者間ニ於テハ
債權讓渡ノ效力ヲ生シ讓受人ハ之カ權利者ト爲リタルモノトス
(大審一四年刑三〇六頁、法二四二一號一六頁、評論一四卷刑
訴一三二頁)

二 事案手形ハ振出人ニ於テ裏書禁止ノ記載アルニ拘ラス裏書ノ
形式ニ依リ轉讓シ甲ノ所持ニ歸シタルモノナリトスルモ何レモ
債權讓渡ノ意思ニ依リ爲サレタルモノニシテ唯其ノ讓渡ニ付民
法所定ノ讓渡通知又ハ承諾ナカリシモノナルコト明ナル場合ハ
甲ハ指名債權ノ權利者トシテ該手形ヲ所有スルモノナレハ乙ノ
所爲ニ因リ之ヲ毀棄セラレタル場合ニ於テハ被害者トシテ告訴

權ヲ有スルモノトス(同上)

三 禁轉手形ト債權讓渡ノ有效(續民法一一五七頁)

◎手形ノ民法上讓渡ノ效力

- 一 手形債權ノ讓渡ハ記名裏書ノ場合ニ於テハ其手形ノ謄本又ハ
補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人
署名シ白地裏書ノ場合ニ於テハ其手形ニ裏書人ノ署名ノミヲ爲
シ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルヤ勿論ナ
ルヲ以テ指名債權讓渡ノ形式ニ依ル手形債權ノ讓渡ハ其效力ナ
キモノトス(東京控一四年評論一五卷商法一四八頁)
- 二 爲替手形上ノ債權ハ指圖債權ニ外ナラサルヲ以テ其拒絕證書
作成期間經過以後ニ於テハ民法上ノ債權讓渡ノ方法ニヨリテ之
ヲ讓渡スルコトハ必スシモ不適法ナリト云フコトヲ得ス然レト
モ之ヲ債務者ニ對抗スル爲メニハ裏書ヲ爲スコトヲ要スルハ民
法第四百六十九條ノ定ムルトコロニシテコノ規定タルヤ指圖債
權ノ性質上強制規定ト解スヘキモノナルヲ以テ通知又ハ承諾ヲ
以テ裏書ニ代フルコトヲ許サルヘキモノニアラサルモノトス
(東京地昭和二年報二〇八號二三頁、評論一六卷商法二〇三頁)
- 三 指圖式ノ手形ヲ讓渡ス場合ハ必スヤ裏書ノ手續ヲ履踐スルコ
トヲ要スルモノニシテ單ニ事實上交付ヲ受ケテ之ヲ所持シタリ
トスルモ手形上ノ權利ヲ取得スルモノニ非ス(岡山地一五年法

二六三二號一五頁、評論一六卷民訴二八九頁)

四 裏書ニ依ラサル手形讓渡ノ效力(續商法一〇六九頁)

◎「交付」ヲ「裏書」ニ變更ト訴ノ原因

甲カ第一審ニ於テ係爭指圖式爲替手形ハ受取人ヨリ交付ニ因リ
其ノ所持人トナリタリト主張シタルニ控訴審ニ於テハ大正一四
年一月二〇日受取人ヨリ裏書讓渡ニ依リ其ノ所持人トナリタ
リト主張シタル場合ニ於テハ指圖式手形ハ手形上ノ權利ノ移轉
ニ付裏書ナル要式行爲ヲ必要トスルモノニシテ該手形ノ交付ノ
ミニ依リテ其ノ權利ヲ取得スルモノニ非サレハ甲カ控訴審ニ於
テ裏書讓渡ニ依リ其ノ所持人トナリタリト主張スルハ第一審ニ
於テ主張セサル手形ノ權利關係ノ成立ニ影響ヲ及ホスヘキ新ナ
ル原因事實ヲ主張スルモノニ外ナラサレハ訴ノ原因ヲ變更シタ
ルモノト謂ハサルヘカラス(岡山地一五年評論一六卷民訴二八
八頁、法二六三二號一五頁)

第四百五十六條(戻裏書ノ效力)

振出人、引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓受ケタ

ルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

◎戻裏書ニ關スル諸問

- ◎戻裏書(逆裏書)ノ意義(續商法一〇七二頁)
- ◎約束手形ト戻裏書ノ效力(商法二三四頁)
- ◎小切手ト戻裏書(續商法一〇七三頁)
- ◎戻裏書ト直接抗辯トノ關係(續商法四四〇條)
- ◎戻裏書ト讓受人ノ責任(商法二四一頁)
- ◎戻裏書ト混同ノ規定(商法二三四頁)
- ◎戻裏書ト前者ニ對スル償還請求權(續商法一二三一頁)
- ◎無効裏書ニヨル手形ノ再占有ノ效力(續商法一〇七三頁)
- ◎裏書ヲ撤回シ更ニ裏書ヲ爲ス方法(第二續商法四五七條)

◎本條ニ所謂裏書讓渡ノ意義

商法第四五六條カ爲替手形ヲ裏書ニ依リテ讓渡シ得ル旨ヲ規定セルハ(引受人カ裏書ヲ爲ス場合ハ之ヲ除外ス)手形債權ノ化體セル其手形ヲ裏書ニ依リテ讓渡シ得ル旨ノ規定ニシテ債權其ノモノヲ含マサル所謂手形所有權ヲ裏書ニ依リテ讓渡シ得ヘク

ハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

◎手形ノ裏書ニ關スル諸問

- ◎補箋ノ意義(續商法一〇七三頁)
- ◎手形金額ノ一部ニ對スル裏書ノ效力(續商法一〇七四頁)
- ◎裏書讓渡ノ完成要件(商法二三四頁)
- ◎手形ノ記名裏書ノ要件(續商法一〇七三頁)
- ◎被裏書人ノ氏名又ハ商號ノ記載(續商法一〇七四頁)
- ◎商號ヲ略記シタル裏書ノ效力(續商法一〇七四頁)
- ◎「株式會社」ナル記載ヲ缺ク裏書ノ效力(商法二三七頁)
- ◎裏書人ノ氏名再記ノ效力(續商法一〇七四頁)
- ◎手形ノ共同受取人ノ權利關係(第二續商法四四五條)
- ◎持參人拂トセル裏書ノ效力(續商法一〇七七頁)
- ◎裏書ニ依ラサル手形所持人ノ權利(續商法一〇七八頁)
- ◎手形ノ民法上讓渡ノ效力(第二續商法四五五條)
- ◎爲替訴訟敗訴後ノ裏書讓受ノ效力(續商法一〇七六頁)
- ◎裏書日附ニ關スル諸問(第二續商法四六二條)
- ◎裏書ノ抹消ニ關スル諸問(第二續商法四六四條)

◎「出張所」ヲ被裏書人トセル裏書

第二續商法 手形 爲替手形 裏書

而シテ被裏書人カ其所有權取得ノ結果手形債權ヲ原始的ニ取得スヘキ旨ノ規定ニ非ス即同條ニ所謂讓渡ハ手形債權其モノノ讓渡ナル觀念ヲモ包含スルコト勿論ナリトス(東京控一五年評論一六卷商法二七六頁)

◎手形ノ取立不能ト戻裏書ノ要否

取立委任ノ爲手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタルモノカ其ノ手形ノ支拂ハレサリシ爲之ヲ裏書人ニ返還シタル場合ニ於テハ裏書人ハ所持人チシテ必スシモ戻裏書ヲ爲サシムルコトヲ要セス何時ニテモ自ラ裏書ヲ抹消シ所持人タル資格ヲ恢復スルコトヲ得ヘキカ故ニ所謂ノ抹消ノ爲ニ裏書ノ連續ヲ缺クモノト謂フチ得ス又右抹消セラレタル裏書ハ當初取立委任ノ趣旨ニ於テ爲シタルヤ否ヤハ事實審ハ證據ニ依リテ之ヲ判定スルコトヲ妨ケサルモノトス(大審一二年民九一頁、評論一二卷商法九二頁)

第四百五十七條(裏書ノ方式及白地裏書)

裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス。裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ

一 凡ソ會社出張所ナルモノカ法律上獨立ノ人格ヲ有セサルコトハ疑ノ存セサル所ナリト雖手形ニ被裏書人トシテ合資會社戸川商會東京出張所ト記載セルカ如キ場合ニ在リテハ其ノ法人格ヲ有セル合資會社戸川商會ヲ被裏書人トシテ表示セルモノト解スヘク東京出張所ナル文字ハ單ニ無用ノ文字ヲ記入シタルニ過キサルモノト認ムルヲ妥當トス(東京控一四年評論一五卷商法一五八頁)

二 銀行出張所ニ宛タル裏書(商法二二六頁)

◎會社ノ支店ト人格(第二續商法四四條ノ二)

◎會社ノ手形行爲ト代理關係ノ表示(第二續商法四三六條)

◎裏書ヲ撤回シ更ニ裏書ヲ爲ス方法

一 約束手形ノ裏書人ハ其被裏書人ト協議シテ其裏書ヲ撤回シ更ニ第三者ニ裏書セントスルトキハ其裏書ヲ抹消シ手形ノ所持人ト回復スルニヨリ其目的ヲ達シ得タルモノトス(大審昭和二年民六二九頁、評論一六卷商法四〇二頁)

二 約束手形ノ裏書人カ其被裏書人ト協議シテ裏書ヲ撤回シ更ニ第三者ニ之ヲ裏書セントスル場合ニアリテハ先ヅ其撤回セントスル裏書欄全部ヲ抹消シタル後更ニ別欄ヲ以テ第三者ニ對シ手形ノ裏書行爲ヲ爲スヲ通常トスレトモ抹消セントスル裏書欄ニ於ケル被裏書人ノ氏名部分ヲ抹消シ之ニ代ユルニ更ニ裏書セン

トスル被裏書人ノ氏名ヲ記入スルノ方法ニ依リテモ之ヲ爲スナ
妨ケサルモノトス(同上)

◎裏書ノ抹消ト裏書ノ連續トノ關係(第二續商法四六四條)
三 凡ソ記名式裏書ニヨリテ約束手形ヲ讓渡シタル者ハ更ニ被裏
書人ノ裏書讓渡ヲ受ケテ手形上ノ權利ヲ恢復シ得ルノ外被裏書
人トノ合意ニ因リ眞ニ爲シタル裏書讓渡行爲ヲ取消シ手形上ノ
裏書ヲ抹消ノ上被裏書人ヨリ手形ノ返還ヲ受クルコトニ依リテ
モ亦手形ノ正當ノ所持人トナリ得ヘキモノトス(東京地一五年
評論一六卷商法六二頁)

◎白地裏書ニ關スル諸問

- ◎白地裏書ニ關スル諸問(續商法一〇七六頁)
- ◎手形成立前(白地手形)ノ裏書效力(續商法一〇七六頁)
- ◎第二裏書後ノ第一裏書ノ效力(續商法一〇七七頁)
- ◎被裏書人ノ氏名抹消ト白地裏書(續商法一〇七七頁)
- ◎白地裏書ト無記名式手形トノ差異(續商法一〇七六頁)
- ◎白地裏書ナリヤ否ヤハ法律問題ナリ(續商法一〇七七頁)
- ◎白地裏書手形ノ移轉方法(續商法一〇七七頁)
- ◎商法ト異ナル裏書慣習ノ效力(續商法四二九頁)
- ◎白地手形ニ關スル諸問(第二續商法四三五條)

◎白地裏書アル手形ト所持人ノ權利

◎署名以外ノ記載ト白地裏書ノ效力(一)

- 一 無記名式裏書アル手形ノ所持人ハ自己ヲ被裏書人ト爲スコト
ヲ得ルハ明ニシテ此ノ場合ニ於テハ裏書ノ年月日ヲモ記入シ得
ヘキモ裏書ノ年月日ハ之ヲ記入セサルモ尙有效ナルモノト解ス
ルヲ相當トスヘキヲ以テ裏書ノ日附ナシト一事ノミヲ以テハ
未ダ該手形ノ裏書ハ無効ト爲ルモノニアラス(東京地一四年評
論一五卷民法二七二頁)
- 二 手形裏書欄ニ裏書人甲被裏書人乙ト記載セラレタルニ拘ラス
其ノ年月日ノ記載ナキ場合ニ於テ右記載ヲ遺脱シタルモノトセ
ハ該裏書ハ法定要件ヲ缺カスル結果無効トナルヘキモノナルモ
斯ル無効ノ記載ヲ爲スカ如キハ異例ニ屬スルヲ以テ一應甲ノ爲
シタル裏書ハ白地裏書ニシテ乙ハ其ノ後ニ於テ自己ヲ被裏書人
トシテ記載シナカラ裏書ノ年月日ヲ記載セザリシモノト認ムル
ヲ相當トス(東京控一三年評論一三卷商法四七六頁)
- 三 甲第一號證ニ依レハ右樋渡彦九郎ノ裏書ハ加藤省三郎ヲ被裏
書人ト指定シタルモノナレハ之ヲ所謂正式裏書ト認メサルヘカ
ラス之ヲ以テ白地裏書ニシテ加藤省三郎氏名カ後日ノ補充ニ
係ルコトノ控訴人ノ主張ハ之ヲ認ムヘキ立證ナキヲ以テ採用ス
ルヲ得然ラハ右樋渡彦九郎ノ裏書ニハ大正九年五月ト裏書ノ
年月日記載シタルノミニテ日ノ記載ナキヲ以テ裏書ノ方式ヲ缺

一 白地裏書アル爲替手形ハ爾後引渡ノミニ依リテ讓渡シ得ヘ
ク其ノ引渡ヲ受ケタル者ハ之ニ依リ正當ナル所持人トシテ該手
形上ノ權利ヲ取得スルモノニシテ固ヨリ右手形ニ自己ヲ被裏書
人トシテ補充スル權利ヲ有スルモ其ノ補充ヲ爲スヘキ義務ヲ負
擔スルモノニ非サレハ假令手形面ニ被裏書人トシテ記載セスト
スルモ手形ノ正當ナル所持人トシテ其ノ前者ニ對シ權利ヲ行使
スルニ付何等ノ支障ナキモノトス(東京地一五年評論一六卷商
法一六頁)

二 手形所持人カ手形ニ白地裏書ヲ爲シタレハトテ此一事ニ依リ
テ手形ノ權利ヲ喪フモノニ非サルヲ以テ現ニ其裏書人カ手形ヲ
所持スル以上反證ナキ限リハ其正當所持人ナリト認ムヘク從テ
白地裏書ノ記載アルモ單ニ所持人(裏書人)カ手形ヲ讓渡スル
場合ノ準備ノ爲ニ記載シタルニ過キサルモノト謂ハサル可ラス
(東京控一〇年評論一〇卷商法五一四頁)

◎日附ノ記載ナキ裏書ノ效力

白地裏書ニ因リ手形ヲ取得シタル所持人ハ自己ヲ被裏書人トシ
テ記載スルニ當リ之ト共ニ年月日ノ記載ヲモ爲スコトヲ得ルモ
ノナレ共年月日ヲ記載スルコトハ其ノ要件ニアラサルモノトス
(東京控一三年評論一三卷商法四七九頁)

◎日附ノ記載ナキ取立委任ノ裏書(第二續商法四六三條)

クモノニシテ該裏書ハ法律上ノ效力ナキ無効ノモノト爲ササル
ヘカラス從テ之ニ依リ本件手形ノ裏書ハ其連續ヲ缺クモノニシ
テ控訴人ハ手形上ノ權利ヲ行使スルコト能ハサルモノトス(東
京控一一年評論一卷商法一二六頁)

四 商法第四六一條ニハ裏書人カ其ノ署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シ
タルトキハ所持人ハ自己ヲ其ノ被裏書人ト爲スコトヲ得トノミ
規定シ裏書ノ年月日ヲ記載スルコトヲ必要トスル旨ヲ規定セス
從テ所持人ハ自己ヲ被裏書人トシテ記載スルニ當リ裏書ノ年月
日ヲ記載スルハ敢テ妨ケサル所ナルモ之カ記入ヲ爲ササルモ其
ノ裏書ハ裏書トシテ有效ナルモノトス(蕪淵判事評論一四卷商
法四一三頁)

五 日附ノ記載ナキ裏書及其補充ノ效力(續商法一〇七四頁)

◎署名以外ノ記載ト白地裏書ノ效力(二)

一 所謂白地裏書ハ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ記載セサル裏書ノ
謂ニシテ此裏書ニ付テハ商法ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲
シ得ヘキ旨ヲ規定スルニ止マリ敢テ裏書人ノ署名以外ノ記載ヲ
禁セサルカ故ニ裏書人ノ署名ノ外ニ表面ノ金額又ハ同人指圖
人ハ御支拂可被候也大正年月日東京市京橋區南紺屋町四番地ナ
ル文字ノ記載アルモ該裏書カ白地裏書タルコトヲ妨ケルモノニ
非ス(東京控一〇年評論一〇卷商法一七七頁)

二 商法第四五七條ニハ裏書ハ裏書人ノ署名ノミチヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ト規定シ該規定ハ專ラ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ記載セサル裏書所謂白地裏書ヲ認ムル趣旨ヲ表明シタルモノニシテ敢テ裏書ノ年月日ノ記載ヲ禁止シタル法意ニハ非サルモノトス(東京地一二年評論一〇二卷商法一三八頁)

三 手形ノ裏書ヲ爲スニ當リ被裏書人ヲ指定セサル以上ハ偶其ノ裏書ノ年月日ヲ記入スルモ白地裏書トシテ有效ナリト認ムヘキコトハ本院判例ノ存スル所(明治四十三年(オ)第三十三號同年二月十五日第一民事部判決參照)ニシテ而シテ原院方裏書年月日ノ記載及裏書人ノ署名アルモ被裏書人ノ記載ナキ所論手形ノ裏書ヲ以テ商法第四百五十七條第二項ニ依ル白地裏書ナリト認メタルコトハ原院文上明白ナルカ故ニ右裏書ヲ以テ所論ノ如ク裏書ノ形式要件ヲ欠ケル無効ノモノト云フヘカラス(大審昭和二年法二七五〇號一五頁)

四 無用ノ文字ト白地裏書ノ效力(續商法一〇七七頁)

◎白地裏書ニ於ケル事實ノ推定

一 凡ソ署名者ノ裏書ニ因リ手形ノ讓渡アリタルトキハ後日所持人ハ自己ノ氏名ヲ被裏書人トシテ補充シ得ヘク之ト同時ニ裏書年月日ヲ記載スルコトヲ要スルモノニ非サルコト疑ナキヲ以テ被裏書人ノ氏名カ後日ノ記載ナリヤ否ヤカ争トナリタルトキハ

一 應有效ナル白地裏書アリテ該裏書ニ被裏書人ノ氏名カ補充セラレタルモノト推定スヘク記名式ニシテ其年月日ヲ缺クモノナリト主張センニハ之ヲ主張スル者ニ於テ右事實ヲ立證スルノ責アリト解スルチ相當トスヘシ(東京控一四四年法二四五〇號七頁)

二 本件手形ノ裏書欄ニ被裏書人トシテ記載セラレタル株式會社辛酉銀行ナル記載ノ上ニ取消ナル消印捺捺セラレ抹消シアルコトハ原審ノ確定セル事實ニシテ本件ノ手形ノ裏書人ハ反證ナキ限り一應其ノ抹消シアル現在ノ狀態ニ於テ裏書ヲ爲シタルモノト認ムルチ相當トスヘキカ故ニ前記抹消ハ裏書人ニ於テ本件手形ノ裏書交付前ニ爲サレタルモノト認定セサルヘカラス然ルニ原審ハ所論摘録ノ如ク列示シ前記抹消ハ其ノ權限アルモノニ於テ爲シタルコトノ證據ナキノ故ヲ以テ本件裏書ヲ記名裏書ナリト判定シ此ノ點ニ關スル上告人ノ主張ヲ排斥シタルハ明ニ舉證責任ニ關スル法則ニ違背セル不法アルモノトス(大審昭和二年民二四八頁)

第四百五十八條(豫備支拂人ノ記載)

裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

◎豫備支拂人ニ關スル諸問

- ◎豫備支拂人ノ意義(續商法一〇六三頁)
- ◎豫備支拂人タル資格(續商法一〇六三頁)
- ◎豫備支拂人指定ノ形式(續商法一〇六三頁)

第四百五十九條(無擔保ノ裏書)

裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

- ◎白地裏書ト免責文句ノ記載(續商法一〇七八頁)
- ◎無擔保裏書(免責裏書)ノ效力(續商法一〇七八頁)

第四百六十條(裏書禁止ノ裏書)

裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フ

第二續商法 手形 爲替手形 裏書

四五九條—四六一條

一八三五

コトナシ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎裏書禁止手形ノ惡意取得者ノ地位(第二續商法四四一條)
- ◎禁轉裏書ノ效力(續商法一〇七九頁)
- ◎禁轉違反ノ裏書回復ト戻裏書(續商法一〇七二頁)

第四百六十一條(白地裏書ノ補充)

裏書人カ其署名ノミチ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

◎白地裏書ノ補充ニ關スル諸問

- ◎白地裏書ニ關スル諸問(第二續商法四五七條)
- ◎白地手形ヲ補充スル時期(第二續商法四三五條)
- ◎他人ヲ被裏書人トシテ補充シ得ルヤ(續商法一〇七九頁)
- ◎白地裏書ト所持人ノ補充權(續商法一〇七九頁)

- ◎白地手形ノ補充ト其ノ訂正(第二續商法四三五條)
- ◎白地手形補充ノ適否ト立證責任(第二續商法四三五條)

第四百六十二條(後裏書ノ效力)

支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ右シタル權利ノミテ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

◎後裏書ニ關スル諸問

- ◎後裏書ニ關スル諸問(續商法一〇七九頁以下)
- ◎後裏書ノ性質(續商法一〇八〇頁)
- ◎後裏書ハ債權讓渡トナルヤ(續商法一〇八〇頁)
- ◎後裏書ニヨル權利取得ノ性質(續商法一〇八〇頁)
- ◎後裏書也ヤ否ヤヲ定ムル標準(續商法一〇八二頁)
- ◎後裏書ノ方式(續商法一〇八〇頁)
- ◎本條ト民法第九四條トノ關係(續商法一〇八〇頁)
- ◎小切手ト滿期後ノ裏書讓渡(續商法一〇八一頁)
- ◎拒絶證書ナキ後裏書ノ效力(續商法一〇八一頁)
- ◎後裏書ノ手形ト直接抗辯(第二續商法四四〇條)

タル規定ニシテ第四百六十二條ノ場合ニ適用スルコトヲ得サルモノトス(大審一五年民六五七頁)

- ◎白地裏書ヲ以テスル後裏書ノ效力(續商法一〇八一頁)

◎後裏書ト支拂呈示免除ノ效力

商法第四六二條ニ規定スルハ單ニ期間經過後ノ裏書ニ在リテハ手形債務者カ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事項ハ總テ之ヲ被裏書人ニ對抗シ得ヘキ趣旨ヲ明カニシタルモノニシテ即被裏書人ハ手形債務者カ裏書人ニ對抗シ得ヘキ事由ノ隨伴シタル權利ニ非サレハ之ヲ取得スルコト能ハサルコトヲ言明シタルニ外ナラスシテ單ニ當事者間ニ於テノミ有效ナル支拂呈示免除ノ特約上ノ效力カ期間經過後ノ裏書ナルカ故ニ右規定ニ依リ當然被裏書人ニ對シ其ノ效力ヲ生スルモノト解スルヲ得サルモノトス(大審一四年評論一五卷商法一四頁)

◎拒絶證書期間後ト引渡ノミニ依ル讓渡

支拂拒絶證書作成期間經過後ニ於テモ單ナル引渡ニ依リ手形債權ノ讓渡ヲ爲シ得ルモノトス(東京控一五年評論一五卷商法二八二頁)

- ◎後裏書ト善意取得者ノ保護(續商法一〇四四頁)
- ◎裏書ニ因リ移轉スル權利ノ範圍(第二續商法四五五條)

◎商法第四百六十二條ノ趣旨

◎白地手形ト拒絶證書期間後ノ取得

商法第四百六十二條ニハ支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミテ取得スル規定シアルヲ以テ白地裏書アル手形ヲ引渡ニ依リテ取得シタル者ニ付テハ右規定ノ適用ナキモノノ如シト雖同條ノ規定ハ支拂拒絶證書作成期間經過後ニ於テハ其ノ手形所持人ハ單ニ自己ノ有スル權利ノミテ讓渡シ得ヘキモノニシテ手形取得者ハ獨立ナル權利ヲ取得スルヲ得サルコトヲ定メタルノ趣旨ナルヲ以テ白地裏書アル手形ヲ右期間經過後引渡ノ方法ニ依リ讓渡シタル場合ニ於テモ之ヲ普通ノ裏書ニ依リテ讓渡シタル場合ト同シク讓受人ヲシテ讓渡人ノ有シタル權利ノミテ取得セシムルノ法意ナリト解スルヲ相當トス而シテ手形ノ讓受人カ讓渡人ノ有シタル權利ノミテ取得スルニ過キサル以上ハ讓受人ノ善意ナルト惡意ナルトヲ區別スヘキ理由アルコトナシ又商法第四百四十一條ハ手形所持人カ手形法ノ規定ニ依リテ讓渡ノ方法ニ依リテ手形ヲ失ヒタル場合ニ於テ其ノ取得者ニ惡意又ハ重大ナル過失アラサルトキハ手形所持人ハ手形上ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ定メ

◎裏書日附ニ關スル諸問

- 一 事實ニ吻合セザル裏書日附ノ效力(商法二三三頁)
- 二 裏書日附ノ訂正ト其效力(商法二三三頁)
- 三 裏書年月日ノ變更ト其原因(續商法一〇七六頁)
- 四 眞實裏書ノ成立シタル日如何ハ被裏書人ト裏書前ノ手形債務者トノ間ノ權利關係ニ影響ヲ及ボスモノナレハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書ナリヤ否ヤハ眞實裏書ノ成立シタル日ニ從ヒテ之ヲ決定スヘキモノトス(朝鮮高等法院一四年評論一四卷商法二五五頁)

◎裏書日附ノ遡記ト其ノ效力

- 一 手形ノ裏書ニ於テ裏書日附ノ記載カ事實ニ吻合セス遡記セラレタル場合ニ於テモ之カ爲裏書ノ效力ニ影響ヲ及ボササルモノトス(大審昭和二年評論一六卷商法四〇三頁)
- 二 手形行爲ノ成立ハ一ニ手形面ノ記載ニ依リテ之ヲ定ムヘキハ手形行爲本然ノ性質上當然ノ解釋ナリトスルヲ以テ假令裏書日附カ遡記サレタリト雖モ手形面ノ記載ヲ無視シテ直ニ眞ノ裏書日ニ依ルヘカラサルハ勿論又之ヲ無効ト爲スヘキニ非ラス(東京地一〇年評論一〇卷商法三九七頁)

三 日附ヲ遡記セル裏書ノ效力(續商法一〇八二頁)

第四百六十三條(取立委任ノ裏書)
所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ取立ヲ委任スルコトヲ得此場
合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲ス
コトヲ得

◎取立委任ノ裏書ニ關スル諸問(一)

- ◎取立委任ニ關スル本條ノ法意(商法二四三頁)
- ◎白地裏書ト取立委任ノ效力(續商法一〇八四頁)
- ◎讓渡裏書ヲ取立裏書ト變更(續商法一〇八六頁)
- ◎單純裏書後取立委任ナル旨ノ記入(第二續商法四三五條)
- ◎荷爲替手形ト取立委任ノ裏書(商法二四三頁)
- ◎裏書禁止手形ト取立裏書(續商法一〇七二頁)
- ◎買入裏書ノ效力(續商法一〇八六頁)
- ◎買入裏書ト被裏書人ノ權利(續商法一〇八七頁)
- ◎取立委任ノ裏書ト裏書ノ連續(第二續商法四六四條)

◎取立委任ノ裏書ニ關スル諸問(二)

- ◎手形ノ取立不能ト展裏書ノ要否(第二續商法四五六條)
- ◎取立手形金ニ對スル銀行一般ノ慣行(續商法一〇八五頁)
- ◎小切手ト取立委任者ノ死亡(續商法一〇八五頁)
- ◎取立裏書ノ無効ト手形上ノ權利(續商法一〇八五頁)
- ◎手形返付(裏書ニ依ラサル)ト其效力(商法二四五頁)
- ◎取立ノ目的トスル債權讓渡ノ效力(第二續民法五三一頁)

◎取立委任ノ裏書ト信託法

一 丙カ手形金取立ノ目的ヲ以テ眞實手形ヲ丁ニ裏書讓渡シタル
場合ト雖取立ノ方法ハ必スシモ訴訟提起ノ方法ニ限ルモノニ非
サルカ故ニ偶々丁カ取立ノ爲ニ訴ヲ提起シタルハトテ右裏書讓
渡ヲ以テ訴ノ提起ヲ主タル目的トスル信託行爲ナリト謂フヲ得
サルモノトス(東京控一五年評論一六卷商法二七一頁)

- 二 取立ノ目的トスル債權讓渡ト信託法(第二續民法五三二頁)
- ◎手形ノ信託的裏書ノ效力
- ◎取立委任ノ記載ヲ缺ク裏書ノ效力
- ◎取立委任ノ解除ト被裏書人ノ請求權

一 手形所持人カ取立委任ノ目的ヲ以テ裏書ヲ爲シタルモ手形ニ
其ノ目的ヲ記載セザリシ場合ニ於テ其ノ裏書ニ依リテ生スヘキ
權利關係ハ必スシモ一樣ナラス當事者ハ或ハ手形上ノ權利ヲ讓
渡スルノ意思ヲ以テ如上ノ裏書ヲ爲スコトアルヘク此ノ場合ニ
於テハ被裏書人ハ完全ナル手形上ノ權利者トシテ第三者タル手
形債務者ニ對シ所持人トシテ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得
ヘク唯直接ノ裏書人ニ對シ其ノ間ニ存スル特約ノ趣旨ヲ遵守ス
ヘキ債務ヲ負フニ過キサルヘシ又當事者カ手形讓渡ノ意思ヲ有
スル場合ニ於テモ一定ノ解除條件附委任ノ消滅其ノ他取立ノ目
的ニ反スル權利行使等ノ場合ニ直ニ手形上ノ權利カ裏書人ニ復
歸スル條件ノ下ニ裏書ヲ爲スコトアルヘク此ノ如キ場合ニ在リ
テハ其ノ條件ノ成就ニ因リ手形上ノ權利ハ裏書人ニ復歸スルニ
至ルヘシ又或ハ當事者ハ手形讓渡ノ意思ヲ有セス單ニ裏書ニ依
リ被裏書人ニ手形上ノ權利ヲ行使スル權能ヲ授與セント欲シタ
ルニ止マルコトアルヘク此ノ如キ場合ニ在リテハ被裏書人ハ手
形上ノ權利ヲ取得スルコトナク手形上ノ權利ハ依然トシテ裏書
人ニ殘存シ被裏書人ハ單ニ自己名義ニ裏書セラレタル手形ヲ占
有シ自己ノ名ヲ以テ手形上ノ權利ヲ裁判上又ハ裁判外ニ行使ス
ル權利ヲ有スルニ過キサルモノトス(大審一五年民五九九頁
、評論一五卷商法三〇二頁)

二 取立委任ノ目的ヲ以テ爲サレタル通常ノ裏書ニ依リ如何ナル
權利關係ヲ生スヘキヤハ一ニ當事者ノ意思ニ依リテ決スヘキ事

實問題ニ外ナラサレハ當事者ノ意思明ナラサル場合ニ於テ單ニ
通常ノ裏書ヲ爲シタルノ一事ニ依リテ直ニ當事者間ニ手形上ノ
權利讓渡ノ意思アルモノト推斷スルコトヲ得サルモノトス(同
上)

三 取立委任ノ目的ヲ手形ニ記載セス通常ノ裏書ヲ爲シタル場合
ト雖當事者ノ目的トスル所ハ手形ノ取立委任ニ存スル以上其ノ
目的ハ手形上ノ權利ヲ讓渡セス單ニ被裏書人ニ自己ノ名ヲ以テ
手形上ノ權利ヲ行使スル權能ヲ授與スルノ方法ニ依リ十分ニ達
シ得ルヲ以テ當事者ハ叙上ノ意思ヲ有スルモノト推定スルヲ相
當トス(同上)

四 叙上ノ場合ニ於テハ手形上ノ權利ハ依然トシテ裏書人ニ存ス
ルヲ以テ裏書人ハ手形債務者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ拋棄スル
コトヲ得ヘク又手形債務者ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ抗
辯ハ總テ之ヲ以テ被裏書人ニ對抗シ得ヘキモノト解セサルヘカ
ラス(同上)

五 手形所持人カ取立委任ノ目的ヲ以テ信託裏書ヲ爲シタルモ手
形ニ其ノ目的ヲ記載セスシテ通常ノ讓渡裏書ヲ爲シタルトキハ
被裏書人ハ手形上ノ權利者トナリタル者ナルヲ以テ第三者タル
手形債務者ニ對シ所持人トシテ自己ノ名ヲ以テ手形上ノ權利ヲ
行使スルコトヲ得ヘク唯直接ノ裏書人ニ對シ其ノ間ニ存スル特
約ノ趣旨ヲ遵守スヘキ義務ヲ負フニ過キス故ニ該裏書人ヨリ取
立委任ヲ解除セラレタルトキハ被裏書人ハ該裏書人トノ關係ニ

於テ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得シテ手形ノ返還ヲ爲スヘキ義務ヲ負フヘシト雖是唯兩者間ノ内部關係タルニ止マリ第三者ニ對シテハ完全ニ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ヘキモノニシテ手形債務者ハ取立委任ヲ爲シタル裏書人ニ對シ商法第四百四十條ノ規定ニ依リ手形上ノ請求ヲ拒否シ得ヘキ抗辯ヲ有スル場合ニ非サレハ右兩者間ニ存スル内部關係ヲ主張スルノ利益ヲ有セサルヲ以テ被裏書人ニ對スル取立委任力解除セラレタルノ事由ヲ云爲シテ被裏書人ノ手形上ノ請求ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス右ハ手形ノ圓滑流通ヲ目的トシタル手形法ノ精神ヨリ生スル當然ノ歸結ニシテ上告人所論ノ如ク背任行爲ヲ保護シ公序良俗ヲ害スルモノト謂フテ得サルナリ(大正三年(オ)第五十六號同年五月一日當院判決參照)(大審一四年民三九四頁、評論一四卷商法三一九頁)

六 取立委任ノ記載ヲ缺ク裏書ノ效力(商法二四五頁)

七 手形ノ信託的裏書ノ效力(續商法一〇八六頁)

◎取立委任ノ裏書效力(商法二四三頁)

◎取立委任者ニ對スル振出人ノ抗辯權(商法二四五頁)

◎取立委任者ノ償還請求權拋棄ノ效力

手形ノ取立委任ノ目的ニテ裏書ヲ受ケタルモノハ裏書人ノ權利ヲ行使スルモノニシテ其ノ目的ヲ記載シタルモノト否トニ拘ラ

商法第四百六十三條第二項ニ依レハ取立委任ノ被裏書人ハ更ニ同一ノ目的ヲ以テ其ノ手形ノ裏書ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ右被裏書人カ第二ノ取立委任裏書ヲ爲シテ手形ヲ其ノ被裏書人ニ交付シタルトキハ手形上ノ權利ヲ行使シ其ノ保全行爲ヲ爲スコトヲ得ル者ハ第二ノ被裏書人ニシテ第一ノ被裏書人ニ非スト雖第一ノ被裏書人ハ全ク其ノ取立委任及拒絕證書作成ノ權利等ヲ失ヒタルモノニ非ス雖其ノ權利ノ行使ヲ妨ケラレタルニ過キサルヲ以テ後日第二ノ被裏書人ヨリ其ノ手形ノ返還ヲ受ケ占有ヲ回復シタルトキハ復タ從前ノ手形上ノ權利ヲ行使シ保全行爲ヲ爲シ得ヘキモノト謂フヘク第二ノ取立委任裏書カ抹消セラレタルト否ト第二ノ被裏書人ヨリ戻裏書アリタルト否トニ拘ラサルモノトス原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ本件爲替手形ハ所持人タル被上告人ニ於テ大正十四年六月五日訴外株式會社產業銀行ニ取立委任ノ裏書ヲ爲シ更ニ同日同銀行ヨリ訴外株式會社加島銀行ニ取立委任ノ裏書ヲ爲シタルモノニ係リ滿期日ノ翌々日ナル同年六月二十二日ニ至リ株式會社產業銀行ハ右銀行ヨリ其ノ手形ヲ回收シテ引受人齋藤光守ニ對スル呈示ヲ爲シ且拒絕證書ヲ作成セシメタルモノトス然ラハ原院カ此等ノ行爲ヲ適式ナリト判示シ株式會社加島銀行ニ對スル第二ノ取立委任裏書カ抹消セラレタルヤ否ヤ同銀行ヨリ株式會社產業銀行ニ對スル戻裏書アリタルヤ否ヲ判斷セスシテ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ニアラス(大審院昭和二年法二七二九號九頁、報一二二號

ス裏書人ノ權利消滅スルトキハ被裏書人ハ之ヲ行使スルニ由ナキモノナルヲ以テ取立委任ノ目的ニテ裏書ヲ爲シタル甲カ償還義務者乙ニ對シ手形金ノ償還請求權ヲ拋棄シタル以上被裏書人丙モ亦乙ニ對シ其ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス(東京控一五年評論一五卷商法一〇二頁)

◎取立委任者ノ手形ノ回收(續商法一〇八五頁)

◎取立委任者ノ權限

一 取立委任ノ裏書ハ手形債權ヲ保全スル範圍内ニ於テ全般ノ權限ヲ附與スルモノナリト解スルチ相當トスヘキカ故ニ取立委任ノ裏書ヲ受ケタル者カ其前者ニ對シ償還請求ノ通知ヲ發スルノ權限ヲ有スルコト論テ俟タサルモノトス(東京控一四年評論一五卷商法一五八頁)

二 取立裏書ト委任者ノ權限範圍(續商法一〇八四頁)

◎取立委任者ノ單純裏書ノ效力(續商法一〇八四頁)

三 取立委任者ノ拒絕證書作成ノ請求(續商法一一二九頁)

四 取立委任者ト訴訟行爲能力(續商法一〇八四頁)

◎取立裏書ト被裏書人ノ地位(續商法一〇八五頁)

◎數次ノ取立裏書ト手形上ノ權利行使者

一一頁、評論一六卷商法六三八頁)

◎日附ノ記載ナキ取立委任ノ裏書

一 爲替手形ノ受取人甲カ乙ヲ被裏書人トシテ爲シタル取立委任ノ記名裏書ハ之ヲ爲シタル年月日ノ記載ヲ缺クモノナルトキハ其形式上ノ要件ニ付キ欠缺アルカ故ニ無効ニシテ乙ハ右裏書ニ依リ何等手形上ノ權利ヲ行使スル權限ヲ取得スルコトナク固ヨリ右手形ニ付キ更ニ取立委任ノ裏書ヲ爲スノ權限ナキモノナルヲ以テ乙カ丙ニ對シテ爲シタル取立委任ノ裏書モ亦無効ナリト謂フヘク從ツテ右丙ハ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ右丙ノ爲シタル手形ノ提示ハ何等法律上ノ效力ヲ生スルコトナキモノト謂ハサル可カラス(大阪地一〇年評論一〇卷商法三六八頁)

二 手形ノ所持人カ株式會社甲銀行神田支店ニ對シテ爲シタル取立委任ノ爲メノ裏書ニ日附ノ記載ナキトキハ右裏書ハ有效ナルモノト爲シ難ク右銀行ハ手形上取立委任者タル地位ヲ取得シタルモノト云フテ得サルモノトス一如上ノ場合取立委任者ニアラサル右銀行カ公證人ナシテ作成セシメタル支拂拒絕證書ハ無効ナリトス(東京地一一年評論一一卷商法一〇四頁)

第四百六十四條 (裏書ノ連續)

裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書ヲ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモノト看做ス

◎裏書ノ連續ニ關スル諸問

- ◎裏書連續ノ意義及實例 (續商法一〇八七頁)
- ◎裏書連續ニ於ケル氏名ト商號トノ關係 (續商法一〇八八頁)
- ◎取締役ノ裏書ト連續有無 (續商法一〇八八頁)
- ◎裏書ノ偽造ト裏書ノ連續 (第二續商法四四一條)
- ◎手形ノ取立不能ト裏書ノ要否 (第二續商法四五六條)
- ◎本條但書ノ適用範圍 (商法二四六頁)

◎取立委任ノ裏書ト裏書ノ連續

全然無効ニ屬シ縱令手形面上新レ記載アリト雖空白ノモノト見ルチ妥當トシ從テ裏書ノ連續ニ關シテモ何等ノ欠缺ナキモノトス (東京控一三年評論一三卷商法四七九頁)

◎裏書ノ抹消ト裏書ノ連續トノ關係

- 一 手形上裏書ノ連續スルコトハ形式的要件ニシテ其ノ記載ニ於テ形式上存スルヲ以テ足り實質上真正ナルト否トハ問フ所ニ非ス而シテ商法第四百六十四條第二項ニ抹消シタル裏書ハ其ノ記載ナキモノト看做ス旨規定シアルハ形式的要件タル裏書ノ連續ニ付テ謂フモノナレハ其ノ抹消ハ何人カ之ヲ爲シタルト又之ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲シタルト否トハ問ハサルモノト解スルチ相當トス (大審一一年民七七頁、評論一二卷商法三九頁)
- 二 原裁判所ノ確定シタル所ニ依レハ甲第二號證ノ手形ニハ四箇ノ裏書アリテ其ノ中第一ハ白地裏書ニシテ第二及第三ノ裏書ハ抹消セラレ最後ニ第四ノ裏書アルチ以テ裏書ノ連續ニ付テハ抹消セラレタル第二及第三ノ裏書ハ前示法條第二項ノ規定ニ依リ其ノ記載ナキモノト看做スヘク從テ第四ノ裏書ヲ爲シタル者ハ同法條第一項但書ノ規定ニ依リ第一ノ裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做スヘキハ當然ナレハ該手形ノ裏書連續スルコトヲ認メタル原判決ハ正當ナリ而シテ原裁判所カ人證ニ依リ右抹消ニ係ル裏書ハ高木隆吉ノ抹消シタルモノナルコト及同人ハ

◎白地裏書ト裏書ノ連續

- 一 取立委任裏書ニ於テハ被裏書人ハ取立委任裏書以外ノ裏書ヲ爲スコト能ハス其ノ裏書人ハ依然手形債權者ニシテ何時ニテモ其ノ手形ヲ回收シテ之ヲ裏書讓渡シ得ヘキ地位ニ在ルモノニシテ取立委任ノ裏書人カ其ノ被裏書人ヨリ裏書ヲ受クルコトナク他ニ裏書シタリトテ裏書ノ連續ヲ缺クモノニ非ス (東京地昭和二年法二六七號一三頁、評論一六卷商法二〇〇頁)
- 二 取立委任ト裏書連續トノ關係 (續商法一〇八八頁)

◎重複裏書ト裏書ノ連續

同一人カ重複シテ二個ノ白地裏書ヲ爲シタルトキハ前ノ裏書ハ

日進銀行ヨリ該手形ノ交付ヲ受ケタルモノナルコトヲ認メタルハ唯右第一裏書後第四裏書前ニ於ケル中間ニ行ハレタル實質上ノ事項ヲ列示シタルモノニ過キスシテ所謂ノ如キ手形權利移轉ノ形式問題ニ關係有スルコトナシ何トナレハ其ノ權利移轉ノ形式ニ於テハ右第四ノ裏書ヲ爲シタル者ハ高木隆吉ノ代理人ナルコト原審記録中ニ存スル甲第二號證ニ依リ明白ナレハ其ノ裏書本人タル高木隆吉ハ叙上ノ如ク第一ノ白地裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト謂フヘケレハナリ (同上)

三 裏書ノ抹消ハ手形ニ於ケル其ノ裏書部分ノ裏書人ノ署名其ノ他ノ記載事項ヲ消滅除去スルコトヲ云フニ外ナラサルチ以テ或ハ裏書部分ヲ化學的ノ方法ニ依リ腐蝕セシメ或ハ紙片ヲ貼付シ又ハ紙片ヲ削リ去ルカ如キ事實上ノ除去方法ニ依リテ之ヲ爲スト又或ハ裏書部分ニ單ニ線ヲ引キテ該部分ヲ消滅除去スルノ意思ヲ表示シテ爲スト又或ハ裏書欄内又ハ欄外ニ其ノ裏書部ヲ削ル旨ヲ表示シテ之ヲ爲ス等其ノ方法ハ之ヲ問ハス均シク裏書ノ抹消ナリト云ハサルヘカラス然リ而シテ約束手形ノ裏書人カ其被裏書人ト協議シテ裏書ヲ撤回シ更ニ第三者ニ之ヲ裏書セントスル場合ニアリテハ先ヅ其ノ撤回セントスル裏書欄全部ヲ抹消シタル後更ニ別欄ヲ以テ第三者ニ對シテ手形ノ裏書行爲ヲ爲スヲ通常トスレトモ抹消セントスル裏書欄ニ於ケル被裏書人ノ氏名部分ヲ抹消シ之ニ代ユルニ更ニ裏書セントスル被裏書人ノ氏名ヲ記入スルノ方法ニ依リテモ之ヲ爲スチ妨ケス蓋シ裏書ノ抹消

ニ當リ先ツ裏書欄内ニ於ケル被裏書人ノ記載部分ヲ抹消シ然ル後他人ヲ被裏書人トシテ記入シテ同人ニ對スル裏書ニ付既存ノ裏書人ノ署名其ノ他ノ記載ヲ利用シテ裏書ヲ完成シタルトキハ此レト同時ニ既ニ抹消セラレタル被裏書人ニ對スル裏書ノ記載トシテハ消滅除去スルノ趣旨ニシテ而モ其ノ趣旨ハ前記ノ他ノ裏書ニ關スル利用ニ依リ自ラ表明セラレタルモノト爲スヘキカ故ニ恰モ裏書欄ノ記載ヲ抹消スル旨手形ニ附記スルノ方法ニ依リ其ノ記載ヲ抹消シタル場合ト毫モ異ル所ナシ而シテ斯ノ如キ方法ニ因ル裏書ノ抹消ヲ認ムルモ何等手形取引上弊害ヲ生スヘキモノニアラサルヲ以テ之ヲ禁止スヘキ筋合ニアラサルモノトス(大審昭和二年民六二九頁、法二七〇五號四頁)

四 原審ハ證據ニ依リ本件約束手形ノ受取人タル訴外株式會社京和銀行カ手形金ノ取立委任ノ目的ヲ以テ訴外寺崎重三郎ニ本件手形ノ讓渡裏書ヲ爲シ右重三郎ニ於テ本件手形ノ振出人等ニ對シ其ノ支拂ヲ請求シタルモ應セラレザリシニヨリ本件手形ヲ右京和銀行ニ取戻シタル上右裏書欄内ニ於ケル被裏書人寺崎重三郎ノ氏名部分ヲ抹消シテ其ノ側ニ被上告人ノ氏名ヲ記載シ之ニ因リ右重三郎ニ對スル裏書ヲ抹消スルト同時ニ既存ノ記載ヲ利用シテ被上告人ニ對スル裏書讓渡ヲ爲シタル事實ヲ認定シタルコト列文上明白ニシテ右方法ニヨリ裏書ノ抹消並ニ裏書讓渡行爲ヲ有效ナリト判定シ商法第五百二十九條第四百六十四條第二項ヲ適用シ本件手形ハ裏書ノ連續ヲ缺クモノニアラスト爲シタ

- ルハ相當ナリ(同上)
- 五 裏書抹消ノ方法(續商法一〇八九頁)
- 六 裏書ノ抹消ト連續トノ關係(續商法二〇八九頁)

◎裏書ノ抹消ニ關スル諸問

- 一 裏書抹消ノ必要アル場合(續商法一〇八九頁)
- 二 裏書抹消ト有形的抹消トノ關係(續商法一〇八九頁)
- 三 裏書連續欠缺ノ效果(續商法一〇八八頁)
- 四 商法第四百六四條ニ依リハ抹消セラレタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモノト看做サル而シテ其記載ナキモノト看做セラレタル裏書カ裏書ノ當事者タルト其他ノ手形債務者タルトニ依リテ其效力ヲ異ニスルモノト爲ス法律上ノ根據アルコトナキモノトス(東京地一五年法二六四一號八頁)
- 五 抹消ノ權利ヲ有セサル者ニ依リテ爲サレタル手形ノ記載ノ抹消ハ手形債務ニ何等ノ影響ヲ及ボササルモノトス(大審一三年評論一三卷商法一三〇頁)

◎裏書ノ抹消ニ關スル舉證責任

- 一 手形ノ裏書欄ニ被裏書人トシテ記載セラレタル株式會社辛酉銀行ナル記載ノ上ニ取消ナル消印押捺セラレ抹消シアルコトハ

原審ノ確定セル事實ニシテ本件手形ノ裏書人ハ反證ナキ限り一應其ノ抹消シアル現在ノ狀態ニ於テ裏書ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トスヘキカ故ニ前記抹消ハ裏書人ニ於テ本件手形ノ裏書交付前ニ爲サレタルモノト認定セサルヘカラス然ルニ原審ハ所論摘録ノ如ク判示シ前記抹消ハ其ノ權限アルモノニ於テ爲シタルコトノ證據ナキノ故ヲ以テ本件裏書ヲ記名裏書ナリト判定シ此ノ點ニ關スル上告人ノ主張ヲ排斥シタルハ明ニ舉證責任ニ關スル法則ニ違背セル不法アルモノトス(大審昭和二年法二六七九號一三頁、報一〇八號一四頁)

二 白地裏書アル手形ノ所持人ハ其裏書カ最後ノ裏書人マテ形式的ニ連續スルトキハ手形債務者ニ對シ其手形ノミヲ以テ有效ニ之カ權利ヲ行使シ得ヘキコトハ商法第四六四條第一項第四五七條第二項第五二九條第五三七條ノ規定ニ徴シ明白ナルヲ以テ手形債務者ニ於テ或裏書ノ真正ニ成立シタルコトヲ否認シ從テ手形所持人カ正當ノ權利者ニアラサルコトヲ主張スルニハ須ラク之カ立證ヲ爲スコトヲ要スルモノトス(大審一〇年法一八四四號二二頁)

三 約束手形ノ裏書欄ニ於ケル被裏書人ノ氏名ノミ抹消シアルトキハ其抹消ハ裏書カ手形ノ裏書交付前ニ爲シタルモノト推定スヘキモノトス(大審昭和二年民二四三頁)

四 鉛筆ニ依ル裏書ノ抹消ト雖直ニ之ヲ無効トナスヘキ理由無キヲ以テ特ニ之ヲ無効トスル反證ナキ限り其抹消ハ有效ナルモノ

- トス(東京地一五年評論一五卷商法二六一頁)
- 五 裏書抹消事實ト立證責任(續商法一〇九〇頁)
- ◎白地手形ニ於ケル事實ノ推定(第二續商法四五七條)

第三節 引 受

第四百六十五條(引受ノ呈示)

所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求めルコトヲ得

◎手形ノ引受ニ關スル諸問

- ◎引受ノ意義及要件(續商法一〇九〇頁)
- ◎即時引受ノ原則(續商法一〇九〇頁)
- ◎一覽拂爲替手形ニ引受ヲ認ムルヤ(續商法一〇九一頁)
- ◎満期日以後ニ引受ヲ要求シ得ルヤ(續商法一〇九一頁)
- ◎引受人ト振出人トノ關係(續商法一〇九一頁)
- ◎手形債務ノ發生ト對價又ハ資金關係(第二續商法四三五條)
- ◎手形行爲ノ獨立性ト其ノ適用(第二續商法四三五條)

- ◎引受ノ呈示ハ所持人ノ權利ナリ(續商法一〇九〇頁)
- ◎手形ノ呈示ニ關スル諸問(第二續商法二七九條、同四八二條)
- ◎引受ニ關スル諸問(第二續商法四六八條)

◎手形ノ引受ト民法百八條トノ關係

一 手形ノ引受ハ支拂人ノ爲ス單獨行爲ニシテ所持人ト支拂人トノ間ノ契約ニ非サルカ故ニ自己宛手形ニ付振出人カ支拂人トシテ受取人タル者ニ之ヲ交付スル以前ニ於テ引受ヲ爲シタリトスルモ同一ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理人ト爲リタルモノト謂フヲ得ス(東京地一〇年評論一〇卷商法六六六頁)

二 民法第一〇八條カ同一ノ法律行爲ニ付其ノ相手方ノ代理人トナルコトヲ得サル旨ヲ規定シタルハ利害相反スル地位ニ在ル相手方ニ對シ其ノ效果ヲ發生セシムルコトヲ防過セント爲シタルニ因ルモノナルカ故ニ爲替手形ノ振出ニ於テ振出人ノ支拂人ニ對スル支拂ノ委託ハ單ニ形式的要件ニ止リ支拂人ハ之カ爲何等拘束ヲ受クルモノニ非サレハ民法第一〇八條ヲ適用スルノ餘地ナク又引受ハ振出行爲ト全然相獨立スル別個ノ法律行爲ナルヲ以テ亦同條ノ支配ヲ受クルモノニ非サルモノトス(東京控一四年評論一四卷商法一九八頁)

◎代理人ノ手形引受ト民法第一百十條

一 爲替手形ノ引受カ支拂人ノ代理人ニ依リテ爲サレ而モ其ノ引受ハ代理人カ其ノ權限ヲ踰越シテ爲シタルモノナル場合ニ於テ引受ヲ求メタル手形所持人カ右代理人ニ付引受ヲ爲スヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由アルトキハ其ノ引受ハ民法第一百十條ノ規定ニ從ヒ有效ナルコト論テ俟タス而シテ右引受ニシテ有效ナル以上ハ爾後ノ手形所持人モ亦引受ノ有效ナルコトヲ主張シ引受人ニ對シテ手形債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノト云ハサルヘカラス蓋爲替手形ノ引受ハ支拂人カ手形ノ文言ニ從ヒ手形金額ヲ支拂フヘキ債務ヲ負擔スル行爲ナレハ一旦有效ニ成立シタル引受ハ爾後手形ノ轉讓ニ依リテ其ノ效力ヲ異ニスヘキ理由ナキヲ以テナリ(大審一二年民四三六頁、法二一六二號二〇頁、評論一二卷商法二七九頁)

二 原判決ニ依レハ本件爲替手形ノ引受ハ被上告銀行ノ取締役馬場太兵衛ノ養子令太郎カ太兵衛ノ名義ヲ以テ爲シタルモノニシテ右令太郎ハ被上告銀行堅田支店ニ於テ太兵衛ノ署名判及取締役ノ印ヲ保管シ之ヲ使用シテ同支店ニ於ケル一切ノ行務ヲ執行スル權限ヲ有シタルモ村井久太郎ニ金融ヲ爲スコト即本件手形ノ引受ヲ爲ス如キコトハ豫メ太兵衛ヨリ禁止セラレ居タルモノニシテ令太郎ハ代理權限ヲ踰越シテ本件手形ノ引受ヲ爲シタ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎一覽後定期手形ノ意義(續商法一〇九二頁)
- ◎一覽後定期拂手形ノ呈示ノ性質(續商法一〇九二頁)

第四百六十七條(一覽後定期拂手形ノ引受拒絕)

所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セザリトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

引受人カ引受ノ日附ヲ記載セザリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

◎一覽後定期拂手形ト拒絕證書ノ作成(續商法一〇九二頁)

二頁)

リト云フニ在リ果シテ然ラハ村井久三郎カ手形ノ引受ヲ求メタル際久三郎ニ於テ令太郎カ引受ヲ爲スヘキ權限アリト信スヘキ正當ノ理由アリタルニ於テハ右引受ハ前段ニ說示スルカ如ク有效ニシテ從テ村井久三郎ヨリ裏書讓渡ヲ受ケタル上告人ハ被上告銀行ニ對シ本件請求ヲ爲スノ權限アリト云ハサルヘカラス然ルニ原院ハ令太郎カ太兵衛ノ代理人トシテ爲シタル本件手形ノ引受カ有效ナリヤ否ヤノ事實ヲ確定セス漫然上告人ハ被上告人ニ對シ引受ヲ求メタル者ニ非サレハ民法第一百十條ニ關スル主張ヲ許ササルモノトシ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ不當ニシテ上告論旨ハ其ノ理由アルモノトス(同上)

◎代理人ニ依ル手形ト民法第一百十條(第二續商法四三六條)

第四百六十六條(一覽後定期拂手形ノ呈示)

一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十八條〔引受ノ方式〕

引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス
支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス

◎引受ニ關スル諸問

- ◎荷爲替手形ノ引受又ハ支拂ノ效力(續商法一〇六〇頁)
- ◎共同代表ニ於ケル手形行爲ノ方式(第二續商法四四五條)
- ◎引受ハ手形又ハ復本ニ之ヲ爲ス(續商法一〇九二頁)
- ◎判決ヲ以テ引受ニ代フルコトヲ得ルヤ(續商法一〇九三頁)
- ◎電報又ハ口頭ヲ以テスル引受ノ效力(續商法一〇九二頁)
- ◎手形引受豫約ノ要件(續商法二四七頁)
- ◎引受ニ關スル諸問(第二續商法四六五條)

◎白地手形ニ爲シタル引受ノ效力

一 爲替手形ノ振出人ハ白地手形ヲ振出スト同時ニ後日手形ノ要件ヲ補充セラレタルトキ引受人トシテ手形債務ヲ負擔スル意思

ヲ以テ白地手形ニ引受人トシテ署名スルコト即白地引受ヲモ爲シ得ヘキモノトス(大審一〇年民一六九三頁)

二 手形ニ署名シタル者ハ其文言ニ從ヒ責任ヲ負フヘキモノナルヲ以テ爲替手形ニ引受署名ヲ爲シタル支拂人ハ其資格ニ於テ手形記載ノ金額ノ支拂ヲ爲ス責任スヘキモノニシテ白地手形ノ引受ノ有效ナルコトハ商慣習法上認メラルル所ナルヲ以テ未ダ手形ノ要件完備セサル手形用紙ニ豫メ支拂人トシテ引受署名ヲ爲シタル者ハ後日其要件補充セラレタルトキハ其補充ノ文言ニ從ヒ責任ヲ負擔スヘキモノトス(大審一五年民八四四頁、評論一六卷商法一三三頁)

三 爲替手形成立ノ要件ヲ缺キタル所諸白地手形又ハ一ノ紙片ニ引受人トシテ署名捺印シタル者カ將來右手形カ正當ナル補充權限アル者ニ依リ補充セラレ其要件ヲ具備シ手形トシテ成立シタル場合ニ於テ其記載スル所ニ從ヒ手形債務ヲ負擔スルノ意思ヲ有シタルコトヲ認メ得ヘキトキハ後日正當權利者ニ依リ其要件カ具備セラレ手形トシテ有效ニ成立スルニ至リタルトキハ之ト同時ニ右引受行爲モ完全ニ其效力ヲ生スルモノト解スルチ相當トス(大審一五年評論一六卷商法一五頁)

◎爲替手形ノ略式引受

四 白地引受(振出前引受)ノ效力(續商法一〇九四頁)
◎白地手形ヲ補充スヘキ時期(第二續商法四三五條)

商法第四百六十八條第二項ニ「支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ引受ヲ爲シタルモノト看做ス」ト規定シタルハ普通支拂人カ爲替手形ニ署名スルハ引受ヲ爲スノ意思ニ出タルモノナルニヨリ假令引受ヲ爲ス旨ノ記載ヲ爲ササルモ略式引受トシテ其ノ效力ヲ生スル旨ヲ定メタルモノニ外ナラサレハ本件ニ於テ原院ノ認定シタルカ如キ上告銀行ヨリ取立ノ委任ヲ受ケタル銀行カ引受ヲ求ムル爲ニ手形ヲ被上告人等ニ呈示シタルニアラス支拂人タル被上告人等モ亦引受ヲ爲ス意思ニアラスシテ單ニ手形ヲ閱覽シタル趣旨ノ下ニ記名捺印ヲ爲シタル場合(次項「引受欄ノ押印ト引受ノ意思」參看)ハ同條ニ依リ其ノ效力ヲ定ムヘキモノニアラス(大審一二年民一五八頁)

◎非支拂人ノ署名ト略式引受

店判並名前判等ヲ押捺シテ銀行ニ返還スル旨ノ慣習行ハレ當事者等モ亦此ノ慣習ニ基キ叙上ノ如キ記名捺印ヲシタルモノニシテ眞實手形ノ引受ヲ爲スノ意思ナカリシ旨ヲ判斷シタルハトテ之ヲ以テ手形ノ引受ニ關スル法則ノ適用ヲ誤リタル不法ナリト謂フヘカラサルト同時ニ叙上ノ如キ慣習ハ毫モ公序良俗ニ反スルコトナキヲ以テ不法ナル地方慣習ニヨリ引受ノ效力ヲ減却シタル不法アリト謂フヘカラサルモノトス(大審一二年民一五七頁、評論一二卷商法八八頁)

◎引受欄ノ押印ト引受ノ意思

爲替手形ノ各引受欄内ニ名前判ヲ押捺シ其ノ名下ニ調印ヲ爲シタルハ果シテ引受ヲ爲スノ意思ニ出テタルヤ否ヤヲ判定スルニ當リ從來福井縣鯖江町地方ニハ生絲生産地方ヨリ委託販賣ノ爲メ生絲ヲ荷爲替ニテ送附シ來リタル場合ニ爲替手形ノ取立委任ヲ受ケタル同町所在ノ銀行ハ荷受人即チ支拂人ニ對シ手形カ廻付シ來リタルコトヲ通知スル爲ニ手形ヲ示シ支拂人ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル印トシテ手形ノ空白(多クハ引受欄ノ空白)ニ

第四百六十九條〔單純ナラサル引受〕

支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲ササ

リシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

◎不單純引受ノ意義及效力(續商法一〇九四頁)

第四百七十條(引受ノ效力(一))

支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎引受人ノ債務免除ト振出人及裏書人(第二續商法四八六條)
- ◎手形行爲ノ獨立性ト其ノ適用(第二續商法四三五條)
- ◎手形債務ノ發生ト對價又ハ資金關係(第二續商法四三五條)
- ◎手形行爲ニ關スル錯誤ノ存否(補遺四三五條)

◎爲替手形ノ引受ノ效力

爲替手形ノ引受ハ支拂人カ手形ノ文言ニ從ヒ手形金額ヲ支拂フ

ヘキ債務ヲ負擔スル行爲ナレハ一旦有效ニ成立シタル引受ハ爾後手形ノ轉讓ニ依リ其效力ヲ異ニスルコトナキモトス(大審院二年評議一〇二卷商法二七九頁)

第四百七十一條(引受ノ效力(二))

引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲サリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

【準用條文ノ要點】

第四百九十一條——所持人ノ償還請求金額
第四百九十二條——裏書人ノ償還請求金額

◎本條ニ關スル諸問

- ◎償還請求ト法定利息ノ起算日(第二續商法四九一條)
- ◎本條ニ關スル諸問(第二續商法四九一條、同四九二條)

◎モラトリアム實施期間中ノ利息

合回發布相成タル支拂猶豫令ノ趣旨ハ金錢債務ノ内容ヲ變更シタルモノニアラサルヲ以テ利息附ノ債務ハ猶豫期間後モ同様ノ利息ヲ生シ無利息債務ハ猶豫期間内利息ヲ生スルコトナシ支拂猶豫ハ手形ノ滿期日ヲ變更スルノ效力ヲ生セス從テ手形債權者ハ債務者ニ對シ滿期日以後保存行爲猶豫期間内ニ手形ノ支拂ヲ請求シ債務者其支拂ヲ拒ミタル時ハ拒絕證書ヲ作成シ商法第四百七十一條及第四百九十一條ノ規定ニ依リ手形ニ記載シタル滿期日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得ヘク支拂猶豫期間滿了ノ時ニ於テ支拂ノ拒絕アリタル爲償還請求ヲ爲ス場合ニ於テモ前段ノ趣旨ニ依リ滿期日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(商工省問合司法省回答、法二六九一號一七頁)

スル手形上ノ權利ヲ失フ

◎支拂擔當者ニ關スル諸問

- ◎本條ハ同地拂手形ニモ適用アリヤ(續商法一〇九五頁)
- ◎支拂擔當者ニ關スル諸問(續商法一〇六八頁)

第四百七十三條(支拂人ト支拂場所ノ記載)

支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

- ◎支拂人ノ支拂場所記載ノ性質(續商法一〇九六頁)
- ◎支拂場所ノ記載シアル手形ト本條(續商法一〇九六頁)
- ◎支拂場所ニ關スル諸問(第二續商法四五四條)

第四百七十二條(支拂擔當者ノ記載)

振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セザリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セザリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ其前者ニ對

第四節 擔保ノ請求

第四百七十四條 (擔保請求ノ要件)

支拂人方爲替手形ノ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得。支拂人方手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得。

◎擔保ノ請求ニ關スル諸問

- ◎引受拒絕ノ意義 (續商法一〇九六頁)
- ◎相當擔保ノ意義 (續商法一〇九七頁)
- ◎擔保請求權ハ手形上ノ權利ナリヤ (續商法一〇九六頁)
- ◎擔保請求權ト償還請求權トノ關係 (續商法一〇九六頁)
- ◎擔保請求權行使ノ順序 (續商法一〇九七頁)
- ◎擔保附ノ手形債權ト其行使 (續商法一〇九七頁)

第四百七十五條 (引受拒絕證書ノ作成)

拒絕證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得。

第四百七十八條 (擔保ノ效力)

前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス。

◎擔保供與ノ效力 (續商法一〇九八頁)

第四百七十九條 (擔保ノ消滅スル場合)

左ノ場合ニ於テハ第四百七十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スルコトヲ得。
一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ
二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ
三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ
四 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタル

爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス。

◎引受拒絕證書ニ關スル諸問

- ◎引受拒絕證書作成ノ時期 (續商法一〇九七頁)
- ◎引受拒絕證書作成免除ノ效力 (續商法一〇九七頁)
- ◎拒絕證書ニ關スル諸問 (第二續商法四八七條、同五一五條)

第四百七十六條 (裏書人ノ擔保請求權)

擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得。

◎相當擔保ノ意義 (續商法四七四條)

第四百七十七條 (擔保義務者ノ責任)

前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク引受

トキ
五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ滿期日ヨリ一年內ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ

◎擔保ノ消滅ニ關スル諸問

- ◎手形ノ時効消滅ト擔保物ノ返還 (續商法一〇九八頁)
- ◎豫備支拂人ノ引受ト擔保ノ失效 (續商法一〇九八頁)

第四百八十條 (引受人ノ破産ト擔保ノ請求)

引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス。
豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス。

◎本條ニ關スル諸問

- ◎破産宣告ト手形ノ満期日(續商法一〇九八頁)
- ◎引受人ノ破産ト所持人ノ權利(續商法一〇九八頁)
- ◎參加引受人ノ破産ト擔保請求權ノ有無(續商法一一二五頁)

第四百八十一條(前者供與ノ擔保ノ消滅)

左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

- 一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ
- 二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ
- 三 第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第五節 支拂

第四百八十二條(支拂ノ呈示)

一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期

フトアルハ畢竟償還請求權ヲ失フトノ趣旨ニ外ナラサルヲ以テ所持人ノ振出人ニ對スル權利ハ該規定ニ依リ喪失スルモノニ非ス(菰淵學士評論一卷商法三九七頁)

◎白地補充前ノ手形呈示ノ效力

- 一 受取人ノ表示ノ未タ補充セラレサル手形ノ呈示ハ適法ナル支拂ノ爲メノ呈示タル效力ナキモノナレトモ該手形ノ白地ヲ補充シテ之ヲ法廷ニ於テ相手方ニ呈示シタル事實アル以上ハ此日ヲ以テ適法ノ呈示アリタルモノト認ムヘキモノトス(大阪地一一年評論一卷商法一八四頁)
- 二 凡白地手形ハ其ノ補充前ハ未タ以テ之ヲ手形ト稱スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ斯ルモノヲ呈示シテ支拂ヲ求ムルモ之ヲ適法ナル呈示アリタリト云フヲ得ス此目的ノ爲メニスル呈示ハ補充後ニ於テ始メテ有效ニ之ヲ爲シ得ルモノトス(東京控九年法一八二三號一九頁)
- 三 白地裏書ニ依リ手形ヲ取得シタル者ハ自己ノ氏名ヲ被裏書人トシテ記載スルト否トハ其任意トスル所ナルヲ以テ之ヲ補充セサレハトテ所持人ノ權利ニ何等ノ消長ヲ來タスモノニ非サルカ故ニ所持人カ裏書ニ被裏書人ノ氏名ヲ補充セスシテ手形ヲ呈示シ拒絕證書ノ作成ヲ爲スモ無効ニアラサルモノトス(東京控一二年評論一二卷商法一一四頁)

間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎手形ノ支拂ニ關スル諸問(續商法一〇九九頁)
- ◎手形ノ呈示ニ關スル諸問(續商法一一〇〇頁、第二續商法二七九條、同四八七條)
- ◎手形ノ裁判上請求ト付遲滯(第二續商法二七九條)

◎一覽拂手形ノ意義

一覽拂手形トハ一覽次第又ハ御請求次第或ハ御呈示次第支拂申スヘシトノ記載アル手形ヲ謂フモノトス(菰淵學士評論一卷商法三九六頁)

◎第二項ニ所謂權利ヲ失フノ意義

商法第四八二條第二項ノ規定中前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失

◎白地手形ヲ補充スル時期(第二續商法四三五條)

第四百八十三條(支拂ノ方式)

支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

◎手形ノ引換ニ關スル諸問

- ◎手形金請求ノ訴ト引換支拂ノ申立(續商法一一〇二頁)
- ◎手形引換後ニ於ケル手形金請求ノ當否(續商法一一〇二頁)
- ◎手形金ノ強制執行ト手形ノ引換(商法二五四頁)
- ◎除權判決ノ場合ト手形ノ引換(續商法一一〇二頁)
- ◎手形ト引換サル手形金支拂ノ效力(續商法一一〇二頁)
- ◎形式ノ調査ヲ怠リタル支拂ノ效力(續商法一一〇二頁)
- ◎手形金ノ支拂錯誤ト民法七〇七條(續商法一一〇三頁)
- ◎誤信ニ基ク手形金ノ支拂ノ效力(續商法一一〇二頁)

◎缺席ニ因ル手形交換ノ不能ト支拂拒絕

手形交換所ノ加入者カ手形交換所ニ出席セスシテ之カ爲メ手形ノ交換カ不能ト爲リタル場合ニ於テモ又手形ノ支拂ノ拒絶アリタルモノト言フヘク單ニ加入者カ手形交換所ニ出席シテ手形ノ支拂ヲ爲ササル旨ノ表意ヲ爲シタル場合ノミチ支拂拒絶ト言フヘキモノニ非ス(東京區昭和二年法二七八七號一二頁)

◎手形ノ燒失ト手形金ノ請求權

手形上ノ權利義務ハ手形ト分離シテ存在セサルモノナルヲ以テ手形上ノ權利ハ除權判決アリタル場合ノ外手形ノ所持ナクシテ之ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス然リ而シテ被控訴人ハ大正一二年九月一日本件手形ヲ燒失シ現ニ之ヲ所持セス而モ該手形ニ付無効宣言ノ爲メ公示催告ノ申立ヲ爲ササルコトハ被控訴人ノ自認スルトコロナルヲ以テ被控訴人ノ本訴請求ハ失當ナリ(東京控一三年法二三六〇號四頁)

◎手形債權ノ相殺ト手形ノ交付

一 手形債權者カ手形債權ニ付相殺ヲ主張スルニハ手形ノ交付ヲ要シ單純ナル意思表示ノミニ依リテハ相殺ノ效力ヲ生スルモノニ非ス從テ假ニ被告カ原告ニ對シ右ノ如キ手形債權ヲ有スルモ小切手ノ交付ヲ伴ハサル相殺ノ意思表示ハ其效力ナキモノトス

- (東京地昭和三年報一四七號一八頁)
- 二 手形債權ニ對スル相殺(第二續民法六〇二頁)
- 三 手形債權ニ對スル相殺(續商法一一〇三頁)

◎手形債務ノ消滅ト手形ノ回收

手形金ノ支拂ニヨリテ手形債務ヲ消滅セシムルニハ全部支拂ノ場合ニハ手形ヲ回收スヘシ一部支拂ノ場合ニハ其ノ旨チ手形ニ記入セシメサルヘカラス否ラサレハ全然効ナシト云フモ當事者間ニ於テハ此ノ手續ヲ採ラサルモ支拂ノ效果アリ唯斯ノ手續ヲ採ラサル時ハ後日其ノ手形カ善意ノ取得者ノ手ニ渡リ手形債務者ハ再ヒ手形金ノ支拂ヲ爲ササルヘカラサル危險アルニ過キス從テ手形ヲ回收シ又ハ一部支拂ノ旨チ手形ニ記入セシメサル以上ノ當事者間ニ於テモ全然手形金支拂ノ效果生セサルモノトシ以テ斯ノ如キ場合ニハ消費貸借成立ノ要件タル現物授受ノ效果ナシト論スルカ如キハ當ラサルモノトス(大審一五年評論一六卷商法二三六頁)

◎手形債務ナキ事ヲ知リタルノ立證

一 上告人ヨリ最後ノ被裏書人タル被上告人(被控訴人)先代廣作ニ對スル本件手形金債務ノ不存在チ上告人カ其ノ支拂ノ當時

知ラサリシ事實ハ上告人ニ之カ立證ノ責任ナク被上告人ニ於テ上告人カ其ノ當時右債務ノ不存在チ知リタルコトヲ主張シ且立證セサル限リ上告人ハ其ノ不存在チ知ラサリシモノト認メラルヘキモノトス(當院明治四十年(オ)第二十號同年二月八日第二民事部判決參照)而シテ上告人カ支拂ノ當時裏書ノ連續ヲ缺ケルコトヲ知レル事實ノミニ依リテハ上告人カ同時ニ債務ノ不存在チ知リタル事實ヲ認ムルニ足ラサルナリサレハ原審カ右ノ支拂アリタル事實及裏書ノ連續ヲ缺ケル事實ヲ確定シナカラ其ノ支拂ノ當時上告人カ債務ノ不存在チ知リタル事實ヲ確定スルコトナク只「裏書ノ連續ヲ缺ケルコトヲ知ラスシテ手形金ノ支拂ヲ爲シタリト」控訴人ノ主張ハ到底是認シ難シ從テ控訴人カ債務ノ存在セサルコトヲ知ラスシテ給付ヲ爲シタリトノ事實ヲ前提トシ其ノ給付シタル手形金ノ返還ヲ求ムル本訴請求ハ失當ニシテト説示シテ上告人ノ請求ヲ排斥シタルハ違法ナリトス(大審昭和三年法二八五七號一五頁)

◎一部支拂ニ關スル諸問

- ◎約束手形ニ對スル一部支拂(商法二五五頁)
- ◎一部支拂ヲ拒絶シタル制裁(續商法一一〇三頁)
- ◎一部償還ト引換書類ノ交付(續商法一一一八頁)
- ◎一部償還ニ對スル全部裏書ノ效力(續商法一一一八頁)
- ◎一部支拂後ノ手形ノ效力(續商法一一三三頁)
- ◎寫本ノ意義(續商法一一〇三頁)
- ◎第二項ノ手續ヲ缺ク支拂ノ效力(續商法一一〇三頁)

第四百八十五條(支拂請求ナキ場合ト供託)

爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

◎本條ノ實用有無(續商法一一〇四頁)

第四百八十四條(一部支拂ノ方式)

手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキト雖モ所持人ハ其一部ハ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス

第六節 償還ノ請求

第四百八十六條 (償還請求ノ要件 (一))

支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲サリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

- ◎償還請求ノ手續 (商法二五五頁)
- ◎手形讓受人ノ償還請求權 (商法二五五頁)
- ◎償還請求權行使ト選擇週及 (續商法一一〇四頁)
- ◎擔保請求權ト償還請求トノ關係 (續商法一一〇九六頁)
- ◎受取人及被裏書人ト請求ノ原因 (商法二五五頁)
- ◎裏書抹消ノ手續ト償還請求權 (商法二五六頁)
- ◎參加引受人又ハ豫備支拂人アル場合ノ償還請求權 (續商法五〇八頁)
- ◎償還義務ノ履行カ手形金ノ立替カ (續商法一一〇四頁)
- ◎手形ノ不渡ト原債權請求ノ慣習 (第二續民法一一〇二頁)

◎本條ニ所謂前者ノ意義

- 一 約束手形ノ振出人ハ爲替手形ノ引受人ト同シク絶對的ニ手形金額ヲ支拂フヘキ債務ヲ負擔スルモノナレハ償還義務者ニ非ス從テ商法第五二九條ニヨリ約束手形ニ準用セラルル同第四八六條第四八七條ニ所謂前者中ニハ約束手形ノ振出人ヲ包含セサルモノトス (大審一三三九七頁、法二二四七號一九頁)
- 二 本條ニ所謂前者ノ意義 (續商法一一〇四頁)

◎横線小切手ト償還請求ノ適否

横線小切手ノ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スヘク其他ノ者ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ得サルト同時ニ銀行ノミヨリ其ノ支拂ヲ求メ得ルモノナルコトハ商法第五百三十五條第一項ノ規定上疑ヲ容レザル所ナリトス然ラハ右原告ノナシタル支拂要求ハ法律ノ規定ニ違背スル無効ノモノト謂フヘク從テ之ニ對スル支拂人ノ支拂拒絕ノ理由トシテ償還請求ヲ爲シ得ヘキ限リニ非ス (東京地一三三九七頁、法二二四七號一九頁)

◎引受人ノ債務免除ト裏書人及振出人

ル手形上ノ權利ヲ失フ

◎償還請求ニ關スル諸問

- 一 爲替手形ノ引受人ハ主タル債務者トシテ手形金ノ支拂ヲ爲スヘキ絶對的債務ヲ負擔スルモノナルヲ以テ引受人カ手形ノ所持人ニ對シ現實ニ手形金ノ支拂ヲ爲シ又ハ所持人ヨリ之カ債務ノ免除ヲ受ケタルトキハ手形ニ署名シタル振出人裏書人等ノ債務ハ總テ消滅ニ歸スルモノト云ハサルヘカラス蓋此等ノ者ハ孰レモ引受人ノ手形債務ノ存在ヲ前提トナシ即チ引受人カ手形金ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ初メテ償還義務ニ服スル所謂從タル債務者ニ過キサレモノナレハ主タル債務ノ消滅シタルニ拘ラス從タル債務ノニ殘存スル理由ナケレハナリ (大審一三三九七頁)
 - 二 爲替手形ノ引受人カ所持人ヨリ之カ債務ノ免除ヲ受ケタルトキハ該手形ニ署名シタル振出人裏書人ノ債務ハ總テ消滅ニ歸スルモノトス (島賀陽博士評論一三卷商法六三五頁)
- ◎手形行爲ノ獨立性ト其ノ適用 (第二續商法四三三五條)

第四百八十七條 (償還請求ノ要件 (二))

所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但此期間ニハ休日ヲ算入セス
所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲サリシトキハ其前者ニ對ス

◎手形ノ呈示ニ關スル諸問

- ◎手形ノ呈示ニ關スル諸問 (第二續商法二七九條)
- ◎手形ノ呈示ハ所持人ニ專屬ス (第二續商法五一五條)

- ◎ 缺席ニ因ル手形交換ノ不能ト支拂拒絕(第二續商法四八三條)
- ◎ 手形ノ裁判上請求ト付遲滞(第二續商法二七九條)
- ◎ 手形ノ不渡處分ニ關スル慣習(第二續商法一條)
- ◎ 手形ノ呈示ヲ免除スルコトヲ得ルヤ(續商法一一〇〇頁)
- ◎ 支拂場所不明ノ場合ト呈示ノ要否(續商法一一〇二頁)
- ◎ 支拂場所ノ燒失陷落等ト呈示ノ場所(續商法一一〇二頁)
- ◎ 手形交換ノ場合ト呈示ノ時期(續商法一一〇〇頁)
- ◎ 數人ノ支拂人ト一人ニ對スル呈示(續商法一一〇二頁)
- ◎ 他所拂手形ノ呈示ト拒絕證書(商法二五〇頁)
- ◎ 拒絕證書作成期間ト不可抗力(續商法一一〇七頁)
- ◎ 違法拒絕證書ニ依ル償還請求ノ效力(續商法一一〇七頁)
- ◎ 手形呈示ノ立證方法(商法二五七頁)

◎ 手形ノ滿期日ト休日トノ關係

- 一 商法第四八七條ノ規定ハ小切手ニ準用セララルコト法文上明白ナルヲ以テ同條第一項ノ規定ニ依リ小切手ノ呈示期間ニ休日アルトキハ之ヲ算入セサルコトトナリ結局小切手ノ呈示期間ハ其休日ノ數丈延長セララルモノト解スルチ相當トス(東京控一一年法二〇一〇號一九頁)
- 二 滿期日ト休日トノ關係(續商法一一〇六頁)
- 三 拒絕證書作成期間ト休日ノ除外(續商法一一〇七頁)

- 一 約束手形ノ所持人カ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メントシタルモ振出人ニ於テ滿期日ニ支拂場所ニ出頭セザリシ爲メ現實ニ呈示スルコト能ハサリシ場合ニハ法律上滿期日ニ適法ニ呈示シテ支拂ヲ求メタルモ其拒絕アリタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス(東京控一二年評論一三卷商法九九頁)
- 二 出會不能ト呈示(續商法八八頁)
- 三 面會不能ト呈示ノ完了(商法二五七頁)
- 四 手形ノ呈示不能ト時効中斷(第二續商法四四三條)

◎ 支拂呈示ノ免除ノ效力

- 一 支拂呈示ノ免除ニ關シテハ手形法上何等規定スル所ナキヲ以テ手形ノ呈示ノ免除ノ特約ハ手形法上ノ效力ヲ生セサルコト論ヲ俟タサル所ニシテ單ニ直接當事者間ニ有效ナルニ止リ當事者以外ノ第三者ニ對シ其效力ヲ生スルコトナキモノトス(大審一四年評論一五卷商法一三頁)
- 二 支拂呈示免除ノ特約ヲ爲シタル手形上ノ權利者ヨリ手形ノ裏書ヲ受ケタル者ハ其ノ裏書カ支拂拒絕證書作成期間經過後ナルト將其ノ前ナルトナ問ハス均シク斯ル特約ニ基ク效力ヲ主張シ得サルモノトス(同上)

第四百八十七條ノ二(償還請求ノ通知)

第二續商法 手形 爲替手形 償還ノ請求 四八七條

四八七條ノ二

一八六一

◎ 支拂延期令ノ適用範圍

- 一 荷モ大正十二年九月一日以降同年同月三十日迄ノ間ニ爲サルヘキ權利保存ノ行爲ナル以上之ニヨリテ保存セララルヘキ權利關係カ大正十二年九月一日以前ニ發生シタルヤ否ヤ從テ手形ニ付テ大正十二年九月一日以前ノ振出ニ係ルヤ否ヤハ之ヲ問ハス凡テ大正十二年勅令第四百四號ノ支拂延期令ノ適用アルモノトス(本件小切手ハ大正十二年九月三日ノ振出ニ係ル)(東京地昭和二年法二六六三號一二頁、報一〇四號一七頁)
- 二 支拂拒絕證書ノ作成ハ手形上ノ權利ノ保存行爲ニ屬スルチ以テ此ノ保存行爲ヲ爲スヘキ期間カ延長セララル以上ハ支拂拒絕證書ノ作成期間モ當然延長セララルモノト解セサルヘカラス而シテ大正十二年勅令第四百號同第四百二十九號ニ依レハ手形ニ關シ大正十二年九月一日以降同月三十日迄ノ間ニ於テ爲スヘキ保存行爲ノ期間カ六十日間延長セララルコト明ナルチ以テ支拂拒絕證書作成期間モ亦之ト同一ニ延長セララルモノトス(大審一五年報九七號一六頁)

◎ 出會不能ト手形呈示ノ完了

前條第一項ノ場合ニ於テハ所持人ハ其直接ノ前者ニ對シ拒絕證書作成ノ日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

◎ 償還請求通知ニ關スル諸問

- ◎ 償還請求通知ノ意義(商法二五八頁)
- ◎ 償還請求通知ノ性質(商法二五八頁)
- ◎ 支拂擔當者ノ支拂拒絕ト通知義務(續商法一一〇九頁)
- ◎ 償還請求通知ノ方式(續商法一一〇八頁)
- ◎ 執達吏ニ依嚙セル償還請求通知(續商法一一〇九頁)
- ◎ 償還請求通知「發送」ノ意義(商法二五八頁)
- ◎ 償還請求通知ト發信主義(商法二五八頁)
- ◎ 償還請求通知ノ發送期間(商法二五九頁)
- ◎ 拒絕證書ノ免除ト償還請求權通知期間(續商法一一〇九頁)
- ◎ 拒絕證書作成ノ「翌日」ノ意義(商法二五九頁)
- ◎ 拒絕證書ニ關スル諸問(第二續商法五一四條以下)
- ◎ 償還請求通知ト日限(商法三六〇頁)
- ◎ 休日ト償還請求ノ通知(續商法一一〇九頁)
- ◎ 特別代理人ニ對スル償還請求通知(商法三六〇頁)

◎代表者ノ記載ナキ償還請求通知

- 一 會社ノ償還請求通知書ニハ單ニ株式會社何某銀行何某支店ト記載シアレハ足り必スシモ其代表者ノ氏名ヲ記載スルノ要ナシ (名古屋控一一年法二〇二二號一六頁)
- 二 會社名義ノ償還請求通知 (商法二六〇頁)

◎償還請求通知ノ適否ト其ノ效力

- ◎償還請求通知ト前者ニ對スル效力 (續商法一一〇九頁)
- ◎拒絕證書作成前ノ償還請求通知ノ效力 (續商法一一〇八頁)
- ◎書留郵便ニ依ル通知ノ證據力 (續商法一一〇九頁)
- ◎確定日附ナキ償還請求通知ノ效力 (商法二六二頁)
- ◎償還請求通知ト手形ノ呈示 (商法二六二頁)
- ◎期間後ノ償還請求通知ノ效力 (續商法一一〇八頁)
- ◎償還請求通知義務違反ノ制裁 (續商法一一〇九頁)
- ◎二箇ノ償還請求ト一時再理 (商法三六〇頁)
- ◎償還請求通知ノ有無ト職權調査 (續商法一一〇九頁)

◎償還請求通知懈怠ノ效果

- 一 償還請求通知ノ欠缺ハ單ニ利息費用ノ請求權ノ喪失若ハ損害

ヲ發スルコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎再償還請求ノ意義及要件 (續商法一一一〇頁)
- ◎裏書人ノ償還請求權 (商法二六二頁)
- ◎受取人ノ振出人ニ對スル手形上ノ權利 (商法二六二頁)
- ◎再償還請求ニ代ル普通償還請求 (續商法一一一〇頁)
- ◎免責又ハ禁轉裏書人ト通知ノ要否 (續商法一一一〇頁)

第四百八十八條ノ二 (償還請求通知ノ效果)

所持人又ハ裏書人カ其直接ノ前者ニ非サル前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發シタルトキハ其後ノ後者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任シ且利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フ

所持人又ハ裏書人カ其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セザリシトキハ其前者全員ニ對スル權利義務ニ付キ前項ノ規定ヲ準用ス

賠償ノ義務發生ノ原由タルコトアルニ止マリ其ノ通知ハ前者ニ對スル手形上ノ權利保全ノ要件ニアラサルモノトス (栃木支一四年評論一四卷商法五〇二頁)

二 手形所持人カ其ノ前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發セザリシト

キハ其ノ前者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任シ且利息及費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ喪失スルニ止マリ償還義務者ノ償還不履行ニ因ル損害賠償ノ請求權ヲ失フヘキモノニ非サルモノトス (東京控一五年評論一五卷商法一六二頁)

三 我商法ニ在リテハ支拂要求ノ呈示ト支拂拒絕證書作成トヲ以

テ償還請求權保全ノ二要件トシテ所持人等カ償還請求ノ通知手續ヲ爲スコトハ單ニ直近ノ前者ニ對スル所持人等ノ義務ニ過キスト爲シ右二要件ヲ缺クニ於テハ當然償還請求權ヲ喪失スヘキモ只タ其通知手續ノミチ懈怠シタル者ニ對シテハ之ニ因リ前者ニ生シタル損害ヲ賠償セシムル外尙滿期日以後ノ法定利息及費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フニ過キサルモノトセルコトハ商法第四八七條第四八八條ノ第二項ニ依リ明カナリトス (靜岡地沼津支部一〇年評論一〇卷商法七二六頁)

第四百八十八條 (再償還請求ノ通知)

裏書人カ其後者ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ其直接ノ前者ニ對シ通知ヲ受ケタル日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知

◎本條ニ關スル諸問

- ◎償還請求通知ノ適否ト其ノ效力 (第二續商法四八七條ノ二)
- ◎償還請求通知懈怠ノ效果 (第二續商法四八七條ノ二)
- ◎償還請求權ノ行使ト選擇週及 (續商法一一〇四頁)
- ◎裏書人ノ賠償請求權ノ發生 (續商法一一一〇頁)

第四百八十八條ノ三 (裏書地不記載ト償還請求通知)

裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セザリシトキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セザリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セザリシトキ亦同シ

◎裏書地ノ不記載ト償還請求通知 (續商法一一一二頁)

第四百八十八條ノ四 (償還請求通知ノ推定)

所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間內ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事實

ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限り其書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎通知官署公衆通信所ノ意義(續商法一一二頁)
- ◎通信官署ノ證ハ内容證明タルヲ要セス(續商法一一二頁)

第四百八十九條(拒絕證書作成免除ノ效果(一))

爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス

◎拒絕證書作成ノ免除ニ關スル諸問

- ◎拒絕證書ノ免除ト其作成トノ關係(商法二六三頁)
- ◎所持人ト拒絕證書ノ作成權(商法二六三頁)

◎拒絕證書作成ノ免除ヲ爲シ得ル者

- 一 支拂拒絕證書ハ約束手形ノ所持人カ満期日又ハ其ノ後二日內ニ振出人ニ對シテ手形ヲ呈示シ支拂ヲ請求シタル事實ヲ證明シ之ニ基キ裏書人ニ對シ償還請求權ヲ行使セムカ爲ニ作成セララルモノナルヲ以テ之カ作成ヲ免除スル者ハ償還義務者タル裏書人ニ限り約束手形ノ振出人ノ爲シタル支拂拒絕證書作成ノ免除ハ無意義ニシテ全ク手形上ノ效力ヲ生セサルモノトス(大審一三年民九七頁、評論一三卷商法一七五頁)
- 二 支拂拒絕證書作成免除ノ效力ハ其ノ表示ヲ爲シタル前者即チ償還義務者ニ對シテノミ其ノ效力ヲ有スルニ過キスシテ爲替手形ノ引受人約束手形ノ振出人カ表示シタル支拂拒絕證書作成ノ免除ハ何等ノ效果ヲ有セサルモノトス(烏賀陽博士評論一四卷商法五四五頁)
- 三 支拂擔當者ノ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ爲替手形ノ引受人

約束手形ノ振出人モ亦支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除スルノ表示ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(烏賀陽博士評論一四卷商法五四五頁)

◎保證人ノ爲シタル拒絕證書ノ免除

手形ニ保證ヲ爲スニ當リ拒絕證書作成ノ義務ヲ免除スル旨ノ記載アリトスルモ約束手形振出人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル債務者ニ對シテ所持人カ手形上ノ請求ヲ爲スニハ先ツ振出人ニ對シテ支拂拒絕證書作成ノ期間內ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムルコトヲ要件トセス從テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ要セサルカ故ニ斯クノ如キ保證債務者カ手形ニ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除スル旨ヲ記載スルモ之ニ依リ何等ノ效力ヲ生セス從テ其保證債務者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間內ニ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示シタルモノト推定セラレヘキモノニ非ス(東京控一一年評論一一卷商法一二四頁)

◎拒絕證書作成ノ免除ノ時期

一 約束手形ノ所持人ニ於テ満期日又ハ其後ノ二日內ニ支拂拒絕證書ヲ作成セシメサリシ爲償還請求權ヲ失ヒタルトキハ後日ニ至リ其作成ヲ免除セラレルモ其效力ナキモノトス(大審一四年

評論一五卷商法二一七頁)

二 拒絕證書作成免除ノ時期及方式(續商法一一二頁)

◎拒絕證書作成ノ免除ノ方式

支拂拒絕證書ノ作成免除ハ手形要件ニアラサルノミナラス之カ方式ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ必スシモ之ヲ手形ニ記載スルコトヲ要セス或ハ別個ノ書面ニ記載シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク或ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク唯此等ノ方法ヲ以テ作成免除ヲ爲シタルトキハ其ノ效力ハ其ノ意思表示ニ關リタル直接ノ當事者ニ限ラレルニ過キサルモノトス故ニ原院カ本件約束手形ニハ支拂拒絕證書作成免除ノ記載ナシト雖上告人(被控訴人)ハ其ノ裏書ヲ爲スニ際シ所持人タル被上告人ニ對シ口頭ヲ以テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル事實ヲ認定シ被上告人ハ支拂拒絕證書ヲ作成セシメサルモ上告人ニ對スル本件手形ノ償還請求權ヲ失ハサル旨判示シタルハ相當ナリ(大審一五年民二〇五頁、評論一五卷商法三八一頁)

◎裏書欄外ノ押印ト拒絕證書ノ免除

一 裏書人カ手形ノ裏書欄外ニ捺印ノミヲ爲シタルコトヲ認ムル場合ニ於テハ反證ナキ限り右ハ拒絕證書作成免除ノ爲手形所持

人ニ適宜其旨ノ記入ヲ爲サシムル意思ノ下ニ爲サレタルモノト認ムヘキモノトス（東京地一五年評論一五卷商法四三〇頁）

二 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當リ手形裏面ノ欄外ニ捺印ヲ爲シタル場合ハ裏書人ハ豫メ自ラ欄外ニ捺印シ置キ其下ニ免除文言ノ記入ヲ俟テ始テ拒絕證書作成免除ノ意思表示ヲ完成セシムヘク其記入行爲ヲ爾後ノ手形取得者ニ對シ委任シタルモノト判定スルヲ相當トス（横濱地一一年評論一―卷商法一〇八頁）

第四百八十九條ノ二（拒絕證書作成免除ノ效果（二））

支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ呈示シタルモノト推定ス

◎拒絕證書作成ノ免除ト手形呈示ノ推定

一 手形裏書人カ裏書人ニ對シ支拂拒絕證書作成義務ヲ免除シタルトキハ支拂拒絕證書ヲ作成スルコトナクシテ裏書人ニ對シ償還請求ヲ爲スコトヲ得ヘク此ノ場合ニ振出人カ支拂拒絕證書作成ノ義務ヲ免除シタル事實ナシトスルモ所持人ハ支拂拒絕證書

書作成期間内ニ振出人ニ對シ支拂ヲ求ムル爲手形ヲ呈示シタルモノト推定スヘキモノナルコトハ商法第四八九條ノ二ノ解釋上疑ヲ容レサル所ナルニ依リ原判決力同趣旨ノ判斷ヲ下シタルハ正當ナリ（朝鮮高等法院一四年評論一四卷商法一二五頁）

二 拒絕證書ノ免除ト呈示ノ立證責任（續商法一一一三頁）

第四百九十條（償還請求ト手形ノ呈示及拒絕證書）

所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎本條ノ法意（四四二條ノ除外例ナルカ）（商法二六四頁）
- ◎他地拂手形ノ呈示及拒絕證書ノ作成（商法二二二頁）
- ◎本條ハ同地拂手形ニモ適用アリヤ（續商法一一一四頁）
- ◎支拂擔當者自ラ所持人タル場合ト本條（續商法一一一四頁）
- ◎支拂擔當者アル手形ノ償還請求ト通知（續商法一一一四頁）
- ◎支拂擔當者ノ死亡ト手形ノ呈示（續商法一一一四頁）
- ◎支拂擔當者ニ手形ヲ呈示セサル制裁（續商法一一一五頁）

第四百九十一條（所持人ノ償還請求金額）

爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ滿期日以後ノ法定利息

二 拒絕證書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

◎本條ニ關スル諸問

- ◎裏書人ノ償還義務履行地（第二續商法四四二條）
- ◎償還金額ト費用ノ範圍（商法二六五頁）
- ◎第二項相場ノ差額算定方（續商法一一一六頁）
- ◎償還義務ト現金履行ノ要否（商法二六六頁）

◎償還請求ト法定利息ノ起算日

一 約束手形ニ付商法第五百二十九條ハ同法第四百七十一條ヲ準用スルカ故ニ約束手形ノ所持人カ滿期日及其ノ後二日内ニ振出人ニ對シ支拂場所ニ手形ヲ呈示シ支拂ヲ求メ拒絕セラレタルトキハ商法第四百九十一條所定ノ滿期日以後ノ法定利息ヲ請求シ得ヘキモノニシテ此ノ利息ハ遲滞ニ因ル利息ニアラスシテ商法カ特ニ定メタル法律上ノ利息ニ外ナラサルモノトス（大正十年（オ）第三十號同年三月五日第三民事部判決參照）（大審一五年民一八一頁）

二 商法第四九一條第一號ニ所謂滿期日以後ノ法定利息ハ遲滞ニ因ル利息ニアラスシテ手形所持人カ滿期日ニ手形金ヲ受取ルコトヲ得ス爲メニ之レヲ利用シ得サルニ償還義務者ハ滿期日ニ手形ノ支拂ナキトキ當然償還セサルヲ得サル地位ニ在リ乍ラ償還

金額ヲ利用シ得ルヲ以テ之カ均衡ヲ得セシメンカ爲メニ法律上認メタル利息ナルヲ以テ該利息中ニハ滿期日當日ノ利息ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス(大審一〇年民四一三頁、法一八二九號八頁、評論一〇卷商法九六頁)

三 爲替手形所持人カ滿期日後二日以内ニ引受人ニ對シ支拂請求ノ爲メ手形ヲ呈示シタルトキハ滿期日以後ノ法定利息ヲ請求シ得ルモ夫レ以後ニ至リテ右呈示ヲ爲シタルトキ引受人ハ其時ヨリ遲滞ノ責ニ任スルニ過キスシテ滿期日以後ノ法定利息ヲ支拂フヲ要セサルモノトス(朝鮮高等法院一五年評論一五卷商法四七一頁)

- ◎本條ノ利息ノ性質及範圍並呈示トノ關係(續商法一一一五頁)
- ◎手形債務ノ遲滞ノ時期(續商法八八二頁)
- ◎手形ノ裁判上請求ト付遲滞(第二續商法二七九條)
- ◎モラトリウム實施期間中ノ利息(第二續商法四七一條)

第四百九十二條(裏書人ノ償還請求金額)

償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

- 一 其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息
- 二 其支出シタル費用

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎手形ノ呈示ナキ償還請求ト損害金(商法二六六頁)
- ◎手形金額償還ノ效力(續商法一一一六頁)
- ◎誤信ニ基ク手形金額償還ノ效力(續商法一一一六頁)
- ◎手形債務ナキコトヲ知リタルノ立證(第二續商法四八三條)

第四百九十三條(償還ノ方法ト戻手形ノ發行)

爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

◎戻手形ニ關スル諸問

- ◎戻手形發行ノ要件(續商法一一一七頁)
- ◎戻手形ニ於ケル支拂人ノ地位(續商法一一一七頁)
- ◎戻手形ノ手形金額(續商法一一一七頁)

第四百九十四條(戻手形ノ記載要件)

所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス
所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス

◎償還手續ニ關スル諸問

- ◎償還義務者ト現金履行ノ要否(商法二六六頁)
- ◎償還計算書交付ノ趣旨(續商法一一一八頁)
- ◎一部償還ニ對スル全部裏書ノ效力(續商法一一一八頁)
- ◎手形受戻ニ因ル權利取得ノ性質(續商法一一一八頁)
- ◎拒絕證書免除者ハ再償還請求權ヲ喪フ(續商法一一一八頁)
- ◎一部償還ト引換書類ノ交付(續商法一一一八頁)
- ◎償還義務履行者ト裏書抹消權(續商法一一一八頁)
- ◎手形ノ引換ニ關スル諸問(第二續商法四八三條)

第四百九十六條(削除)

第七節 保證

第四百九十七條(手形保證ノ方式)

爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ爲替手形、其原本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務力無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

◎同地間ニ戻手形ノ振出ヲ許サス(續商法一一一七頁)

第四百九十五條(償還ノ手續)

償還ハ爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス
償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受ケル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

◎手形保證ニ關スル諸問(一)

- ◎手形保證ノ方式(續商法一一二〇頁)
- ◎別書面ヲ以テセル保證ノ效力(續商法一一二〇頁)
- ◎讓渡裏書ト保證裏書(商法二六六頁)
- ◎手形保證ノ成立時期(續商法一一一九頁)
- ◎銀行ノ手形保證ノ性質及效力(續商法一一二二頁)
- ◎營業主任ノ支拂保證ノ效力(商法一一二二頁)
- ◎隠レタル保證ノ意義性質及實例(續商法一一一九頁)
- ◎無効手形ニ爲シタル保證ノ效力(續商法一一二二頁)
- ◎手形債務ノ保證ノ範圍(商法二六七頁)
- ◎手形保證ト書換手形ノ責任(續商法一一二二頁)
- ◎一部保證其他制限附保證ノ效力(續商法一一二〇頁)
- ◎手形債務ノ保證ハ連帶ナリヤ(第二續商法二七三條)
- ◎手形ノ保證人ト手形利得ノ償還(第二續商法四四四條)

◎手形保證ニ關スル諸問(二)

- ◎保證債務ト保全行爲トノ關係(續商法一一二二頁)
- ◎保證人ニ對スル請求ト呈示ノ要否(續商法一一二二頁)
- ◎保證人ト主債務者ニ關スル抗辯(續商法一一二二頁)
- ◎手形保證人ト後訴及檢案ノ利益(第二續民法五二〇頁)

- ◎手形保證人ニ催告檢案分別ノ利益ナシ(續商法一一二二頁)
- ◎主債務ノ支拂ト保證手形ノ效力(商法二六九頁)
- ◎手形上ノ保證ト時効(續商法一〇四九頁)
- ◎手形債務者ト共同訴訟(民法三三三頁)

◎手形ノ保證ナリヤ否ヤノ認定

- 一 爲替手形ノ裏書欄ニ甲ノ署名捺印アリ其署名ノ頭部ニ保證人ナル文字ノ記載ハ甲自ラ爲シタルモノニ非スシテ爲替手形ノ振出人乙方後日補充シタルモノニ係リ而カモ甲ハ該文字ノ補充權ヲ乙ニ附與シタルコトハ之ヲ認ムルニ足ラサルトキハ單ニ該手形ノ受取人ニ非サル甲力裏書ヲ爲スヘキ筈ナキノ故ヲ以テ未ダ直ニ該署名捺印力保證ノ意味ナルコトヲ推知スルノ資料ト爲スニ足ラサルモノトス(東京地昭和二年法二七五—一號九頁)
- 二 手形文言ノ判定方(第二續商法四三五條)

◎手形ニ於ケル普通保證人ノ意義

- 一 控訴人ハ本件二通ノ手形ニ普通保證人トシテ爲シタル署名ハ手形債務ヲ保證スル意味ニアラサル旨主張スレトモ普通保證人ナル手形上ノ記載ヲ以テ直ニ民法上ノ保證ト解スルヲ得ス荷モ手形ニ保證人トシテ署名シタル以上ハ手形ヨリ生シタル債務ヲ

保證シタル者ト解スヘク而シテ手形保證人ハ獨立シテ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フモノナルヲ以テ此保證人ノ責任ヲ制限シテ民法上ノ保證ト同一ノ效力ヲ有セシムルカ如キ附記ハ手形上ノ效力ヲ生セサルモノトスサレハ普通保證人ナル語句ハ手形上ニ於テハ單ニ保證人ト記載シタルト同一ノ效力ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス而シテ本件各手形ノ欄外ニ「前書手形金支拂保證候也」ナル文詞アルモノニ依リ右保證ノ意義ニ何等影響ヲ及ボスヘキモノニアラス其他右普通保證人ナル語句ヲ以テ本件各手形ノ振出ヲ證明スルノ趣旨トナスヲ得サルモノトス(東京地昭和二年報一三一號一五頁、評論一六卷商法七四三頁)

二 (右ニ對スル批評) 手形保證ハ手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ手形其原本又ハ補箋ニ署名スルニ因リテ手形上ノ效力ヲ生シ獨立シテ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フモノナルコトハ商法第四百九十七條ノ規定ニ徴シ疑ヲ容レサル所ニシテ手形保證ハ手形債務ニ對スル民法上ノ保證ト同シカラサルハ言ヲ俟タス故ニ今若シ手形ニ民法上ノ保證人タルコトヲ明記シテ署名シタルトキハ斯ル保證ハ其文言上手形保證ヲ以テ目スルヲ得ス而カモ手形債務ニ對スル民法上ノ保證ハ手形篇ニ規定ナキ事項ナルヲ以テ民法上ノ保證トシテ其效力ヲ生スルハ格別手形上ノ效力ヲ生スヘキニアラサルハ蓋シ明白ナル所ナリト謂ハサルヘカラス若シ夫レ此場合ニ民法上ナル記載部分ノミヲ無効トシ單ニ手形ニ保證人トシテ署名シタル場合ト一般ニ手形保證トシ

テノ效力ヲ認メントスルカ如キハ其文言ノ趣旨ニ反スル法律上ノ效力ヲ認メントスルモノニシテ其非ナルヤ固ヨリ多言ヲ俟タル所ナリト謂フ可シ(判例研究昭和二年五卷臨時號研究篇六三四頁)

三 案件ニ於テ控訴人ハ本件二通ノ各約束手形ニ普通保證人トシテ署名シタルモノナルコトハ本判決ノ事實トシテ確定シタル所ナルカ故ニ今若シ普通保證人ナル文詞カ民法上ノ保證人タル意義ヲ有スルニ外ナラントセンカ控訴人ハ民法上ノ保證人トシテ其責任ヲ負フハ格別手形上ノ責任ヲ負フヘキ限リニ在ラサルヤ前示說明ニ徴シ寸毫ノ疑ヲ容レサルナリ本判決ハ普通保證人ナル記載ヲ以テ直チニ民法上ノ保證ト解スルヲ得スレト説示スレトモ現時一般ニ慣用セラレル用語例ニ依レハ手形保證ニ對シテ民法上ノ保證ヲ通常保證若クハ普通保證ト稱スルコトハ顯著ナル事實ナルカ故ニ別段ノ事由ナキ以上ハ其所謂普通保證人トハ民法上ノ保證人タルノ意義ヲ有スルモノト解スルヲ相當トスヘキニ非サルカ吾人ハ其然ルヲ信シテ疑ハサルモノナリトス然ルニ本判決ハ何等首肯スルニ足ルヘキ別段ノ事由アルニアラスシテ只漫然普通保證人ナル記載ヲ以テ民法上ノ保證ナリト解スルヲ得スト云ヒ而カモ普通保證人ナル記載ハ其普通トアル部分ノミヲ無効トシ手形上單ニ保證人ト記載シタルト同一ノ效力ヲ有スルモノト解セサルヘカラスト説明シ以テ控訴人ノ手形上保證ノ責任ヲ肯定シタリ然レトモ斯ノ如キハ一面實驗則ニ反スル不當

ノ認定タルト同時ニ他面記載文言ノ趣旨ニ反シテ法律上ノ效力ヲ認メントスルモノニシテ其不法タルヤ前示說明ニ徴シ明白ナリト云ハサルヘカラス——以上ノ理由ニヨリ吾人研究者ハ本判決ノ判旨ニ對シテハ到底賛意ヲ表シカダシ(同上)

◎小切手ノ保證ト手形上ノ效力

一 小切手ニ於ケル保證ノ記載カ手形上ノ效力ヲ有セサルコトハ商法第四百三十九條ノ明文並ニ商法第五百三十七條ニ於テ小切手ニハ爲替手形ニ關スル保證ノ規定ヲ準用セザリシニ徴シ明白ニシテ而シテ若シ上告人主張ノ如ク如上保證文言ノ記載アル小切手ノ取得ニ依リ直接ノ當事者ニ非サル上告人ト被上告人トノ間ニ民法上ノ保證債務成立スルモノトセハ保證文言ノ記載者ハ小切手ノ輾轉ト共ニ總テノ取得者ニ對シ保證債務ヲ負擔スル結果ト爲リ該特約ノ記載ヲ以テ手形上ノ效力ヲ生セシメタルト相擇フ所ナキニ至リ如上手形法ノ精神ニ反スル結果ト見ルニ至ルヘク殊ニ手形ハ其ノ法定要件ノミニ注意シテ之ヲ授受スルニ依リテ手形取引ノ迅速ヲ期スルコトヲ得ルモノナルニ小切手ニ右認定ノ如キ保證特約ノ記載ヲ許ストキハ小切手ノ授受ニ當リ右特約ニ關シ特ニ調査ヲ加フルノ必要ヲ生スルニ至リ却テ手形取引ノ敏活ヲ害スルコト尠ナラサルカ故ニ如上特約ノ記載ハ無効ナリトス(大審一五年民四六七頁)

- 二 同旨、手形關係ニ於ケル賠償額ノ豫定(二)
- 三 同旨、手形授受者間ノ民法上ノ契約(二)
- 四 小切手ノ支拂保證ノ效力(續商法一一一九頁)

◎小切手ノ支拂保證ト責任範圍ノ商慣習

小切手ノ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ハ所持人ヨリノ請求ニ從ヒ券面額支拂ノ義務ヲ負擔スル商慣習アル場合ニ就テ斯ノ如キ商慣習ハ何等公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スルモノト謂フヲ得サルモノトス(東京地一三年評論一三卷民法一〇〇八頁)

◎爲替取組ニ關スル保證契約ノ範圍

保證契約證ニ「云々貴行ヨリ手形貸付ヲ受ケ若クハ荷爲替手形ノ取組ヲ受ケタル支拂債務ニ付拙者共連帶シテ支拂ノ責ニ任スヘキコトヲ保證致シ云々」ノ文詞アルトキハ一見該證書作成當時既ニ負擔シ居リタル手形債務ニ付テノミ保證ノ責ニ任スヘキコトヲ契約シタルニ過キスシテ將來ノ取引ヨリ生スヘキ手形債務ニ付キテマテモ保證ヲ爲シタルニアラサルヤノ疑ナキニ非スト雖モ該荷爲替手形ノ取組ヲ受ケタルテフ文詞アルノ一事ヲ以テ直チニ過去ノ取引ヨリ生シタル手形債務ニ付テノミ保證ヲ爲シタルモノニシテ將來ノ取引ヨリ生シタル手形債務ニ及ハサル

人ニ移轉シタルモノトス(東京控一五年評論一六卷商法二七七頁)

第四百九十八條(被保證人ノ不明ナル場合)

何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保證ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎債務者不特定ノ手形債務ノ保證(商法二六九頁)
- ◎約束手形ト被保證人ノ不明示(續商法一一二三頁)

◎何人ノ爲ノ手形保證ナルカノ判斷

一 爲替手形ニ振出人ノ記名捺印ト相竝テ連帶保證人ナル肩書ノ下ニ甲ノ記名捺印アルモ甲カ右保證ヲ爲スニ當リ特ニ振出人ノ爲ニ之ヲ爲スモノナルコトヲ明記セサルノミナラス該手形ノ振出人ト支拂人トハ同一人ニシテ而モ振出人ハ受取人ニ手形交付ノ當時既ニ引受ヲ爲サレタルモノナルトキハ甲ノ右保證ハ振出

◎白地手形ニ爲シタル保證ノ效力

モノト認ムルニ由ナキヲ以テ該保證契約ハ實ニ該契約當時ニ於ケル既往ノ債務ニ付保證ノ責ニ任スルコトヲ約シタルニ止マラス尙將來生スヘキ手形債務ニ付テ保證ノ責ニ任ス可キ趣旨ナリト解スヘキモノトス(千葉地一二年評論一二卷商法九九頁)

◎將來且内容未定ノ主債務ト保證契約(第二續民法五一〇頁)

未タ手形要件ノ記載ナキ手形用紙ノ補箋ニ保證ノ文言ヲ記載シテ署名シタル者ハ反證ナキ限り後日他人ヲシテ手形要件ヲ補充セシメ該手形ヨリ生スル債務ノ保證ヲ爲スヘキ意思ヲ以テ署名シタルモノ即所謂白地保證ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トシ後日手形要件ヲ補充セラレタルトキハ其文言ニ從ヒ保證ノ責ニ任スヘキモノトス(東京控一五年評論一五卷商法二一八頁)

◎手形ノ裏書讓渡ト保證債權ノ移轉

爲替手形ノ保證契約カ保證人ト該手形ノ受取人トノ間ニ締結セラレタルモノナルトキト雖其保證債權讓渡禁止ノ意思表示アリタルコトノ主張ト立證トナキトキハ右手形債權ニ從タル其保證債權ハ右手形債權ノ讓渡ニ因リテ消滅スルコトナク又獨リ受取人ニ殘留スルコトナク手形債權ノ移轉ト共ニ當然該手形ノ所持

人ノ爲ニ爲シタルカ將又引受人ノ爲ニ爲シタルカ分明ナラサル
場合ニ該當スルモノニシテ該保證ハ商法第四九八條ニ依リ引受
人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス(東京控一五
年評論一六卷商法四四頁)

二 第二續商法四三五條「手形文言ノ判定方」ノ四

第四百九十九條(保證債務履行ノ效果)

保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對
シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權
利ヲ取得ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎保證人ノ債務履行ノ效果(續商法一一二三頁)
- ◎手形ノ共同保證人間ノ求償權(續商法一一二三頁)

第八節 參加

第一款 參加引受

第五百條(參加引受ノ要件)

爲替手形ノ所持人カ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫
備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サル
ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス
豫備支拂人カ引受ヲ爲サリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絕
證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

◎參加引受ニ關スル諸問

- ◎參加ノ意義(續商法一一二三頁)
- ◎參加引受ノ意義(續商法一一二二頁)
- ◎參加引受ヲ爲シ得ル者(續商法一一二四頁)
- ◎被參加引受人タリ得ル者(續商法一一二四頁)
- ◎一部ノ參加引受ヲ認ムルヤ(續商法一一二四頁)
- ◎豫備支拂人アル手形ノ擔保請求事件(續商法一一二四頁)
- ◎參加引受人ニ對スル時効期間(續商法一〇四八頁)

第五百一條(參加引受ノ拒絕)

爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコ
トヲ要ス

トヲ得

◎本條ニ關スル諸問

- ◎參加引受ノ拒絕(續商法一一二四頁)
- ◎參加引受ノ擔保請求權ニ及ホス效力(續商法一一二六頁)

第五百二條(參加引受ノ競合)

參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從
ヒ其一人ヲ引受ヲ爲サシムルコトヲ得

◎參加引受人ノ競合ト其選擇(續商法一一二四頁)

第五百三條(參加引受ノ方式)

參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ依リ
テ之ヲ爲ス
參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキハ其引受ハ

振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百四條(參加引受後ノ手續)

所持人ハ引受拒絕證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其
證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコト
ヲ要ス
參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絕證書ヲ被參加人ニ送付スルコ
トヲ要ス

◎參加引受ノ手續(續商法一一二五頁)

第五百五條(參加引受ノ效力)

參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被
參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ
義務ヲ負フ但所持人カ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ム
ル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ
其義務ヲ免ル

◎本條ニ關スル諸問

- ◎參加引受人ニ對スル請求條件(續商法一一二五頁)
- ◎參加引受人ノ破産ト擔保請求權ノ有無(續商法一一二五頁)

第五百六條(後者ノ擔保請求權ノ喪失)

爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

◎參加引受ノ擔保請求權ニ及ホス效力(續商法一一二六頁)

第五百七條(前者ニ對スル擔保請求權)

被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十六條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス

【準用條文ノ要點】

テ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎參加引受人又ハ豫備支拂人アル場合ノ償還請求手續(續商法一一二六頁)
- ◎參加支拂ノ意義(續商法一一二六頁)
- ◎一部ノ參加支拂ハ拒ムコトヲ得(續商法一一二六頁)
- ◎參加支拂ヲ爲シ得ヘキ時期(續商法一一二七頁)
- ◎參加支拂人タリ得ル者(續商法一一二七頁)
- ◎被參加支拂人タリ得ル者(續商法一一二七頁)

第五百九條(參加支拂ノ權利)

爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

◎何人ノ參加支拂ト雖モ拒ムコトヲ得ス(續商法一一

第四百七十六條—裏書人ノ擔保請求權

第四百七十七條—擔保義務者ノ責任

第四百七十八條—擔保ノ效力

第四百七十九條—擔保ノ消滅スル場合

◎參加引受人ニハ擔保請求權ナシ(續商法一一二六頁)

第二款 參加支拂

第五百八條(參加支拂ノ請求)

爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲サリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求めタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲サリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス
所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲サリシトキハ豫備支拂人

二七頁)

第五百十條(參加支拂ノ競合)

參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最も多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎多數參加ト支拂ヲ受クヘキ順序(續商法一一二七頁)
- ◎順序ヲ誤リタル參加支拂ノ效果(續商法一一二八頁)

第五百十一條(被參加人不指定ノ場合)

豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシトキハ其支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百十二條 (參加支拂ノ手續)
所持人ハ支拂拒絕證書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシメ且手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其拒絕證書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百十三條 (參加支拂ノ效果)
參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎參加支拂人ノ權利取得ノ性質 (續商法一一二八頁)
- ◎參加支拂人ニ對スル抗辯事由 (續商法一一二八頁)

第九節 拒絕證書

第五百十四條 (拒絕證書ノ作成者)
拒絕證書ハ爲替手形ノ所持人ハ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之

チ作ル

◎拒絕證書ニ關スル諸問

- ◎拒絕證書ノ意義 (續商法一一二九頁)
- ◎拒絕證書ノ作成ト管轄區域 (續商法一一二九頁)
- ◎取立受任者ノ拒絕證書作成ノ請求 (續商法一一二八頁)
- ◎取立受任者ト第一號ノ被拒絕者 (第二續商法五一五條)
- ◎滿期日後ノ裏書ト手形ノ保全行爲 (續商法四六二條)
- ◎手形ノ支拂猶豫ト拒絕證書ノ作成 (續商法一一二九頁)
- ◎休日ト拒絕證書ノ作成 (續商法一一二九頁)
- ◎拒絕證書ト公證人ノ面識 (續商法一一二九頁)

◎拒絕證書ノ意義、性質及效力

- 一 拒絕證書ノ意義 (續商法一一二九頁)
- 二 拒絕證書ハ手形上ノ權利行使又ハ其保全ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルコトヲ證明スル要式證書ニシテ裏書人及爲替手形ノ振出人カ之等ノ者ニ對シテ償還請求ヲ爲スニ際シ商法第四八七條第一項ニ定ムル手續ヲ爲シタルコトヲ證明スルニハ必ス拒絕證書

チ以テセサルヘカラサルモノトス (大審一四四年民五七六頁、評論一五卷商法一七頁)

三 裁判所カ手形所持人ノ爲シタル如上ノ手續カ適法ナリヤ否ヤヲ判斷スルニ當リテモ亦拒絕證書ニ依リテノミ之ヲ爲スヘキモノニシテ他ノ證據ヲ以テ之ニ代ヘ又ハ之ヲ補足スルコトヲ得サルモノトス (同上)

◎拒絕證書ノ誤謬訂正ノ效力

- 一 支拂拒絕證書中拒絕者ノ表示關ニ當初石川久作トノミ記載アリタルトコロ同證作成者タル公證人カ之ヲ誤謬ナリトシ拒絕證書作成期間後更ニ之ニ合資會社旭正宗商店業務執行社員ナル肩書ヲ記入シタル場合ニ於テハ斯ル訂正ハ無効ナルモノトス (東京控一五年評論一六卷商法一八五頁)
- 二 叙上拒絕證書ノ記載 (肩書部分ヲ除ク) ナ約束手形ノ表面中振出人ノ記載ト對照スルニ公證人ハ大正一二年一月四日手形所持人ノ爲ニ手形ヲ支拂場所ニ於テ呈示シタルモ振出人會社ノ代表者ニ面會シ得サリシ爲該手形ノ附箋ニ依リテ其ノ支拂拒絕證書ヲ作成シタルモ偶々拒絕者ノ表示ニ付振出人會社ノ代表者タル石川久作ノ氏名ノミ記載シ其ノ代表資格ノ記載ヲ遺脱シタルモノナルコトヲ推認シ得ヘク斯ノ如ク被呈示者タル振出人會社代表者ノ氏名ノ記載アル以上右拒絕證書ニハ其ノ作成當時ヨリ

第二續商法 手形 爲替手形 拒絕證書

五一四條 一八七九

- 支拂拒絕者タル振出人會社並其ノ支拂拒絕ノ旨ノ表示アルモノト解スルチ至當トス (同上)
- 三 拒絕證書ヲ作成スル官吏カ之ニ誤謬ノ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ誤謬ナリヤ否ヤハ證書自體ニ依リテ判斷スルノ外ナキモノニシテ誤謬カ著シキ書損若ハ脫漏ナルカ又ハ其ノ他ノ場合ニ在リテモ證書自體ニ依リ誤謬ヲ推知シ得ヘキモノナルトキハ之ヲ認メ其ノ正シキニ從ヒテ證書ヲ解釋スルコトヲ得ヘク又誤謬カ拒絕證書ノ重要ナラサル部分ニ屬スルトキハ其ノ證書ノ效力ヲ妨ケサルヘシト雖拒絕證書夫レ自體ヨリ判明セサル程度ノ重要ナル部分ノ誤謬ニ係ルトキハ他ノ證據ニ依リテ之ヲ主張シ之ヲ證明スルコトヲ得サル結果誤謬ノ判斷ヲ爲スコトヲ得ス其ノ記載ニ從ヒテ手形上ノ權利ノ行使並保全行爲ノ適否ヲ判斷スヘキモノトス (大審一五年民五七六頁、評論一五卷商法一七頁)
- 四 拒絕證書ハ滿期日以後二日內ニ之ヲ作成スヘキモノナレハ該期間內ニ此ノ誤謬ヲ訂正シタルトキハ更ニ新ナル適式ナル拒絕證書ヲ作成シタルト同一ニ歸スルモノナレハ之カ訂正ノ效力アルヤ疑ナカルヘク縱令其ノ期間內ニ訂正セサリシトスルモ其ノ作成ニ關與シタル官吏カ尙證書ヲ保有シ未タ之ヲ其ノ請求人ニ交付セサル間ハ外部ニ對シテハ證書未タ完成セラレタリト云フコトヲ得サルヲ以テ右ノ誤謬ノ訂正ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト解スルチ相當トシ之ニ反シテ其ノ官吏カ一旦之ヲ作成シテ請求

人ニ交付シタル後ニ於テハ拒絕證書ハ全ク完成シ復タ動スヘカラサルモノナレハ斯ル重要ナル誤謬ノ訂正ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(同上)

五 本件ニ於テ上告人ハ甲第一號證約束手形ノ所持人トシテ裏書人タル被上告人ニ對シ手形金ノ請求ヲ爲スモノニシテ上告人(被控訴人)カ執達吏ヲシテ作成セシメタル拒絕證書(同證附箋)ニハ拒絕者土生新一郎ト記載アリテ執達吏カ本訴ノ第一審ニ繫屬中大正十三年二月十五日ニ至リ「土生新一郎」ヲ「新紀治郎」ト訂正シタルコトハ原判決ノ確定シタル所ニシテ即其ノ訂正ハ拒絕證書作成期間經過後執達吏カ拒絕證書ノ請求人タル上告人ニ交付シタル後ニ係ルモノトス而シテ拒絕者ノ記載ハ拒絕證書ノ重要ナル部分ニ屬スルコト商法第五百二十九條ニ依リテ準用セララルル同法第五百十五條第一號ノ規定ニ依リ明ニシテ「土生新一郎」ナル記載カ「新紀治郎」ノ誤記ナルコトハ前示ノ拒絕證書夫レ自體ヨリ判明セサルコト是亦原院ノ判斷シタルモノト謂フヘク從テ執達吏ノ爲シタル右ノ訂正ハ無効ニシテ上告人カ本件手形ニ付適法ナル權利ノ行使竝保全行爲ヲ爲シタルヤ否ハ拒絕證書ノ訂正前ノ記載ニ依リテ判斷セサルヘカラサルモノトス故ニ原院カ之ト同趣旨ノ判斷ヲ爲シ甲第一號證附箋ノ拒絕證書ニハ振出人新紀治郎ノ氏名ノ記載ナキヲ以テ同證書ハ同人カ本件手形ノ支拂ヲ拒絕シタルコトヲ證スヘキ適法ナル拒絕證書ト認メ難シト列示シ右拒絕證書ノ誤記ナルコトヲ證ス

ル爲上告人ノ提出シタル他ノ證據ヲ採用セスシテ上告人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ニ非サルモノトス(同上)

第五百十五條(拒絕證書ノ記載事項)

- 一 拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號
- 二 拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セザリシコト、拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシコト又ハ其營業所住所若クハ居所カ知レザリシコト
- 三 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日
- 四 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト
- 五 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人竝ニ被參加人ノ氏名又ハ商號
- 六 拒絕證書作成ノ場所及ヒ年月日

◎拒絕證書ノ作成ニ關スル諸問(一)

- ◎拒絕證書ノ作成手續(商法二七〇頁)
- ◎拒絕證書ノ法定要件ト記載方(商法二七〇頁)
- ◎拒絕表示ノ記載ト氏名又ハ商號(商法二七一頁)
- ◎呈示ノ事實ト拒絕證書トノ關係(續商法一一三〇頁)
- ◎公證人又ハ執達吏ト支拂受領ノ權限(續商法一一三一頁)
- ◎銀行ヲ支拂場所トセル手形ト拒絕證書(商法二七二頁)
- ◎拒絕表示ノ場所ト記載方(商法二七一頁)
- ◎被呈示者ノ死亡又ハ破産ト保全手續(續商法一一〇六頁)
- ◎第二號ノ請求趣旨ノ意義(續商法一一三一頁)
- ◎第二號ノ請求ヲ爲スヘキ者(續商法一一三一頁)
- ◎面會不能ト請求趣旨ノ記載要否(續商法一一三一頁)
- ◎日曜日ト拒絕證書ノ作成(商法二七〇頁)
- ◎手形ノ滿期日ト休日トノ關係(第二續商法四八七條)

◎取立受任者ト第一號ノ被拒絕者

一 手形ノ所持人ヨリ取立委任ヲ受ケタル被裏書人ハ其ノ所持人ノ爲メ手形上ノ權利ヲ行使シ得ヘキモノニシテ廣義ニ於ケル手形ノ所持人ニ外ナラサルヲ以テ支拂拒絕證書トシテ取立委任被裏書人ヲ表示シタルハ有效ナリトス(大審院一年評論一一卷商法二四一頁)

二 被拒絕者ナル文字ハ手形上ノ權利ニ基キ現實ニ請求ヲ爲シ拒絕セラレタル者ヲ指稱スヘキ者ト解スヘキヲ以テ取立委任ヲ受ケタル被裏書人ヲモ之ヲ包含スルモノトス(烏賀陽博士評論一一卷商法一四二頁)

- ◎取立委任ノ記載ヲ缺ク裏書ノ效力(第二續商法四六三條)
- ◎取社委任ノ解除ト被裏書人ノ權利(第二續商法四六三條)
- ◎取立受任者ノ拒絕證書作成ノ請求(續商法一一二九頁)

◎拒絕者ノ氏名又ハ商號ノ記載方

支拂拒絕證書ノ拒絕者ノ名義ハ之ヲ委細ニ記入スルコトヲ要セス其ノ拒絕セラレタル手形ノ本文ト對照シテ一應正當ナル權限ヲ有スル者ニ於テ拒絕シタルモノト認メラルル程度ニ於テ其氏名商號ヲ記載スレハ足ルモノトス(東京地一四年評論一五卷商法三〇頁)

◎手形ノ呈示ハ所持人ニ專屬セス

一 手形ノ所持人カ其前者ニ對スル償還請求權ヲ行使スルニハ手形金ノ支拂ヲ求ムル爲メニ手形ノ呈示ヲ爲スコトヲ必要トスルコトハ商法第四八七條ノ規定スル所ナレトモ同條ハ其呈示ヲ以テ所持人ニ專屬スル行爲ト爲シ他ノ方法ニ依ル呈示ヲ禁止スル

モノニ非ス(大審一〇年評論一〇卷商法三六四頁)

二 商法第五一四條第五一五條ニ依レハ支拂拒絕證書ノ作成ヲ委託セラレタル公證人又ハ執達吏ハ所持人ヨリ受領シタル手形ヲ呈示シテ手形金ノ支拂ヲ求ムヘク支拂ヲ受ケサレハ其趣旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載スヘキモノナルコト明カナルヲ以テ此場合ニ於ケル手形ノ呈示ハ公證人又ハ執達吏ノ行爲ナレトモ其呈示ハ手形所持人ノ爲シタル呈示ト同一ノ效力ヲ生スルモノニシテ公證人又ハ執達吏ハ其呈示ニ付キテハ法律上ノ手形所持人ノ代理人ナリト解スヘク從テ商法第五一五條ト同法第四八七條トハ手形ノ呈示ニ付キテ矛盾スル所ナク手形ノ所持人ハ公證人又ハ執達吏ヲシテ手形ノ呈示ヲ爲サシムルト自ラ之ヲ爲ストノ自由ヲ有スルモノトス(同上)

◎拒絕證書ト作成場所トノ關係

- 一 他地拂手形ノ呈示及拒絕證書(商法二七二頁)
- 二 他所拂手形ト本條ノ適用(第二續商法四四二條)
- 三 本條ハ支拂場所アル手形ニ適用ナシ(續商法一〇四六頁)
- 四 支拂場所ニ關スル諸問(第二續商法四四四條)
- 五 營業所外ニ於ケル拒絕證書ノ作成(商法二七三頁)
- 六 支拂場所タル支店ノ廢止ト保全場所(第二續商法四二條)
- 七 拒絕證書ト作成ノ場所(商法二七三頁)

テ結局其作成年月日ノ記載ヲ欠缺セザルモノト謂フヲ得ヘキモノトス(東京地一〇年評論一〇卷商法二九七頁)

◎拒絕證書ノ要件ト證書自體ニ依ル判斷

支拂拒絕證書ハ要式證書ナレハ其要件ヲ具備スルヤ否ヤハ一ニ拒絕證書自體ニ付キ之ヲ定ムヘク他ノ證據ヲ以テ其欠缺ノ補正ヲ爲スコト能ハサルモノトス(東京地一〇年評論一〇卷商法二九七頁)

◎拒絕證書ノ記載要件ト職權調査

- 一 拒絕證書カ商法第五一五條所定ノ要件ヲ具備スルヤ否ヤハ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ非サレハ當事者ニ於テ其要件ニ缺クル所アル旨ヲ主張セサル以上ハ裁判所ハ必スシモ自ラ進ンテ之カ調査ヲ爲シ其無効ヲ判定セサルヘカラサルモノニ非サルカ故ニ當事者ノ一方カ拒絕證書ヲ證據トシテ提出シタル場合ニ於テ相手方ハ其成立ヲ認メ毫モ其要件欠缺ノ抗辯ヲ提出セザリシトキハ裁判所ハ輒ク之ヲ探テ以テ證據ト爲スモ必スシモ不法ニ非サルモノトス(朝鮮高等法院一一年評論一〇卷商法四二九頁)
- 二 拒絕證書ノ記載要件ト職務調査(續商法一一三二頁)

- 八 公證人ノ侵入ヲ拒ミタル時ノ作成場所(續商法一一三二頁)
- 九 支拂場所ノ記載ナキ支拂拒絕證書(續商法一一三二頁)
- 一〇 手形上ノ權利行使又ハ保全ノ場所(第二續商法四四二條)
- 一一 支拂拒絕證書ノ記載要件トシテハ現ニ之ヲ作成シタル場所ヲ記載スルコトヲ要シ且之ヲ以テ足り其記載タニアレハ之カ手形上ノ支拂場所ノ記載ト符合セサレハトテ爲メニ拒絕證書自體ノ無効ヲ來スヘキモノニ非サルモノトス(東京地一一年評論一卷商法六五六頁)

◎拒絕證書作成ノ年月日有無ノ判定

手形ニ付キ支拂場所ノ定メアル場合公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作成スルニ當リテハ右支拂場所ニ臨ミ先ツ手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メ而シテ同所ニ於テ拒絕證書ヲ作成スヘキ筋合ナルカ故ニ呈示及拒絕證書ノ作成ハ同日ニ行ハルヘキモノナルコト勿論ナリト云フヘク從テ拒絕者ニ請求ヲ爲シタル日ハ即チ拒絕ノ日ヲ併セテ表示スルモノト解スルモ何等ノ支障アルコトナク又拒絕證書ノ記載ノ形式ニ付テハ別段ノ規定ナキヲ以テ其作成ノ年月日ハ必スシモ其旨ノ欄内ニ表示セラレサルモ拒絕證書ヲ通覽シテ拒絕證書作成ノ日ト認メ得ヘキ年月日ノ記載アレハ足ルト解スルチ相當トスルニ依リ拒絕證書ニ於テ拒絕者ニ請求シタル年月日ノ記載ハ其作成ノ日ヲ併セテ表示スルモノニシ

◎拒絕證書ノ適否ト其ノ效力

- ◎支拂拒絕證書ノ證據力(續商法一一三〇頁)
- ◎法定要件ヲ缺ク拒絕證書ノ效力(續商法一一三二頁)
- ◎本條ニ違背スル拒絕證書ノ效力(第二續商法四四二條)
- ◎事實相違ノ拒絕證書ノ效力(續商法一一三二頁)
- ◎拒絕證書ニ對スル反對事實ノ立證(續商法一一三〇頁)

第五百十五條ノ二(拒絕證書ノ作成方(一))

支拂拒絕證書ノ作成ハ爲替手形又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎補箋ト附箋トノ差異(續商法一一三二頁)
- ◎別紙ニ爲セル拒絕證書ノ效力(商法二七四頁)
- ◎附箋ニ依ル拒絕證書作成ノ方式(第二續商法五一五條ノ五)
- ◎附箋ニ依ル拒絕證書ト要件ノ記載(第二續商法五一五條ノ五)
- ◎小切手ノ支拂拒絕ト補箋ノ記載(商法二九六頁)

第五百十五條ノ三(拒絕證書ノ作成方(二))

爲替手形ノ數通ノ復本又ハ原本及ヒ謄本ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂拒絶證書ヲ作ルトキハ其作成ハ一通ノ復本若クハ原本又ハ附箋ニ依リ之ヲ爲スヲ以テ足ル
前項ノ規定ニ依リテ支拂拒絶證書ヲ作リタルトキハ他ノ復本又ハ謄本ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

爲替手形、復本、原本又ハ爲替手形若クハ其謄本ノ寫本ニ依リテ拒絶證書ヲ作ル場合ニ於テハ第五百十五條ニ掲ケタル事項ハ其裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス
附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ハ其接目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

◎復本、謄本等ヲ別人ニテ所持スル場合（續商法一一三三頁）

第五百十五條ノ四（拒絶證書ノ作成方（三））

支拂拒絶ノ場合ヲ除ク外拒絶證書ノ作成ハ爲替手形若クハ其謄本ノ寫本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス

◎寫本又ハ附箋ニノミ限リタル理由（續商法一一三三頁）

第五百十五條ノ五（拒絶證書ノ記載方法）

◎附箋ニ依ル拒絶證書作成ノ方式

一 附箋ニ依リ拒絶證書ヲ作成スル場合ニ於テ手形ノ裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ貼付スルノ要ナキコトハ本院判例ノ存スル所ナリ（本院大正十四年（オ）第九百三十八號同年十二月二十四日第一民事部判決参照）（大審昭和二年評論一六卷商法七四二頁）

二 支拂拒絶證書カ爲替手形若クハ其ノ謄本ノ寫本ニ依リテ作成セラルル場合ニ於テハ其ノ記載スヘキ事項ハ手形裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ記載スルコトヲ要スレトモ支拂拒絶證書カ符箋ニ依リ作成セラレタル場合ニアリテハ本紙ノ接目ニ其ノ作成者タル公證人又ハ執達吏カ契印ヲ爲シ其ノ本紙ニ拒絶證書ナルコトヲ明確ニスルコトノミヲ要件トシ其ノ附箋ヲ貼付スヘキ場

所ニ付何等制限ナキモノトス（東京控一四年評論一四卷商法三九五頁）

- 三 附箋ニ依リテ支拂拒絶證書ヲ作成シ得ルハ手形ノ裏面ニ拒絶證書ノ要件ヲ記載シ得サル場合ニ限ルモノニ非サルコト商法第五百十五條ノ二、第五百十五條ノ五ノ規定ニ徴シ明ニシテ又其ノ附箋ニ依ル場合ニ於テモ之ヲ手形ニ貼付シテ契印ヲ爲スヘキ場所ニ付商法ニ何等ノ制限スルトコロナキコト右第五百十五條ノ五第二項ノ規定ニ依リ明ナルトコロナリ本件ニ於テ支拂拒絶證書ハ附箋ニ依リテ作成セラレ手形裏面ノ裏書ニ接續シテ貼付シ接目ニ公證人ノ契印スルコトハ原審ノ確定シタル所ナルヲ以テ本件支拂拒絶證書ノ適法ナルコト勿論ナリ（大審一四年民七七三頁、評論一五卷商法八六頁）
- 四 附箋ニ依リテ爲ス拒絶證書ノ作成（商法二七四頁）

◎附箋ニ依ル拒絶證書ト要件ノ記載

- 一 支拂拒絶證書カ附箋ニヨリ爲サレタル場合ニ該證書自體ニ手形ノ支拂請求ヲ爲シ或ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及證書作成ノ場所ヲ明記セスト雖モ手形面ノ記載ト相俟テ之ヲ推知シ得ヘキトキハ該拒絶證書ハ有效ナリトス（東京控一一年評論一一卷商法一四七頁）
- 二 商法第五一五條ノ二ニ於テ支拂拒絶證書ノ作成ハ手形又ハ附

◎謄本及寫本ノ差異（續商法一一三三頁）

箋ニ依リテ之ヲ爲ス旨規定シタルハ拒絶證書ノ作成ヲ簡易ナラシムルカ爲ニ外ナラサルカ故ニ支拂拒絶證書カ附箋ニ依リテ爲サレタル場合ニ於テハ拒絶證書作成ノ場所ヲ該證書自體ニ詳記セスト雖モ其ノ證書ノ記載ヲ手形ノ記載ト對照シテ該拒絶證書作成ノ場所ヲ推知シ得ヘキトキハ法律ノ要求スル右場所ノ記載ヲ具備スルモノト解スヘキモノトス（大審一一年評論一一卷商法三三三頁）

第五百十六條（拒絶證書ノ數）

數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絶證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

◎二通以上ヲ作成セル場合ノ費用負擔者（續商法一一三三頁）

第五百十七條（拒絶證書謄本ノ備附）
公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作リタルトキハ其謄本ニ左ノ事

項ヲ記載シ之ヲ其役場ニ備フルコトヲ要ス

一 手形金額

二 振出人、支拂人及ヒ受取人ノ氏名又ハ商號

三 振出ノ年月日

四 満期日及ヒ支拂地

五 支拂擔當者、豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其氏名又ハ商號

拒絕證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其贖本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此贖本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

第十節 爲替手形ノ複本及ヒ贖本

第五百十八條〔複本交付ノ請求〕

爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但所持人カ受取人ニ非サルトキハ順次ニ其前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

二人以上ニ各別ニ數通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ數通ノ爲替手形ニ引受テ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百二十一條〔複本ノ送付ト其ノ記載〕

爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受テ求ムル爲メ其一通ヲ送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス
前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受テ求ムル爲メニ送付シタル一通ノ爲替手形ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得若シ其者カ之ヲ返還セサルトキハ拒絕證書ニ依リ其事實及ヒ他ノ一通又ハ數通ノ爲替手形ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受ケルコト能ハサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其前者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百二十二條〔贖本ノ作成〕

爲替手形ノ所持人ハ其贖本ヲ作ルコトヲ得
爲替手形ノ贖本ニ或事項ヲ記載シタルトキハ其事項ト原本ニ記

第二續商法 手形 爲替手形 爲替手形ノ複本及ヒ贖本 五二一條—五二四條

振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作リタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

◎複本ノ意義、效用及危險（續商法一一三四頁）

◎約束手形小切手ニハ複本ヲ認メス（續商法一一三四頁）

第五百十九條〔複本ノ方式〕

爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

◎複本タルコトヲ示スヘキ記載（續商法一一三五頁）

第五百二十條〔複本ノ效力〕

爲替手形ノ複本ヲ作リタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラス

載シタル事項トチ區別スルコトヲ要ス

◎贖本ノ意義及效用並危險（續商法一一三五頁）

第五百二十三條〔原本送付ト其ノ記載〕

所持人カ爲替手形ノ引受テ求ムル爲メ其原本ヲ送付シタル場合ニ於テ其贖本ヲ作リタルトキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載スルコトヲ要ス
前項ノ記載アル贖本ノ所持人ハ原本ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得

◎原本返還請求權ノ性質（續商法一一三六頁）

第五百二十四條〔贖本所持人ノ請求權〕

引受テ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル者カ之ヲ返還セサル場合ニ於テ其贖本ノ所持人カ拒絕證書ニ依リテ其事

實ヲ證明スルトキハ贈本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ又贈本ニ記載シタル満期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三章 約束手形

第五百二十五條 (約束手形ノ要件)

- 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス
- 一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 受取人ノ氏名又ハ商號
- 四 單純ナル支拂ノ約束
- 五 振出ノ年月日
- 六 一定ノ満期日
- 七 振出地

◎約束手形ノ振出ニ關スル諸問

テ代表セララルル所ノ抽象的價格即貨幣ノ有スル購買力ノ或分量ヲ謂ヒ其ノ貨幣ノ内國通貨タルト將又取引上ニ於テ流通スル所ノ所謂自由貨幣タルトテ問ハサルモノトス (朝鮮高等法院一五年評論一五卷商法六一六頁)

二 手形金額即手形債權ノ目的物タルモノハ必ス金錢即抽象的價格ニシテ之カ給付ハ一般金錢債權ニ關スル法則ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ爲サルヘキモノタルコトヲ要スルヲ以テ貨幣ニ非サルモノハ勿論外國ノ通貨其ノ他ノ特種貨幣ノ給付ヲ以テ手形債權ノ目的物ト爲スコトヲ得サルモノトス (同上)

三 手形金額カ外國ノ通貨其ノ他特種貨幣ヲ以テ表示セラレタルカ如キ場合ニ於テハ其レカ特種貨幣ノ給付ヲ目的トシ支拂ノ具タル貨幣ノ種類ヲ限定シタルモノナリヤ將又單ニ金錢ノ一定ノ數量ヲ表示スルノ方法トシテ特種貨幣ニ依リタルニ過キサルモノナリヤ否ヲ決スヘク若前者ニ屬スルモノナラムカ手形金額ノ記載トシテ其ノ效力ナキハ言テ俟タスト雖斯ノ如キ場合ニ於テ當該手形ノ記載文言ヨリ觀察シテ特種貨幣ノ給付ヲ目的トシタル趣旨ヲ明認シ得サル限リハ後者ニ屬スルモノトシテ之ヲ有效ニ解スルチ相當トス (同上)

四 元寶銀ハ通貨タルノ性質ヲ具有スルモノナルヲ以テ手形額面ニ元寶銀ノ一種タル鎮平銀ノ價格計算單位ヨリ積算シタル數額ヲ記載シタル場合ニ於テハ特ニ鎮平銀其ノモノノ給付ヲ目的トシタル趣旨ノ認ムヘキモノナキ限リ開ハ支那特ニ安東地方ノ通

- ◎記名式約束手形ノ要件 (續商法一一三六頁)
- ◎指圖文句ヲ抹消セル手形ノ效力 (商法二七八頁)
- ◎指圖文句アリテ宛名ナキ約束手形 (商法二七八頁)
- ◎約束手形ニ指圖文句記載ノ效力 (第二續商法四三九條)
- ◎手形債務ノ發生ト對價又ハ資金關係 (第二續商法四三五條)
- ◎振出ノ無効ト引受又ハ裏書ノ責任 (第二續商法四四五條)
- ◎共同代表ニ於ケル手形行爲ノ方式 (第二續商法四四五條)
- ◎手形ノ授受ト代表關係ノ調査 (第二續商法四三六條)
- ◎手形ノ要件記載ニ關スル諸問 (第二續商法四三九條)
- ◎自己宛約束手形ノ效力 (續商法一〇二六頁)
- ◎民法第百八條ニ反スル手形行爲ノ效力 (第二續商法四三五條)
- ◎特約ト單純ナル支拂約束トノ關係 (續商法一一三七頁)
- ◎白地手形ニ關スル諸問 (第二續商法四三五條)

◎某寺住職ナル肩書ト振出人ノ認定

◎第二續商法四三五條「手形文言ノ判定方」ノ五參看

◎一定ノ金額ノ意義

一 商法第五二五條ニ規定セル約束手形記載要件ノ一タル一定ノ金額ト謂フハ金錢ノ一定ノ數額ノ義ニシテ金錢トハ貨幣ニ依リ

貨ヲ以テ手形金額ヲ表示シタルモノト解スヘク該手形金額ノ記載ハ法定ノ要件ヲ具備スルモノトス (同上)

五 手形額面ニ元寶銀ノ一種タル鎮平銀ノ價格計算單位ヨリ積算シタル數額ヲ記載シタル場合ニ於テ斯ル手形ノ現實ノ支拂ニ付テハ債務者ハ必スシモ手形記載ノ銀兩ヲ以テスルコトヲ要セス民法第四〇三條ノ規定ニ從ヒ支拂地ニ於ケル満期日ノ爲替相場ニ依リ内國ノ通貨ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (同上)

◎受取人ノ表示ニ關スル諸問

- ◎受取人ノ表示ニ關スル諸問 (第二續商法四四五條)
- ◎事實存在セサル受取人ノ記載 (第二續商法四四五條)
- ◎組合宛トセル約束手形ノ效力 (第二續商法四四五條)
- ◎受取人ノ記載ト誤脱アル場合 (第二續商法四四五條)
- ◎手形ノ共同受取人ノ權利關係 (第二續商法四四五條)

◎振出地ノ記載ニ關スル諸問

- 一 振出地ノ地域如何ハ法律問題ナリヤ (續商法一一三八頁)
- 二 「東京」又ハ「東京府」トアル振出地 (續商法一一三九頁)
- 三 俗稱ニヨル振出地記載ノ效力 (續商法一一四〇頁)
- 四 共同振出ノ約束手形ト其ノ振出地 (第二續商法五二六條)

- 五 振出地ノ記載ニ關スル諸問(續商法一一三八頁)
- 六 振出地ト云ク印刷文字ノ直下ヨリ少シク左偏シタル部位ニ徳島市云々ト記載セラレアルノ故ノ以テ直ニ之ヲ振出地ノ記載ニ非スト云フヲ得サルノミナラス振出地ノ記載ハ振出地欄内ニ於テモ亦振出地ノ記載トシニ有效ナリトス(大審昭和二年法二七九四號一〇頁、評論一六卷商法七四〇頁)
- 七 振出地ハ約束手形ニ記載スヘキ要件ナルモ住所所地ハ其要件ニサルヲ以テ證券ハ寧ロ有效ニ解釋スヘシトノ法則ニ依リ要件ニ非サル住所所地ヲ記載シタルモノト解釋シテ手形ヲ無効ナラシムルヨリハ寧ロ要件タル振出地ヲ記載シタルモノト解釋シテ手形ヲ有效ナラシムルヲ相當トス(大審一二年評論一三卷商法一二二頁)

◎振出人ノ肩書ニ依ル振出地

一 約束手形ニ振出地ト明記シタルモノナキト雖モ振出人ノ肩書ニ振出地タルコトヲ得ヘキ地ノ記載アルトキハ一應其ノ地ヲ振出地トシテ記載シタルモノト認ムヘキコトハ本院判例ノ存スル所ナルニ依リ(本院大正十一年(オ)第四百八十五號同年十一月二十日判決参照)原審カ甲第一乃至第三號約束手形ノ各振出地トアル記載ノ下ニ地名ノ記載ナキモ次行ノ住所トアル記載ノ下ニ振出人タル被繼承人(上管人)氏名ノ肩書トシテ振

出地タルコトヲ得ヘキ長岡郡大津村云々ノ記載アルヲ以テ一應右三通ノ手形ニハ夫々大津村ヲ振出地トシテ記載シタルモノト認ムヘキモノト爲シタルハ毫モ違法ニ非ス(大審昭和三年法二九〇六號一四頁)

二 肩書住所ト振出地ノ記載(續商法一一三九頁)

◎山口縣大島ト記載シタル振出地

手形ノ振出地ヲ單ニ山口縣大島ト記載シクルトキハ山口縣大島ハ則チ山口縣玖珂郡鳴門村大島タルヲ推定スルニ足リ畢竟該記載ハ獨立ノ最小行政區劃タル鳴門村カ振出地タルコトヲ表示シタルモノト認メ得ヘシ(山口地昭和三年法二八八三號一三頁)

◎二個ノ振出地ヲ記載シタル約束手形

手形ノ振出ハ其ノ性質上單一行爲ニシテ一通ノ手形ヲ二個ノ場所ニ於テ振出スコト能ハサルハ數人ノ振出人アル場合ト雖同様にナルヲ以テ一通ノ手形ノ振出場所ハ常ニ一個タルモノト謂フヘケレハ振出地トシテ異レル二個地ヲ記載シアリテ其ノ何レヲ眞ノ振出地ト認ムヘキヤ不明ナルトキハ斯ル不明確ナル記載ハ振出地ノ記載ナキニ等シキ結果トナルヲ以テ右手形ハ手形要件ナル振出地ノ記載ヲ缺ケル無効ノモノトス(山形地昭和二年法二

八〇三號八頁、評論一七卷商法二六七頁)

◎約束手形振出人ノ債務發生時期

手形債務ハ手形行爲ニ因リテ成立シ他ノ手形行爲者ノ行爲ノ效力ニ關係ナクシテ其ノ效力ヲ生ス故ニ手形ノ振出及各裏書ハ孰レモ獨立シタル行爲ニシテ被裏書人ハ裏書人ニ關係ナク手形上ノ債權ヲ原始的ニ取得スルモノナリト雖約束手形ノ振出人ノ債務ハ其ノ振出ノ當時既ニ確定シ手形上ノ債權ハ手形ニ體化セルモノナルコト手形ノ有價證券タル性質ニ照シテ明ニシテ手形ノ裏書讓受人ハ其ノ裏書讓受ニ因リテ該手形上ノ債權ヲ取得スルモ振出人ノ債務ハ手形ノ各裏書讓渡ノ際始メテ發生スルモノニアラスシテ振出ノ當時業ニ已ニ發生シタルモノトス(大審一一年民八四二頁、評論一一卷商法六一八頁)

◎手形ノ書換ニ關スル諸問

- 一 書換手形ノ性質ト獨立ノ法律行爲(第二續商法四三三五條)
- 二 書換ノ特約ヲ記載シタル手形ノ效力(第二續商法四三九條)
- 三 無効手形ヲ書換タル效力(商法二八七頁)
- 四 手形書換ト親族會同意ノ要否(續商法一〇三五頁)
- 五 本件手形裏書ハ準禁治產宣告前同人カ裏書シタル手形ノ書替

手形ニ爲サレタルモノニシテ且該書換ハ單ニ支拂延期ノ爲メニ爲サレタル場合ニ於テハ保佐人ノ同意ナキモ右裏書ハ取消シ得ヘカラサルモノトス(大阪地一五年評論一七卷民法一九九頁、法二七九三號六頁)

◎手形ノ切替又ハ書替ト更改成否

一 手形書替ナルモノハ普通滿期日ヲ延期スルカ爲メニ爲サルモノナルヲ以テ反對ノ證左ナキ限リ單ニ支拂延期ノ爲ニ爲サレタルモノト謂フヘク之ニ因リテ舊手形債務ヲ消滅シ新債務ヲ發生セシメントスル意思ニ基キ爲サレタルモノニ非スト認ムヘク從テ新舊手形間ニ更改ヲ生スルコトナク新舊手形ハ其同一性ヲ失ハサルモノト觀ルヲ相當トス(宮城控一五年評論一五卷商法四八六頁)

二 手形ノ切替又ハ書替ト更改成否(第二續民法六一〇頁)

◎融通手形ノ割引ト消費貸借成立

一 甲カ乙ノ依頼ニ因リ乙カ丙銀行ヨリ金融ヲ得ルカ爲ニ融通手形トシテ約束手形ヲ振出シ之ヲ乙ニ交付シ乙ハ該手形ヲ右銀行ニ交付シ割引名義ノ下ニ手形額面ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケタルトキハ甲ト乙トノ間ニ於テハ甲ノ振出シタル手形ヲ乙カ丙

銀行ニ於テ割引スルコトニ因リテ甲ハ乙ニ對シ額面記載ノ金額ヲ融通シ該金額ヲ直接交付シタルト同一ノ效果ヲ生セシムル趣旨ノ下ニ手形ノ授受ヲ爲シタルモノト取引ノ通念ニ照シ之ヲ認メ得ラルルニ因リ乙カ右手形ノ割引ニ因リテ兩銀行ヨリ金額ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト同時ニ手形面ノ金額ト同一ナル額ヲ目的トシテ兩者間ニ消費貸借ヲ成立セシムル意思表示アリシモノト解スルヲ相當トス(大審一四四年民四七二頁、評論一四卷商法三九三頁)

- 一 從テ乙カ甲ノ振出シタル手形ノ割引ニ依リテ銀行ヨリ金額ノ交付ヲ受ケタル以上甲ハ之ニ依リ乙ニ對シ手形額面ノ金額ニ付消費貸借ニ因ル債權ヲ有スルニ至リタルモノト云フヘク右ノ事情ノ下ニ成立セル債權ヲ擔保スル趣旨ノ下ニ設定セラレタル抵當權設定行爲ハ假裝ノ意思表示ト見ルヘキニ非サルモノトス(同上)
- 三 手形ノ割引ニ因ル金額ノ貸借(續商法一〇六九頁)
- 四 融通手形ノ效力(第二續商法四四〇條)

◎約束手形ノ振出ト既存債務トノ關係

一 既に存在スル債權ノ爲ニ手形ヲ授受シタル場合ニ於テハ特ニ既存債務ノ辨濟ニ代ヘ其ノ手形ヲ授受スル旨ノ合意ナキ限り爾後既存ノ債權ト手形債權ト併存シ何レカ一カ辨濟セラレタル場

其支拂地トス

◎支拂地ノ記載ト其ノ表示方

◎支拂地ノ記載ト其ノ表示方(第二續商法四五二條)
◎支拂地ノ記載アリト爲シ得ヘキ場合(第二續商法四五二條)

◎白地手形ト本條適用ノ時期

商法第五二六條ニハ振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地ト爲スヘキ旨規定スレトモ該規定ハ手形カ振出ト同時ニ完成セラレタル場合ノ規定ナルヲ以テ白地手形トシテ振出サレ補充ヲ待テ始メテ完成スヘキ手形ニ於テハ其完成ノ時期ニ於テ之ヲ適用スヘキモノトス(宮城控一三年評論一三卷商法六二九頁)

◎共同振出ノ約束手形ト其ノ振出地

一 約束手形ニ振出當時振出地欄ニ何等ノ記載ナク且振出人等ノ肩書住所地方異レリトスルモ約束手形ノ振出地欄ニ其ノ記載ヲ缺如スルトキハ振出人ノ住所ノ所在地ヲ以テ其ノ振出地ト看做

合ニ兩者共ニ消滅スルモノト解スルヲ妥當トス(東京控一四四年法二四八九號九頁、評論一五卷民法一三三頁)

- 二 乙カ受取人ノ氏名ノ記載ヲ缺ク所謂白地爲替手形ノ支拂ヲ受クル當時未タ之ニ受取人ノ氏名ヲ補充セザリシトキハ右手形ハ所謂手形要件ヲ欠缺スル無効ノモノナリト雖該手形ハ甲カ乙ニ對シテ負擔スル債務ノ支拂擔保ノ爲振出サレタルモノナルトキハ該手形金ノ辨濟ハ同時ニ其ノ確保スル基本債務ヲモ辨濟ニ因リ消滅セシムル效果ヲ生スルモノト解スルヲ相當トスヘク而シテ甲カ右手形金ノ辨濟ヲ爲サントスル意思モ亦單ニ手形債務ヲ消滅セシメントスルニ在ルノミナラス進ンテ其ノ確保スル基本債務ヲモ消滅セシメントスルニ在ルモノト推知シ得ヘキカ故ニ假令手形自體ハ要件ヲ缺ク無効ノモノニシテ從テ手形金ノ支拂トシテハ法律上何等ノ理由ナキ場合ト雖其ノ確保スル基本債務ノ辨濟トシテハ素ヨリ有效ニシテ之ニ依リテ甲ノ乙ニ對スル債務ハ消滅シタルモノトス(東京控一五年評論一五卷商法二八二頁)
- 三 手形ノ授受ト更改又ハ代物辨濟(第二續民法五六七頁)
- 四 約束手形ノ振出ト既存債務トノ關係(第二續民法六〇九頁)

第五百二十六條(支拂地不記載ノ場合)

振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ振出地ヲ以テ

スヘク若又手形ノ振出カ數人共同ニ係リ其ノ肩書地ノ異ナル場合ニ於テハ筆頭ニアル振出人ノ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト認ムルハ取引ノ通念ナレハ右手形ヲ目シテ直ニ振出地ノ一定ヲ缺ク無効ノ手形ナリト解スルハ妥當ナラス(岡山地昭和三年法二八二號一三頁、評論一七卷商法二六一頁)

二 (右ニ對スル批評) 本判決ハ左記大審院判例ヲ踏襲シタルモノニ外ナラサルヘシト雖不當也

昭和二年十一月十九日大審院第四民事部判決民錄六五七頁
振出地ト云フ印刷文字ノ直下ヨリ少シク左偏シタル部位ニ德島市云々ト記載セラレアルノ故ヲ以テ直ニ之ヲ振出地ノ記載ニ非スト云ハントスル上告人ノ抗辯ハ徒ニ形式ニ拘泥シ不要ニ手形取引ヲ煩雜ナラシメントスルモノ振出地欄ニ於テセザルモ亦振出地ノ記載トシテ有效ナルヲ妨ケストノコトハ夙ニ當院ノ判例トスルトコロニハ非サルカ……況ンヤ之ヲ以テ上告人主張ノ如ク日英興業株式會社ノ營業所々在テ表示セルモノト觀ルモ亦以テ振出地ノ記載ト解セムコト何等ノ疑アルヘカラサルニ於テテ蓋シ約束手形振出人ノ肩書地ヲ以テ振出地ト解スヘキコトハ久シク當院ノ判例トスルトコロニシテ而シテ數人ノ振出人カ次ヲ以テ手形ニ列記セラレアル場合ニハ其筆頭ニ在ル者ヲ以テ前示ノ關係ニ於テハ所謂振出地ト解スヘキコト一般通念上之ヲ當然ト爲スヲ以テナリ云々
約束手形ニ於ケル振出地ノ記載ハ手形成立要件ノ一ニ屬ス而シ

一個ノ手形ハ數人共同シテ之ヲ振出スモ一個ノ振出行爲アルニ過キサルカ故ニ振出地モ亦自ラ一個ニシテ數個アルヲ得サルノ理ナリ左レハ數人ノ振出ニ係ル約束手形ニ於テ振出地欄ニ何等ノ記載ナクトモ振出人ノ氏名又ハ商號ニ肩書地ノ附記アル以上其肩書地力振出地ト解セラルル結果、數人ノ振出人ノ肩書地同一ナルトキハ斯ル手形ハ一定ノ振出地ノ記載アル手形トシテ有效ナルヲ妨ケサルト共ニ若シ之ニ反シ振出地欄ニ何等ノ記載ナク而カモ數人ノ振出人ノ肩書地異ナルトキハ結局數個ノ振出地ノ記載アリ振出地ノ一定ヲ缺クコトトナルヲ以テ斯ル手形ハ無効ナリトス是學者間ノ通説(松本博士手形法四五二頁、水口博士手形法論二四八頁)ニシテ吾人モ亦其正當ナルヲ確信スル所ナリ(判例研究昭和三年五卷五號研究篇二七間一五八頁)案件ニ於ケル約束手形ハ被控訴人兩名ノ振出ニ係ルモノニシテ手形面上振出地欄ニハ何等ノ記載ナク而カモ各振出人ノ氏名ニ附記セラレタル肩書地ヲ異ニスルコトハ本判決ノ事實トシテ確定シタル所ナルカ故ニ本件手形ハ振出地ノ一定ヲ缺クモノトシテ無効タラサルヲ得サルヲ前示説明ニ徴シ明白ナリト謂フヘシ(同上)

然ルニ本判決ハ手形ノ振出力數人共同ニ係リ其肩書地ノ異ナル場合ニ於テ筆頭ニアル振出人ノ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト認ムルハ取引ノ通念ナルヲ以テ振出地ノ一定ヲ缺クモノニアラストスル見解ノ下ニ本件手形ヲ有效ナル手形ナリト論斷セリ然レバ其記載ヲ有意義ニ解スルニ努ムヘキハ實務家當然ノ任務ナルヘシト雖單ニ取引ノ通念上當然ナリト云フカ如キ輒スグ首肯スヘカラサル漠然タル一片ノ理由ノ下ニ手形面上明白ナル記載ニ反スル解釋ヲ爲スハ斷シテ非ナリ(同上)

第五百二十六條ノ二(振出人ノ營業所又ハ住所)
振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎本條ノ解釋(商法二九〇頁)
- ◎振出地以外ノ住所記載ノ效力(續商法一一四三頁)

第五百二十七條(一覽後定期拂約束手形ノ呈示)
一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得
所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ

トモ此點ニ關スル學者間ノ通説ハ正サニ之ニ反スルコト叙上ノ如ク又手形取引ノ實際ニ於テモ果シテ本判決ノ云フカ如キ通念ナルモノノ存在スルヤ頗ル疑問タラサルヲ得ス加之若シ本判決ノ論法ヲ以テ之ヲ推セハ振出地欄ニ相異ナル數個ノ地ノ記載アル場合ニ於テモ等シク其筆頭ニ記載アル地ヲ以テ振出地ナリトシ敢テ振出地ノ一定ヲ缺クモノニアラスト極論セサルヲ得サルニ至ラン然レトモ斯ノ如キハ何人モ首肯シ得ル所ニアラサルヤ蓋シ多言ヲ要セス商法第四百四十六條ハ手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トスル旨ヲ定ム故ニ今若シ振出地ノ記載ニ關シテモ其筆頭ノ記載ヲ以テ主タル部分ノ記載ナリト目スルヲ得ハ如上法意ヲ類推シテ筆頭ノ記載ヲ以テ振出地ナリト爲スモ必スシモ不可ナカルヘシト雖筆頭ノ記載ト次位ノ記載トノ間ニ斯ル區別ヲ立ツルコトヲ得サルハ是亦論ヲ俟タサル所ナルヲ以テ具サニ觀シ來ルニ於テハ判示見解ハ之ヲ支持スヘキ何等ノ根據ナキモノナルコトヲ領解スルニ難カラス吾人ハ到底如上列旨ニ賛意ヲ表シカダキト共ニ前示大審院判例ハ速ニ之ヲ變更センコトヲ希望シテ止マサルナリ(同上)

手形ニ記載シタル事項ハ手形面ノ文言ニ從ヒテ解釋スヘキ手形以外ニ於ケル當事者ノ意思其他ノ事情ヲ參酌シテ其意義ヲ補充シ若クハ變更スルヲ許ササルハ言ヲ俟タス勿論其記載ノ精確ナラサル場合ニ於テ取引上ノ慣例其他諸般ノ資料ニ依據シテ成ル證明セサルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎一覽後定期拂手形ノ意義(續商法一〇九二頁)
- ◎一覽後定期手形ノ呈示ノ性質(續商法一〇九二頁)
- ◎手形ノ呈示ト支拂義務トノ關係(續商法八八二頁)
- ◎約束手形振出人ノ支拂義務(商法二九〇頁)
- ◎一覽拂ノ約束手形ト支拂義務(商法二九二頁)
- ◎一覽手形ノ滿期日(續商法一〇六七頁)
- ◎一覽後定期拂手形ト拒絕證書ノ作成(續商法一〇九二頁)
- ◎手形ノ呈示ニ關スル諸問(續商法四八二條)

第五百二十八條(一覽後定期拂ノ約束手形ト拒絕證書)
所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セザリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ
振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

◎本條ニ關スル諸問

◎前條ノ諸問參照

◎一覽拂約束手形ト時效(商法二九一頁)

第五百二十九條(約束手形ト準用規定)

第四百四十六條、第四百四十九條乃至第四百五十一條、第四百五十三條乃至第四百六十四條、第四百七十一條、第四百八十條乃至第四百九十九條、第五百八條乃至第五百十七條及第五百二十二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス

【準用條文ノ要點】

- 第四百四十六條——手形金額ノ記載數個アル場合
- 第四百四十九條——無記名式手形ノ要件
- 第四百四十九條ノ二——指名持參人拂ノ爲替手形
- 第四百四十九條ノ三——指名持參人拂ノ爲替手形ト其金額
- 第四百五十條——滿期日ノ種類
- 第四百五十一條——滿期日ノ記載ナキ場合
- 第四百五十三條——支拂擔當者ノ記載
- 第四百五十四條——支拂場所ノ記載
- 第四百五十五條——手形ノ讓渡性
- 第四百五十六條——戻裏書ノ效力
- 第四百五十七條——裏書ノ方式及白地裏書
- 第四百五十八條——豫備支拂人ノ記載
- 第四百五十九條——無擔保ノ裏書
- 第四百六十條——裏書禁止ノ裏書
- 第四百六十一條——白地裏書ノ補充
- 第四百六十二條——後裏書ノ效力
- 第四百六十三條——取立委任ノ裏書
- 第四百六十四條——裏書ノ連續
- 第四百七十一條——引受ノ效力(二)
- 第四百八十條——引受人ノ破産ト擔保ノ請求
- 第四百八十一條——前者供與ノ擔保ノ消滅
- 第四百八十二條——支拂ノ呈示

- 第四百八十三條——支拂ノ方式
- 第四百八十四條——一部支拂ノ方式
- 第四百八十五條——支拂請求ナキ場合ト供託
- 第四百八十六條——償還請求ノ要件(一)
- 第四百八十七條——償還請求トノ要件(二)
- 第四百八十八條——再償還請求ノ通知
- 第四百八十八條ノ二——償還請求通知ノ效果
- 第四百八十八條ノ三——裏書地不記載ト償還請求通知
- 第四百八十八條ノ四——償還請求通知ノ推定
- 第四百八十九條——拒絕證書作成免除ノ效果(一)
- 第四百八十九條ノ二——拒絕證書作成免除ノ效果(二)
- 第四百九十條——支拂擔當者ノ記載アル場合
- 第四百九十一條——所持人ノ償還請求金額
- 第四百九十二條——裏書人ノ償還請求金額
- 第四百九十三條——償還ノ方法ト戻手形ノ發行
- 第四百九十四條——戻手形ノ記載要件
- 第四百九十五條——償還ノ手續
- 第四百九十六條——削除
- 第四百九十七條——手形保證ノ方式
- 第四百九十八條——被保證人不明ナル場合
- 第四百九十九條——保證債務履行ノ效果
- 第五百八條——參加支拂ノ請求

第二續商法 手形 小切手

五三〇條

一八九七

第四章 小切手

- 第五百九條——參加支拂ノ權利
 - 第五百十條——參加支拂ノ競合
 - 第五百十一條——從參加人ノ不特定ノ場合
 - 第五百十二條——參加支拂ノ手續
 - 第五百十三條——參加支拂人ノ效果
 - 第五百十四條——拒絕證書ノ作成者
 - 第五百十五條——拒絕證書ノ記載事項
 - 第五百十五條ノ二——拒絕證書ノ作成方(一)
 - 第五百十五條ノ三——拒絕證書ノ作成方(二)
 - 第五百十五條ノ四——拒絕證書ノ作成方(三)
 - 第五百十五條ノ五——拒絕證書ノ記載方法
 - 第五百十六條——拒絕證書ノ數
 - 第五百十七條——拒絕證書謄本ノ備附
 - 第五百二十二條——謄本ノ作成
- 第五百三十條(小切手ノ要件)
小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス
一 其小切手タルコトヲ示スヘキ文字

- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキコト
- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 支拂地

◎小切手ニ關スル諸問

- ◎小切手ノ意義及性質(續商法一一四四頁)
- ◎小切手ノ所持人拂ト持參人拂(商法二九四頁)
- ◎小切手振出ノ有效條件(商法二九三頁)
- ◎支拂委託ハ形式的記載ヲ以テ足ル(續商法一一四四頁)
- ◎無記名式手形ト裏書ノ效力(第二續商法四五五條)
- ◎預金手形ノ預金存否ト支拂責任(續商法一一四六頁)
- ◎預金手形ト支拂責任ノ商慣習(續商法一一四六頁)
- ◎貸越契約ト小切手トノ關係(商法二九五頁)
- ◎銀行業者ニ行ハルル各種ノ商慣習(第二續商法一條)
- ◎小切手ト詐欺罪トノ關係(續刑法五九〇頁)

◎白地小切手ト當事者ノ意思解釋

- 一 渡先ナル文字ノ次ニ受取人ノ氏名モ商號モ記載セス其支拂ノ委託文句トシテ「金額名指人又ハ此小切手持參人ニ御拂渡可被成候也」ト記載セル小切手ハ振出人カ後日所持人ニ受取人ノ氏名又ハ商號ヲ記入セシメテ選擇無記名式(記名式持參人拂ノ小切手ト爲シ得ル權利ヲ附與シテ振出シタル一種ノ白地小切手ナリト認定スルノ外ナキモノトス(東京控一二年評論一三卷商法六六頁)
- 二 小切手ハ其委託文句ノ如何ニヨリテハ受取人ノ氏名又ハ商號ノ記載ヲ缺ク白地小切手ト雖モ補充ニヨリ或ハ完全ナル記名式小切手ト爲ルモノアリ或ハ選擇無記名式小切手ト爲ルモノアリ前者ノ場合ニ在リテハ氏名又ハ商號ノ補充ナキ間ハ其支拂ノ委託文句ハ全ク意義ヲ爲サス從テ白地小切手ハ小切手トシテノ要件ヲ具備セサルモノナルカ故ニ所持人ハ手形上ノ權利ヲ取得スルニ由ラシ後者ノ場合ニ在リテハ受取人ノ氏名又ハ商號ノ補充

ナキ間ト雖モ其支拂ノ委託文句ハ持參人拂ノ意義ヲ有シ無記名式小切手トシテノ要件ニ毫モ缺クル所ナキカ故ニ斯ル白地小切手ヲ振出シタルモノハ反證ナキ限リハ受取人ノ氏名又ハ商號ヲ補充シテ選擇無記名式ノ小切手ト爲シ其權利ヲ行使スルト之ヲ補充セスシテ無記名式小切手トシテ其權利ヲ主張スルトハ全ク所持人ノ自由ニ一任スルノ意思ヲ以テ振出シタルモノト解スルヲ當事者ノ意思及實際ノ取引ニ適合スルモノトス(同上)

◎先日附小切手ノ效力

◎先日附小切手ト取得者ノ善意惡意

- 一 先日附小切手ナルモノハ其ノ事實上ノ振出日ト其ノ呈示ノ日トノ間ニ一〇日以上ヲ置カントスルモノニシテ正ニ商法ノ規定ニ背反スルモノノ如シト雖斯ル小切手ノ取引上現ニ授受セラレツツアリテ而モ何等實害ノ未タ觀ルヘキモノナキカ故ニ先日附小切手ハ有效ナリトス(大審昭和二年民一一八頁、評論一六卷商法三三五頁)
- 二 先日附小切手上ノ權利義務ハ事實振出ノアリタル時ヨリ己ニ發生シ唯支拂ヲ求ムル爲ノ呈示ハ記載ニ係ル振出ノ日以後ニ於テ始メテ之ヲ爲シ得ルモノトス(同上)
- 三 先日附小切手取得者ノ權利ニ付其ノ善意ナリヤ惡意ナリヤテ判定スルノ必要アル場合ニハ總テ該小切手ノ取得當時ヲ標準ト

◎小切手ノ授受ト既存債務トノ關係

- 四 先日附ニテ小切手ヲ振出セル場合ト雖モ手形義務負擔ノ能力振出ノ權限等ハ署名ノ當時ヲ標準トシテ定マルヘキモノニシテ手形面上ニ記載サレタル振出年月日ノ如何ニヨリテ影響ヲ受クヘキモノニ非ス從ツテ本件小切手面上ニ於ケル振出年月日當時ニハ曾山信武カ已ニ專務取締役ヲ辭シ控訴人主張ノ如ク代表權ヲ失ヒ居レリトスルモ控訴人ハ本件小切手振出ノ責任ヲ免ルルヲ得サルモノト解セサルヘカラス(東京控一〇年法一九三七號九頁)
 - 五 先日附小切手ノ效力(續商法一一四六頁)
 - 六 手形ノ善意取得ナリヤ否ノ實例(第二續商法四四一條)
- 既存債務ニ付小切手ヲ授受スルトキハ特ニ當事者ノ意思明白ナル場合ノ外ハ其ノ振出ハ既存債務確保ノ目的ニ出テ其ノ辨濟ノ爲ニセルモノト推定スヘキモノトス——辨濟ノ爲小切手ヲ授受シタルトキト雖後日該小切手ノ支拂アルヘキコトヲ豫期シ帳簿面ニ之ヲ入金ト記載スルカ如キ必シモ其ノ事例ニ乏シカラス又斯ル記入アル帳簿ニ基キテ作成發行セラレル計算書中ニ偶々小切手金額ニ相當スル代金ノ控除アリタルハトテ毫モ異トスルニ足ラサレハ原判決カ如上各事情ハ未タ以テ當該小切手ノ授受ニ

依り直ニ代金債務ヲ消滅セシムルノ合意アリタルモノト斷スヘキ資料ト爲シ難キ旨判示シタルハ敢テ原審ノ爲シ得ヘキ範圍ヲ逸脱シタルモノト云フ可カラス(大審昭和三年評論一七卷民法五三七頁)

○小切手ノ振出ト更改又ハ代物辨濟(第二續民法五六七頁)

○履行ノ提供ト小切手(第二續民法五七八頁)

○小切手授受ノ效果(續商法一一四五頁)

○支拂地ノ記載ト其ノ表示方

○支拂地ノ記載ト其ノ表示方(第二續商法四五二條)

○支拂地ノ記載アリト爲シ得ヘキ場合(第二續商法四五二條)

○小切手ニ依ラサル當座預金ノ拂戻

一 凡ソ當座預金取引ニ於ケル預金者ハ預金契約ト共ニ銀行ト小切手契約ヲ締結スルモノナリト雖所謂小切手契約ハ預金者カ銀行ニ對シ小切手ノ支拂ニ關スル事務ヲ委託シ之ニ因リテ金銭ノ授受ヲ爲ス危險ト煩累トヲ避ケントスル支拂ノ便宜ノ爲ニ爲サレタルモノニ外ナラサルカ故ニ當座預金者カ預金債權其モノノ請求ヲ爲スニハ必スシモ小切手ニ因ルヲ要セス殊ニ訴訟ヲ以テ其支拂ヲ請求スルカ如キハ毫モ妨グルトコロニ非ス(東京地昭

和二年法二七八號一五頁)

二 小切手契約ハ預金者ト銀行トノ間ニ小切手ノ支拂及ヒ之ニ附隨スル計算ヲ委託スル一種ノ委託契約ニシテ當事者ノ便宜ト其取引ノ確實トヲ期スルコトヲ目的トスルモノト解スルチ相當トスヘキモ小切手ノ支拂人タルヘキ銀行カ休業シ又ハ其金額ノ支拂ヲ拒絕シ居ルカ如キ異例ナル場合ニ於テハ當事者ハ右委託契約ニ依ル意思ナキモノト認ムヘキヲ以テ小切手ニ依ラスシテ直接預金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノト解スルチ妥當トス(東京控昭和三年法二八二五號五頁、評論一七卷商法二五九頁)

○右ニ對スル批評(判例研究昭和三年五卷一〇號研究篇五九三—四一頁)

三 當座預金ト小切手ニ依ラサル拂戻請求(補遺一條)

第五百三十一條(削除)

第五百三十二條(小切手ノ一覽拂性)

小切手ハ一覽拂ノモノトス

○滿期日ヲ記載シタル小切手ノ效力(續商法一一四七頁)

第五百三十三條(小切手ノ流通期間)

小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ十日内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス
所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲サザリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百三十三條ノ二(支拂委託ノ取消)

小切手ノ振出人ハ呈示期間經過前ニハ支拂ノ委託ヲ取消シコトヲ得ス
支拂人ハ呈示期間經過ノ後ト雖モ小切手ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

○本條ニ關スル諸問

- 小切手ノ「日附」ノ意義(續商法一一四七頁)
- 小切手ノ呈示ト銀行支店(續商法一一四七頁)
- 小切手ト支拂呈示ノ期間(續商法一一四七頁)
- 小切手ノ呈示期間ト休日ノ算入(續商法一一四七頁)
- 小切手ト支拂拒絕證書作成期間(續商法一一四七頁)
- 小切手ト滿期後ノ裏書讓渡(續商法一〇八一頁)
- 呈示期間ヲ經過シタル小切手ノ效力(續商法一一四八頁)

○本條ニ關スル諸問

- 小切手ノ支拂委託取消ノ意義(續商法一一四八頁)
- 手形ノ振出行爲ノ取消ト相手方(補遺四三八條)
- 小切手ノ所持人ト支拂人トノ關係(續商法一一四九頁)
- 支拂委託ノ取消ト支拂人ノ權利義務(續商法一一四九頁)
- 貸越契約ト小切手トノ關係(商法二九五頁)
- 支拂委託ノ取消ト契約解除ノ關係(續商法一一四八頁)
- 偽造ノ手形又ハ小切手ト商慣習(第二續商法一條)
- 偽造變造ノ小切手ト委託取消ノ要否(續商法一一四八頁)
- 小切手ノ支拂委託取消ノ效力(續商法一一四九頁)
- 送金小切手ト不當利得(商法二九五頁)
- 第二項ニ反スル特約ノ效力(續商法一一五〇頁)

第五百三十三條ノ三〔呈示方法ノ例外〕

小切手ノ所持人カ支拂人ノ加入シタル手形交換所ニ小切手ヲ提出シタルトキハ支拂地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示シタルト同一ノ效力チ有ス

◎本條ニ關スル諸問

◎手形交換所ノ意義（續商法一一五〇頁）
◎手形交換ノ本質（續商法一一五〇頁）

◎手形交換所ニ於ケル支拂ノ拒絶及證明

- 一 手形交換所ノ加入者カ手形交換所ニ出席セスシテ之カ爲手形ノ交換方不能ト爲リタル場合ニ於テモ又手形ノ支拂拒絶アリタルモノト言フヘク單ニ加入者カ手形交換所ニ出席シテ手形ノ支拂ヲ爲サザル旨ノ表意ヲ爲シタル場合ノミチ支拂拒絶アリタリト言フヘキニ非ス（東京區昭和二年評論一七卷商法二八七頁）
- 二 手形交換所ニ於テ爲ス支拂拒絶アリタル旨ノ證明ハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人チシテ支拂拒絶ノ旨及其ノ年月日ヲ記

載シ署名セシムル場合ト異ナリ必スシモ小切手面ニ爲スコトヲ要セザルモノトス（同上）

第五百三十四條（小切手ノ償還請求）

小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人チシテ呈示期間内ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル
手形交換所ニ於テ呈示期間内ニ小切手ノ提出及ヒ支拂拒絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎小切手ノ償還請求要件（商法二九六頁）
- ◎小切手ノ支拂拒絶ト補筆ノ記載（續商法一一五〇頁）
- ◎支拂人カ本條ノ記載ヲ爲サザル場合（續商法一一五一頁）
- ◎小切手ト支拂拒絶ノ證明期間（續商法二九六頁）
- ◎小切手ト償還請求通知及其期間（續商法一一五一頁）
- ◎代表者ノ記載ナキ支拂拒絶證書（續商法一一五一頁）

第五百三十四條ノ二（手形交換所ノ指定）

前二條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

◎手形交換時ノ指定（續商法一一五一頁）

第五百三十五條（線引小切手）

小切手ノ振出人又ハ所持人カ其表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ其線内ニ銀行又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得
振出人又ハ所持人カ平行線内ニ特定セル銀行ノ商號ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ其銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得但其銀行カ其商號ヲ抹消シテ他ノ銀行ノ商號ヲ記載シ之ニ取立ノ委任ヲ爲スコトヲ妨ケス

◎本條ニ關スル諸問

◎線引小切手ノ拾得ト報勞金

- 一 本件小切手ハ遺失シタル線引ノモノニシテ一般ニ客觀的價格ヲ有セザルヲ通例トスルヲ以テ斯ノ如キ小切手ニ付遺失者カ返還ヲ受クル當時幾許ノ價格ヲ有セシモノナルヤハ畢竟被上告銀行カ遺失シタル爲其ノ後該小切手カ善意且無過失ナル第三者ノ手裡ニ歸シ結局同銀行カ損害ヲ被ムルニ至ルノ危險ノ程度換言スレハ該小切手カ善意無過失ナル第三者ノ手裡ニ歸シ得ル可能性如何ヲ標準トシテ妥當ナリトス（大審昭和三年民三九頁、報一四三號一一頁）
- 二 本件ノ如キ多額ノ小切手ヲ取得スルニ當リテハ慎重ナル注意ヲ拂フノ結果振出人ニ對シテ振出ノ事實ヲ確メ其ノ回答ニヨリ之カ取得ヲ決スルモノナルコトハ是亦取引ノ通念ニ照シテ明ナルニヨリ若上告人主張ノ如ク被上告銀行ニ於テ上告人カ本件小切手ヲ拾得シ振出人タル三菱銀行ニ届出同銀行ヨリ之カ通知ニ接スル迄未タ遺失ノ事實ヲ覺知セス爲ニ振出人及支拂人ニ對シテ何等ノ通知ヲモ爲サザリシモノトセンカ三菱銀行ハ本件小切手ヲ取得セントスル者ノ照會ニ對シ振出ノ事實ヲ回答スヘク從テ

被上告銀行ニ於テ同銀行ヨリ叙上ノ如キ通知ヲ受クルノ以テ前
示上告人主張ノ事實ノ有無ハ本件小切手返還當時ノ價格ヲ決ス
ルニ當リ重要ナル關係ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス(同上)

三 然ルニ原院ハ右ノ事實ノ有無ヲ決スルコトヲ漫然本件小切手
カ遺失後善意ノ第三者ノ所有ニ歸スルコトアル危險ヲ考慮シタ
ル上判文列記ノ此ノ以外ノ事情及商法第九百三十三條ノ規定等
ヲ綜合考覈シ該小切手ノ價格ヲ金五萬圓ト認定シ之カ百分ノ五
ニ相當スル金二千五百圓ノ報勞金ノミヲ上告人カ請求シ得ヘキ
モノト爲シ其ノ餘ノ請求ヲ排斥シタルハ果シテ其ノ當テ得タル
ヤ否ヲ知ルニ由ナク即原判決ハ重要ナル争點ニ對スル判斷ヲ遺
脱シ且審理不盡ノ違法アルモノトス(同上)

◎十五萬圓ノ小切手ノ拾得ト報勞金(諸法令上卷三頁)

第五百三十六條 (小切手ノ資金ナキ場合ト制裁)

振出^ル人^カ支拂人^ヲシテ支拂^テ爲^サシム^ルコト^ヲ得^ル金額^ヲ超^エ
テ小切手^ヲ振出^シタル^トキハ五圓以上十圓以下ノ過料^ニ處^ス

◎本條ニ關スル諸問

◎小切手ト資金關係(續商法一一五二頁)

◎手形債務ノ發行ト對價又ハ資金關係(第二續商法四三五頁)
◎無効ノ小切手ト過料ノ責任(商法二九七頁)

第五百三十七條 (小切手ト準用規定)

第四百四十六條、第四百四十七條、第四百四十九條ノ二、第
四百五十二條、第四百五十二條ノ二、第四百五十五條、第四百
五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十四條、第四百八十三條、
第四百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條ノ二、第
四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五條、第四百九十五條、
第四百九十五條ノ二、第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條
ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

【準用條文ノ要點】

第四百四十六條——手形金額ノ記載數箇アル場合
第四百四十七條——自己指圖及自己宛爲替手形
第四百四十九條ノ二——指名持參人拂ノ爲替手形
第四百五十二條——支拂地ノ記載ナキ場合
第四百五十二條ノ二——支拂人ノ營業所又ハ住所

第四百五十五條——手形ノ讓渡性
第四百五十七條——裏書ノ方式及白地裏書
第四百五十九條——無擔保ノ裏書
第四百六十條——裏書禁止ノ裏書
第四百六十一條——白地裏書ノ補充
第四百六十二條——後裏書ノ效力
第四百六十三條——取立委任ノ裏書
第四百六十四條——裏書ノ連續
第四百六十三條——支拂ノ方式
第四百八十四條——一部支拂ノ方式
第四百八十六條——償還請求ノ要件(一)
第四百八十七條——償還請求ノ要件(二)
第四百八十七條ノ二——償還請求ノ通知
第四百八十八條——再償還請求ノ通知
第四百八十八條ノ二——償還請求通知ノ效果
第四百八十八條ノ三——裏書地不記載ト償還請求通知
第四百八十八條ノ四——償還請求通知ノ推定
第四百八十九條——拒絕證書作成免除ノ效果(一)
第四百八十九條ノ二——拒絕證書作成免除ノ效果(二)
第四百九十一條——所持人ノ償還請求金額
第四百九十二條——裏書人ノ償還請求金額
第四百九十五條——償還ノ手續

◎本條ニ關スル諸問

◎無記名式小切手ノ要件(續商法一一五三頁)

◎小切手ト裏書ノ要否(商法二九八頁)
◎小切手ト印章ノミノ裏書效力(商法二九八頁)
◎小切手ト裏書(續商法一〇七三頁)
◎小切手ノ満期後ノ裏書讓渡(續商法一〇八一頁)
◎無記名式手形ト裏書ノ效力(第二續商法四五五條)

◎白地小切手ノ認定

「渡先」ナル文字ノ次ニ受取人ノ氏名モ商號モ記載セル其支拂
ノ委託文句トシテ「右金額名指人又ハ此小切手持參人ニ御拂可
成候也」ト記載セル小切手ハ振出人カ後目所持人ニ受取人ノ氏
名又ハ商號ヲ記入セシメテ選擇無記名式持參人拂ノ小切手ト爲
シ得ル權利ヲ附與シテ振出シタル一種ノ白地小切手ナリト認定
スルノ外ナキモノトス(東京控一二年評論一三卷商法六六頁)

◎小切手ノ保證ト手形上ノ效力

一 小切手ニ於ケル保證ノ記載カ手形上ノ效力ヲ有セサルコトハ商法第四百三十九條ノ明文竝ニ商法第五百三十七條ニ於テ小切手ニハ爲替手形ニ關スル保證ノ規定ヲ準用セザリシニ徴シ明白ニシテ而シテ若シ上告人主張ノ如ク如上保證文言ノ記載アル小切手ノ取得ニ依リ直接ノ當事者ニ非サル上告人ト被上告人トノ間ニ民法上ノ保證債務成立スルモノトセハ保證文言ノ記載者ハ小切手ノ轉讓ト共ニ總テノ取得者ニ對シ保證債務ヲ負擔スル結果ト爲リ該特約ノ記載ヲ以テ手形上ノ效力ヲ生セシメタルト相擇フ所ナキニ至リ如上手形法ノ精神ニ反スル結果ヲ見ルニ至ルヘク殊ニ手形ハ其ノ法定要件ノミニ注意シテ之ヲ授受スルニ依リテ手形取引ノ迅速ヲ期スルコトヲ得ルモノナルニ小切手ニ右認定ノ如キ保證特約ノ記載ヲ許ストキハ小切手ノ授受ニ當リ右特約ニ關シ特ニ調査テ加フルノ必要ヲ生スルニ至リ却テ手形取引ノ敏活ヲ害スルコト尠ナラサルカ故ニ如上特約ノ記載ハ無効ナリトス(大審一五年民四六七頁)

二 同旨、手形關係ニ於ケル賠償額ノ豫定(一一)

三 同旨、手形授受者間ノ民法上ノ契約(一一)

四 小切手ノ支拂保證ノ效力(續商法一一一九頁)

第五編 海 商

第一章 船舶及ヒ船舶所 有者

第五百三十八條〔海商法ニ於ケル船舶ノ意義〕

本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他槽櫃ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ槽櫃ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎船舶ノ意義(續商法一一五三頁)
- ◎船舶ノ範圍ト「トロール」船(續商法一一五三頁)
- ◎發動機ニ依リ運航スル汽船(諸法令中卷一〇一八頁)
- ◎航海商船ト小舟トノ衝突ト適用法規(續商法一一五三頁)

第二續商法 海商 船舶及ヒ船舶所有者

◎海商法ト船舶管理令トノ適用順位(續商法一一五四頁)

◎海商法ト船舶管理令トノ關係(續商法一一八〇頁)

第五百三十九條〔船舶ノ從物〕

船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

◎無捺印ノ屬具使用ト其處分(諸法令中卷一〇二〇頁)

第五百四十條〔船舶ノ登記及國籍證書〕

船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

◎本條ニ關スル諸問

五三八條—五四〇條

一九二一

- 船舶ノ噸數測定ノ標準(續商法一一五四頁)
- 船舶登記ヲ受ケ得ヘキ者(諸法令中卷一〇二二頁)
- 船舶登記ニ關スル諸問(諸法令中卷一〇二〇頁)

第五百四十一條 (船舶所有權ノ移轉ト對抗要件)

船舶所有權ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎製造中ノ船舶讓渡ト對抗條件(續商法一一五四頁)
- ◎製造中ノ船舶ト登記事項ノ證明者(諸法令中卷一〇二三頁)

第五百四十二條 (航海中ノ船舶讓渡ト航海上ノ損益)

航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

◎船長ト共同海損ノ計算(續商法一一五四頁)

第五百四十三條 (船舶ノ差押及假差押ノ許否)

差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス
但シ其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラズ

◎本條ノ趣旨

商法第五四三條ニ差押及假差押ハ發航準備ヲ終リタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得スト規定スル所以ハ航海ノ準備ヲ終リタル船舶ノ差押又ハ假差押ヲ許ストキハ旅客及積荷ノ所有者ノ如キ多數ノ利害關係人ノ利益ヲ害スヘキコトヲ慮リ之ヲ禁止スルニ在ルコト疑ヲ容レザルトコロニシテ該規定ハ一面發航ノ準備ヲ終リタル船舶ハ其ノ準備セラレタル航海中ハ固ヨリ航海前ト雖モ之ニ對シテ差押又ハ假差押ヲ爲スコトヲ得サルコトヲ明示スルト共ニ他面發航ノ準備ニ著手スルモ其ノ準備中ニ在ル船

船舶準備セラレタル航海ヲ終了シタル船舶ニ對シテハ其ノ差押及假差押ヲ禁スルモノニ非サルコトヲ明示シタルモノトス(關東廳高等法院上告部昭和元年評論一六卷商法六六六頁、法二六八七號四頁)

◎發航ノ準備ヲ終リタリト意義

一 商法第五四三條カ發航ノ準備ヲ終リタル船舶ニ對シ差押及假差押ヲ許ササル旨ヲ規定セルハ船主ト債權者間ノ繫争關係ノ爲荷主其ノ他ノ利益ヲ害セラルルコトアルハ勿論船舶ニ依ル國際間ノ運送ニ付テハ其ノ規模稍大ナルヲ常トシ相當ノ計畫ノ下行ハルルモノナルヲ以テ其ノ計畫完了シ發航ノ準備ヲ終リタル船舶ニ對シ差押又ハ假差押ヲ許スニ於テハ其ノ利害カ單ニ個人的ノモノニ非ス延テハ社會經濟界ニ影響ヲ及ボス虞アリト謂フヘキヲ以テ同條ニ所謂發航ノ準備ヲ終リタル船舶トハ計畫ノ策源地タル最初ノ港ヨリ出帆スル準備ヲ終リタル船舶ノ意味ニ解スヘキモノトス(關東廳高等法院覆審部一五年評論一六卷商法三四一頁)

二 商法第五四三條ニ所謂發航ノ準備トハ其目的トスル航海ヲ爲スニ付必要ナル相當ノ容觀的仕度ヲ整頓スルノ義ト解スヘキモノニシテ航海ニ關スル船主ノ主觀的計畫若ハ航海ノ客觀的仕度ヲ伴ハサル船主及荷主間ニ於ケル單純ナル貨物運送契約ノ如キ

ハ固ヨリ之ニ該當スルモノニ非ス(關東廳高等法院上告部昭和元年評論一六卷商法六六六頁)

三 不定期航路ニ就キテハ各地ヲ廻航スル貨物船ニ於ケル航海ノ準備ハ該船舶所有者ノ航海ニ關スル主觀的計畫若ハ所有者及荷主トノ運送ニ關スル契約又ハ配給ノ策源ニ關スル時場所方法ノ如何ニ關セス專ラ當該貨物ノ運送ニ必要ニシテ相當ナル客觀的仕度ノ整頓例ヘハ船員ノ乘組貨物ノ積荷石炭飲料品ノ搭載出港並渡航手續ノ完了ヲ意味スルモノト解スルヲ相當トス(同上)

◎本條ノ適用範圍

- ◎船舶ノ從物ト本條ノ適用(續商法一一五五頁)
- ◎本條ハ假處分ニ適用ナキヤ(續商法一一五五頁)
- ◎競賣法ニ依ル競賣ト本條ノ適用(續商法一一五五頁)
- ◎本條ハ物權的請求權ニ適用ナキヤ(續商法一一五五頁)
- ◎積荷ニ對スル差押又ハ假差押ノ許否(續商法一一五五頁)

◎寄航港ニ於ケル船舶假差押ノ適否

本件汽船永和號ハ不定期航海ニ從事スル貨物船ニシテ本件假差押ノ直前安東ヲ出帆スルニ當リテ積荷ナク空船ノ儘ニテ大連ニ向ヒタルモノニシテ安東ヨリ興化ニ至ル七晝夜ヲ要スル航海ニ

使用スル石炭ニ付キテモ其ノ一部ヲ積載シタルノミニテ其ノ大部分ハ大連ニ於テ積載スヘキ豫定ニテ大連ニ向ヒタルモノナルコトハ相手方代理人ノ陳述自體ニ徴シテ明白ナル事實ナリ而シテ本件差押當時ニ於テモ大連ニ於テ興化其ノ他ニ發航スヘキ準備ヲ爲シタル事實ニ關スル何等ノ證據ナキ本件ニ於テハ叙上ノ說明ニ照シ汽船承和號方本件假差押直前安東ニ於テ爲シタル發航ノ準備ハ即チ安東ヨリ大連ニ向フ航海ニ關スルモノニシテ其ノ準備セラレタル航海ハ既ニ大連著港ヲ以テ終了シ大連ニ於テ未タ興化其ノ他ニ向ヒ航海スヘキ發航ノ準備ヲ終ラサル間ニ本件假差押ヲ受ケタルモノト認ムルノ外ナキモノトス從テ本件假差押ハ毫モ相手方代理人主張ノ如キ商法ノ規定ニ違背スル不法ナキモノトス(關東廳高等法院上告部昭和元年評論一六卷商法六六九頁、法二六八七號四頁)

◎發航ノ爲メニ生シタル債務ノ意義(續商法一一五五頁)

第五百四十四條(船舶所有者ノ委任)

船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付

中卷一〇一八頁

◎船舶ノ衝突其他ニ關スル諸問(第二續民法八九四頁)

◎商行爲ノ目的ナキ船舶ト委任ノ能否

原判決ハ其ノ理由ノ後段ニ於テ「新生丸(上告人)カ被上告人ニ委任セントスル所有船舶」ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル船舶ニ非サルコトハ控訴人(上告人)ノ主張ニ照シ明ナレハ商法第五百四十四條ノ適用ナク從テ委任ヲ爲ス得サルヘク「ト列示シタルモ船舶法第三十五條ニハ「商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセザルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラス」ト規定スルヲ以テ商法第五百四十四條ノ規定ハ上告人ノ所有船舶新生丸ニモ亦其ノ準用アルモノト謂ハサルヘカラス蓋同條ハ船舶所有者ノ責任ニ關スル規定ニシテ商行爲ヲ爲ス目的ノ下ニ航海ノ用ニ供セラレル船舶ナルト否トニ依リ其ノ適用ヲ異ニスヘキ理由ナキヲ以テナリ故ニ新生丸ニシテ航海ノ用ニ供スル漁業船ナルコト原判決ノ確定スル如クナル以上其ノ所有者タル上告人ニ於テ之ヲ委任スルヲ得ヘキヤ當然ナルヲ以テ上叙ノ原判決ハ法律ヲ適用セザル違法アルヲ免レス(大審昭和三年民四七二頁)

◎條件ヲ附シタル委任ノ效力

第二續商法 海商 船舶及船舶所有者

キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委任シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラズ
前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

◎海產委任ニ關スル諸問

續商法一一五六頁一九二六頁參看

◎船舶所有者ノ責任ニ關スル諸問

- ◎船舶所有者ノ責任(商法二九九頁)
- ◎船員ノ過失ト船主ノ責任(續商法一一五五頁)
- ◎水先人ノ過失ト船主ノ責任(續商法一一五六頁)
- ◎船員ノ意義及船主トノ契約關係(續商法一一六一頁)
- ◎海技免狀ナキ者ノ雇入ト船舶所有者ノ責任(諸法令中卷一〇二四頁)
- ◎船舶ノ貸貸借ト船舶所有者ノ責任(第二續商法五五七條)
- ◎船舶ノ信託ノ護受人ト船員過失ノ責任(第二續商法五五七條)
- ◎公用船ト商船トノ衝突ト準據法(續商法一一五六頁、諸法令

本件ニ於テハ被上告人ハ其ノ所有船宮島丸カ上告人ノ所有船新生丸乘組員ノ過失ニ基キ沈没シタルコトヲ理由トシテ上告人ニ對シ損害賠償ヲ請求スルモノナルトコロ上告代理人ハ其ノ過失ヲ否認シ且大正十二年九月十日ノ第一審口頭辯論ニ於テ「假ニ本件衝突カ被告船ノ過失ニ基キ被告(上告人)ニ賠償ノ責任アリトセハ被告船即新生丸ヲ原告(被上告人)ニ委任ス」ト述ヘ尙原審ニ於テモ之ニ依リテ上告人ハ適法ニ委任ヲ爲シタルモノナルコトヲ主張セシコト記録上明白ナリ由是觀之上告代理人ノ主張ハ裁判所ニ於テ上告人ニ本件賠償義務アルコトヲ認ムルニ於テハ委任ヲ爲スト云フニ歸著スルヲ以テ該委任ハ條件附ニテ爲サレシモノナリト解スルノ外ナシ而シテ委任ハ其ノ性質上條件ヲ附シ得サルモノナルカ故ニ上告代理人ノ爲シタル前記條件附委任ハ結局其ノ效力ヲ是認シ得サルモノト謂ハサルヘカラス尤モ相殺及取消ノ如キモノハ「若シ相手方ニ對シテ義務アリトセハ」トノ條件ノ下ニ裁判上有効ニ其ノ意思表示ヲ爲シ得ルコトヲ認メラレルモ畢竟是レ等ノ場合ニ於テハ一旦確定判決ニ因リテ其ノ義務アルコトヲ肯定セラレンカ其ノ確定力ニ妨ケラレテ最早其ノ當事者ノ一方ハ是レ等ノ意思表示ヲ爲シ得サルニ至ルヘキカ故ニ前記ノ意思表示ヲ認ムル必要アルカ爲ナリ若判決確定後ニ於テモ尙相殺及取消ノ意思表示ヲ爲シ得ヘキモノトセハ是レ等ノ意思表示ニハ週及數アル爲判決ノ確定力ヲ動カスニ至ル不當ノ結果ヲ生スヘシ然レトモ委任ノ意思表示ニ至リテハ

五四四條

一九二五

同ヨリ過及効ナク確定判決ニ因リテ賠償義務ノ認メラレタル後ニ於テモ之ヲ爲スニ何等妨ケアルナク否寧ロ其ノ後ニ於テ之ヲ爲スコト事ノ順序ヲ得タルモノナリト謂フヘキカ故ニ相殺及取消ノ場合ノ如ク其ノ條件附意思表示ヲ有效トスル必要ナキヤ勿論ナリ(大審昭和三年民四七二頁)

◎各船長ノ共同過失ト各船主ノ責任

一 二人各自ノ船舶所有者ノ被備者タル各船長カ職務上ノ共同過失ニ因リ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テハ其賠償ニ付各船長ノ責任スル債務ハ民法第七百十九條ニ依リ連帶ナルヲ以テ各使用者モ亦連帶債務ヲ負擔スヘキモノト解スルヲ相當トス(東京控一五年法二六三四號一〇頁)

二 碇泊中ノ甲船ト乙船トノ衝突ハ一面乙船船長ニ於テ其ノ甲船ト接近スルニ及ヒテ自己ノ速力ヲ維持セントハセス却テ其ノ曳船ヲ離レテ速力ヲ増加セルカ如キ過失ニ基因スルト同時ニ他面丙船船長カ甲船ノ碇泊位置ト乙船ノ進航狀況トヲ意識セルニ拘ラス適當ノ時期ニ於テ乙船ノ航路ヲ避クヘキ相當ノ處置ヲ爲サスシテ漫然進行シ來リ乙船トノ衝突ノ危険カ目睫ノ間ニ迫ルニ及ヒテ不注意ニモ急左轉ノ如キ妄動ヲ致テシ其ノ際機關運轉ヲ全速力後退ヲ爲スカ如キ可能ニシテ適切ナル臨機ノ手段ヲ講セサリシ職務上ノ過失ニ職由スルモノナル場合ニ於テハ右衝突ハ

乙丙兩船船長ノ共同過失ニ原因セルモノト認ムヘキモノトス(東京控一五年評論一六卷民法一七六頁)

附、叙上ノ場合ニ於テ丙船船長カ當時乙種二等運轉手タリシトスルモ之ヲ以テ直ニ丙船所有者丁會社ニ於テ其ノ選任及事業ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ施シタルモノト謂フヲ得サルモノトス(同上)

三 船員ノ過失ト船主ノ責任(判決總攬續商法一一五五頁)

第五百四十四條ノ二(委付ノ登記)

登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

◎登記シタル船舶委付ノ效力

一 船舶所有者カ登記シタル船舶ヲ委付シタル場合ニ於テ委付ノ登記ヲ爲シタルトキハ別ニ債權者ニ對シ一々委付ノ通知ヲ爲スコトヲ要セス右登記ニ因リ一齊ニ總債權者ニ對シ委付ノ效力ヲ生シ且該委付ノ效力ハ船舶自體ノミナラス當然之ニ附隨スル運送貨及船舶所有者カ其ノ船舶ニ付テ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ニ及フモノト解スヘキモノトス(大阪控一五年評論一五卷商法四八三頁)

二 登記シタル船舶ノ委付(續商法一一五六頁)

◎保險委付ト登記ノ要否(補遺五四四ノ二)

第五百四十五條(委付權ノ消滅)

船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

◎本條ニ關スル諸問

◎新航海ノ意義(續商法一一五七頁)

◎海産ノ委付ト其時期(商法三〇二頁)

第五百四十六條(船舶ノ共有ト利用關係)

船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五百四十七條(船舶ノ共有ト費用ノ負擔)

船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負

擔スルコトヲ要ス

第五百四十八條(船舶ノ共有ト持分ノ強賣)

船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

◎本條ニ關スル諸問

◎組合關係ナキ共有者ト本條ノ適用(續商法一一五八頁)

◎共有船舶ノ處女航海ト本條ノ適用(續商法一一五八頁)

◎新航海ノ意義(續商法一一五八頁)

◎大修繕ノ意義(續商法一一五八頁)

◎共有持分ノ買取請求權(商法三〇二頁)

◎強賣請求ノ通知(續商法一一五八頁)
◎強賣請求通知ノ效力(續商法一一五八頁)

第五百四十九條(船舶利用ニ關スル債務ノ責任)

船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

◎船舶ノ讓渡及委付ト船舶ノ利用(續商法一二三二頁)

第五百五十條(船舶共有者ノ損益分配)

損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ爲ス

第五百五十一條(船舶共有者ノ持分讓渡)

船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得シテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スルコト

ヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

◎共有物ノ專擅處分ト其承諾トノ關係(續商法一一五九頁)

第五百五十二條(船舶管理人ノ選任)

船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス
船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス
船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

◎船舶管理人ノ數

船舶管理人ハ一人ニ限ラレルモノト解スルヲ相當トス(法曹會決議評論一三卷商法六一七頁)

第五百五十三條(船舶管理人ノ權限)

船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

- 一 船舶ノ讓渡、委付若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト
 - 二 船舶ヲ保險ニ付スルコト
 - 三 新ニ航海ヲ爲スコト
 - 四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト
 - 五 借財ヲ爲スコト
- 船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎船舶管理人ト船舶保險ノ義務

船ノ管理即該船舶ノ賃貸又ハ傭船方ヲ委託セラレタルモノハ當

然船舶ヲ保險ニ付スヘキ義務ヲ負擔スルモノト解スヘキ法律上ノ根據存セザルモノトス(神戸地昭和二年評論一六卷商法六七六頁)

◎船舶ノ讓渡及委付ト船舶ノ利用(續商法一二三二頁)

第五百五十四條(船舶管理人ノ義務)

船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條(船籍維持ノ爲ニスル持分ノ買取)

船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持

分ヲ買取ルコトヲ得

◎内外人ノ船舶共有契約ノ效力(諸法令中卷二〇一六頁)

第五百五十六條(船舶ノ貸借ト登記)

船舶ノ貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎船舶ノ貸借ト備船契約トノ區別(續商法一一六〇頁)
- ◎船舶貸借契約ト代理權ノ踰越(續商法一一六〇頁)
- ◎貸借人ノ契約違反ト貸借人ノ解除權(續民法二二四九ノ九頁)
- ◎賃料減額ト同時ニ爲ス解除ノ表意(續民法二二四九ノ九頁)
- ◎船舶貸借ト損害賠償ノ斟酌(商法三〇三頁)

第五百五十七條(船舶貸借人ノ責任)

フヘク從テ其ノ航行中ニ於ケル船員ノ過失ニ因リ生シタル損害ニ付民法第七百十五條ニ依リ事業主トシテ其ノ責任ニ任スヘキモノハ貸借人ニシテ船舶所有者ニ非スト爲ササルヘカラス船舶所有者カ船員ニ對シ船舶貸借中ニ於ケル給料等ヲ支給シタルハトテ此ノ一事ニ依リ貸借人ノ爲ニスル船舶ノ航行操縱ニ關スル事項ヲ以テ船舶所有者ノ事業ナリト爲スノ理由トスルニ足ラス(大審昭和二年民九八頁)

二 船舶ヲ所有スル者ト雖自ラ之ヲ航海ニ依リ營業ノ目的ニ利用シタルコトナク又同船舶ノ船長其ノ他ノ船員ヲ選任又ハ指揮命令シタルニ非スシテ他人ニ於テ同船舶ヲ使用シ船長其ノ他ノ船員ヲ選任シ且之ヲ指揮命令シテ而シテ同船運用上ノ事故ニ因リ他人ニ損害ヲ來シタル場合ニ於テ前記所有者カ其ノ責任ニ任スルコトナキハ民法第七百十五條ノ規定上自明ニ屬スルモノト云フヘク當院方誠ニ商法第五百四十四條ニ付所謂船舶所有者トハ船舶ヲ所有シ自ラ其ノ船舶ヲ航海ニ依リ營業ノ目的ニ使用スル者ヲ指稱シ單ニ船舶ヲ所有スルノミニシテ自ラ之ヲ利用セザルモノハ同條ニ所謂船舶所有者ニ該當セスト爲シタルモ亦此ノ趣旨ニ外ナラサルモノトス(大審一五年民八六〇頁、評論一六卷商法一六七頁)

- 三 本條ノ適用(商法二九九頁)
- 四 船員ノ過失ト船舶貸借人ノ責任(商法三〇一頁)
- 五 船舶貸借人ノ權利義務(商法三〇四頁)

船舶ノ貸借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

◎船舶貸借人ノ責任ニ關スル諸問

- ◎船舶貸借人ト船舶利用ノ所爲(商法三〇四頁)
- ◎船舶貸借ト更新ノ判定(商法三〇四頁)
- ◎船舶貸借人ノ委任權(續商法一一六一頁)
- ◎船舶所有者ノ責任ニ關スル諸問(第二續商法五四四條)

◎船舶ノ貸借ト船舶所有者ノ責任

一 船舶所有者カ船舶ヲ他人ニ貸借セルモノナル以上特別ノ理由ナキ限りハ其ノ占有ハ貸借人ニ移リ其ノ指揮命令ノ下ニ貸借人ノ事業ノ爲ニスル航行ハ貸借人ノ事業執行行爲ニ外ナラスト謂

◎船舶ノ信託的讓受人ト船員過失ノ責任

甲ハ乙ニ對シ債務ノ支拂ヲ確保スル爲船舶ヲ信託的ニ讓渡シ即當事者間ニ於テハ未タ所有權移轉ヲ爲ササルモ第三者ノ關係ニ於テノ船舶ノ所有權ヲ移轉シ置キ甲ニ於テ該船舶ヲ自己ノ名ニ於テ利用シ自己ノ計算ニ於テ運送業ヲ營ミ自ラ船長及船員ノ任免ハ勿論航海ニ付テノ指揮命令ヲ爲シ航海ニ關スル一切ノ費用ヲ負擔シ來リタル場合ニ於テハ乙ハ第三者ニ對スル關係ニ於テハ右船舶ニ付所有權者タリト雖同船舶ヲ航海ニ依リ營業ノ目的ニ使用スル者ニ非サルカ故ニ其ノ船長又ハ船員ノ過失ニ因リ右船舶ノ衝突ヲ起シ丙ニ對シ損害ヲ生シタルトスルモ固ヨリ其ノ責任ニ任スヘキモノニ非ス(大審一五年民八六〇頁、評論一六卷商法一六七頁)

第二章 船員

第一節 船長

第五百五十八條(船長ノ賠償責任(一))
船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ

非サレハ船舶所有者、備船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免レルコトヲ得ス
船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免レルコトヲ得ス

◎船長ノ賠償責任ニ關スル諸問

- ◎船員ノ意義及船主トノ契約關係(續商法一一六一頁)
- ◎船長ノ船舶立去ト其ノ意思(第二續商法五六三條)
- ◎船長ノ職務上ノ注意義務(第二續商法五六三條)
- ◎船積其他技術上ノ過失責任(商法三〇五頁)
- ◎權利船及横切船ト權利義務(商法三〇五頁)
- ◎積荷ノ處分ニ關スル諸問(第二續商法五六五條)
- ◎船長ノ過失ニ因ル賠償額ノ算定(續商法一二三四頁)

◎船舶ノ衝突ト過失ノ所在

一 二箇ノ船舶相接近シタルトキハ兩船互ニ衝突ヲ豫防スルニ必要ナル注意ヲ爲スヘキハ當然ナルヲ以テ甲船ニ過失アルモ其過失ノミニ依テ衝突ヲ惹起シタルニアラスシテ乙船ノ注意ニ依リ

衝突ヲ避ケ得ヘカリシニ乙船ニ於テ其注意ヲ爲サザリシ爲メ衝突ヲ來タシタル場合ハ乙船ニモ亦過失アルカ故ニ乙船ノ操縦者ハ甲船ニ過失アルコトヲ理由トシテ自己ノ過失ノ結果ニ對スル罪責ヲ免レルコトヲ得ス原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ被告ノ船長トシテ乘組ミ居リタル汽船佐野丸カ木村甚藏乘組ノ帆船大正丸ニ接近シタル當時右汽船ノ速力ヲ加フル等ノ方法ニ依リ衝突ヲ避ケ得タリシニ被告ハ不注意ニモ何等衝突ヲ避ケルノ方法ヲ講セス遂ニ大正丸ト衝突シ之ヲ沈没セシメ且乘組員木村甚藏ノ妻ノ溺死スルニ至ラシメタルモノナルヲ以テ縱シヤ大正丸ノ乘組員ニ過失アルモ被告ハ自己ノ過失ノ結果ニ對シ罪責ヲ負ハサルヘカラス況ンヤ原判決ハ大正丸ノ乘組員ニ過失アルコトヲ認メサルニ於テテヤ(大審三年刑一〇二一頁)

二 凡ソ汽船運航ニ際シテハ其ノ船長ハ自身又ハ其ノ乘組船員ヲ指揮監督シテ他船トノ接觸衝突等ノ事故ヲ發生セサル様當ニ前方進路ヲ注意警戒シ斯ノ如キ危險ノ虞アル場合ニハ豫メ警笛ヲ吹鳴シ或ハ自ラ針路轉換進航停止後退等機宜ノ措置ヲ採リ可及的危險ヲ防止スヘキ義務アルコト論ナキ所ナリトス(東京地昭和二年評論一七卷商法二九九頁)

三 本件ニ付之ヲ觀ルニ妙見島南端沖合ヨリ被告汽船ハ一時間約五哩半ノ速度ヲ以テ舵柄ヲ右舷ニ取り進航中水上ノ四圍尙明カルク且進路前方ノ望見ヲ防グルカ如キモノナキヲ以テ其ノ進路右前方針ニ當リ原告船力前記ノ如ク江戸川東岸ヲ十數間ノ距離

ヲ保チテ下流ニ直行シ居ルヲ遙カ遠方ヨリ容易ニ認識シ得ヘキ地位ニ在リタルノミナラス原告船ノ船夫等ハ前記ノ如ク大聲ヲ連呼シテ衝突ノ危險ヲ警告シ居ルモノナレハ被告船ノ船長ニ於テ自身又ハ他ノ船員ヲ指揮シテ少シク前方ヲ注視ノ方法ヲ講シタランニハ當然遙方前方ヨリ原告船ノ船影ヲ發見シ得ヘカリシコト疑ヒナキ所ナルニ拘ラス被告船ノ船長等ハ之ヲ注意シテ原告船ノ進路ニ氣付クコトナク當時何等ノ警笛ヲモ吹鳴セス又徐行ノ方法ヲモ講セス兩船ノ間隔僅ニ約五間ノ近キニ至リ始メテ被告船船長ニ於テ原告船ヲ發見シ急遽應急ノ措置ニ出テタルモ既ニ遅ク前記第一回ノ衝突ヲ惹起シタルモノナレハ該衝突ハ被告船船長ノ過失ニ基因スルモノトス(同上)

四 叙上ノ場合一方原告船ノ動靜ニ付之ヲ觀ルニ本件事故發生ノ當時ハ日没約一時間二〇分ヲ經過シ居リタル以上假令水上ノ四圍ノ望見困難ナラザリシト雖モ其ノ航行ニ當リテハ船上ニ標燈ヲ點シ他船ノ航行ニ警戒ヲ與フヘキ義務アルコト海上衝突豫防法第七條ニ照スモ論ヲ俟タサル所ニシテ原告船ニ相當ノ標燈ヲ點シタル場合ニハ被告汽船等ヨリ原告船影ヲ認識スルコト一層容易ナリシコトハ疑ナキヲ以テ原告船ノ船夫等ニ於テ前記ノ如ク之ヲ義務ヲ怠リ當時何等標燈ヲ點セザリシハ右船夫等ノ過失ト認ムヘク又前記ノ如ク浦安停船場前方十數間ノ箇所ヲ進行シタル際原告船夫等ハ右前方斜ニ約四十數間ノ距離ニ於テ被告汽船力停船場ニ向ケ進航シ來リタルヲ認メ居リタルモノナレハ通

常ノ場合被告汽船ハ右停船場ニ向ケ一直線ニ斜路ヲ取り來ルコトハ容易ニ豫測シ得ヘキ所ナルヲ以テ原告船力江戸川東岸ヨリ十數間ノ距離ヲ保チ依然下流ニ向ヒテ直下スレハ其ノ進路右前方斜ヨリ被告汽船進航シ來リ或ハ衝突接觸等ノ事故ヲ惹起スルカ如キ虞アリ殊ニ當時ハ上ケ潮ニテ且増水シ水勢急ナルノミナラス原告船ハ機權等ニテ運航スル小船ニシテ而カモ米麥類ヲ多量ニ積載シ其ノ航行操縱容易ナラサルカ故ニ萬一兩船衝突等ノ危險切迫ノ場合應急避難ノ措置ヲ採ルカ如キハ至難ノ事ニ屬スルヲ以テ斯クノ如キ場合ハ單ニ警笛ヲ發シテ相手方船員ノ注意ヲ促スヲ以テ足レリトセス豫メ自ラ斜路轉換等ニ依リ遙方前方ヨリ被告汽船ノ進路ヲ避ケ其ノ通過ヲ待チテ後徐ニ航行ヲ續クル等可及的危險ヲ未然ニ防止スヘキ方法ヲ講スヘキコトハ前段說明ノ如ク原告船船夫等ニ於テモ同様船舶運航上ノ注意義務アリト謂フヘク原告船船夫等力之ヲ注意シテ單ニ警笛ヲ連呼スルヲ以テ衝突ノ危險ヲ避ケ得ヘシト輕信シ常ニ進路ヲ江戸川東岸十數間ノ距離ニテ平行シ一直線ニ下流ヘ南下シタルコト前記ノ如クナルヲ以テ愈兩船接近スルニ及ヒテモ急遽方向轉換等ノ方法ニ依リ避難スルヲ得ザリシコトヲ窺知シ得ベキカ故ニ此レ亦右船夫等ノ過失ナリト謂フヘク從テ本件事故ハ原告ノ被用者タル右船夫等ノ業務執行中ノ右等過失モ亦其ノ一因ヲ爲セルモノト認ムヘキヲ以テ本件損害賠償額ノ算定ニ當リテハ右原告被用者ノ過失モ之ヲ參酌スヘキモノトス(同上)

◎船舶ノ衝突ト賠償責任(續民法一〇五三頁、民法四九二頁)

◎船舶ノ引卸ト船長ノ職務

一 凡ソ船長ハ船員ヲ指揮監督シ船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ人命船舶及積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡スヘキ任務ヲ有スルコト船員法第十三條第十九條ノ規定ニ照シテ明ナレハ船長トシテ乘組ミタル船舶カ坐洲シタルトキ之ヲ引卸スハ即チ船舶ヲ保護スル所以ニ外ナラスシテ其ノ引卸作業ヲ爲スハ船長ノ職務ノ範圍内ニ屬スルモノトス(大審一三年刑七七八頁)

二 第一點ニ於テ説明シタルカ如ク判示坐洲セル汽船御浦丸ヲ引卸スハ船長タル被告ノ職務行爲ニ屬スル以上ハ判示ノ如キ方法ニ於テ其ノ引卸作業中他ノ船舶ヲシテ曳綱ノ上ヲ通過セシムルニ方リテハ其ノ船舶ヲシテ安全ニ通過セシムヘキ必要ナル方法ヲ講スルコトモ亦被告ノ職務上ノ義務ニ屬スルモノト論斷スルヲ相當トスヘシ然ラハ所論判示曳綱鋼索ノ一端ヲ直ニ遣リ放チ得ル方法ヲ講セサリシハ即チ業務上必要ナル注意ヲ怠リタルモノト認定セサルヲ得ス(同上七七九頁)

◎船長ノ處罰ト運航能力

汽船乙丸ノ船長甲カ過失ニ於テ二回ニ亘リ海員懲戒法ニ依リ處

罰セラレタルコトアリトスルモ之ニヨリ直ニ右船長カ本件乙丸

ヲ運航スル能力ヲ缺知スルモノナリト認メ難キモノトス(神戸地一五年評論一六卷商法六七六頁)

◎船燈ニ對スル船員ノ注意義務

第五百五十九條(船長ノ賠償責任(二))
海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

◎船燈ニ對スル船員ノ注意義務

船燈ハ夜間航行ノ危險防止ニ最重要ナルモノナルヲ以テ海上衝突豫防法ニ於テ所定ノ光力ヲ維持スヘキ一定ノ裝置ヲ命シタルモノナレハ船員ハ船燈ニ付充分ナル注意ヲ拂ヒ常ニ所定ノ光力ヲ維持セサルヘカラサル義務アルコト同法ノ規定上疑ナキ所ニシテ船員カ必要ノ注意ヲ怠リ船燈力減減シタルカ又ハ制規ノ距離ヨリ認メ得サル程度ニ曇リ居リタリトセハ船員ハ固ヨリ之カ過失ノ責ヲ免ルルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス(大審一五年報七六號一三頁)

◎船長ト海員ノ選任及監督(續商法一一六二頁)

第五百六十條(船長代理ノ選任ト船長ノ責任)

船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ其船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條(船長ノ航海準備ノ義務)

船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

◎船舶ノ堪航能力ノ意義(第二續商法五九一條)

第五百六十二條(船長ノ書類備置義務)

船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス
一 船舶國籍證書
二 海員名簿

◎航海日誌及海難辨明書ノ證據力(商法三〇五頁)

第五百六十三條(船長ノ在船義務)

船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ船積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

三 屬具目錄

四 航海日誌

五 旅客名簿

六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類

七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

◎船長ノ在船義務

◎船長ノ職務上ノ注意義務

- 一 船舶ニ既ニ積荷ヲ終リタルカ如キ場合ニ在リテハ原則トシテ船長ニ乗船ノ責任アルコト勿論ニシテ止ムヲ得サル場合又ハ自己ニ代リ船舶ヲ指揮スヘキモノニ其ノ職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ其ノ指揮スル船舶ヲ去ルコト能サルハ商法第五六三條ニヨリ明ナルモノトス(大阪地昭和二年評論一七卷商法一八一頁、法二七四號一六頁)
- 二 船長トシテ爲スヘキ注意ノ程度ハ各場合ニ於テ異ナルモノアリト雖少クモ商法第五六三條ノ規定スル所ニ從フヘキハ勿論ナルヲ以テ狂人ノ放火ニ因ル發火當時全船員カ積荷ヲ終了シタル船舶ニ在ラサリシカ如キ場合ニ於テハ右船舶ノ船長ニ重大ナル過失アリ因テ以テ當該火災ヲ惹起シタリト謂フモ支障アラサルモノトス(同上)
- 三 既ニ積荷ノ積積ヲ終リ且保險ノ目的トナレル船舶ノ如キハ他人ノ利害ニ重大ナル關係アルヲ以テ船長ノ在船義務ハ獨リ船主ニ對シテノミナラス一船利害關係人ニ對シテモ亦存在スルヲ以テ之ニ反スル慣習アリトスルモ其レハ公ノ秩序ニ戾ルモノナルヲ以テ之カ爲船長ノ前示義務ニ消長ヲ來スコト無キモノトス(同上)

第五百六十四條(船長ノ發航義務)

◎船長ノ船舶立去ト其ノ意思

船員法第十九條ハ船長ハ人命船舶等ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客船員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ船舶ヲ去ルコトヲ禁シタルモノトス從テ立去ルノ意思アリタル以上ハ船客ヲ見捨ツルノ意思ノ有無ヲ問ハス同法條ノ違背タルチ免カレス(大審三五年刑五卷五二頁)

船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條(積荷ノ處分及委付)

船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス
利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

◎積荷ノ處分ニ關スル諸問

- ◎積荷ノ處分ニ關スル船長ノ地位(續商法一二三三頁)
- ◎本條第一項ノ航海中ノ意義(續商法一二三三頁)
- ◎積荷ノ利害關係人ノ意義(續商法一二三三頁)
- ◎船長ノ積荷處分ノ要件(續商法一二三三頁、同二二三三頁、同二二三六頁)

四 本船ノ船長カ其被曳船ノ動作竝ニ其連絡ニ注意ヲ拂ヒ其進路ヲ左側ニ轉シタル場合同時ニ被曳船ニ對シ船首左轉ノ命令ヲ與ヘテ本船ニ追隨セシムヘキニ拘ハラス之ヲ爲サスシテ其危險ノ切迫スルニ及ヒ始メテ右命令ヲ與ヘ又船長代理カ被曳船ノ操縦者トシテ常ニ前方本船ノ進路ヲ監視シ又ハ其監視者ヲ用フル場合ハ適當ニ之ヲ監督シ本船ト同一行動ヲ執ルコトヲ心掛ク可キモノナルニ拘ラス自ラ前方ヲ見通シ能ハサル船尾ニ在リテ本船ノ動作ニ注意セサリシ爲メ他船ト衝突スルニ至リタルトキハ其衝突ハ兩船ノ操縦者ノ共同ノ過失ニ基因スルモノト認メ得ヘク而シテ右ノ過失ハ孰レモ兩船ノ船長ノ職務ニ在ルモノノ職務上重大ナル過失ト云フヘキモノトス(東京地昭和二年報一二五號二二頁)

◎海產委付ニ關スル諸問(第二續商法五四四條)

第五百六十六條(船長ノ權限)

船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

◎船長ノ權限ニ關スル諸問

- ◎本條ニ所謂航海ノ意義(續商法一一六三頁)

◎船長ノ船籍港外ニ於ケル權限(續商法一一六三頁)
◎船長ノ權限ニ關スル諸問(續商法一一六三頁)

第五百六十七條 (船長ノ代理權ノ制限)

船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

◎積荷處分ニ關スル代理權ノ制限(續商法一二三五頁)

第五百六十八條 (船長ノ特別權限)

船長ハ船舶ノ修繕費、救助料、其他航海ニ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス
一 船舶ヲ抵當ト爲スコト
二 借財ヲ爲スコト
三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス
船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ

其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

◎積荷ノ處分ニ關スル諸問(第二續商法五六五條)
◎船長ノ權限ニ關スル諸問(第二續商法五六六條)
◎管理令ト船長ノ特別權限トノ關係(續商法一一六四頁)

第五百六十九條 (船主ノ船長ニ對スル委任)

船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出ダシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

◎海產委付ニ關スル諸問(第二續商法五四四條)

第五百七十條 (船長ノ船舶競賣權)

船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

◎修繕不能ノ意義(續商法一一六五頁)
◎管理令ト船長ノ特別權限トノ關係(續商法一一六四頁)

第五百七十一條 (船舶ノ修繕不能ナル場合)

左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス
一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受ケルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ
二 修繕費カ船舶ノ價格ノ四分ノ三ニ超ユルトキ
前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

◎本條ニ關スル諸問

◎船舶修繕ノ意義及修繕費ノ範圍(續商法一一六四頁)
◎修繕不能ノ意義(續商法一一六四頁)
◎航海不能ト修繕不能トノ關係(續商法一一六五頁)
◎難破船ト修後ノ船體(商法三〇八頁)
◎船舶ノ實價ト協定價額トノ關係(續商法一一六六頁)

第五百七十二條 (船長ノ積荷處分權)

船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

◎積荷ノ處分ニ關スル諸問(第二續商法五六五條)

第五百七十三條 (船長ノ計算及報告義務)
船長ハ運滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ
船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニ
テモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

◎本條ニ所謂航海ノ終了ノ意義(商法三〇九頁)

第五百七十四條(船長ノ解任)

船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由
ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ
因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
船長ハ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタル
トキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘ
キコトヲ請求スルコトヲ得
船長ハ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者
又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

◎船長ノ解任(續商法一一六七頁)

第五百七十五條(船長ノ船主ニ對スル債權ノ時効)
船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効
ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百七十六條(海員ノ在船義務)

海員ハ其雇入ノ手續力終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ
於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス
海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコ
トヲ得ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎船員ノ意義及船主トノ契約關係(續商法一一六一頁)
- ◎乗組船員ト海技免狀(商法三〇九頁)

◎海員ノ脱船(諸法令中卷一〇二七頁)

第五百七十七條(海員食料ノ負擔)
海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

◎海員ノ給料ト支拂義務者

船長カ其ノ權限内ニ於テ雇入レタル海員ノ給料ニ付テハ假リニ
帆船ノ海員ノ給料ニ關シ船主ヨリ船長ニ一定ノ金額ヲ支給シ船
長ハ其ノ範圍内ニ於テ適宜給料ノ額ヲ定メ船長個人ノ責任ヲ以
テ之ヲ海員ニ支給スヘキ義務ヲ負フ一般ノ慣習アリテ前示雇入
カ之ニ依ル意思ニテ契約セラレタリトスルモ船長カ船主トノ關
係ニ於テ其ノ支拂義務ヲ負フハ格別船主ト右海員トノ關係ニ於
テハ船主カ其支拂義務ヲ負フモノト解スルチ相當トス(東京效
一三年評論一三卷商法三四二頁)

第五百七十八條(病傷海員ノ保障責任)

海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ
又ハ傷疾ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間

内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス
前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求
スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ受
ケタルトキハ其給料ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條(海員ノ給料)

一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又
ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割
合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里
程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

- ◎航海ノ意義(續商法六五九條)
- ◎海員ノ給料ト支拂義務者(第二續商法五七七條)

第五百八十條(海員ノ死亡ト船舶所有者ノ責任)

海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス
海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 (海員ノ雇止ト海員ノ權利 (一))

- 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得
 - 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
 - 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
 - 三 海員カ禁個以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
 - 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得
- 第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテ

ノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 (海員ノ雇止ト海員ノ權利 (二))

海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一ヶ月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 (海員ノ雇止請求ト其ノ權利)

- 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得
 - 一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
 - 二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
 - 三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ
- 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マ

テノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條 (船主ノ變更ト海員ノ地位)

航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇備契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第五百八十五條 (海員雇入期間ノ制限)

海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百八十六條 (雇止ノ請求ト其ノ時期)

雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十七條 (海員雇入契約ノ終了事由)

- 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
 - 一 船舶カ沈没シタルコト
 - 二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト
 - 三 船舶カ捕獲セラレタルコト
- 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

◎船舶沈没ノ意義及實例

- 一 商法ニ儲船契約終了ノ原因トシテ規定セル船舶ノ沈没トハ容易ニ引揚クルコトヲ得ス且修繕ニ長日月ヲ要シ儲船ノ目的ヲ阻害スルト認ムヘキ程度ノ遭難ヲ意味シ容易ニ引揚クルコトヲ得ヘク且修繕ニ長日月ヲ要セス儲船ノ目的ヲ阻害セサル程度ノ遭難ハ之ヲ包含セサルモノトス (大阪控一五年評論一五卷商法二二二頁)
- 二 汽船共同丸ハ大正七年一〇月二一日馬尼刺港ニ於テ遭難シ船艙内ニ海水侵入シ翌二二日午前九時二〇分船首海底ニ沈下シタルモ同月三〇日午前三時四〇分ニハ既ニ船體浮揚シ同五時頃ニハ荷揚作業ニ差支ナキニ至リタルコトヲ認メ得ヘキトキハ斯ル

程度ノ遭難ハ決シテ備船ノ目的ヲ阻害スルモノト云フヲ得サル
ヲ以テ商法ニ備船契約終了ノ原因トシテ規定セル船舶ノ沈没ニ
該當セサルモノトス(大阪控一五年評論一五卷商法二二二頁)

◎第五百八十八條(送還ニ代フル現金ノ請求)

海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ
送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

◎第五百八十九條(海員ノ船主ニ對スル債權ノ時効)

第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

◎第五百九十條(備船契約ノ成立)

◎船舶ノ堪航力ノ意義

船舶ノ堪航能力トハ特定船舶カ其ノ從事スル當該航海ヲ完全ニ
遂行スル上ニ必要ナリト相對的ニ要求セラレタル條件ヲ客觀的
ニ具有スル船舶ノ状態ヲ謂フモノニシテ開ハ船舶カ其ノ發航ノ
當時ニ於テ之ヲ具有スレハ足ルモノトス(瀬戸氏評論一四卷商
法六一一頁)

〔附〕法律カ船主ニ對シテ堪航擔保義務ヲ負ハシメタル所以
モノハ危險多キ海上ニ貴重ノ人命財産ヲ臨マシムルニ當リテハ
安全ニ航海ヲ爲スニ適當ナル船舶ヲシテ之ニ當ラシメントスル
ニ因ルモノトス(同上)

◎第五百九十二條(船舶所有者ノ賠償責任)

船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他
ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサル
ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

◎船舶所有者ノ賠償責任ニ關スル諸問

- ◎船員ノ意義及船主トノ契約關係(續商法一一六一頁)
- ◎免責ノ特約ト損害賠償範圍(續商法一一七〇頁)

船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各
當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎運送契約ノ性質(續商法九二三頁)
- ◎運送及運送人ノ意義及實例(第二續商法三三一條)
- ◎船舶ノ貸貸借ト備船契約トノ區別(續商法一一六〇頁)
- ◎船舶ノ貸貸ト違約條項ノ解釋(續商法一一七〇頁)

◎第五百九十一條(航海堪能力ノ擔保)

船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ
航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎船主ノ堪航擔保ト責任ノ範圍(續商法一一七〇頁)
- ◎備船契約ト「ロイド」等級ノ爭(續商法一一七〇頁)

◎海上運送ト損害賠償責任(商法三一〇頁)

◎運送契約ニ於ケル船主ノ賠償責任(第二續商法一二二條)

◎英國法上ノ遞次運送人ノ責任(商法三一〇頁)

◎船舶所有者ノ責任ニ關スル諸問(第二續商法五四四條)

◎船舶ノ貸貸借ト船舶所有者ノ責任(第二續商法五五七條)

◎運送人ノ賠償責任ニ關スル諸問(第二續商法三三七條)

◎第五百九十三條(法令又ハ契約違反ノ積荷ト船長ノ權限)

法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ積積シタル運送品ハ船長ニ
於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ボス
虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキ
ハ其積積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請
求スルコトヲ得

◎第五百九十四條(船積準備ノ通知(一))

船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品
ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ運

滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
 備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間
 ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後
 運送品ヲ船積シタルトキハ船積所有者ハ特約ナキト雖モ相
 當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日
 ヲ算入セス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎碇泊期間ノ定アル備船契約ト本條(商法三一頁)
- ◎備船契約ノ期間更新ト要素ノ錯誤(續商法八一頁)
- ◎備船契約ノ履行不能又ハ期間徒過(續民法一二三四頁)
- ◎不可抗力ノ意義(續商法三三六條)
- ◎運送品ノ盜難ト不可抗力(續商法九三三頁)

◎滞船料ノ意義及算定標準

一 滞船料ハ商法ニ所謂碇泊料ニ該當シ備船者カ船積期間經過後

船積所有者ニ屬シ船員ノ給料等ノ費用ハ船積所有者ニ於テ負擔
 スヘキニヨリ同船ノ休航ニ因リ船積所有者ノ受クル損害ハ右賃
 料額ヲ超エサルモノト云フコトヲ得サルモノトス(同上)

四 甲所有ノ船積カ乙ノ不法行為ニ因リ休航ノ止ムナキニ至リタ
 ル場合ニ於テ假令該船積ニ關シ甲ト第三者丙トノ間ニ賃貸借契
 約締結シアルモ未タ其ノ引渡ヲ爲サス依然甲ノ占有ニ屬シ使用
 收益中ニアルトキハ其ノ休航ニ因リ損害算定ノ標準ハ右甲丙
 間ノ賃貸料ニ非スシテ滞船料ヲ以テ基礎トナスヘキモノトス
 一 法律上ニ於ケル碇泊料トハ船積所有者カ船積ヲ一定ノ超過期
 間碇泊セシメタル不作爲上ノ給付ニ對スル反對給付ニシテ一ノ
 勞務給付ニ對スル報酬タルニ外ナラサルモノトス(烏賀陽博士
 評論一三卷商法四一一頁)

◎船積準備ノ通知ト其相手方

商第五九四條第一項ノ規定ハ船積所有者ニ於テ船積ノ準備整
 ヒタルトキハ遲滞ナク備船者ニ其ノ通知ヲ爲サシメ備船者ヲシ
 テ船積利用ノ機ヲ逸セサラシムル趣旨ニ出テタルモノナレハ被
 控訴人カ備船者ト爲リタルハ單ニ船主タル控訴會社ニ對シ契約
 上ヨリ生スヘキ責任ヲ確保スル關係ノミニ基キタルモノニシテ
 其ノ船積利用者ハ再備船者タル訴外甲ニシテ從テ備船ノ受渡後
 返船其ノ他契約上一切ノ事務處理ニ付テモ甲カ被控訴人ヲ代理

ニ船積ヲ爲シ又ハ陸揚期間經過後ニ陸揚ヲ爲シタル場合ニ於ケ
 ル其經過後ノ碇泊ニ對シ船積所有者ノ備船者ヨリ受クル報酬ニ
 シテ商法カ船積所有者ニ滞船料ノ請求權ヲ認メタル所以ハ船積
 カ豫定ノ碇泊期間ヲ超過シテ碇泊シタル爲其間船積所有者ハ船
 員ノ給料食料其他ノ費用ヲ要スルニ拘ラス船積ノ利用ヲ妨ケラ
 レ其使用ニ因リテ得ヘキ利益ヲ失フニ因ルモノナルコト疑ヲ容
 レサルモノトス(大審一二年民三五頁、評論一—卷商法一三七
 五頁)

二 純理ヨリ云ヘハ不法行為ノ被害者タル船積所有者ハ休航ニ因
 リテ現ニ受ケタル損害ヲ證明スヘキモノナリト雖モ船積ノ不使
 用ニ因リテ被リタル實際ノ損害ハ確實ニ之ヲ計算スルコト至難
 ナルト同時ニ滞船料ノ額ハ商慣習ニ依ルモノト雖モ普通ノ場合
 ニ於ケル船積ノ使用ニ因リテ得ヘキ利益ヲ標準トスルヲ通常ト
 スルカ故ニ特別ノ事情存セサルトキハ休航ニ依リ損害ハ滞船料
 ヲ標準トシテ算定スルヲ以テ最モ條理ニ適シタルモノトス(同
 上)

三 被害船積ニ付キ其所有者ト他人トノ間ニ賃貸借契約成立シ其
 登記アリタルトスルモ不法行為當時其船積カ賃借人ニ引渡サレ
 タルモノナルトキハ同船ハ賃借人ノ占有ニ歸シ船員ノ給料食料
 等ノ費用ハ賃借人ニ於テ負擔スヘキニヨリ同船ノ休航ニ因リテ
 船積所有者ノ受クル損害ハ賃料ニ過キスト云フコトヲ得ヘシト
 雖其船積カ未タ賃借人ニ引渡サレサルニ於テハ其船積ノ占有ハ

シテ直接控訴人ト交渉スルコトト爲リ居ルカ如キ場合ニ於テハ
 前示法條ニ基ク通知モ亦甲若ハ其ノ者ヨリ更ニ備船者ヲ受ケタル
 乙ニ通知スルヲ以テ足ルモノトス(大阪控一五年評論一五卷商
 法二二三頁)

第五百九十五條(船積準備ノ通知(二))

船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知ス
 ルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長
 ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於
 テハ船積期間内ニ限リ備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

◎本條ノ適用

商法第五九五條ノ規定ハ備船者自ラ荷物ノ船積ヲ爲サス船積人
 ナ指定シテ船積ヲ爲サシムル場合ニ關スル規定ニシテ再備船ノ
 場合ニ適用セラルヘキモノニ非ス(大阪控一五年評論一五卷商
 法二二二頁)

第五百九十六條(一部船積ト發航請求權)

備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得
備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五百九十七條 (一部船積ト船長ノ發航權)

船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百九十八條 (全部備船ト發航前ノ解除)

發航前ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス
他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船積港ヲ發

スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ
運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス
備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲サザリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百九十九條 (備船契約ノ解除ト附隨費用)

備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得
前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百條 (全部備船ト發航後ノ解除)

發航後ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フ外第六百六條第一項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠

償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百一條 (一部備船ト契約解除)

船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及ヒ荷送人ト共同セスシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス
發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス
前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百二條 (商品運送ト船積及發航權)

箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ運送品ヲ船積スルコトヲ要ス
荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

◎船積義務違背ノ效果

商法第六百二條第一項ニ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ運送品ヲ運送品ヲ船積スルコトヲ要スル旨ノ規定アリテ荷送人ノ船積義務ヲ認メタルカ如シト雖モ同項ノ規定ハ獨立シテ之ヲ視ルヘキニ

【準用條文ノ要點】

- 第五百九十四條——船積準備ノ通知(一)
- 第五百九十五條——船積準備ノ通知(二)

非と同條第二項ノ規定ト相俟テ荷送人カ相當期間内ニ船積ヲ爲ササルトキハ船長ハ直チニ發航スルコトヲ得ヘク此場合ニ於テモ荷送人ハ約定運送貨金額ヲ支拂フヘキ義務アル旨ヲ定メタルモノト解セサルヘカラス從テ右第一項違反ノ法律上ノ效果ハ同第二項ニ規定スルトコロニ止マリ相手方ノ解除權其他一般債務不履行ノ效果ヲ發生セサルモノト云ハサルヘカラス(東京地一一年法二〇九九號二〇頁)

◎船主ノ運送貨請求權(商法三一頁)

第六百三條(簡品運送ト契約解除)

第六百二條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

第六百四條(運送書類ノ交付)

備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ要ス

第六百五條(陸揚準備ノ通知)

船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備力整頓シタルトキハ船長ハ運送品ヲ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

◎本條ノ適用(商法三一頁)

◎本條ニ關スル諸問(第二續商法五九四條)

◎滯船料ノ意義及算定標準(第二續商法五九四條)

第六百六條(荷受人ノ權利義務)

荷受人カ運送品ヲ受取りタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送貨、附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

◎本條ニ關スル諸問

◎引渡ノ意義(續商法一一七三頁)

◎荷送人ノ運貨支拂義務(商法三一二頁)

◎荷受人ノ運貨支拂義務ノ發生時期(續商法一一七四頁)

◎運送貨ト儲船料(續商法一一七四頁)

◎再運送ニ關スル諸問(第二續商法六一二條)

◎海上運送ニ於ケル荷受人ノ權利

一 陸上運送ノ場合ニハ運送品到達地ニ到達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得スル旨ヲ規定シタルニ拘ハラズ海上運送ノ荷受人ニ付同様ノ規定ヲ爲サスト雖モ彼此差別ヲ設クヘキ何等ノ理由存セサルカ故ニ海上運送ニアリニモ運送品到達港ニ到達シタル後ハ荷受人ニ於テ運送契約ニ因リ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得スルモノトス(東京地一一年評論一二卷商法五七頁)

二 物品運送契約ハ運送人カ荷送人ニ對シ物品ヲ一定ノ地ニ運送スヘキコトヲ約スル契約ニシテ其ノ荷受人ハ荷送人ト同一ニ非スシテ多クハ運送品ノ到達地ニ在ルチ通例トスルチ以テ荷受人モ亦運送契約上ノ權利ヲ有スルモノト爲スニ非サレハ運送契約ノ目的ヲ達スルコト能ハサルモノトス故ニ陸上運送ニ付テハ商法第三百四十三條第一項ニ於テ運送品力到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得スト規定シ以テ荷受人ノ運送人ニ對スル權利ヲ認メタリ此ノ規定ハ海上運送ニ準用スルノ明文ナシト雖商法第六百五條乃至第六百七條ノ規定ヲ如上ノ運送契約ノ目的ニ參酌スルトキハ海上運送ニ於テモ亦陸上運送ノ規定ト同一趣旨ニ依リ運送品ノ到達地ニ達シタル後ハ荷受人カ運送契約ニ因リ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得スルコトヲ認メタルモノニシテ即此等ノ規定ハ荷受人ノ權利ノ存在ヲ前提トシタルモノナルコトヲ看取スルニ難カラズ(大審一三年民二五九頁、評論一三卷商法二七五頁)

三 此ノ荷受人ノ權利ハ運送人ニ對スル運送品ノ引渡請求權ヲ以テ主要ナルモノト爲スヘキハ言テ俟タサル所ナレトモ又運送人若ハ其ノ使用人等ノ故意又ハ過失ニ因リ運送品ノ滅失毀損若ハ延著ナラシタル場合ニ於ケル運送人ニ對スル損害賠償ノ請求權ヲモ包含スルモノトス何トナレハ此ノ請求權ハ運送契約ノ不履行ニ因リテ生シタルモノニシテ本來ノ運送品引渡請求權ト同一ノ權利ニ屬シ單ニ其ノ目的ヲ變更シタルニ過キサレハナリ而シテ船荷證券ノ發行ナキ場合ト雖荷受人カ右ノ權利ヲ有スルコトハ運送契約ノ目的ニ照シテ之ヲ知ルニ難カラス故ニ原院力之ト同一ノ趣旨ニ依リ荷受人タル被上告人ハ船荷證券ノ所持人ニ非サルモ運送人ニ對シ運送品ノ毀損ニ因ル損害賠償請求權ヲ有スル旨ヲ判示シタルハ不法ニ非ス(同上)

◎荷受人ノ積荷受取權(續商法一一七三頁)

◎荷受人ノ權利義務ニ關スル諸問(第二續商法三四三條)

第六百七條(運送品ノ供託)

荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送品ノ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取

數亦同シ

◎運送賃ノ計算ニ關スル諸問

◎備船契約ト期間ニ依ル運送賃(商法三二二頁)

◎貨物陸揚ト航海終了トノ別(商法三二二頁)

◎不可抗力ノ意義及實例(第二續商法三三六條)

第六百十條(船主ノ運送品競賣權)

船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受ケル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得
船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十一條(競賣權ヲ行ハサル船主ノ失權)

ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ運送品ノ積荷者又ハ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

◎船長ト積荷ノ供託(續商法一二三六頁)

第六百八條(運送賃ノ算定標準)

運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百九條(運送賃計算ノ起點及終點)

期間ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不可抗力ニ因リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス

第五百九十四條第二項又ハ第六百五條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ積積又ハ陸揚ヲ爲シタル日

船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又ハ荷受人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷受人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十二條(再運送契約ト船主ノ責任)

船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行力船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責任ヲ任ス但第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

◎再運送ニ關スル諸問

◎再運送ノ場合ト本條ノ適用(續商法一一七五頁)

◎再運送契約ト法律關係(續商法一一七五頁)

◎再運送契約ト運賃請求權(續商法一一七五頁)

◎再運送ノ荷受人ノ支拂ヲ運賃ノ性質(續商法一一七六頁)

◎再運送契約ト船主ノ留置權(續商法一一七七頁)

◎運送契約ニ關スル船主ノ賠償責任

商法第六一二條ハ唯船長ノ職務ノ範圍内ノ行為ニ付テノミ船主ナシテ直接第二ノ運送契約ノ荷送人ニ對シ責任ヲ負ハシムルニ止マルカ故ニ此ノ範圍内ニ於テハ備船者ハ責任ナカラシムルモ其以外ノコトニ付テハ固ヨリ備船者ハ荷送人ニ對シ責任ヲ免ルヘキニ非ス從テ運送品ノ滅失毀損ニ關シテモ免責約款ヲ異ニスルトキハ備船者ハ荷送人ニ對シ損害賠償責任ヲ負擔スヘキ場合固ヨリ存スヘシ從テ亦判決カ本件貨物ノ運送ニ關シ目的物ノ滅失毀損等ニ因リ被上告人カ委託者ニ對シ損害賠償責任ヲ負フヘキ場合アリト判示セルハ正當ナリ(大審昭和二年判例彙報三八卷民事二一二頁、評論一七卷商法二一九頁)

◎「チャーター、パーチャー」ト本條

原院ハ本件亞米利加棉ノ運送ニ任シタル汽船海祥丸ニ關スル被上告人(控訴人)ト訴外船主勝田汽船株式會社間ノ契約ハ備船契約ナリト認定シタリ然レトモ備船契約又ハ「チャーター、パーチャー」ナル名稱ノ下ニ通常締結セララルル契約ハ其ノ内容トスル所必スシモ一様ナラサルモノニシテ船船所有者カ備船者ノ爲ニ運送ヲ爲スコトヲ約スル運送契約タルニ限定セララルヘキモノニ非ス即或ハ船船所有者カ船船ヲ鑿製シテ貸貸シ船借人ニ於テ

其ノ引渡ヲ受ケ船長其ノ他ノ船員ヲ選任シ又ハ雇入レテ自ラ之ヲ航海ニ使用スル場合換言スレハ備船契約ノ名義ヲ以テ純然タル船船ノ貸貸借ヲ締結スルコトアリ或ハ船船所有者カ船長其ノ他ノ船員ヲ選任シ又ハ雇入レテ之ヲ鑿製シタル船船ニ附シテ賃借人ニ引渡シ賃借人ニ於テ右船員ヲ使役シテ該船船ヲ航海ニ使用スル場合即備船契約ノ名義ヲ以テ賃貸借ト勞務供給契約トノ混合契約ヲ爲スコトアリ此等ノ純然タル賃貸借又ハ混合契約ノ場合ニ於テハ其ノ船船ヲ使用スル所謂備船者ハ船船ヲ占有シ自己ノ計算ヲ以テ之ヲ航海ニ使用スルモノナレハ第三者ト運送契約ヲ締結シタルトキハ自ラ運送契約ヨリ生スル一切ノ責任ヲ負擔スヘキモノニシテ船船所有者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノニ非ス尙混合契約ノ場合ニ於テハ船船所有者ハ適當ナル船員ヲ乘組マシメテ航海ノ安全ヲ擔保スルノ義務ヲ負ヒ右備船者ハ該船員ヲ使用スルノ權利ヲ有スルモノトス(通常定時備船契約ト稱スル者ハ多クハ混合契約ナリトス)故ニ賃貸借又ハ混合契約タル備船契約ハ運送契約タル備船契約ト其ノ性質及效力ヲ異ニスルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ商法第六百十二條ノ規定ハ船船ノ全部又ハ一部ニ付運送契約タル備船契約ノ締結セララルル場合ニノミ適用セララルヘキモノナレハ本件海祥丸ヲ目的トシタル備船契約ニ付同條ヲ適用セントスルニハ先ツ以テ其ノ運送契約ナルコトヲ證據ニ依リテ認メタル理由ヲ説明セサルヘカラス(大審昭和三年民五二五頁)

第六百十三條(備船契約ノ終了)

船船ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由
 - 二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト
- 第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎海上運送ニ於ケル割合運賃ノ制度(商法三一三頁)
- ◎船主ノ割合運賃請求權ト立法ノ精神(商法三一四頁)
- ◎船船ノ沈没ト割合運送賃(商法三一四頁)
- ◎船船ノ沈没ト割合運送賃ノ立證(商法三一五頁)
- ◎修繕不能ノ意義(續商法一一六四頁)
- ◎本條第二號ニ所謂滅失ノ意義(商法三一四頁)

- ◎運送品ノ價格ヲ超エサル限度ノ意義(商法三一四頁)
- ◎備船者ノ運賃支拂義務(商法三一四頁)
- ◎積荷ノ處分ニ關スル諸問(第二續商法五六五條)

第六百十四條(備船契約ノ法定解除)

航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他ノ不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎本條ノ適用(商法三一五頁)
- ◎不可抗力ノ意義(第二續商法三三六條)
- ◎法令ニ反スルニ至リタルトキノ意義(續商法一一七八頁)
- ◎船舶管理令ト備船契約解除(續商法一一七八頁)
- ◎豫定利益ヲ得ル能ハサル場合ト解除(續商法一一八〇頁)

◎海商法ト船舶管理令トノ關係(續商法一一八〇頁)

第六百十五條 (運送契約ノ一部不能ト其ノ救濟)

第六百十三條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ、備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得、備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ、遲滞ナク運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス、若シ其陸揚又ハ船積ヲ忘リタルトキハ、運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス。

第六百十六條 (一部備船又ハ簡品運送ト準用規定)

第六百十三條及ヒ第六百十四條ノ規定ハ、船舶ノ一部又ハ簡品ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス。第六百十三條第一項第二號及ヒ第六百十四條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキト雖モ、備船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得、但運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス。

【準用條文ノ要點】

第六百十三條——備船契約ノ終了
第六百十四條——備船契約ノ法定解除

◎修繕不能ノ意義(續商法一一六五頁)

第六百十七條 (運送未了ト全額運送貨)
船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ、運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得、

- 一 船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ
- 二 船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ
- 三 船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

◎備船者ト本條ノ適用(續商法一一八一頁)

第六百十八條 (船舶所有者ノ債權ノ時効)

船舶所有者ノ備船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ、一年ヲ經過シタルトキハ、時効ニ因リテ消滅ス。

◎運送貨ノ時効起算點(商法三二五頁)

第六百十九條 (陸上運送ノ規定ノ準用)

第三百二十八條、第三百三十六條乃至第三百四十一條及ヒ第三百四十八條ノ規定ハ、船舶所有者ニ之ヲ準用ス。

【準用條文ノ要點】

- 第三百二十八條——運送取扱人ノ責任ト時効
- 第三百三十六條——運送貨ノ請求權
- 第三百三十七條——運送人ノ賠償責任
- 第三百三十八條——高價品ノ運送ト賠償責任
- 第三百三十九條——相次運送人ノ責任

◎本條ニ關スル諸問

- ◎解船ノ事故ト運送人ノ責任(續商法一一八一頁)
- ◎挽船ニ關スル諸問(續商法六〇八條)
- ◎準用條文ノ諸問參看

第二款 船荷證券

第六百二十條 (船荷證券ノ發行)

船長ハ、備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ、運送品ノ船積後、遲滞ナク、一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス。

◎本條ニ關スル諸問

- ◎運送契約ニ關スル船長ノ權限(商法三一六頁)

- 船長ノ代理行爲並代理占有(商法三一六頁)
- 船荷證券ノ作成及效力發生ノ時期(商法三一六頁)
- 運送品ノ船積ナキ船荷證券ノ效力(第二續商法六二二條)
- 證券ノ效力判斷(船荷證券トシテ無効ナル證書ノ解釋(商法三一六頁))
- 船荷證券ノ喪失ト運送品ノ所有權(商法三一六頁)

第六百二十一條 (船荷證券ノ代理發行)

船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

- 船荷證券發行ノ委任(續商法一一八二頁)
- 船荷證券ト船舶所有者ノ責任(商法三一七頁)

第六百二十二條 (船荷證券ノ記載事項)

船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スル

コトヲ要ス

- 一 船舶ノ名稱及ヒ國籍
- 二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名
- 三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號
- 四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號
- 五 荷受人ノ氏名若クハ商號
- 六 船積港
- 七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港
- 八 運送貨
- 九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數
- 十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

◎船荷證券ニ關スル諸問

- 貨物引換證船荷證券等ノ方式(續商法一一八二頁)
- 船荷證券ト免責事項(商法三一七頁)

- 船荷證券ト「ペード」ナル文句ノ附記(商法三一七頁)
- 船荷證券ノ取戻請求(商法三一七頁)
- 運送品ノ船積ナキ船荷證券ノ效力
- 荷爲替取扱銀行ノ調査義務

一 (上告論旨)本件船荷證券カ船積セラレサル貨物ニ付發行セラレタル實質上無効ノモノナルコトハ原判決モ亦之ヲ認ムル所ナリ然リ而シテ取扱銀行タル住友銀行門司支店カ此ノ實質上無効ナル船荷證券ヲ以テ荷爲替ヲ取組ミタル事實ニツキ原判決ハ荷爲替取扱銀行カ船荷證券ニ付實質上ノ審査ヲ爲スト否トハ權利ニシテ義務ニアラスト説明スレトモ荷爲替ノ取扱ハ銀行カ自己ノ營業トシテ受ケタル一ノ商行爲ニシテ其ノ性質ハ委任若ハ委託ト同一ノモノナレハ此ノ取扱ヲ爲スニ當リ善良ナル管理者タル注意ヲ以テスヘキ義務アルコトハ明白ナリ然ルニ原判決カ實質上ノ審査ヲナスト否トハ權利ニシテ義務ニアラスト放言スレハ大ナル誤解ナリ加之荷爲替ノ取扱ヲ依頼セルハ常ニ法律上有効ナル荷爲替ノ取扱ヲ意味スルモノニシテ荷爲替ノ有效無効ハ直ニ依頼人ノ利害ニ影響スルモノナレハ取扱銀行ハ當然ノ義務トシテ荷爲替ノ有效ナル成立ニ必要ナル審査ヲナスヘキモノナルコト論ヲ俟タス若夫原判決ノ如ク船荷證券ノ實質上ノ審査ヲ爲スヘキヤ否ハ一ニ銀行ノ權利ニシテ義務ニアラストセハ荷爲

替ノ信用ヲ破壞シ經濟上ニ及ホス惡影響ノ甚大ナルモノアラン

二 (上告判示)商法第六百二十二條ニハ船荷證券ニ運送品ノ種類重量若ハ容積及其ノ荷造ノ種類箇數並ニ記號ヲ記載スヘキコトヲ定メ同法第六百二十九條カ同第三百三十四條ノ二第三百三十五條ヲ船荷證券ニ準用シ船荷證券ヲ作リタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ船荷證券ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スト得スト爲シ又船荷證券ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ船荷證券ヲ引渡シタルトキハ其ノ引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有スルコトヲ定メタルカ故ニ此等ノ規定ヨリ推考スレハ運送人カ運送ノ爲荷送人ヨリ現ニ物品ヲ受取り船積シ居ルコトヲ以テ有效ナル船荷證券成立ノ前提要件ヲ爲スモノニシテ物品カ船積セラレサルニ拘ラス船荷證券發行セラレタルトキハ該證券ハ何人ニ對シテモ無効ナリト云ハサルヲ得ス(當院大正二年(オ)第百二號同年七月二十八日第二民事部判決參照)叙上ノ如クナルヲ以テ他人ヨリ將來發行セラレヘキ船荷證券ニ付荷爲替ノ取扱方ヲ委託セラレタル者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ船荷證券カ果シテ船積セラレタル物品ニ付發行セラレタルヤ否ヤヲ調査シテ之カ荷爲替ノ取扱ヲ爲スヘキモノナリ若受任者カ右注意義務ニ違背シ船積セラレサル物品ニ付發行セラレタル無効ノ船荷證券ニ對シ荷爲替ノ取扱ヲ爲シ自ラ損害ヲ蒙リタリトスルモ是一ニ其ノ注意義務ヲ怠リタル結果生シタルモノナレハ委任者カ受任者ニ對シ荷爲替

ノ取扱ヨリ生シタル損害ニ付其ノ責ニ任スヘキ旨約シタリトノ事由ノミニヨリ委任者ニ對シ其ノ責ヲ歸スルヲ得サルヤ論ヲ俟タス然ルニ原審ハ本件船荷證券カ物品ノ船積ナキニ拘ラス發行セラレタルモノニシテ無効ナリト認定シタルニ拘ラス特約ヲ以テ右調査義務ニ付別段ノ定メヲ爲シタリト認ム可キ證左ナシトノ理由ニヨリ本件船荷證券ニ付荷爲替ノ取扱方ヲ受任シタル訴外住友銀行ニ對シ本件船荷證券カ現實船積セラレタル物品ニ付發行セラレタルモノナリヤ否ヤニ付之カ調査ヲ爲ス義務ナキモノト判定シタルハ不法ナリ(大審一五年民三三九頁、評論一五卷商法二二頁)

◎貨物受取前ノ引換證ノ效力(第二續商法三三三條)
◎引換證ノ不法發行ト運送人ノ責任(補遺三三三條)

◎船荷證券ト發行資格明示ノ要否

船荷證券ニ發行名義人ノ發行資格ヲ明示スルコトハ必スシモ法律ノ要求スル所ニアラスト解スルチ相當トス(東京控一四年法二二九五號一六頁)

第六百二十三條 (船荷證券ノ贈本)

備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證

依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第六百二十七條 (一人カ引渡ヲ受ケタル效果)

二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第六百二十八條 (所持人數人間ノ權利ノ優劣)

二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未ダ運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第六百二十九條 (船荷證券ト準用規定)

第三百三十四條乃至第三百三十五條及ヒ第三百四十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス

券ノ贈本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條 (陸揚港ノ運送品ノ引渡)

陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得ス

◎貨物引換證ノ貨物ヲ處分シ得ル者 (第二續商法三三四條ノ二)

第六百二十五條 (陸揚港外ノ運送品ノ引渡)

陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第六百二十六條 (數人ノ引渡請求ト船長ノ義務)

二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ運送品ヲ運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第六百二十四條ノ規定ニ

【準用條文ノ要點】

- 第三百三十四條——貨物引換證ノ證券的效力
- 第三百三十四條ノ二——貨物引換證ノ物權的效力
- 第三百三十四條ノ三——貨物引換證ノ讓渡性
- 第三百三十五條——貨物引換證ノ引渡ノ效力
- 第三百四十四條——貨物引換證ト運送品ノ引渡

◎本條ニ關スル諸問

- ◎船荷證券等發行者ノ責任(續商法一一八四頁)
- ◎中華民國法ト船荷證券ノ效力(第二續商法二八二條)
- ◎右ニ對スル批評(判例研究五卷九號研究篇五三問三〇七頁)
- ◎船荷證券ニ依ル運送品處分ノ效力(參看)
- ◎英法ニ依ル貨物引渡ノ差止(續商法一一八三頁)
- ◎運送契約ノ違背ト荷送人ノ權利(商法三一八頁)
- ◎船荷證券ノ喪失ト運送品ノ所有權(商法三一六頁)
- ◎各準用條文ノ諸問參看

第二節 旅客運送

第六百三十條 (乘船切符ト讓渡性)

記名ノ乗船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第六百三十一條 (旅客食料ノ供給)

旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第六百三十二條 (手荷物ノ無貨運送)

旅客カ契約ニ依リ船中ニ携帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船舶所有者ハ特約アルニ非サレハ別ニ運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十三條 (旅客ノ乗船時期)

旅客カ乗船時期マテニ船舶マテニ船舶ニ乗込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十四條 (旅客任意ノ契約解除)

スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 (旅客運送契約ノ終了)

旅客運送契約ハ第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十八條 (旅客ノ死亡ト手荷物ノ管理)

旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三十九條 (海上旅客運送ト準用規定)

第三百五十條、第三百五十一條第一項、第三百五十二條、第五百九十一條、第五百九十二條、第六百十四條及ヒ第六百十八條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス
第五百九十三條及モ第六百十七條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス

發航前ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
發航後ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百三十五條 (旅客ノ航海不能ト契約解除)

旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得
前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其選擇ニ從ヒ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

第六百三十六條 (船舶ノ修繕ト旅客ノ住居及食料)

航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送

【準用條文ノ要點】

- 第三百五十條——旅客ニ對スル賠償責任
- 第三百五十一條——手荷物ニ對スル賠償責任(一)
- 第三百五十二條——手荷物ニ對スル賠償責任(二)
- 第五百九十一條——航海堪能力ノ擔保
- 第五百九十二條——船舶所有者ノ賠償責任
- 第五百九十三條——法令又ハ契約違反ノ積荷ト船長ノ權限
- 第六百十四條——備船契約ノ法定解除
- 第六百十七條——運送未了ト全額運送貨
- 第六百十八條——船舶所有者ノ債權ノ時效

第六百四十條 (旅客運送ノ備船契約ト準用規定)

旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海 損

第六百四十一條 (共同海損ノ意義)

船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危険ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危険カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

◎共同海損ニ關スル諸問

◎共同海損ノ成立要件 (續商法一一八六頁)

◎船長ノ處分ノ意義 (續商法一一八六頁)

◎共同海損ノ清算ト利息

一 船長カ爲シタル處分ニ因リ船舶又ハ積荷ニ損害ヲ生セシメタル場合ニ關シテハ共同海損精算中利息ヲ加算スヘキ旨ノ直接規定ナキヲ以テ多少ノ疑問ヲ生スヘシト雖既ニ立替金ニ付利息ヲ加算スヘキモノトスレハ損害額ニ付テモ同シク之ヲ加算スヘキモノトスルヲ寧ロ商法規定ノ精神ニ適合スルモノトス (松本博士評論一四卷商法五一〇頁)

第六百四十二條 (共同海損ノ分擔額)

共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送貨ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之チ分擔ス

◎本條ニ關スル諸問

◎共同海損ノ分擔額ヲ定メタル趣旨 (續商法一一八六頁)

◎貨物引換證ノ貨物ヲ處分シ得ル者 (第二續商法三三四條ノ二)

◎船員ノ過失ト免責約款 (續商法一一八七頁)

◎共同海損ノ債務ト相殺 (續商法一一八七頁)

◎戻手數料支給ノ慣習 (續商法一一八七頁)

◎代用運送貨ト共同海損費用 (續商法一一八七頁)

第六百四十三條 (共同海損ノ分擔額ノ標準)

共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十四條 (共同海損ノ分擔ト有限責任)

前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責任ヲ負フ

第六百四十五條 (共同海損ノ分擔ノ除外 (一))

船舶ニ備附ケタル武器、船員ノ給料、船員及旅客ノ食料並ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人之チ分擔ス

第六百四十六條 (共同海損ノ分擔ノ除外 (二))

第二續商法 海商 海損

六四三條—六四八條

一九六五

船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス
甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラズ
前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十七條 (共同海損ト損害額ノ算定)

共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス
第三百三十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十八條 (積荷價格ノ虛偽記載ノ制裁)

船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額

ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム
 積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係
 人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス
 前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスヘキ事項ニ付キ虛偽
 ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十九條 (海損ノ目的物復歸ノ場合)

第六百四十二條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シ
 タル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復
 シタルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助料及ヒ一部滅失又ハ毀
 損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコト
 ヲ要ス

第六百五十條 (船舶衝突ノ責任)

船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ
 過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シ
 タル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

◎船舶衝突ニ因ル損害債權ト時効

- 一 商法第六五一條ハ其損害カ財產權上ノモノナルニ於テハ廣ク
 船舶ノ衝突ニ因リ生シタル債權ニ關スル時効ヲ定メタルモノナ
 ルヲ以テ運送業者カ貨物ノ運送委託ヲ受ケ之ヲ自己ノ所有船ニ
 積込ミ其運送ノ途中他船(兩船ハ孰レモ海商法ノ適用ヲ受ケル
 船舶ナリ)ト衝突シ該貨物カ運送人ノ所有船舶ト共ニ沈没シ爲
 メニ委託者ニ生シタル損害賠償ノ債權ニ付テハ商法第六一九條
 第三二八條ノ時効ニ因ルヘキモノトスルハ失當ニシテ右債權ノ
 時効起算點ハ衝突ノ時ニ在リト爲ササル可カラズ(大阪地一〇
 年評論一〇卷商法五七六頁)
- 二 商法第五編第四章第五百三十八條第一項、第六百五十一條ノ
 規定ニ徴スレハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル船舶
 ノ衝突ニ因リ生シタル債權ハ一年ノ時効ニ因リ消滅スヘキモノ
 ナルモ船舶法第三十五條ニ依レハ商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ
 爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但
 官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ非スト規定
 シ同條但書ハ時効ノ場合ヲ除外スル所ナキヲ以テ苟モ官廳又ハ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎本條規定ノ旨趣(商法三一八頁)
- ◎船舶衝突ノ意義(續商法一一八八頁)
- ◎船舶衝突ト過失責任ノ判定(續商法一一八八頁)
- ◎汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘキ場合(續商法一一八八頁)
- ◎船舶衝突ノ防止ニ關スル實驗則(續商法一一八九頁)
- ◎事變的衝突又ハ原因不明ノ衝突(續商法一一八九頁)
- ◎一方的過失ニ因ル衝突ト其責任(續商法一一八九頁)
- ◎雙方的過失ニ因ル衝突ト損害負擔ノ割合(續商法一一八九頁)
- ◎船舶ノ衝突ト所謂單一責任(續商法一一八九頁)
- ◎兩船主ノ第三者ニ對スル責任(續商法一一九〇頁)
- ◎船舶ノ衝突ト船舶共有者ノ責任(續商法一一九〇頁)
- ◎他船船主荷主間ノ免責約款ト地位(續商法一一九〇頁)
- ◎衝突ニ因ル損害額ノ算定期間(續商法一一九一頁)
- ◎船舶衝突ニ因ル損害ノ範圍(續商法一一九一頁)
- ◎船燈ニ對スル船員ノ注意義務(續商法八九四頁)

第六百五十一條 (共同海損又ハ船舶衝突ノ債權ト時効)

共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シ
 タルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

- 公署ノ所屬船舶ニシテ他船ト衝突ノ爲被リタル損害ニ關スル債
 權ナルニ於テハ右但書ニ依リ商法第六百五十一條ノ短期時効ニ
 因リ消滅スルコトナク商法第一條ノ規定ニ從ヒ民法第七百二十
 四條不法行爲ノ條規ニ則リ三年ノ時効ニ因リテ消滅スヘキモノ
 トス(大審一一年民五五五頁)
- 三 公用船ノ衝突ニ因ル債權ト時効(續商法一一九一頁)
- 四 船舶衝突ニ因ル債權ノ範圍(續商法一一九一頁)
- 五 「トロール」漁船ノ衝突ニ因ル債權ト本條(續商法一一九一
 頁)
- 六 船舶衝突ニ因ル債權ト時効起算點(續商法一一九二頁)

第六百五十二條 (準共同海損)

本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於
 テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

◎不可抗力ノ意義及實例(第二續商法三三六條)

第五章 海難救助

第六百五十二條ノ二〔海難救助ト救助料〕

船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得

◎本條ニ關スル諸問

◎遭難船舶救助者ト報酬請求權(商法三二〇頁)

◎船舶引揚ノ委託ト報酬及實費(續民法一二四九ノ七一頁)

◎船舶引揚ノ委託ト必要費償還ノ慣習(續民法一二四九ノ七一頁)

◎旅行ノ事實ト旅費ノ認定(船舶引揚委託ニ關スル)(續民法一二四九ノ七一頁)

◎不特定物ト海難ニ因ル危險負擔(商法三二二頁)

◎海難ト管海官廳ニ對スル報告(續商法六五三條)

◎海難ノ意義

一 海難トハ船舶又ハ積荷カ海上ノ危險ニ因リテ滅失ノ危險ニ在リ且船舶ノ目力ヲ以テ之ヲ免ルル能ハサルコトヲ謂フモノニシ

テ避難スルコトアルヘク斯ノ如キ場合ニ於テハ石炭ノ欠乏ト無線電信ノ設備ナキ船舶ノ運命ハ容易ニ之ヲ想像シ得ヘキ所ナルヲ以テ此ノ儘ニ推移セハ霧島山丸ノ船體ハ終ニ坐礁沈没又ハ少ナクトモ漂流ノ運命ニ遭遇スヘキ切迫セル危險ノ狀態ニ在リタルモノト認ムヘク而シテ是ノ如キ海上ノ危險ハ商法第六五二條ノ二三所謂海難ニ該當スヘキモノトス(釜山地方法院一四年評論一五卷商法四九頁)

◎義務ナクシテ救助シタル者ノ意義

一 商法第六五二條ノ二三所謂義務ナクシテ救助シタルモノトハ一般の概括的ニ法律上又ハ契約上ノ救助義務ヲ負擔セサルモノノ救助行為ヲ指稱シ船舶又ハ積荷カ現ニ海難ニ遭遇中其船舶又ハ積荷ノ直接セル危險ヲ除去スル爲當事者カ救助ニ付任意同意ヲ爲シ所謂救助契約ヲ締結シ其契約義務ノ履行トシテ救助行為ヲ爲シタルトキハ茲ニ所謂義務ナクシテ救助ヲ爲シタル場合ニ該當スルモノト解スルチ正當トス(釜山地方法院一四年評論一五卷商法四九頁)

二 私法上海難救助ノ義務ヲ負擔スル場合ニハ其ノ義務ノ範圍内ニ於テ爲サレタル努力ニ對シテハ救助料ヲ求ムルコトヲ得サルモノナルモ船舶カ海難ニ遭遇中船舶又ハ積荷ノ救助ノ爲當事者カ契約ニ因リ救助スル場合ハ私法上ノ義務ニ因リ救助スルモノ

六五二條ノ二

テ而カモ其ノ滅失ノ危險カ必スシモ直接絶對ノモノタルヲ要セズ又専ラ客觀的ノ見地ヨリ其ノ存否ヲ決スヘキモノニ非スシテ救助ヲ與ヘタル當時ニ於テ合理的判斷ニ基キ若救助ナカリセハ滅失シタルヘキ虞アルコトヲ以テ足レリトス而シテ救助カ契約上ノ義務ノ履行トシテ爲サル場合ト然ラサル場合トニ依リ何等ノ差異ナキモノトス(大邱覆審法院昭和元年法二七一七號九頁)

二 霧島山丸ハ出帆以來不良ノ天候ニ苦シミ豫定ノ速力ヲ保ツ能ハス困難ナル航海ヲ續ケ殊ニ大正七年一月二十七日ヨリ同月三十一日ニ至ル間ハ北西ノ暴風及怒濤ニ遭ヒ最後ノ三〇餘時間ハ操舵ノ自由ヲ全然失ヒ唯風浪ノ翻弄ニ任セテ漂流スルノ止ムナキニ至リ加フルニ石炭粗悪ニシテ豫定以上ヲ費消シ遂ニ自力ヲ以テ目的港ニ航行スルコト能ハス中途針路ヲ轉シテ海上ノ一孤島ニ向ヒ同年二月六日同島ニ到著シタルモ同所ニテ補給ヲ受ケ得ヘク希待シタル石炭モ補給ヲ受ケル能ハス然モ殘餘ノ石炭ヲ以テシテハ最寄石炭供給地タル港迄航行スヘキ見込ナク空シク太平洋上ノ一珊瑚環礁ニシテ碇泊安全ナラス且風浪ニ暴露セラレタル危險ノ場所ニ假泊シ遂ニ同所海底電信ヲ介シテ石炭ノ補給ヲ電請スルニ至リタルモノニシテ其ノ假泊中ト雖モ風浪變化シ之ニ伴ヒ錨地ノ變更ヲ爲ササルヘカラサルヲ以テ常ニ汽機ニ石炭ヲ焚キ蒸氣ヲ保持スルチ要スヘク斯クシテ限リアル石炭ハ刻々ニ費消減少スヘク或ハ風浪ノ狀況ニ依リテハ遠ク洋上ニ脱出シ

ナリト雖モ其ノ契約自體カ救助者ニ救助義務ナキコトヲ前提トスルモノニシテ斯ル場合ハ商法第六五二條ノ二三所謂義務ナクシテ救助シタルモノニ該當スルモノニシテ固ヨリ海難救助タルノ要件ニ缺クル所ナキモノトス(大邱覆審法院昭和元年法二七一七號九頁)

◎海難救助ト事務管理

一 事務管理ハ單ニ他人ノ爲ニ事務ノ管理ヲ開始スルコトニ因リテ成立シ其ノ結果ヲ得ルコトヲ要件トナササルニ反シ海難救助ハ必ス其ノ結果ヲ得ルコトヲ要シ之ヲ俟チテ始メテ成立スルモノニシテ又事務管理ハ其ノ性質トシテ無償ヲササル可カラサルニ海難救助ハ當然有償ノモノニ屬シ兩者ノ間ニ根本的ノ差異アリ故ニ海難救助ハ事務管理ニ非スシテ海商法上特ニ認メラレタル一種ノ法律行為ナリト解スルチ相當トス加之假リニ海難救助ヲ以テ事務管理ノ性質ヲ有スルモノトスルモ而カモ其ノ海難救助カ契約上ノ義務ノ履行トシテ爲サレタル場合ニ至リテハ之ニ因ル法律效果ハ其ノ義務ヲ生シタル契約(法律行為)ノ成立及效力ノ準據ニ依リテ之ヲ決定スヘク事務管理ニ關スル規定ハ之ニ適用ナキモノト解スルチ相當トス(大邱覆審法院昭和元年法二七一七號九頁)

六五二條ノ二

二 漂流中ノ船舶ト事務管理ノ成立(商法三二〇頁)

◎海難救助ト其ノ準據法

一 救助船被救助船カ共ニ日本ニ其船籍ヲ有スル帝國船舶ニシテ船主船長又帝國臣民ナルトキハ反證ナキ限り其本國法タル日本法律ニ準據スヘキ當事者ノ意思ナリト推定スルテ相當トス（大邱覆審法院昭和元年法二七一七號九頁）

二 救助カ救助契約ニ基キ其ノ契約上ノ義務履行トシテ救助行爲ヲ爲シタルトキハ一ノ法律行爲ナルコト疑ナク右契約上ノ義務履行即チ救助チ原因トシテ救助料ノ請求ヲ爲ス場合ニ於ケル準據法如何ノ問題ハ法例第七條ニ則リ當事者ノ意思ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノニシテ救助船被救助船カ共ニ日本ニ船籍ヲ有スル帝國船舶ニシテ船主船長モ亦帝國臣民ナル以上ハ反證ナキ限り其ノ本國法タル日本法律ニ準據スヘキ當事者ノ意思ナリト推定スルテ相當トス（釜山地方法院一四年評論一五卷五〇頁）

第六百五十二條ノ三（救助料額ノ算定）

救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其ノ額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル努力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

◎救助料算定ノ基礎

救助前ノ狀態ニ於テ推移セハ船體ハ終ニ坐礁沈没又ハ漂流ノ運命ニ遭遇スヘキ狀態ニ在リタルトキハ其ノ船體ノ價格モ亦救助料算定ノ基礎トナルヘキモノトス（釜山地方法院一四年評論一五卷商法四九頁）

◎霧島山丸ノ海難ト救助料ノ相當額

霧島山丸カ遭難シツツアリタル危險ノ程度救助目的タル同船ノ價格救助ノ結果及救助ニ要シタル費用損害賠償力等ニ稽ヘ本件救助料ハ金十二萬圓ヲ以テ相當ト認ム（大邱覆審法院昭和元年法二七一七號九頁）

第六百五十二條ノ四（救助料額ノ増減）

海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十二條ノ五（救助料額ノ制限）

前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス

◎救助料債權ノ請求權

一 商法第六五二條ノ七第一項ノ規定ノ趣旨ニ徴スレハ被救助者ニ對スル救助料ノ債權者ハ船主船長及海員各自ニシテ各同條ノ割合ニ從ヒ夫々救助料ヲ請求スル權利ヲ各別ニ有スルモノト認ムヘク且其權利ノ行使ニ付テモ何等制限ヲ受ケタリト認ムヘキ規定ナキカ故ニ此等ノ者ハ夫々自己ノ有スル債權ヲ直接ニ行使シ得ヘキコトハ容疑ノ餘地ナキ處ナリトス（釜山地方法院一四年評論一五卷商法四七頁）

二 商法第六五二條ノ七第二項同條ノ一三第二項ニ徴スレハ海員ノ有スル救助料請求權ニ於テハ船長トシテ特殊ノ權限ヲ有シ自己固有ノ請求權ヲ直接債務者ニ對シ行使シ得ル外更ニ海員ニ歸スヘキ救助料ニ付テモ亦同一權利ニ付船長自己ノ名ヲ以テ之ヲ請求シ得ル特殊ノ權限ヲ法律上附與セラレタルモノト解スヘキモノトス（釜山地方法院一四年評論一五卷商法四八頁）

三 商法第六百五十二條ノ七第一項ニ從事シタル船舶カ汽船ナル時ハ救助料ノ三分ノ二帆船ナルトキハ其二分ノ一チ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之チ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十二條ノ六（共同救助者ト救助料ノ分配）

數人カ共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ第六百五十二條ノ三ノ規定ヲ準用ス

人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコトヲ得

第六百五十二條ノ七（船主及船員ノ救助料ノ分配）

救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキハ其二分ノ一チ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之チ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

コトヲ要スト規定シアルニ徴スレハ船長及船員ハ法定ノ割合ニ
 應シテ被救助者ニ對シ直接救助料請求權ヲ有スルモノト解スル
 チ相當トナシ又同條第二項ニ前項ノ規定ニ依リテ船員ニ支拂フ
 ヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フト規定シアルノミナラス同法第
 六五十二條ノ十三第二項ニ救助料ニ關スル訴ニ於テハ船長ハ
 自ラ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得ト規定シアルニ徴スレハ船員
 ニ歸スヘキ救助料ハ船員ニ直接請求權アルニ拘ハラズ船長代リ
 テ其ノ名ニ於テ之ヲ請求シ船長之ヲ船員ニ分配スヘキモノト解
 スルチ相當トス(大邱覆審法院昭和元年法二七一七號九頁)

第六百五十二條ノ八(救助料ノ分配ト分配案)

船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海チ
 終ハルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス

第六百五十二條ノ九(分配案ニ對スル異議)

海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ
 其告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海
 官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコト

第六百五十二條ノ十二(救助者ノ先取特權)

救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス
 前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用
 ス

第六百五十二條ノ十三(救助料ニ關スル船長ノ權限)

船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハリテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上
 又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
 救助料ニ關スル訴ニ於テハ船長ハ自ラ原告又ハ被告ト爲ルコト
 ナ得但其訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ
 其效力ヲ有ス

第六百五十二條ノ十四(積荷ニ對スル救助料ノ限度)

積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ
 負フ

第六百五十二條ノ十五(積荷ニ對スル先取特權ノ消滅)

積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引

チ得
 船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第六百五十二條ノ十(分配案作成ノ懈怠)

船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ
 因リ船長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得
 船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコ
 トヲ得

第六百五十二條ノ十一(救助料ノ請求權無キ場合)

左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス
 一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ
 二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラズ強ヒテ
 之ニ從事シタルトキ
 三 救助シタル物品ヲ隱匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ

渡シタル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フト得ス

第六百五十二條ノ十六(救助料ノ消滅時效)

救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ
 ハ時效ニ因リテ消滅ス

第六章 保險

第六百五十三條(海上保險契約ノ性質及適用規定)

海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ
 損害ノ填補ヲ以テ其目的トス
 海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十
 章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

◎海上保險ニ關スル諸問

- ◎本條規定ノ性質(續商法一一九四頁)
- ◎法語ニ適セサル運送保險ノ效力(商法三三二頁)
- ◎保險契約ニ於ケル海上危險ノ意義(商法三三二頁)
- ◎海上保險ト危險測定事項(續商法一一九四頁)
- ◎船舶ノ價額ハ告知事項ナリヤ(續商法一一九四頁)
- ◎保險料ノ不拂ト保險契約ノ效力(續商法一一九五頁)
- ◎海難ハ官海官廳ニ對スル報告(續商法一一九五頁)
- ◎準用條文ノ第三八四條——第四一八條ノ諸問參看

第六百五十四條 (保險者ノ損害填補ノ責任)

保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎積荷ノ保險ト保險者ノ責任(商法三三二頁)
- ◎海上保險ト積荷ノ賣却ニ因ル損害(商法三三二頁)
- ◎損害填補ニ關スル諸問(第二續商法三九三條)

第六百五十五條 (共同海損額填補ノ責任)

保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百五十六條 (船舶ノ保險ト保險價額)

船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎船舶ノ價額ヲ定ムル標準(續商法一一九五頁)
- ◎限定價額ト保險金額トノ關係(續商法一一九五頁)
- ◎保險價額ト契約ノ要素(續商法一一九六頁)
- ◎不定價保險ノ效力(續商法一一九六頁)
- ◎適當ナル價額協定ノ實例(續商法一一九六頁)
- ◎適當ナル保險價額限定ノ效力(續商法一一九六頁)
- ◎汽船ト毎年ノ減價償却(續商法一一九七頁)

第六百五十七條 (積荷ノ保險ト保險價額)

積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第六百五十八條 (積荷ノ利益又ハ報酬ノ保險價額)

積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス

第六百五十九條 (保險者ノ責任ノ始終(一))

一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル
 荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル
 前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚力終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚力不可抗力ニ因ラ

スシテ遲延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

◎本條ニ關スル諸問

- ◎一航海ノ意義(續商法一一九七頁)
- ◎貨物陸揚ト航海終了トノ別(商法三三三頁)

第六百六十條 (保險者ノ責任ノ始終(二))

積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚力終了シタル時ヲ以テ終ハル
 前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

◎保險者ノ責任ノ始期及終期(續商法一一九七頁)

第六百六十一條 (海上保險證券ノ記載事項)

海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名
- 二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

第六百六十二條 (航海ノ變更ト保險契約ノ效力)

保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ
保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更力保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス
到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百六十三條 (危險ノ變更增加ノ效果)

被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ボササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

- ◎ 船舶保險ト其航路及目的 (商法三三三頁)
- ◎ 不可抗力ノ意義及實例 (第二續商法三三六條)

第六百六十四條 (船長ノ變更ト保險契約ノ效力)

保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

◎ 本條ニ關スル諸問

- ◎ 本條ノ解釋 (商法三二四頁)
- ◎ 船長ノ更迭ト保險契約ノ效力 (商法三二四頁)

第六百六十五條 (積荷ノ保險ト船舶變更トノ關係)

積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更力保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 (船名通知懈怠ノ效果)

保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約

◎ 本條ニ關スル諸問

- 第六百六十七條 (填補無責任ノ場合)
保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責任ヲ負セズ
一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 二 船舶又ハ運送貨物ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
- 三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ備船者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 四 水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料、其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出ダシタル通常ノ費用

- ◎重大ナル過失ノ意義及實例（續商法一一九九頁）
- ◎「漏損」ナル文字ノ意義（續商法一一九九頁）
- ◎保險事故ニ關スル主張ト其ノ立證（第二續商法四一二條）

第六百六十八條（小額不填補ノ原則）

共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セ
スシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補
スル責ニ任セス
右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險
者ハ其ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス
前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又
ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス
前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付テ之ヲ計算ス

第六百六十九條（積荷ノ毀損ト填補責任）

保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險
者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ
於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填
補スル責ニ任セス

補スル責ニ任ス

第六百七十條（積荷ノ賣却ト填補責任）

航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シ
タルトキハ其實却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送費其他ノ費
用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス
但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第三百九十一條
ノ適用ヲ妨ケス
前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支
拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主
ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎不可抗力ノ意義及實例（第二續商法三三三六條）
- ◎積荷ノ賣却ト保險契約（商法三二五頁）

第六百七十一條（被保險者ノ委付）

左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保
險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六ヶ月間解
放セラレサルトキ

◎目的全損ノ場合ト委付

- ◎救助救援ノ見込ナキトキノ意義（續商法一一〇二頁）
 - ◎船舶修繕ノ能否ニ關スル諸問（第二續商法五七一條）
- 一 商法第六百七十一條第三號ニハ船舶カ修繕スルコト能ハサル
ニ至リタルトキハ被保險者ハ其船舶ヲ委付シテ保險金ノ全額ヲ
請求シ得ヘキ旨ノ規定アリ而シニ茲ニ所謂船舶カ修繕スルコト
能ハサルトキトハ船舶カ破壊シテ再ヒ使用ニ耐ヘサルニ至リタ
ル場合ノ如キモ亦包含スルモノト解スルカ故ニ船舶カ海難ニ因
リ破壊シテ客觀的ニ存在セサルニ至リタルトキト雖モ被保險ノ
目的ヲ委付シテ保險金ノ全額ヲ請求シ得ルモノト謂ハサルヘカ
ラス（大審昭和二年法二七五七號一三頁）
 - 二 委付及現實全損ト被保險者ノ權利（商法三二六頁）
 - 三 目的全減ノ場合ト委付（續商法一一〇一頁）
 - ◎沈没船舶ニ於ケル全損ノ意義（商法三二六頁）
 - ◎特約保險ニ基ク沈没船舶ノ全損（商法三二六頁）

◎保險委付ニ關スル諸問

- ◎本條ト第三九四條トノ關係（續商法一一〇一頁）
- ◎委付ノ意義（續商法一一〇一頁）
- ◎免責委付後ノ保險委付（續商法一一〇三頁）
- ◎委付ニ關スル保險約款ノ解釋（續商法一一〇二頁）
- ◎再委付ノ效力（續商法一一〇二頁）
- ◎一箇ノ海損ニ二回ノ委付ノ訴ノ原因（商法三二七頁）
- ◎海上保險ノ委付ト不當利得（商法三二六頁）
- ◎海產委付ニ關スル諸問（續商法一一五六頁）

第六百七十二條（船舶ノ行方知レサル場合）
船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レ
サルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百七十三條〔積荷ノ委付ト其ノ制限〕

第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第六百七十四條〔委付ノ要件（期間）〕

被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
前項ノ期間ハ第六百七十一條第一項、第三號及第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知りタル時ヨリ之ヲ起算ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎委付ニ關スル保險約款ノ解釋（續商法六七二條）
- ◎修繕不能ノ意義（續商法五七一條）
- ◎委付權行使ノ期間起算點（續商法一二〇三頁）

第六百七十五條〔委付ノ要件（不可分性）〕

委付ハ單純ナルコトヲ要ス
委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得

◎船舶ノ實價ト協定價額トノ關係（續商法一二〇四頁）

第六百七十六條〔委付ニ對スル異議〕
被保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述

フルコトヲ得ス

第六百七十七條〔委付ノ效果〕

保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

◎委付ニ因ル保險者ノ代位

- 一 保險委付ハ保險者ヲシテ委付セラレタル物ニ關シ被保險者ト同一ノ地位ニ立タシメントスルヲ目的トスルモノニシテ被保險者ノ有スル總テノ權利ヲ保險者ニ移轉セシメントスルニ在ルヲ以テ損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テモ此第三者ニ對シテ被保險者ノ有スル損害賠償請求權ハ委付ニ依リ當然保險者ニ移轉スルモノト解スルヲ相當トス（大審昭和二年法二七四二號一〇頁、評論一七卷商法七頁）
- 二 商法第六百七十七條第一項ニ「保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付有スル一切ノ權利ヲ取得ス」ト規定シアリ

◎委付ト權利移轉又ハ對抗要件

- 一 一旦有效ナル委付ノ意思表示アリタルトキハ保險者ハ承認者クハ保險金ノ支拂ノ有無ヲ問ハズ保險ノ目的物ニ對スル所有權ハ勿論上叙ノ如キ損害賠償請求權モ委付ノ效果トシテ法律上當然保險者ニ移轉スヘキモノナルカ故ニ委付者タル被保險者カ之ヲ移轉スルノ意思及之カ表示ヲ必要トセサルモノトス（東京控一二年評論一二卷商法一四九頁）

- 三 損害填補ニ因ル保險者ノ代位（續商法九八〇頁）
- 四 委付ノ效力ト賠償請求權ノ移轉（續商法一二〇四頁）

テ之ヲ陸上保險ニ關スル商法第四百十五條ニ「被保險者カ其ノ目的ニ付有セル權利ヲ取得ス」ト規定シアルニ對照スルトキハ委付ニ因リ取得スヘキ權利ノ範圍ノ廣汎ナルコトヲ知ルニ難カラサルヘク且保險委付ヲ認メタル立法ノ趣旨ニ依リテ之ヲ觀レハ保險委付ハ保險者ヲシテ委付セラレタル物ニ關シ被保險者ト同一ノ地位ニ立タシメントスルヲ目的トスルモノニシテ被保險者ノ有スル總テノ權利ヲ保險者ニ移轉セシメントスルニ在ルヲ以テ損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テモ此ノ第三者ニ對シテ被保險者ノ有スル損害賠償請求權ハ委付ニ因リ當然保險者ニ移轉スルモノト解スルヲ相當トス（大審昭和二年民四六三頁）

二 保險者カ商法第六百七十七條第一項ノ規定ニ基キ被保險者カ保險ノ目的ニ關シ第三者ニ對シテ有スル債權ヲモ取得スルハ委付ノ意思表示ニ基キ法律上當然被保險者ノ手ヲ離レテ保險者ノ手裡ニ歸屬スルモノトス然リ而シテ民法第四百六十七條ハ契約ニ基ク債權移轉ニ關スル對抗方法ヲ規定シタルモノナレハ債權カ法律上當然移轉スル場合ニハ該規定ヲ適用スヘキニ非サルハ勿論準用スヘキモノニモアラスト解スルチ相當トス(大審昭和二年法二七五七號一三頁、評論一七卷商法八頁)

三 民法第四百六十七條ノ規定ハ當事者ノ契約ニ因リ指名債權ヲ讓渡シタル場合ニ關スル規定ナルノミナラス辨濟者カ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スル場合ニ付テハ民法第四百六十七條ノ準用アルモ(民法第四百九十九條參照)當然債權者ニ代位スル場合ニ付テハ其ノ準用ナキニ依リテ之ヲ觀レハ(民法第五百條參照)債權カ法律上當然移轉スル場合ニ於テハ民法第四百六十七條ノ適用及準用ナキモノト云フヘク從テ商法第六百七十七條ノ規定ニ依リ委付ノ效力トシテ被保險者ノ加害者ニ對スル損害賠償請求權カ法律上當然保險者ニ移轉スル場合ニ於テハ債務者ニ對スル通知ヲ爲シ又ハ債務者ノ承諾ヲ得サルモ其ノ移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノト解スルチ相當トス(大審昭和二年民四六三頁)

第六百七十八條(委付ト保險金受取手續(一))

- 一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
- 二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
- 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
- 四 水先案内料及ヒ挽船料
- 五 救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損
- 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
- 七 履傭契約ニ因リテ生シタル船舶其他ノ船員ノ債權
- 八 船舶カ其實質又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其實質又ハ製造並ニ艤裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ艤裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權
- 九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權

◎船舶ノ先取特權ニ關スル諸問

◎船舶修繕費ト先取特權(商法三二七頁)

第二續商法 海商 船舶債權者

六八〇條

一九八三

被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受ケルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス

保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十九條(委付ト保險金受取手續(二))

保險者カ委付ヲ承認セザルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタルニ後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章 船舶債權者

第六百八十條(船舶ノ先取特權)

左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- ◎挽船ニ關スル諸問(續商法一二三三七頁以下)
- ◎曳船ノ擱坐ト曳船事業者ノ責任(續民法一二四九ノ一四八頁)
- ◎解船ノ事故ト運送人ノ責任(續商法一一八一頁)
- ◎難破船ノ救出ト費用ノ先取特權(商法三二八頁)
- ◎契約ニ因リ救助ノ費用ト先取特權(商法三二八頁)
- ◎海員雇入ト給料ノ先取特權(商法三二八頁)
- ◎艤裝ニ因リ生シタル債權ノ意義(續商法一二〇五頁)

◎被曳船ノ曳索解放ト過失有無

被曳船タルモノハ原則トシテ曳船ノ指揮ニ從ヒ之ニ追隨スルチ以テ是リ追隨ノ危險明カナルニ及ンテ初メテ曳索ヲ放チ獨航ノ舉ニ出ツルコトヲ要スルモノト謂フヘク(二十號ノ船員ハ碇泊船間ヲ横切リ半途ニ至ル迄無事通過シ得ヘキ事ヲ信シ居リタルニ突如曳船ノ速力停止ニ含シ衝突ノ危險ヲ現出シタルモノナルコト證人川崎善之助ノ證言ニヨルモ明白ニシテ水路左側ニ不航船アルヘキコト從テ或ハ横切中途ニ於テ速力停止アルヘキコト前濶河ノ壓流アルヘキコト等ハ(二十號船員トシテモ豫測スヘキトコロナルモ被曳船船員トシテハ斯カル單ナル豫測ノ下ニ直ニ曳索解放ノ舉ニ出ツヘキモノニ非ス尙證人青山靜夫ノ證言並甲第三號證ニヨレハ(二十號乘組ノ船員一人ナリシ爲メ衝突ノ損害ヲ大ナラシメタル事實ヲ認メ得ヘキカ如シト雖モ同船カ京

濱間ヲ往來スル七十噸ノ輕船ニシテ此程度ノ船ニ於テハ通常船員ノ夫婦以外ニ乘組員ナク(二十號ニ於テモ船頭ハ船首ニアリテ曳索解放ニ努メ妻ハ船尾ニアリテオモ舵一パイニ取り衝突防止ニ努メタル事實ハ證人川崎善之助並右甲第三號ニヨリ明白ナレハ乘組員不足ノ故ヲ以テ同船船頭ノ過失ナリト認ムルコトヲ得サルモノトス(東京地昭和三年報一六四號一八頁)

第六百八十一條 (先取特權ノ範圍)

船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニハミ存在ス

第六百八十二條 (先取特權ノ順位)

船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノノ前ニ生シタルモノノニ先ツ
同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ受ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノノ前ニ生シタルモノノニ先ツ

其先取特權ハ消滅ス

第六百八十五條 (先取特權ノ消滅)

船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第六百八十條第八號ノ先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス

◎船舶ノ發航ト先取特權ノ消滅

一 商法第六八五條第二項ノ規定ニ依レハ同法第六八〇條第八號所定ノ先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅スルモノトス蓋同號ニ掲ケル債權ハ船舶ノ發航前ニ辨濟セラレルルチ普通トシ且ツ其ノ發港前ニ權利ノ行使セラレルルチ便トスルト船舶カ既ニ航海ヲ始メタル後ニ至リ尙此先取特權ヲ存續セシムルニ航海中ニ種々ノ取引ヲ爲スコトニ因リテ生スルコトアルヘキ他ノ債權者ヲ害スルノ虞アリテ取引ノ安全ヲ保チ難キニ因ルモノナレハ(大正八年(ク)第八六號同年十二月二十六日第一民事部決定參照)右ノ發航ハ同法第六八〇條第八號前段ノ先取特權ニ付テハ新航海ヲ始ムル爲ニ拔鑑スルノ義同號後段ノ先取特權ニ付テハ最後

先ツ
先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノノニ先ツ

◎船舶救助ノ費用ト先取特權ノ順位(商法三二八頁)

第六百八十三條 (他ノ先取特權トノ優劣)

船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

第六百八十四條 (船舶ノ讓渡ト先取特權ノ效力)

船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルコトヲ得ス
先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サザリシトキハ

ノ航海ヲ始ムル爲ニ拔鑑スルノ義ナリト解スヘキモノニシテ其義文理上亦明白ナルトコロナリ(大審一二年法二一五二號一九頁、評論一二卷商法一七一頁)

二 商法第六百八十五條第二項ニヨリ此種ノ債權ニ付船舶ノ發航ニヨリ其先取特權ヲ消滅セシムル所以ハ斯ル債權ハ通常其石炭等ノ賣却積込ヲ爲シタル港ニ於テ直ニ辨濟ヲ受クヘキ性質ノ債權ニシテ該債權ニ付若シ船舶カ右積込入港シタル後迄モ其優先權ヲ認ムルトキハ該債權ノ存在ヲ知ラスシテ他港ニ於テ其船舶ノ爲メ發生シタル此種ノ債權者ヲシテ不測ノ損害ヲ蒙ラシムル虞アルヘキヲ以テ斯ル債權ハ其發生シタル港ニ於テ船舶發行前ニ行使セザレハ其發航ト共ニ其先取特權ヲ消滅セシメ發航後ハ只民法上ノ先取特權若クハ普通ノ債權トシテ其權利ヲ行使セシムルニ止メタルモノト解スヘキモノトス(長崎控一一年法二〇六九號一九頁)

三 船舶債權者ノ先取特權ノ消滅(續商法二二〇六頁)

第六百八十六條 (船舶ノ抵當權)
登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得
船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ
船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

◎船舶ノ抵當權ニ關スル諸問

- ◎登記ナキ外國船舶ト抵當權設立(商法三二九頁)
- ◎難破船ノ修繕ト抵當權ノ效力(商法三二八頁)
- ◎難破船ノ委付ト抵當權ノ效力(商法三二九頁)

第六百八十七條(船舶ノ抵當權ト先取特權トノ順位)

船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先テ之ヲ行フコトヲ得

◎船舶修繕費ト抵當權ノ優劣(商法三二九頁)

第六百八十八條(船舶ト質權ノ目的)

登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六百八十九條(製造中ノ船舶)

本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

◎本條ニ關スル諸問

- ◎特別登記簿ノ性質(諸法令中卷一〇二四頁)
- ◎特別登記ト併存セル登記ノ效力(續商法一一〇七頁)
- ◎製造中ノ船舶ト登記事項ノ證明書(諸法令中卷商法一〇二三頁)
- ◎特別登記簿中ノ錯誤記載ノ效果(諸法令中卷一〇二三頁)

第二續商法 終

第二續商法

補遺

第一條(商事ニ適用スル法規ノ順序)

◎借越約定ト印紙節約ニ關スル慣習

銀行カ預金借越約定ヲ爲ス場合ニ於テ其借越限度ヲ定ムルニ當リ金十萬圓ノ限度ヲ約シナカラ借越約定證ニ貼用スル印紙節約ノ爲メ其約定證書面ニハ金一萬圓ト記載スルノ慣習ハ銀行ノ大少子間ハ東京及地方ノ各銀行ニ於テ行ハレ居ルモノトス(東京控昭和三年法二八四號一〇頁)

◎當座預金ト小切手ニ依ラサル拂戻請求

一 控訴代理人ハ本件預金債權ハ特約ニ依リ其讓渡ヲ禁止セラレ居リ當座預金通帳ニ當座預金ノ引出ハ總テ小切手ヲ以テ爲スヘ

二 小切手ニ依ラサル當座預金ノ拂戻(第二續商法五三〇條)

第十二條(登記及公告ノ效力(一))

キ旨ノ規定ノ存スルハ右ノ特約ヲ表現シタルニ外ナラサルノミナラス當座預金ハ商慣習法ニ依リテモ亦其讓渡ヲ禁止セラレ居ル旨抗爭スレトモ當座預金ノ引出ニ小切手ヲ使用セシムルハ當座預金契約ニ於ケル當事者雙方ノ便宜ニ出テタルモノニシテ之ヲ以テ直ニ當座預金債權ノ讓渡ヲ禁止スル特約ヲ表現スルモノト解シ難ク他ニ右讓渡禁止ノ特約ノ存在ヲ認ムルニ足ル立證一モナク當座預金債權ニ付其讓渡ヲ禁止スル商慣習法ハ當院ニ於テ其存在ヲ認メサルトコロナレハ右債權讓渡行爲ハ有效ナリト謂フヘク控訴代理人ノ抗辯ハ採用シ難シ

控訴代理人ハ本件當座預金ハ小切手ヲ以テ引出シ旨ノ定メナルヲ以テ小切手ニ依ラサル本訴請求ハ失當ナリト抗爭スレトモ當座預金契約ニ於テ預金ノ拂戻ニ小切手ヲ使用スヘキコトヲ定メタルハ預金銀行ノ通常ノ營業狀態ニ在ル場合ヲ豫想シテ定メタルモノニシテ當院ニ顯著ナル控訴人ノ如ク預金拂戻ヲ停止シタル場合ニハ預金支拂ハ之ニ從フノ要ナキモノト解スルハ相當トスルヲ以テ右抗辯モ亦其理由ナシ(東京控昭和三年報一四一號一七頁)

◎退任後ノ取引ト登記公告ノ知不知

控訴人ハ本件手形カ被控訴人ノ同會社代表資格喪失後ニ作成セラレタルモノナリトスルモ控訴人ニ於テ本件手形ヲ取得シタルハ右代表者變更ノ公告前ニシテ而カモ控訴人ハ右事實ヲ知ラズシテ之ヲ取得シタルモノナレハ今更右事實ヲ以テ控訴人ニ對抗スルコトヲ得サル旨主張スレトモ乙第二號證ニ依レハ控訴人ハ同手形書換前大正九年六月三十日ニ訴外米本榮ヨリ之レカ裏書讓渡ヲ受ケ爾後他ニ之レカ裏書讓渡ヲ爲サスシテ其所持人タリシコトヲ認メ得ヘク又原審證人石上新太郎ノ證言ニ依レハ控訴人ト米本榮トハ兄弟ノ間柄ニシテ平素互ニ相往來シ乙第二號證ノ手形ノ如キモ控訴人カ米本榮ヲ經テ同會社ニ金融シタルカ爲メニ發行セラレタル者ニ係リ而カモ米本榮ハ當時同會社ノ有限責任社員ニシテ右代表者ノ變更決議ニ參加セルモノナルコトヲ認メ得ルカ故ニ是等ノ事實ヲ前段認定ニ係ル本件手形書換ノ經過ト綜合シテ考察スルトキハ本件手形ノ書換ハ寧ろ控訴人ノ意志ニ基キタルモノニシテ控訴人ハ右手形取得當時同手形カ被控訴人ノ右代表資格喪失後ニ作成セラレタル事實ヲ知悉シ居リタルコトヲ窮知スルニ難カラス而シテ控訴人本人ノ之ニ反スル供述ハ到底信用シ難クマタ控訴人ノ善意ナリシコトヲ認ムルニ足ル證據アルコトナシ尙控訴人ハ本件手形ノ振出及引受ニ付テハ當時同會社ノ代表者タル中村宇吉ニ於テ之ヲ承諾セルモノナル旨

主張スレトモ確證ナキヲ以テ之ヲ是認スルニ由ナシ(大阪控一三年評論一三卷商法二一八頁)

第十九條(商號ノ專用權(一))

◎商號專用權ト未登記ノ商號

原告カ豫テヨリ鎌田支林堂ナル商號ヲ用ヒ大阪市東區内ニ於テ原告主張ノ如キ商品ノ製造販賣ヲ爲シ居リタル事及被告カ其ノ爾來肩書住所ニ於テ右同一ノ商品ノ製造販賣ヲ爲シ居レル事ハ當事者間ニ爭ナキ處ナリ仍テ被告ノ右商號登記及之カ使用ハ原告ノ商號專用權ヲ侵害スルモノナルヤ否ヤチ按スルハ商號ハ一定ノ商人カ其ノ營業取引上自己ヲ表示センカ爲ニ使用スル名稱ニ外ナラサレハ其ノ登記ノ有無ニ拘ラス自己ノ氏姓名其ノ他ノ名稱ヲ以テ自由ニ選定使用シ得ヘキ事勿論ナリト雖モ他人ニ對シ自己ノ商號專用權ヲ主張シ自己ト同一商號登記又ハ其ノ使用ノ禁止ヲ求ムルカ爲ニハ豫メ之ヲ商號登記簿ニ登記スル事ヲ要スヘキモノトス蓋シ商號專用權ハ其ノ商號ノ登記ヲ爲スニ因リ始メテ發生スル權利ニシテ右登記ニ依リ同一市町村内ニ於ケル

他人ノ同一營業ノ爲メニスル同一商號登記ヲ排斥シ且不正競争ノ目的ヲ以テスル同一商號使用ヲ禁止シ得ヘキモノナルコトハ商法第十九條及第二十條ノ規定ノ法意ニ徴シ明ナレハナリ然ルニ本件ニ於テ觀ルニ原告ニ於テハ二十數年前ヨリ其營業上鎌田支林堂ナル商號ヲ使用セルモ未タ其登記ヲ爲シ居ラサル事ハ其ノ主張自體ニ依リ明カナルトコロナルカ故ニ被告ニ於テ其後同市町村内ニ於テ原告ノ前記商號ト同一商號ノ登記ヲ爲シ之ヲ使用シ且右行爲カ原告ノ前記商號ノ存在ヲ知悉シ被告ノ惡意ニ出テタル事實アリトスルモ原告ニ登記欠缺ノ事由アル以上原告ハ被告ニ對シ右商號使用禁止及商號登記抹消ヲ求ムル權利ナキコト前記說明ニ徴シ明ナリト謂ハサルヘカラス(大阪地昭和三年法二八五九號一一頁)

第二十五條(商業帳簿ノ備附ト其記載事項)

◎商業帳簿ト判定シタル理由ノ要否

一 帳簿タルコトノミニ付争ナキモ商業帳簿タルコトニ付テハ爭アル書證ト雖裁判所カ之ヲ商業帳簿ト認メタルトキハ判決ニ其ノ旨ヲ列示スレハ足り其ノ理由ヲ說示スルコトヲ要セス之レ當

院ノ判例トスル所ナリ(明治四十年(オ)第四百九十六號同四十二年二月七日判決) 原判決カ帳簿タルコトノミニ付争ナキ甲第一號證ヲ商業帳簿ト認メテ其ノ旨ヲ列示シ之ヲ證據トシニ採用シタルハ違法ニアラス(大審昭和二年評論一七卷七號民訴二五八頁)

◎商業帳簿ニ於ケル非商事ノ證據力

商業帳簿中ノ記載ハ商業ニ關スルモノノ外證據力ヲ有セストノ規定ナケレハ縱令商業ニ關係ナキ貸借ノ記載ト雖モ事實承審官ニ於テ之ヲ眞實ト認メタルトキハ其貸借ノ證據ト爲スコトヲ得(判旨第三點)(大審四一年民六四頁)

◎商業帳簿ノ證據力(續商法四八九頁)

第三十三條(番頭及手代ノ權限)

◎支店長又ハ營業主任ノ代理權ノ範圍

一 株式會社ノ支店長ハ其ノ取締役若ハ支配人ニ非サル者ト雖支店ノ業務執行ニ任スル者ニシテ特別ノ事情ナキ限りハ支店內ノ財産ヲ保管シ得ルヲ以テ通例トスルカ故ニ證據ヲ擧ケテ其ノ事實認定ノ理由ヲ説明スルノ要ナキモノトス(大審昭和二年評論一七卷刑法六頁)

- 二 主任者又ハ營業部長ト手形行爲ノ商慣習(第二續商法一條)
- 三 支店長又ハ營業主任ノ代理權ノ範圍(判決總攬第二續商法三三條)

◎銀行ノ支店長又ハ派出所主任ノ權限

銀行支店長ノ權限ニ付テハ取締役又ハ支配人ト異リ何等依據スヘキ法條ノ存スルモノナキヲ以テ一ニ被用者並ニ使用者ノ契約ノ内容ニ從ヒ之ヲ決スルノ外ナキモ現時取引ノ實狀ニ於テハ反證ナキ限り其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判外ノ代理權ヲ有スルモノト認ムヘシ從テ手形行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノト推定スルヲ相當トス然レトモ銀行派出所ノ主任ナルモノニ付テハ法律上ニ於テモ亦實際上ニ於テモ叙上ノ如キ權限ヲ認ムヘキ根據ナキヲ以テ一ニ授權行爲ノ趣旨ニ從テ權限ノ範圍ヲ決スルノ外ナキモノトス(廣島地吳支部昭和三年法二八七四號一三頁)

第四十二條(會社ノ意義)

◎會社ハ他ノ會社ノ取締役タリ得ルヤ

取締役ナルモノハ株式會社ノ機關トシテ業務執行並ニ代表ノ任ニ當ルモノナリ然ルニ法人タル會社ノ機關ハ自然人ニ限ラレヘキモノト解スヘキカ故ニ株式會社ハ他ノ株式會社ノ取締役タルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス(法曹會決議一二年法曹會雜誌一卷四號四〇頁)

◎會社ハ他ノ會社ヲ設立スル能力アリヤ(第二續商法四二條)

◎營利法人ナリヤ否ヤノ判定

一 甲會社カ新聞紙ノ發行ヲ目的トシテ設立セラレタル合資會社ナルトキハ新聞紙ノ刊行發賣ヲ營業トスルモノト謂フヘク其ノ業務カ公益ニ關スルモノアルノ故ヲ以テ直ニ營利事業ニ非スト爲スチ得サルモノトス——新聞業カ營業ナリヤ否ヤハ業務者ノ主觀ニ於テ營利ノ目的アリヤ否ヤニ依リテ決定スヘキ事實問題ニシテ其ノ業務自體ニ依リテハ之ヲ決定スルコトヲ得サルモノ

トス(大審一五年刑九頁、評論一五卷諸法六三頁)

二 民事會社(營利法人)ノ意義(續商法五二三四頁)

三 産業組合ハ營利法人ニ非ス(續商法五二四頁)

◎相互保險ノ保險金支拂ノ遲滯ト利率(第二續商法二七六條)

第四十四條ノ三(會社ノ合併)

◎保險會社ト違法ノ合併(商法一七七條)

第五十六條(業務執行ノ權利義務)

◎會社代表者ノ相手方代理ト審理不盡

同一ノ法律行爲ニ付同一人カ當事者一方ノ代理人ト爲リテ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テモ當該本人ニ於テ之カ代理行爲ヲ爲スコトニ同意シタルトキハ其ノ行爲ノ效力ハ直接本人ニ對シ生スルモノトス——株式會社甲商業銀行支店ハ乙ニ對シ當座貸越契約ヲ爲シ爾來之ニ基キ貸付ヲ爲セシカ右當事者兩人及丙商事合名會社代表者乙間ニ同會社ニ於テ乙ノ右契約上ノ地位ヲ承繼

第六十二條(代表社員ノ權限)

◎代表社員ノ自己宛約束手形ノ效力(續商法一二三四頁)

◎代表權ナキ社員ニ對スル判決ノ效力

甲ハ會社ノ代表社員ニシテ乙ハ單ニ同會社ノ社員タルニ止マリ代表權ナキニ拘ラス丙ハ同會社ヲ被告トシテ訴ヲ提起スルニ當

スヘキ旨契約シタル場合ニ於テ乙カ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ指定セラレシ同會社ノ代表社員ナリトセンモ他ノ社員カ總社員ノ同意ノ下ニ會社ヲ代表シテ右乙ノ行爲ニ同意ヲ表スル等之カ同意ハ法律上敢テ不可能ノコトニ非サルヲ以テ原審力上告代理人ノ主張ニ係ル右同意ノ有無ニ付何等審究スル所ナク直ニ承繼契約ノ效力カ同會社ニ對シ生セサルモノノ如ク斷定シタルハ審理不盡且重要ナル爭點ニ付判斷ヲ遺脱シタル違法アルモノトス(大審昭和三年評論一七卷民法四一七頁)

◎代表社員ノ自己宛約束手形ノ效力(續商法一二三四頁)

◎本條ニ違反スル代理行爲ノ效力(第二續民法一五三頁)

◎會社代表者ト相手方代理(商法二二頁、續民法八三三頁、民法四四頁)

リ乙ヲ右代表者ト認メ訴訟ニ關スル書類ノ送達カ凡テ同人ニ宛テ爲サレ會社敗訴ノ判決アリタル場合ニ於テハ會社ノ正當ナル代表者タル甲カ該訴訟ノ存在ヲ知ラズトスルモ會社ハ現ニ被告トシテ相手取ラレタルモノニシテ偶法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシト云フニ過キササルヲ以テ訴訟ノ當事者トシテ該判決ニ羈束セラレヘキモノト云ハサルヘカラス從テ第三者トシテ該判決ニ決ニ基ク強制執行ニ對シ異議ヲ主張シ得ヘキモノニ非ス(大審昭和三三年法二八七號一五頁)

第六十八條 (退社ノ事由 (一))

◎退社ノ已ムヘカラサル事由ノ例

一 乙第六號證ニヨレハ訴外田村芳造カ原告會社ニ對シ大正十三年十一月二十八日退社ノ通知ヲ爲シタルコト及同訴外人ノ退社ノ理由ト爲セルトコロカ原告會社ノ營業不振ニシテ前途事業成功ノ見込ナキニ存シタルコトヲ認メ得可シ然レトモ元來會社ハ社員ノ團結ニ成ルモノニシテ法律カ存立時期定メアル會社ニ付原則トシテ社員ノ單獨行爲ニヨル退社ヲ認メサル精神ヨリ推究スレハ商法第六十八條ニ所謂已ムコトヲ得サル事由トハ主トシ

テ社員ノ一身ニ關スル事由ヲ指稱シ訴外田村芳造ノ前記事由ノ如キハ已ムコトヲ得サル事由ナリト認ムルヲ得ス從テ同訴外人ノ退社ノ意思表示ハ退社ノ效力ナキモノト謂フヘク原告會社ハ尙合資會社トシテ存續スルモノトス(東京地一四年評論一四卷諸法四三一頁)

二 退社ノ已ムヘカラサル事由ノ例 (續商法五九二頁)

◎所謂已ムコトヲ得サル事由 (第二續商法一三七三頁)

第九十九條ノ二 (設立無効ノ主張方法)

◎雙方代理ニ因ル會社設立ノ無効 (商法一一四頁)

第九十九條ノ四 (設立無効ノ判決ノ效力)

◎設立無効ノ判決ノ效力 (第二續商法二二三條)

第九十九條ノ六 (設立無効ト準清算)
設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ

清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス
設立ヲ無効トスル判決ハ會社ト第三者トノ間ニ成立シタル行爲ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

◎設立無効ニ關スル諸問

- ◎設立無効ト法律關係 (續商法六二五頁)
- ◎準清算ノ場合ト任意清算ノ自由 (續商法六二五頁)
- ◎設立無効ニ關スル諸問 (第二續商法二二三條)

第二百二十六條 (株式申込ノ要件)

◎株式ノ割當後ト株式申込ノ撤回

凡ソ株式ノ申込ニ對シ發起人カ其ノ割當ヲ爲シタル場合ニハ株式ノ申込ハ之ニ因リテ株式ノ引受ト爲ルモノニシテ一度株式ノ引受確定シタル以上株式申込人ハ商法第二百二十七條ノ規定ニヨ

第二百二十七條 (株式申込人ノ責任)

◎設立無効ト株金拂込義務 (第二續商法二二三條)

第二百二十九條 (第一回ノ株金拂込請求)

◎第一回株金ノ未拂込ト株式讓渡ノ效力

リ株式ノ數ニ應シテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フカ故ニ最早任意ノ撤回ニ依リテ一方法ニ其義務ヲ免ルルコトヲ得ス又株式ノ引受ハ會社設立ノ基礎ト爲ルモノナルカ故ニ發起人モ亦任意ニ之カ變更ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論兩者ノ合意ニヨルモ亦之ヲ變更スルコトヲ得サルモノト解セサルヘカラス——創立總會ニ該リ或株式引受人ヲ除外シテ會社創立ノ決議ヲ爲シタルハトテ其ノ除外セラレタル株式引受人ノ株式カ適法ニ消却セラレタルモノトハ做シ難キモノトス(東京控昭和三年報一五七號一六頁)
◎發起人ノ承諾ニ因ル株式申込ノ取消 (續商法六五八頁)

株式會社ノ募集設立ノ場合ニ於テ株式引受人ノ爲ス第一回拂込ハ會社設立手續ノ一部ヲ爲シ會社成立前ニ完了スヘキコトヲ以テ本則トス故ニ第一回拂込義務ハ本來株式引受人タル資格ニ伴フ義務ニシテ株式引受人カ此ノ拂込ヲ爲サス且之方爲ニ失權スルコトナクシテ會社カ成立シ其ノ株主ト爲ルニ至リタリトスルモ其ノ株式引受人タリシ者ハ之ニ依リ其ノ拂込義務ヲ免ルヘキニ非サレハ勿論其ノ株式ヲ讓渡シ株主タル資格ヲ喪失シタル場合ニ於テモ亦同シク其ノ義務ヲ免ルヘキモノニ非ス蓋株式引受人カ會社成立前ニ第一回拂込ヲ爲スヘキ確定ノ債務ヲ負擔シタル以上其ノ成立後株式讓渡行爲ニ依リ之ヲ免ルヘキモノト爲ス何等ノ理由ナケレハナリ(大審昭和三年民六三〇頁)

第四百二十二條ノ二(發起人ノ責任(會社成立ノ場合))

◎發起人ノ責任ト不法行爲トノ別

民法ニ規定セル不法行爲ノ責任ハ商法ニ規定セル發起人ノ責任(同法第四百二十二條ノ二第二項)トハ自ラ其性質ヲ異ニシ前者ハ權利侵害ヲ以テ其客觀的責任原因トスレトモ後者ハ任務懈怠ノ結果損害ヲ生スレハ足り第三者ノ權利カ侵害セラルト否トナ問ハス又前者ハ其主觀的責任原因ヲ廣ク故意過失トナシ過失

◎會社ノ書換不應ト對抗力

一 凡ソ記名株式ノ讓渡アリテ讓受人カ讓渡人ト共ニ其ノ株券及株主名簿ノ名義書換ヲ會社ニ請求シタルニ拘ラス會社カ正當ノ理由ナクシテ其ノ請求ニ應セサル場合ニ於テハ右讓渡ノ當事者ト會社トノ關係ニ於テハ同條ノ適用ナク會社ハ未タ其ノ名義書換ナキノ故ヲ以テ讓渡人カ猶ホ株主ニシテ讓受人カ未タ株主ニ非サルコトヲ主張シ得サル法意ナリト解スルチ相當トス蓋會社カ之ヲ主張スルハ自ラ其ノ書換義務ヲ懈怠シナカラ其ノ結果ヲ相手方タル讓渡ノ當事者ニ歸セシメントスルモノニシテ信義ノ原則ニ反スルノミナラス商法カ株式ノ讓渡ヲ認メタル趣旨ニ背馳スル所アレハナリ(大審昭和三年民五五四頁)

二 原院カ上告人(控訴人)谷口三木造ハ他ノ上告人(控訴人)四名ヨリ本件株式ヲ買受ケタリトシテ其ノ株券及株主名簿ノ名義書換ヲ會社ノ清算人ニ請求シタル事實ヲ認メナカラ其ノ名義書換ハ讓受人單獨ニテ請求シ得サルモノナリヤ又讓渡人ハ其ノ請求ヲ爲ササリシモノナリヤ及其ノ他書換ヲ拒絕スヘキ正當ノ理由アリタリヤ否ヲ審究スルコトナク單ニ未タ其ノ書換ナキノ故ヲ以テ本件株式ノ讓渡ヲ會社ニ對抗シ得サルモノトシテ讓渡人タル上告人等カ現在株主トシテノ權利義務ヲ有セサルコトノ確認ノ請求ヲ排斥シタルハ法律ノ誤解及審理不盡ノ違法アルモ

ノ輕重ヲ區別セサルモ後者ハ惡意又ハ重過失ニ付テノミ之ヲ認メ而カモ其責任原因ハ前者ハ被害者ニ對スル關係ニ於テ存在スルコトヲ要スレトモ後者ハ會社ニ對スル關係ニ於テ存在スヘキモノニシテ被害者タル第三者ニ對スル關係ニ於テ存在スルコトヲ要セサル等兩者ニハ著シク異ナル點アリ異竟右發起人ノ責任ハ商法ノ規定ニヨリ生スル特別ノ責任ニシテ不法行爲上ノ責任ノ一變例トハ解シ難シ——原告等カ後ニ主張セル所ハ嚴ニ主張セル所トハ自ラ其責任ノ根據ヲ異ニシ單ニ事實上又ハ法律上ノ申述ヲ補充又ハ更正シタルニ止マラスシテ兩者ハ明ニ其基原因事實ヲ異ニスル主張ヲ爲シタルモノト認ムヘク從テ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト謂フヘキカ故ニ被告等ニ異議ノ存スル以上斯ル變更ニ因ル新訴ハ不合法トシテ却下セサルヘカラス(東京地昭和三年報一五一號一六頁)

第四百四條(株主ノ責任)

◎設立無效ト株金拂込義務(第二續商法二三三條)

第五百十條(株式ノ移轉ト對抗要件)

ノト言フヘク又名義書換ハ書換當時ノ日附ヲ以テ爲スヘキモノニシテ書換請求ノ日附ニ週リテ爲スヘキモノニ非サルモ之カ爲請求ノ日附ニ週リテ爲スヘキ旨ノ請求ハ全然不當ナルモノニハ非スシテ其ノ請求ノ中ニハ日附ヲ週記スル書換ニシテ許スヘキモノニ非ストセハ現實書換當時ノ日附ヲ以テ書換ヲ爲スヘシトノ請求ヲモ包含スルモノト解スルチ當然トスルニ拘ラス原院カ上告人等ハ日附ヲ週反シテ爲ス書換手續ヲ求ムル權利ヲ有セストノ理由ニテ現實書換當時ノ日附ニテ爲ス書換ノ請求ヲモ排斥シタルハ是亦違法ナリ(同上)

第五百十三條(株主ノ失權及株式讓渡人ノ擔保義務)

◎株式ノ遞次讓渡ト失權催告ノ手續

商法第一五三條第二項所定ノ催告ハ會社カ資本充實ノ必要上失權株式ノ讓渡人チシテ滯納金額ノ拂込ヲ爲サシムルト同時ニ之ニ依テ再ヒ株主ト爲ルノ機會ヲ取得セシメンカ爲ニ發スルモノト解スヘク從ニ同一株式ニ付遞次ノ讓渡人アル場合ニハ總テノ讓渡人ニ對シ等シク右ノ催告ヲ爲スヲ要スルモノナルコトハ同條項ニ「株式ノ各讓渡人ニ對シ催告ヲ發スルコトヲ要ス此ノ場

合ニ於テハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得スルトアル法文ニ徴スルモ寸疑ヲ容レサルトコロナリ若右規定ヲ以テ主トシテ會社ノ利害ニ關スルモノナリト解シ株式讓渡人無資力ニシテ拂込ヲ爲ス能ハサルコト明瞭ナルカ如キ場合又ハ會社ノ營業狀態不振ナルカ爲メ株金ノ取立困難ナルカ如キ場合等ニ於テハ此等讓渡人ニ對スル拂込ノ催告ヲ省略シ以テ催告スヘキ讓渡人ヲ自由ニ選擇シ得ヘキモノトセンカ一見會社チシテ拂込ノ催告ヲ要スル費用トテ省略セシムル利益アルカ如クナレトモ其ノ以テ無資力ト目セラレタル株式讓渡人ト雖必スシモ絕對ニ拂込ヲ爲ササルモノト即斷シ去ルノ早計ナルト同時ニ縱令會社ノ營業狀態不振ナル場合ト雖又強チ讓渡人ノ拂込ヲ期待シ得ヘカラサルモノニアラスシテ多數株式讓渡人ノ中ニ就キ果シテ何人カ能ク催告ニ應ジテ拂込ヲ爲スヤハ豫メ之ヲ洞察決定スルコトノ極メテ至難ノ業タルコトニ想到セハ寧ろ總テノ讓渡人ニ對シ等シク催告ヲ發シ以テ之カ拂込ヲ待ツノ簡明且公平ナルニ如カサルヘシ況ヤ其ノ催告ヲ受ケタル一部ノ讓渡人ニシテ拂込ヲ爲ササル場合ニ直ニ同條第三項ノ規定ニ從ヒ其ノ株式ヲ競賣ニ付スルコトトセンカ斯ル場合ニ於ケル競賣價格ハ著シク低廉ナルチ常トスルカ故ニ必スヤ茲ニ從前株主ニ對シ又ハ更ニ進ンテ讓渡人ニ對シ之カ不足額ノ請求ヲ爲スヲ要スルニ至ルヘク斯クテハ曩ニ拂込催告ノ手数料費用トテ節シテ會社ノ利益ヲ圖ラントシタルモノ或ハ却テ叙上ノ手数料費用トテ重ナル

コトト爲リテ寧ろ拂込催告以上ノ不利益ヲ會社ニ被ラシムルコトトモナリ結局同條第二項カ先ツ株式讓渡人ノ株式拂込ニ依リテ會社ノ資本充實ヲ圖ラントシタル本旨ハ之カ爲ニ没却セラレルニ至ルナキヲ保セサルオヤ之ヲ要スルニ同條項ニ所謂催告ハ同一株式ノ讓渡人全員ニ對シテ爲スヘキモノナルト同時ニ右讓渡人ノ一部ニ限局セラレタル催告ハ同條第三項所定ノ競賣ノ前提トシテ不適法ナルモノト解スルチ以テ其ノ當テ得タルモノト謂ハサルヘカラス(大審昭和三年民五八五頁)

◎株主ノ一部ニ對スル失權處分ノ效力(第二續商法一五三條) ◎催告ノ欠缺ト失權手續ノ效力(第二續商法一五三條)

第五百五十六條(株主總會招集ノ手續)

◎株主總會ノ繼續會ト其ノ要件

株主總會カ當該會日ニ於テ未タ議決事項全部ヲ審議シ終ラサルトキハ元ヨリ日ヲ異ニシテ議事ヲ繼續スルコトヲ妨ケサルヘシ然レトモ議事ヲ將來ニ繼續スルハ審議未了ノ議決事項アル場合ニ限ルヘク且將來ニ議事ヲ繼續スヘキ旨當該總會ニ於テ決議アリタル場合ナラサルヘカラス若シ斯ル審議未了ノ事項存セス若

クハ存スルモ議事ヲ繼續スヘキ旨當該會日ニ於テ決議スルコトナク會日ヲ經過シタルトキハ當該總會ハ終了シタルモノト解スヘキカ故ニ斯ル事由存セサルニ不拘日ヲ異ニシテ株主總會ヲ開催シタルトキハ假令或株主總會ノ繼續會ナル名稱ノ下ニ開催シタリトスルモ兩者元ヨリ別個獨立ノ株主總會ナリト目スヘク從テ後ノ總會開催ニ付商法第五百十六條所定ノ手續ヲ履踐スルニ非レハ之違法ノ總會タルコトヲ免レサルモノト論斷セサルチ得ス(東京地昭和三年報一五四號二二頁)

第七十條(會社ノ代表權ト其ノ制限)

◎會社ノ社務ヲ執行スル者ノ範圍

第二續商法四二九條「解除ノ原因ヲ知リタルヤ否ノ認定」ノ三參看 ◎會社ノ代表ト代理トノ關係(第二續商法一七〇條)

◎取締役ノ權限外ノ行爲ノ效力

取締役ノ權限外ノ行爲ハ必スシモ絕對無効ト謂フチ得ヌ株主總會ノ決議ニ於テ之ヲ承認シタル場合ニ於テハ右ノ行爲ハ追認セラレタルモノト認ムヘキモノトス(東京地昭和三年報一五五號一六頁)

◎會社財產ノ一括讓渡ノ效力

會社合併ノ場合ニ在リテハ合併ニヨリ消滅スル會社ハ其全財產ヲ擧ケテ合併後存續スヘキ會社ニ移轉スルモノニシテ合併ニヨ

◎取締役ヲ解任シ得ル株主總會

商法第六十七條ノ規定ハ取締役ハ其任期中ト雖モ何時ニテモ株主總會ノ決議ニヨリ解任シ得ヘキ趣旨ニシテ一般ノ株主總會ノ場合ニ其適用アルモ招集許可決定ノ範圍外ノ事項ニ付全然其決議ノ權限ナキ招集許可決定ニ基ク株主總會ニ對シテハ之カ適用ナキモノト解スルチ相當トス(東京地昭和三年報一六五號一七頁)

第六十七條(取締役ノ解任)

消滅スル會社カ其大部分ノ資産負債ヲ一括シテ新設會社ニ移
轉スルコトヲ約シタル場合ト雖モ之ヲ以テ事實上ノ合併契約ナ
リト爲スヲ得サルモノトス(東京控昭和三年報一五五號一七頁)
◎會社ノ什器一切ノ賣却ト取締役ノ權限(第二續商法一七〇條)

◎被用者ノ株券偽造ト會社ノ責任

一 記名株券ハ商法上一個ノ有價證券トシテ之ヲ名義書換ノ委任
狀ト相俟ツテ或ハ擔保ノ用ニ供シ或ハ之ヲ他ニ賣却スル等自由
ニ轉讓流通スルモノナルコトハ現時ニ於ケル取引上ノ實狀ナル
ヲ以テ其ノ轉讓流通ノ際其ノ株券及之ニ添附セル名義書換ノ委
任狀力偽造ナリシ爲損害ヲ被ムリタル者アル場合ニ於テ偽造者
カ其ノ株券ヲ發行スル會社ノ被用者ニシテ而モ株券ノ偽造力其
ノ業務ノ執行ニ付爲サレタルモノナルトキハ使用者タル會社ハ
其ノ委任狀偽造ノ行爲力使用者ノ業務執行ニ付爲サレタルモノ
ニ非サルコトヲ理由トシテ之カ賠償ノ責テ免カルコトヲ得サル
モノトス蓋叙上記名義書換ノ取引上ノ實狀ニ鑑ミ記名株券ノ偽造
行爲ニハ之カ名義書換ノ委任狀偽造ノ行爲ヲモ隨伴スルヲ普通
トスルモノニシテ畢竟第三者ノ被ムリタル損害ハ株券ノ偽造行
爲ト之カ名義書換ノ委任狀ノ偽造行爲ト相俟ツテ生シタルモノ
ト謂フヘク株券偽造ノ行爲ノミニ因リ必然的ニ損害ヲ生スル場
合ノミ使用者タル會社カ責任ヲ負擔スヘキモノト爲スカ如キ所
論ハ妥當ノ見解ニ非ザルト同時ニ縱令委任狀ノ偽造介在スルモ

其ノ損害ハ獨リ委任狀偽造行爲ノミニ因リテ生シタル損害ニ非
サレハナリ(大審昭和三年民六一五頁)

二 本件ニ於テ原院カ上告會社ノ被用者タリシ和住秀三郎カ會社
ノ庶務課長トシテ株券發行ノ事務ヲ擔當中其ノ保管ニ係ル株券
用紙及會社ノ印類ヲ利用シテ上告會社ノ株券ヲ偽造スルト同時
ニ其ノ名義人ノ名義書換ノ委任狀ヲ偽造シ該株券及委任狀ヲ被
上告人ニ對スル定期米取引ニ關スル證據金代用トシテ同人ニ交
付シタル處該定期取引ハ和住秀三郎ノ損失ニ歸シ同人無資力ノ
結果被上告人ハ右株券ヲ換價シ損失ニ充當セントシタルモ偽造
株券ナリシカ爲其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス從テ被上告人ハ右
真正株券ノ時價金千六百五十圓ニ相當スル損害ヲ被ムリタルコ
ト及右株券偽造ニ付テハ上告會社及其ノ當時取締役タリシ上告
人大槻信治ノ先代龍治ニ於テ被用者タリシ和住秀三郎ノ選任監
督ニ關シ注意ヲ怠リタル事實アルコトヲ認メ上告人等ニ於テ前
示被上告人ノ被ムリタル損害ヲ賠償スヘキ義務アリト判斷シタ
ルハ相當ナリ(同上)

三 (刑事聯合部判決) 被用者ノ株券偽造ト使用者ノ責任(第二
續民法九三二頁)

◎會社員ノ株券偽造ト事業ノ執行

一 株券發行ノ過程ニ於ルル單純ケル書記の事務ヲ分擔シ居リタ
ルニ過キサル者カ擅ニ用紙タル株券用紙ヲ盜用シ剩レ社外ニ於

テ之レチ偽造シタル上流通ニ置キタリトスルモ之ヲ以テ被告會
社ノ事業ノ執行トハ論定スルヲ得ス蓋シ右ノ如キ所爲ハ其職務
範圍ヲ逸脱スル程度過大ニシテ客觀的ニ觀察シテ到底之ヲ事業
ノ執行ト觀ルニ由ナキヲ以テナリ(東京地昭和三年報一五七號
二二頁)

二 (右ノ一ノ事實關係) 甲カ被告會社ニ於テ株券發行ノ自由ア
ル地位ニアリタリト原告主張事實ハ原告ノ提出援用ニ係ル總
テノ證據ヲ以テスルモ未タ之ヲ認メ難ク却テ成立ニ爭ナキ乙第
一ニ號證ニ徵スレハ甲ハ被告會社第三課課員トシテ課長伊藤靜
雄ノ指揮監督ノ下ニ株式社債等ニ關スル事務ヲ擔任シ居リタル
コト竝ニ株券用紙ハ被告會社秘書課長ニ於テ之ヲ保管シ居リテ
甲ノ自由ニ持出スコト能ハサリシコト又株券發行ノ手續過程竝
ニ其過程ニ於ケル甲ノ分擔セル事務カ被告主張ノ如クナルコト
ヲ認メ得ヘキヲ以テ甲ハ職制上及事實上株券發行ノ自由アル地
位ニ在ラサリシモノト認定スルノ外ナク而シテ本件偽造ニ係ル
株券用紙ハ被告會社大正十一年中商號變更ノ際印刷シタル株
券用紙ノ内使用ニ適セサル爲メ其儘被告會社備附ノ戸棚ニ收メ
アリシ廢棄株券ニシテ甲ハ大正十二年中竊ニ之ヲ會社外ニ持チ
出シ同十四年十月下旬其儘偽造ヲ遂ケタルモノナリ(同上)

◎取締役會ノ決議事項ト代表權ノ制限

一 按スルニ原審ノ確定スル所ニ依レハ被上告會社(被控訴人)被

告)ノ取締役沖田勝治ハ會社ヲ代表シテ上告人(控訴人原告)
トノ間ニ本件連帶責任負擔ノ契約ヲ爲シタルモ會社ノ定款ニハ
會社ノ重要事項ハ取締役全員ヲ以テ組織シタル取締役會ノ決議
ヲ要スヘキ旨ノ規定アリ而シテ右ノ契約ハ即其ノ重要事項ニ該
當スルニ拘ラス沖田勝治ハ取締役會ノ決議ヲ經スシテ之ヲ締結
シタルモノトス然レトモ右ノ如キ定款ノ規定ハ之ヲ以テ取締役
ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルモノト云フヲ得ス唯取締役力會社ト
ノ内部關係ニ於テ之ニ違背スヘカラサル義務ヲ負フニ止マルモ
ノト解スルヲ相當トスサレハ原判決前示ノ如キ事實關係ナル
ノ故ヲ以テ右ノ契約ハ取締役ノ代理權ニ加ヘタル制限ニ違反シ
テ爲シタル行爲ナリトシ上告人ハ契約當時惡意ナリシカ故ニ該
契約ハ被上告會社ニ對シテ其ノ效ナキモノト爲シ以テ該契約ニ
基ク上告人ノ本訴請求ヲ排斥シタルハ違法ナリ(大審昭和三年
報一六三號一三頁)

二 (右一ノ上告論旨) 前略吾人ハ右定解ノ規定方取締役ノ代理
權ニ加ヘタル制限規定ナリトノ見解ニ付テハ大ナル疑ナキ能ハ
ス蓋現今執レノ株式會社ニ於テモ取締役會又ハ重役會ヲ設ケ會
社ノ重要事項ヲ協議決定スルコトヲ定款ニ掲ケサルモノ殆ン
ト稀ナリ此ノ如キ定款ノ規定アリテ之ニ從ヒ決議ヲ經ルコトヲ
以テ取締役ノ代理權ニ加ヘタル制限ナリトセンカ定款ニ斯ル規
定アルコトヲ知ルノ一事ヲ以テ取引ノ相手方ハ輒ク惡意ノ第三
者ナリト認メラルルコトトナリ株式會社ト取引スル者ハ悉ク取

締役會又ハ重役會ノ決議ヲ撤シ其ノ眞否ヲ調査シタル後ニ非
サレハ取引ヲ爲ス能ハサルニ至ラン是レ實ニ現今ニ於ケル實際
ノ取引界ヲ混亂ニ陥ラシムルノミニシテ何等ノ實益ナキ不當ノ
見解ナリ(同上)

三 株式會社ニ於ケル取締役ノ職務權限ハ合名會社ト等シク會社
ノ業務執行關係ト會社代表即外部ニ對スル關係トニ二大別スル
コトヲ得ヘク前記定款ノ規定ハ實ニ會社ノ業務執行ニ關スル重
要事項ヲ取締役會ニ於テ決議スルコトヲ定メタルモノニ外ナラ
スシテ金圓借入ヲ決議スルカ如キモ勿論業務執行ノ方法トシテ
之カ協議法定ニ依ルヘキモノナリト雖是レ借入ヲ爲スヤ否ヤヲ
決定スルニ止マリ第三者ト契約スル取締役ハ代表者トシテ法律
行爲意思ヲ決定シ之ヲ外部ニ表白シ取引ヲ爲ス者ナレハ乙第一
號定款第三十六條ノ取締役會ノ決議其ノモノハ斷シテ代理權
ノ制限其ノモノニ非ス唯代表者カ代表意思ヲ決定スル基礎タル
ヘキコトアランモ代理意思トハ全ク別個ノ存在ヲ有シ別個ノ觀
念ニ屬スルモノナレハ之ヲ以テ代理權ニ加ヘタル制限ナリトハ
解スルコト能ハス取締役力取締役會ノ決議ナキニ拘ラス取引ヲ
爲シタル場合ニ其ノ取締役ニ背任等ノ責任ハ或ルハ之アランモ
苟モ代理權ノ制限ニ非サル以上之ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對
シテハ其ノ意思ノ善惡ヲ問ハス之ヲ對抗シ得ヘカラサルノ理ナ
リ(同上)

四 之ヲ代理ノ法理ニ照シ鑑ミルモ代理トハ代理人カ本人ノ名ニ

於テ自ラ意思表示ヲ爲スコトヲ謂フモノナレハ代理人ハ取締役
會ノ決議ノ内容又ハ其ノ有無ニ拘ラス獨自ノ意思ヲ決定シ之ヲ
表示スル權利ヲ有スルモノトス故ニ之ニ對スル制限ト云ハンニ
ハ獨自ニテハ意思表示ヲ爲スコトヲ得ストナスカ如キ場合ナラ
サルヘカラス商法第七十條第一項ノ規定ノ如キモ亦其ノ制限
ノ一ニ該當スルモノニシテ其ノ他代理行爲其ノモノニ特別ノ方
式ヲ定ムルカ如キ其ノ制限タルヘク之ニ反シ業務執行上ノ決議
ノ如キハ代表行爲其ノモノニ對スル制限ニ非サルヲ以テ之ヲ以
テ代理權ニ加ヘタル制限ナリトハ解スル能ハサルヘシ(同上)

◎代表權ナキ社員ニ對スル判決ノ效力(補遺六二條)

五 之ヲ要スルニ原判決カ乙第一號定款ノ規定即ち取締役會ノ
決議ヲ要スルコトノミヲ以テ取締役ノ代理權ニ加ヘタル前限ナ
リト解シタルハ實際ニ於ケル一般株式會社ノ取引ニ於ケル經驗
常則ヲ無視シ且代理ノ法則ヲ誤解シタルニ基クモノニシテ上告
人ノ服スル能ハサル所ナリト云フニ在リ(同上)

◎取締役ノ代表權ノ制限(第二續商法一七〇條)

◎取締役ト使用者ノ事業監督者

一 法人ノ機關タル理事取締役等モ民法第七百十五條第二項ニ所
謂使用者ニ代リテ事業ヲ監督スル者ニ該當スルコトハ當院判例
ノ認ムル所ナルヲ以テ(當院大正十年(レ)第五五三號同年六
月七日第一刑事部判決)原審カ上告會社ノ取締役タル上告人大
槻信治ノ先代龍治カ上告會社ニ代リ事業監督ノ任ニ當レル者ト
シテ本件損害賠償ノ責任アル旨ヲ判示シタルハ正當ナリ(大審
昭和三年民六二〇頁)

二 本條ノ監督者及監督上ノ過失有無(第二續民法九二九頁)

◎會社ノ合併ト少數株主ノ權利(第二續商法四四條ノ三)

第二百二十條(資本減少ノ方法)

◎會社ノ合併ト少數株主ノ權利(第二續商法四四條ノ三)

◎會社ノ破産ト重役資格ノ消長

一 會社破産ノ場合ニ於テハ破産管財人ヲ選任スルモ破産管財人
ハ破産會社ノ代理人ト謂フヘキモノニアラス寧ろ破産者及ヒ債
權者ノ利益ノ爲メニ破産管財人タル資格ニ於テ其職務ヲ執行ス
ルモノト謂フヲ相當トス而シテ會社破産スルモ會社ノ總會取締
役等ノ機關ハ當然ニ消滅スルモノニアラス例ヘハ會社ノ定款ニ
依レハ株主ニ對シ株金拂込ノ催告ヲ爲スニハ株主總會ノ決議ヲ
要スルモノナルトキハ破産後ト雖モ株主總會ヲ召集スルコトヲ
要スヘク又商法第三十五條末項ニ會社ヲ代表シテ債權者集會
ニ出席スル者ハ從前ノ取締役ナルヘク尙ホ同法第三十八條ニ
依リ協議契約ノ申出ヲ爲ス者モ亦取締役ナルヘシ(法曹會決議
一〇年法曹記事三一卷三號三二頁)

二 解散後ト總會及取締役等ノ存續(續商法八二七頁)

三 清算行爲ニ對スル監督者ノ職務(商法一一七頁)

四 會社ノ破産ト重役資格ノ消長(第二續商法一六四條)